



これからの学校のあり方に係る アンケート調査

調査結果報告書（速報）

令和7年1月
佐倉市

目 次

1. アンケートの実施概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査方法	1
(3) 報告内容	2
(4) 標本誤差について	4
2. 調査結果 -単純集計-	5
■あなた自身のことについてお聞きます	5
(1) 年代	5
(2) 学年/学級	9
(3) 通学先/勤務校/居住地	12
■今後、学校教育に求めること・期待することに関して、あなたのお考えをお伺いします	21
(4) 学校で過ごす時間について	21
(5) 「学校で過ごす時間について」の回答理由	23
(6) 不明点などを自分なりに調べたり考えたり出来ているか	26
(7) 友達との話し合いを通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたり出来ているか	28
(8) 授業中の不明点を教員が分かりやすく教えてくれるか	30
(9) 心配事や不安に思うことの相談相手	32
(10) 望ましい将来像	34
(11) 学校で学び、身につけたいこと	39
(12) 学校教育で重視することが望ましい項目	42
(13) 中学校進学時に戸惑うことや不安に思うこと	46
(14) 給食は好きか	49
(15) 「(14)給食は好きか」の回答理由	51
(16) 学校給食の満足度	54
(17) 「(16)学校給食の満足度」の回答理由	56
■クラスの規模などに関して、あなたのお考えをお聞きます	59
(18) クラスの人数	59
(19) 現在のクラスの人数の印象	63
(20) (小学校) 1クラスあたりの望ましい人数	67
(21) 「(20) (小学校) 1クラスあたりの望ましい人数」の回答理由	71
(22) (中学校) 1クラスあたりの望ましい人数	76
(23) 「(22) (中学校) 1クラスあたりの望ましい人数」の回答理由	80
(24) 学年のクラス数	85
(25) 現在の学年のクラス数の印象	89
(26) (小学校) 1学年あたりの望ましいクラス数	93
(27) 「(26) (小学校) 1学年あたりの望ましいクラス数」の回答理由	97
(28) (中学校) 1学年あたりの望ましいクラス数	102
(29) 「(28) (中学校) 1学年あたりの望ましいクラス数」の回答理由	106
(30) 小規模校化によって生じ得る効果	111
(31) 小規模校化によって生じ得る課題	113

(32) 小中学校の統合に対する考え	115
(33) 学区の見直しや学校統合の検討を行う場合に考慮すべき事項	122
■通学状況についてお聞きします	129
(34) 学校までの通学手段	129
(35) 自宅から学校までの通学時間	132
(36) 通学時間に対する印象	135
■学校と地域との関わり方について、あなたのお考えをお聞きします	138
(37) 学校について、児童・生徒の学びの場以外に担っている、または担 うべき役割	138
(38) 一定条件下での開放が望ましい施設	145
(39) 学校敷地内や校舎内に併設されることが望ましい公共施設	149
(40) 地域社会総がかりでの教育を実現する上で参加したい・協力したい 取組	156
(41) 地域社会総がかりでの教育を実現する上で支援を受けたい・支援が 必要な取組	161
■学校運営の現状や働き方改革について、あなたのお考えをお聞きします ...	164
(42) 現在負担に感じる業務	164
(43) 上記業務の負担が軽減された場合の時間の使い道	167

1. アンケートの実施概要

(1) 調査の目的

個々の施設の適正なあり方や将来の方向性の検討にあたり、広く市民の皆さまから今後の公共施設のあり方に関するご意見を伺い、参考とするためアンケート調査を実施した。

(2) 調査方法

調査対象	児童生徒	児童生徒 保護者	教員	市民	未就学児保護者
抽出方法	児童：4～6年生 生徒：全学年	全児童生徒の 保護者	市内小中学校 に勤務する教員	市域を3区分※ ¹ し、 住民基本台帳から、満 15歳以上80歳未満の 市民を無作為抽出	住民基本台帳から、 未就学児（0～5歳児） を無作為抽出
母数※ ²	児童：3,988人 生徒：3,927人 合計：7,915人	児童：5,752 生徒：3,665 合計：9,417家庭	765人	① 42,206人 ② 29,934人 ③ 56,620人	4,927人
案内文等 配布方法	学級担任から 案内文を配付	学校から児童生徒を 通じて案内文を配付	校務支援システムの メール機能を通じて 案内文を送付	郵送により案内文を配付	
回答方法	Web 回答フォームにて回答収集				
回答期間	令和6年10月28日～令和6年11月15日				

※1：学区の指定状況や人口バランス等を踏まえて、①佐倉・根郷・和田・弥富地区、②臼井・千代田地区、③志津地区の3地区に区分。

※2：令和6年10月1日時点。教員は5月1日時点。児童生徒保護者数は家庭数、未就学児保護者数は未就学児数。

調査対象	児童	生徒	児童 保護者	生徒 保護者	教員	市民	未就学児 保護者
配付数 (a)	3,988	3,927	5,752	3,665	765	①②③各 1,600、 計 4,800	800
回答数 (b)	3,524	3,200	2,045	1,156	555	1,117	345
回答率 (b)/(a)	88.4%	81.5%	35.6%	31.5%	72.5%	23.2%	43.1%

※集計に関する留意事項

・市民を無作為抽出する際には、未就学児の保護者として抽出された市民が重複して選ばれないよう補正している。

※表記に関する注釈

・調査結果は、比率を全て百分率（%）で表し、小数点第2位以下を四捨五入して表示している。そのため、比率の合計が100.0%となっていない場合がある。

(3) 報告内容

本報告書の報告内容は、以下のとおりである。

調査対象毎の設問番号						設問概要
児童	生徒	児童 保護者	生徒 保護者	教員	市民・ 未就学児 保護者	
あなた自身のことについてお聞きします						
		問 1	問 1	問 1	問 1	年代
問 1	問 1	問 2	問 2			学年/学級
問 2	問 2	問 3	問 3	問 2	問 2	通学先/勤務校/居住地
今後、学校教育に求めること・期待することに関して、あなたのお考えをお伺いします						
問 3	問 3					学校で過ごす時間について
問 4	問 4					「学校で過ごす時間について」の回答理由
問 5	問 5					不明点などを自分なりに調べたり考えたり出来ているか
問 6	問 6					友達との話し合いを通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたり出来ているか
問 7	問 7					授業中の不明点を教員が分かりやすく教えてくれるか
問 8	問 8					心配事や不安に思うことの相談相手
問 9	問 9	問 4	問 4	問 3	問 3	望ましい将来像
問 10	問 10					学校で学び、身につけたいこと
		問 5	問 5	問 4	問 4	学校教育で重視することが望ましい項目
問 11	問 11					中学校進学時に戸惑うことや不安に思うこと
問 12	問 12					給食は好きか
問 13	問 13					「給食は好きか」の回答理由
		問 6	問 6			学校給食の満足度
		問 7	問 7			「学校給食の満足度」の回答理由
クラスの規模などに関して、あなたのお考えをお聞きします						
問 14	問 14	問 8	問 8	問 5		クラスの人数
問 15	問 15	問 9	問 9	問 6		現在のクラスの人数の印象
問 16		問 10		問 7	問 5	(小学校) 1 クラスあたりの望ましい人数
		問 11		問 8	問 6	「1 クラスあたりの望ましい人数」の回答理由
	問 16		問 10	問 7	問 7	(中学校) 1 クラスあたりの望ましい人数
			問 11	問 8	問 8	「1 クラスあたりの望ましい人数」の回答理由
問 17	問 17	問 12	問 12	問 9		学年のクラス数
問 18	問 18	問 13	問 13	問 10		現在の学年のクラス数の印象
問 19		問 14		問 11	問 9	(小学校) 1 学年あたりの望ましいクラス数
		問 15		問 12	問 10	「1 学年あたりの望ましいクラス数」の回答理由
	問 19		問 14	問 11	問 11	(中学校) 1 学年あたりの望ましいクラス数

			問 15	問 12	問 12	「1 学年あたりの望ましいクラス数」の回答理由
				問 13		小規模校化によって生じ得る効果
				問 14		小規模校化によって生じ得る課題
		問 16	問 16	問 15	問 13	小中学校の統合に対する考え
		問 17	問 17	問 16	問 14	学区の見直しや学校統合の検討を行う場合に考慮すべき事項
通学状況についてお聞きします						
問 20	問 20	問 18	問 18			学校までの通学手段
問 21	問 21	問 19	問 19			自宅から学校までの通学時間
問 22	問 22	問 20	問 20			通学時間に対する印象
学校と地域との関わり方について、あなたのお考えをお聞きします						
		問 21	問 21	問 17	問 15	学校について、児童・生徒の学びの場以外に担っている、または担うべき役割
		問 22	問 22	問 18	問 16	一定条件下での開放が望ましい施設
		問 23	問 23	問 19	問 17	学校敷地内や校舎内に併設されることが望ましい公共施設
		問 24	問 24		問 18	地域社会総がかりでの教育を実現する上で参加したい・協力したい取組
				問 20		地域社会総がかりでの教育を実現する上で支援を受けたい・支援が必要な取組
学校運営の現状や働き方改革について、あなたのお考えをお聞きします						
				問 21		現在負担に感じる業務
				問 22		上記業務の負担が軽減された場合の時間の使い道
自由意見						
問 23	問 23	問 25	問 25	問 23	問 19	学校に関する自由意見

(4) 標本誤差について

本調査のうち、「市民」は15歳以上の市民全体（母集団）の中から一部の市民を回答者として抽出して行う標本調査である。また、「未就学児保護者」は、市内の未就学児全体（母集団）の中から一部の未就学児を抽出し、その保護者を回答者とする標本調査である。

標本調査では、調査対象者を無作為に抽出して調査するため、母集団の値と一致せず、何らかの差が生じる。この差を「標本誤差」と言い、その値は、以下に示す式で算出可能である。また、標本から得られた結果が、仮に母集団全体を対象に調査した場合の結果であっても標本誤差の範囲に収まっている確率を信頼度と呼び、信頼度95%を用いることが一般的である。

$$\text{標本誤差 } E = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (1-P)}{n}}$$

1.96：信頼度95%の時の信頼度係数

N ：母集団数

n ：ある設問の有効回答者数

P ：ある設問のそれぞれの選択肢の回答の比率

(回答が均等に分かれる $P = 50\%$ の時に、標本誤差は最大値を取る。)

変数	市民	未就学児保護者
N	128,760(人)	4,927(人)
n	1,117(人)	345(件)
$\frac{N-n}{N-1}$	0.99	0.93
E	2.92%	5.09%

標本誤差の範囲は、一般的には5%未満であることが望ましいとされている。本調査では、市民については、標本誤差が最大でも2.92%であることから、母集団に対して妥当な回答者数を得られたと言える。未就学児保護者については、標本誤差が最大で5.09%であり、望ましい水準をわずかに上回っていることから、母集団に対しておおむね妥当な回答者数を得られたと言える。

2. 調査結果 -単純集計-

■あなた自身のことについてお聞きします

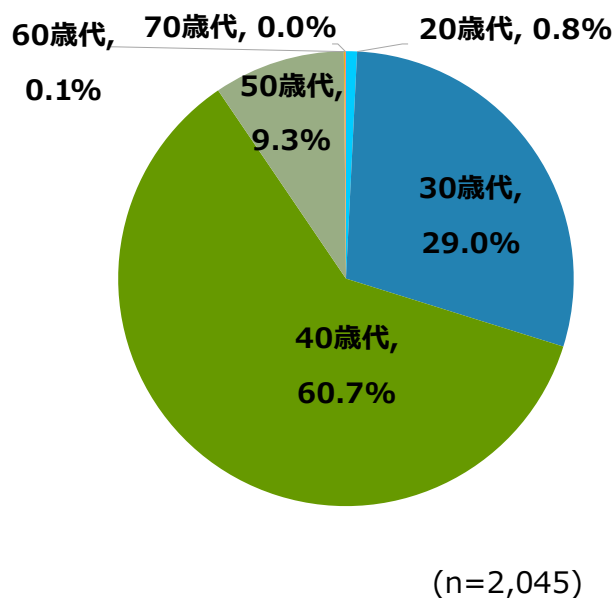
(1) 年代

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(1)年代	10歳代			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%
	20歳代			0.8%	0.1%	16.5%	12.7%	7.3%	6.7%
	30歳代			29.0%	8.9%	31.4%	27.6%	12.1%	60.9%
	40歳代			60.7%	67.9%	18.9%	17.2%	20.7%	31.0%
	50歳代			9.3%	22.5%	24.6%	29.0%	17.1%	1.2%
	60歳代			0.1%	0.5%	8.7%	13.6%	20.1%	0.3%
	70歳代			0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	19.1%	0.0%
	不明			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

●児童・生徒の保護者

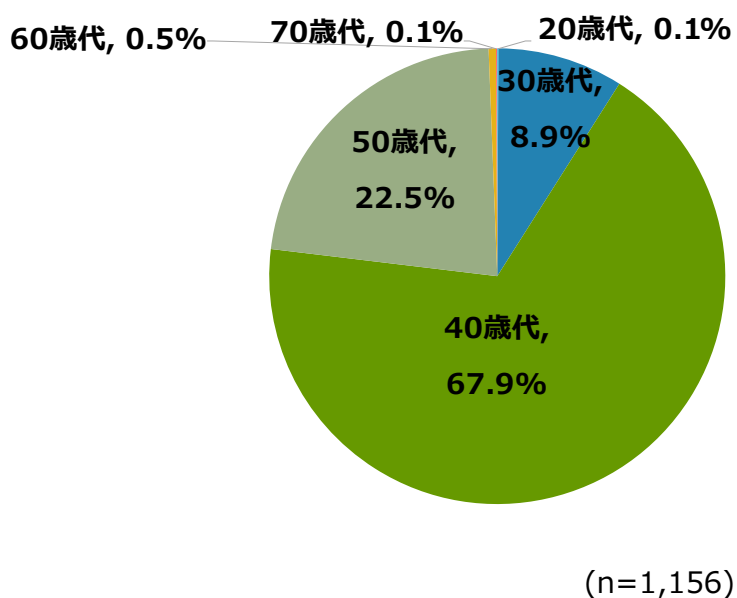
【児童の保護者】

回答者は「20 歳代」が約 1%、「30 歳代」が約 29%で「40 歳代」が約 61%である。50 代以上は約 9%となった。



【生徒の保護者】

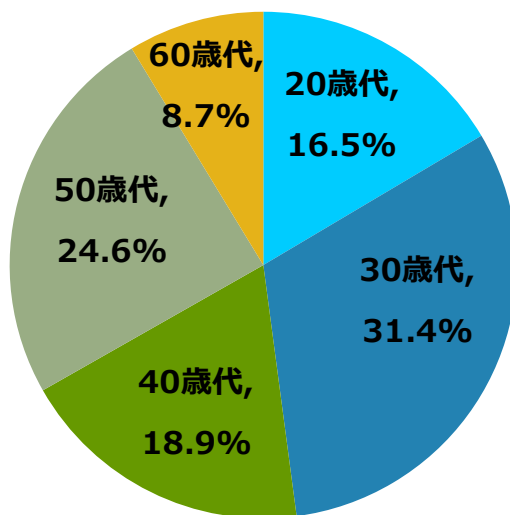
回答者は「20 歳代」が 1 件（0.1%）で、「30 歳代」が約 9%で「40 歳代」が約 68%である。50 代以上は約 23%となった。



●教員

【小学校教員】

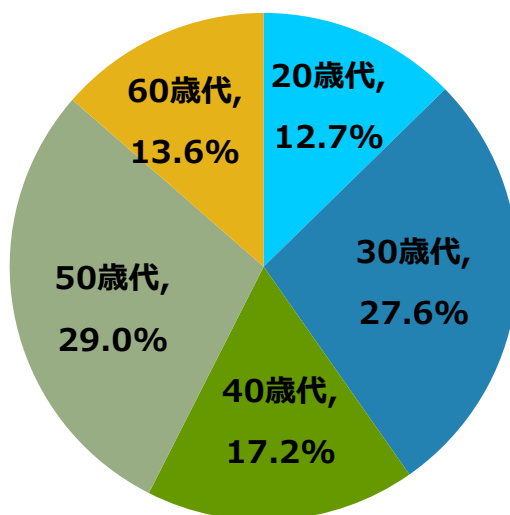
回答者は「20 歳代」が約 16%、「30 歳代」が約 31%で「40 歳代」が約 19%である。50 代以上は約 33%となった。



(n=334)

【中学校教員】

回答者は「20 歳代」が約 13%、「30 歳代」が約 28%で「40 歳代」が約 17%である。50 代以上は約 43%となった。

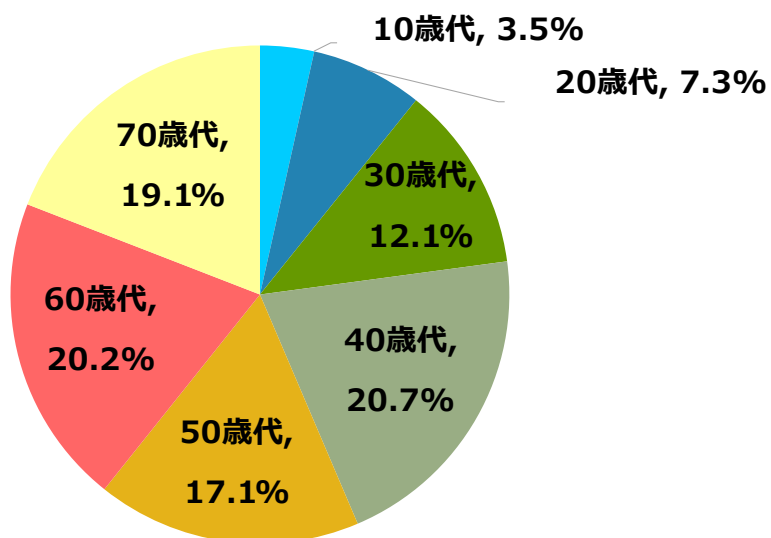


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

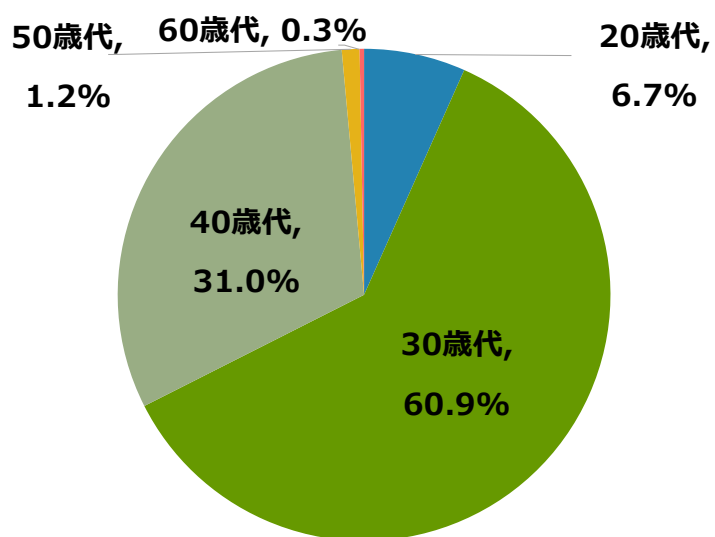
回答者は「10 歳代」と「20 歳代」で約 11%、「30 歳代」が約 12%、「40 歳代」が約 21%、「50 歳代」が約 17%となり、60 代以上は約 39%である。



(n=1,115)

【未就学児の保護者】

10 代の回答者はなく、「20 歳代」で約 7%、「30 歳代」が約 61%、「40 歳代」が約 31%となり、50 代以上は約 1%である。



(n=345)

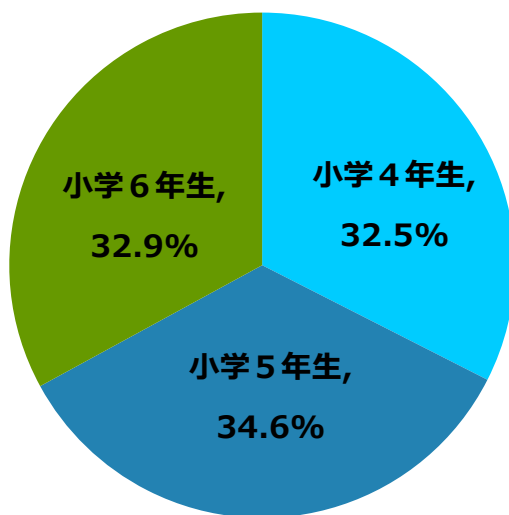
(2) 学年/学級

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(2)学年/学級	小学校1年生	0.0%	0.0%		14.2%	0.0%			
	小学校2年生	0.0%	0.0%		13.5%	0.0%			
	小学校3年生	0.0%	0.0%		16.0%	0.0%			
	小学校4年生	32.5%	0.0%		17.8%	0.0%			
	小学校5年生	34.6%	0.0%		19.3%	0.0%			
	小学校6年生	32.9%	0.0%		19.2%	0.0%			
	中学校1年生	0.0%	32.9%	0.0%	31.5%				
	中学校2年生	0.0%	33.0%	0.0%	35.8%				
	中学校3年生	0.0%	34.1%	0.0%	32.7%				
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				

●児童・生徒

【児童】

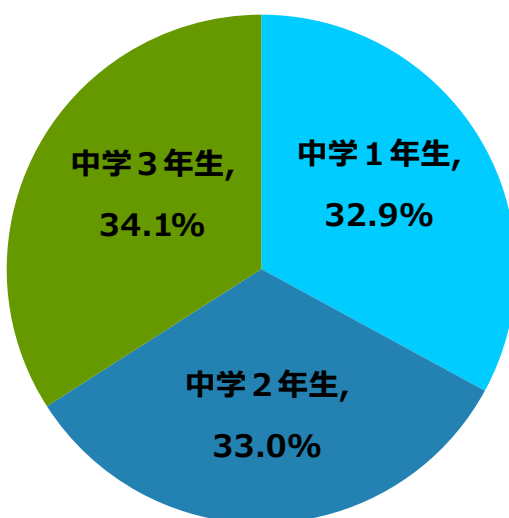
回答児童は「小学4年生」が約33%、「小学5年生」が約35%で「小学6年生」が約33%である。



(n=3,524)

【生徒】

回答生徒は「中学1年生」が約33%、「中学2年生」が約33%で「中学3年生」が約34%である。

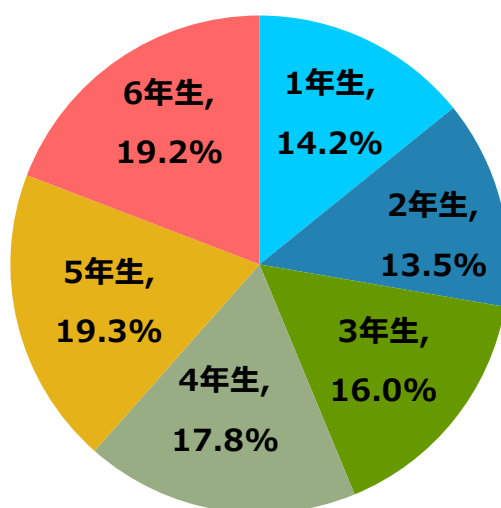


(n=3,200)

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

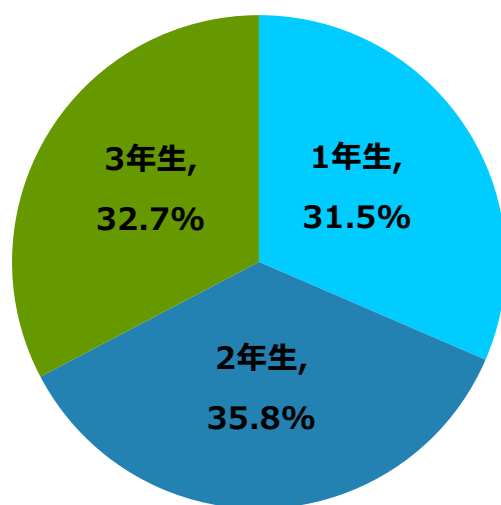
回答者の子どもの学年では回答率の多い順に「5年生」(19.3%)、「6年生」(19.2%)、「4年生」(17.8%)、「3年生」(16.0%)となり、約72%を占める。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

回答者の子どもの学年では回答率の多い順に「2年生」(35.8%)、「3年生」(32.7%)、「1年生」(31.5%)である。



(n=1,156)

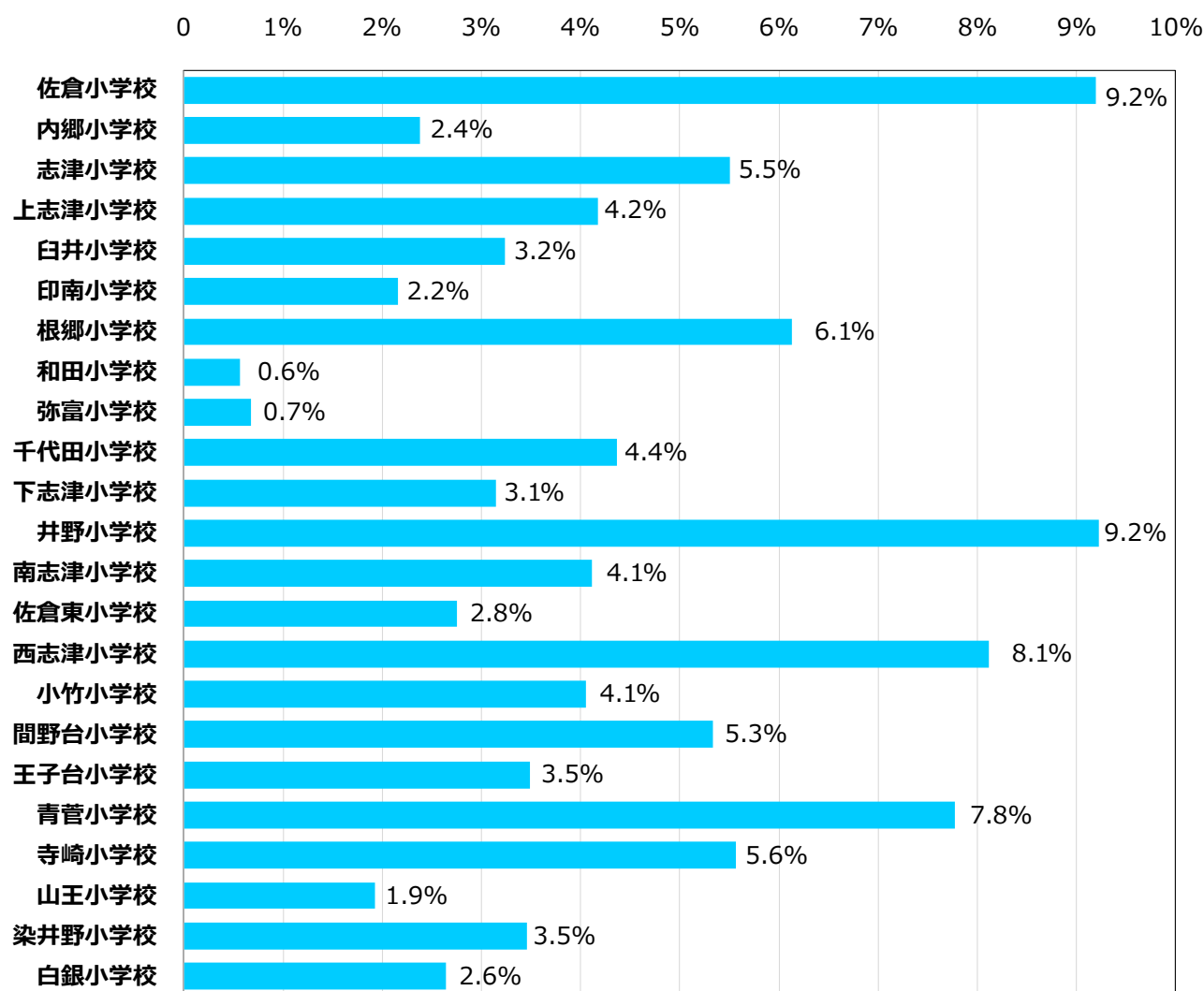
(3) 通学先/勤務校/居住地

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(3)通学先/勤務校/居住地 ※ 2024年、既に単学級校 ● 2060年、単学級校が見込まれる	佐倉小学校	9.2%	0.0%	8.9%	0.0%	8.4%	0.0%	7.5%	7.2%
	内郷小学校 ※ ●	2.4%	0.0%	2.8%	0.0%	3.6%	0.0%	2.4%	2.9%
	志津小学校	5.5%	0.0%	4.8%	0.0%	5.7%	0.0%	5.0%	7.2%
	上志津小学校 ●	4.2%	0.0%	4.7%	0.0%	5.1%	0.0%	4.0%	4.1%
	臼井小学校 ●	3.2%	0.0%	3.1%	0.0%	6.0%	0.0%	7.2%	4.3%
	印南小学校 ※ ●	2.2%	0.0%	1.6%	0.0%	3.0%	0.0%	3.5%	1.4%
	根郷小学校 ●	6.1%	0.0%	6.3%	0.0%	4.5%	0.0%	6.4%	3.5%
	和田小学校 ※ ●	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	3.0%	0.0%	1.1%	0.0%
	弥富小学校 ※ ●	0.7%	0.0%	0.8%	0.0%	1.5%	0.0%	0.4%	0.6%
	千代田小学校 ●	4.4%	0.0%	4.1%	0.0%	3.9%	0.0%	3.3%	2.6%
	下志津小学校 ●	3.1%	0.0%	2.9%	0.0%	5.7%	0.0%	1.7%	2.9%
	井野小学校	9.2%	0.0%	8.8%	0.0%	5.4%	0.0%	5.6%	9.6%
	南志津小学校 ●	4.1%	0.0%	3.6%	0.0%	5.4%	0.0%	2.7%	2.9%
	佐倉東小学校 ●	2.8%	0.0%	2.7%	0.0%	2.4%	0.0%	3.1%	2.9%
	西志津小学校 ●	8.1%	0.0%	9.8%	0.0%	5.1%	0.0%	6.8%	10.7%
	小竹小学校 ●	4.1%	0.0%	4.4%	0.0%	2.4%	0.0%	3.6%	6.4%
	間野台小学校	5.3%	0.0%	7.4%	0.0%	4.2%	0.0%	6.2%	6.7%
	王子台小学校 ●	3.5%	0.0%	3.8%	0.0%	3.0%	0.0%	6.3%	5.2%
	青菅小学校 ●	7.8%	0.0%	5.8%	0.0%	5.7%	0.0%	2.6%	4.3%
	寺崎小学校 ●	5.6%	0.0%	5.5%	0.0%	6.0%	0.0%	6.2%	5.8%
	山王小学校 ※ ●	1.9%	0.0%	1.6%	0.0%	2.1%	0.0%	2.6%	2.9%
	染井野小学校 ●	3.5%	0.0%	2.8%	0.0%	4.8%	0.0%	5.1%	1.4%
	白銀小学校 ●	2.6%	0.0%	2.9%	0.0%	3.3%	0.0%	3.1%	0.6%
	佐倉中学校	0.0%	13.3%	0.0%	13.0%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%
	志津中学校	0.0%	19.1%	0.0%	15.9%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%
	上志津中学校	0.0%	7.8%	0.0%	8.6%	0.0%	8.6%	0.0%	0.0%
	南部中学校 ●	0.0%	3.5%	0.0%	5.6%	0.0%	6.8%	0.0%	0.0%
	臼井中学校	0.0%	8.8%	0.0%	7.8%	0.0%	5.4%	0.0%	0.0%
	井野中学校	0.0%	13.9%	0.0%	13.0%	0.0%	10.4%	0.0%	0.0%
	佐倉東中学校 ●	0.0%	7.0%	0.0%	7.4%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	臼井西中学校 ●	0.0%	7.1%	0.0%	4.3%	0.0%	9.0%	0.0%	0.0%
	西志津中学校 ●	0.0%	4.3%	0.0%	12.8%	0.0%	9.0%	0.0%	0.0%
	臼井南中学校	0.0%	9.3%	0.0%	6.3%	0.0%	8.6%	0.0%	0.0%
	根郷中学校 ●	0.0%	6.1%	0.0%	5.3%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	3.8%
	不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

●児童・生徒

【児童】

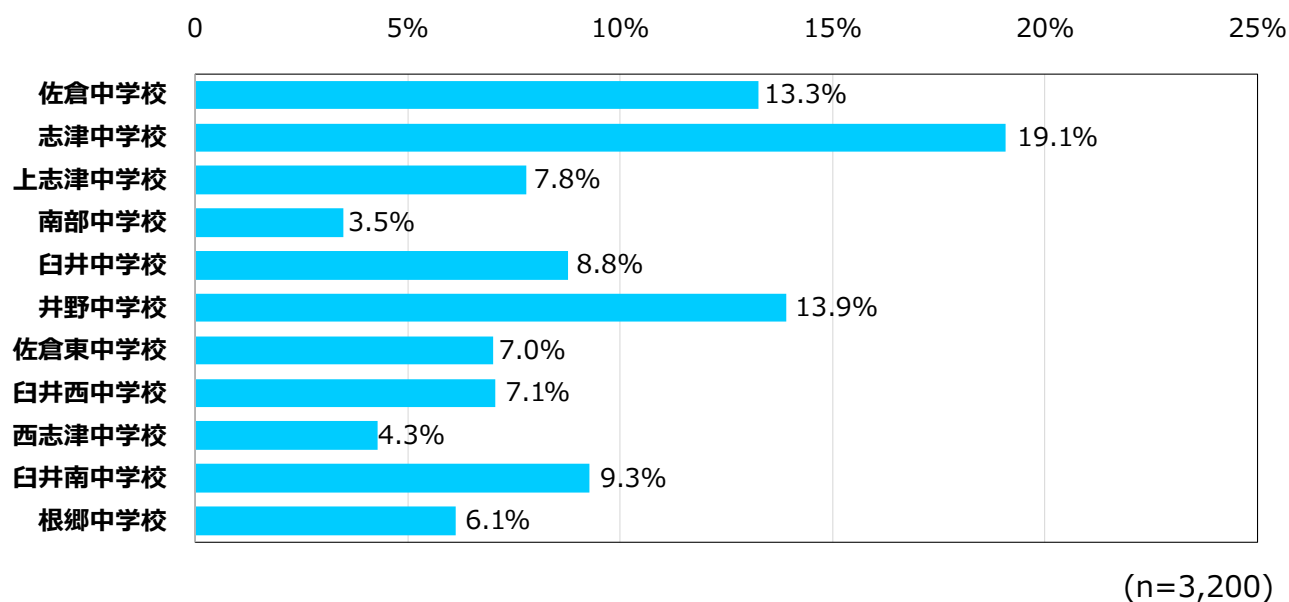
通っている学校は回答率の多い順に「佐倉小学校」(9.2%)、「井野小学校」(9.2%)、「西志津小学校」(8.1%)、「青菅小学校」(7.8%)、「根郷小学校」(6.1%) となり、「寺崎小学校」、「志津小学校」が続く。



(n=3,524)

【生徒】

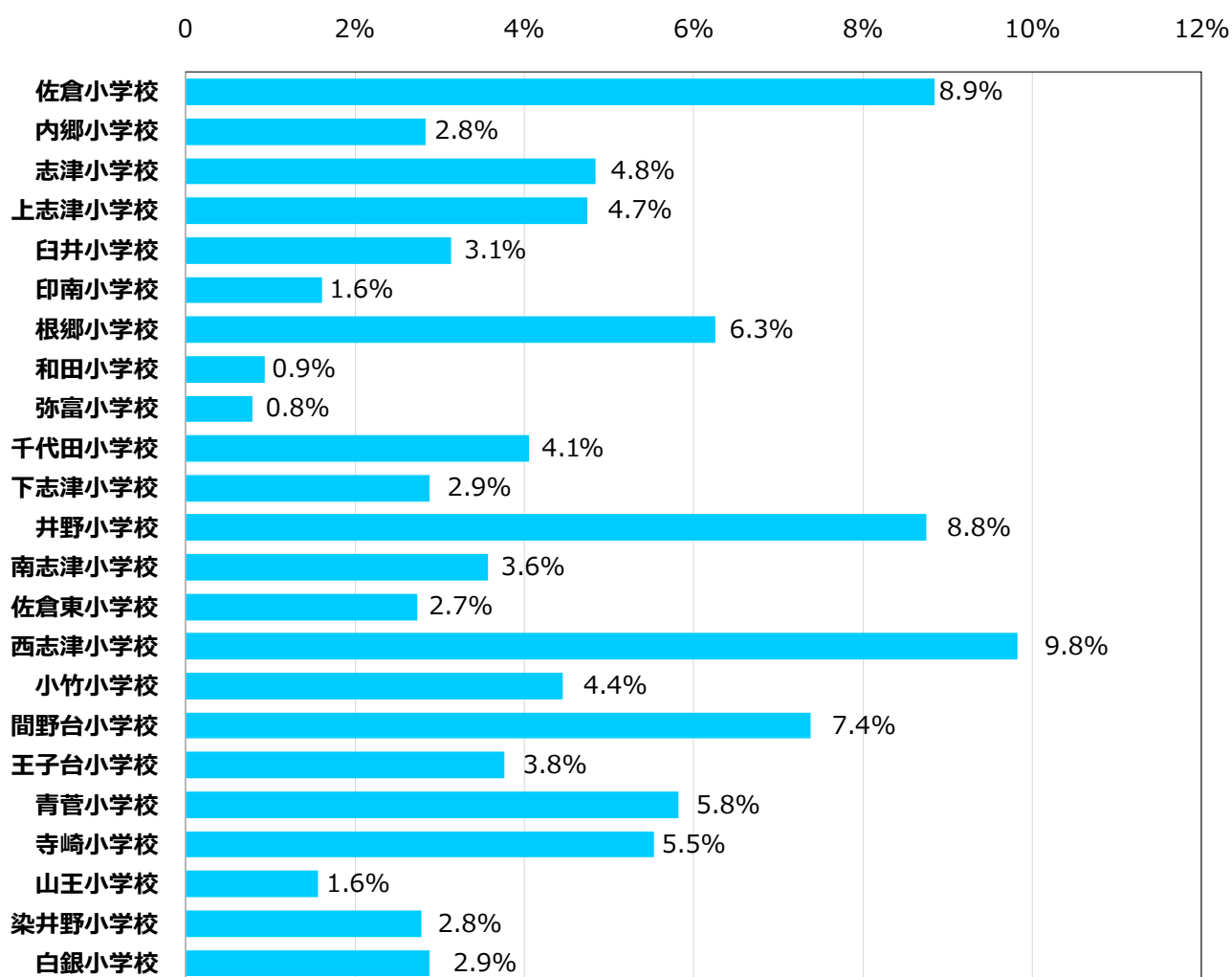
通っている学校は回答率の多い順に「志津中学校」(19.1%)、「井野中学校」(13.9%)、「佐倉中学校」(13.3%)、「臼井南中学校」(9.3%)、「臼井中学校」(8.8%) となり、「上志津中学校」、「臼井西中学校」が続く。



●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

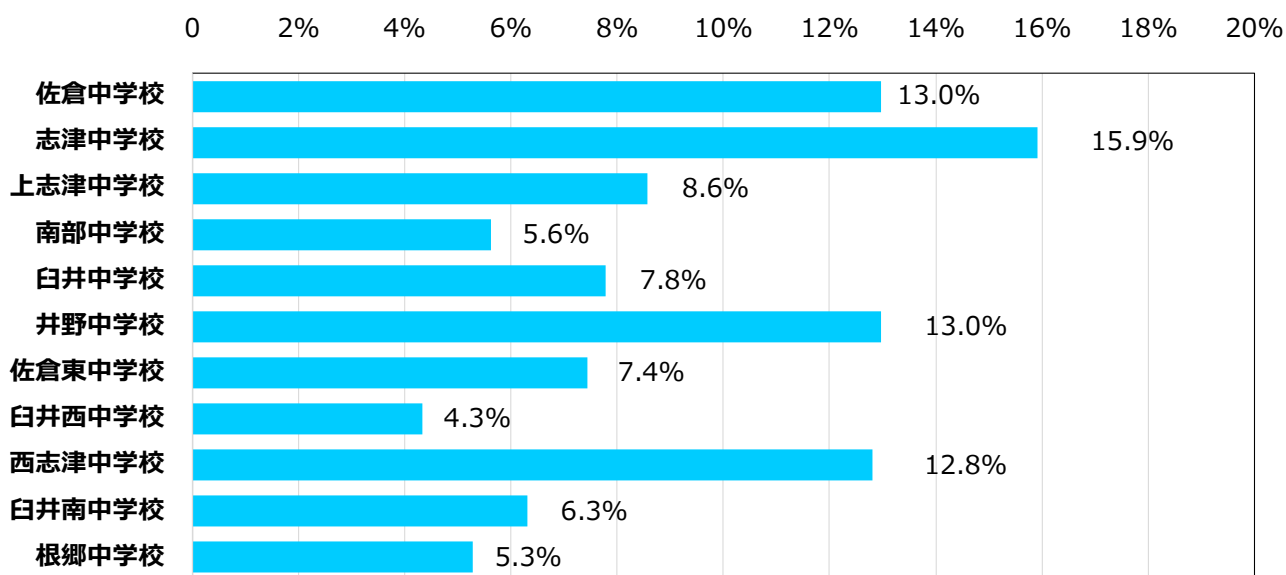
回答者の子どもの通っている学校は回答率の多い順に「西志津小学校」(9.8%)、「佐倉小学校」(8.9%)、「井野小学校」(8.8%)、「間野台小学校」(7.4%)、「根郷小学校」(6.3%) となり、「青菅小学校」、「寺崎小学校」が続く。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

回答者の子どもの通っている学校は回答率の多い順に「志津中学校」(15.9%)、「佐倉中学校」(13.0%)、「井野中学校」(13.0%)、「西志津中学校」(12.8%)、「上志津中学校」(8.6%) となり、「臼井中学校」、「佐倉東中学校」が続く。

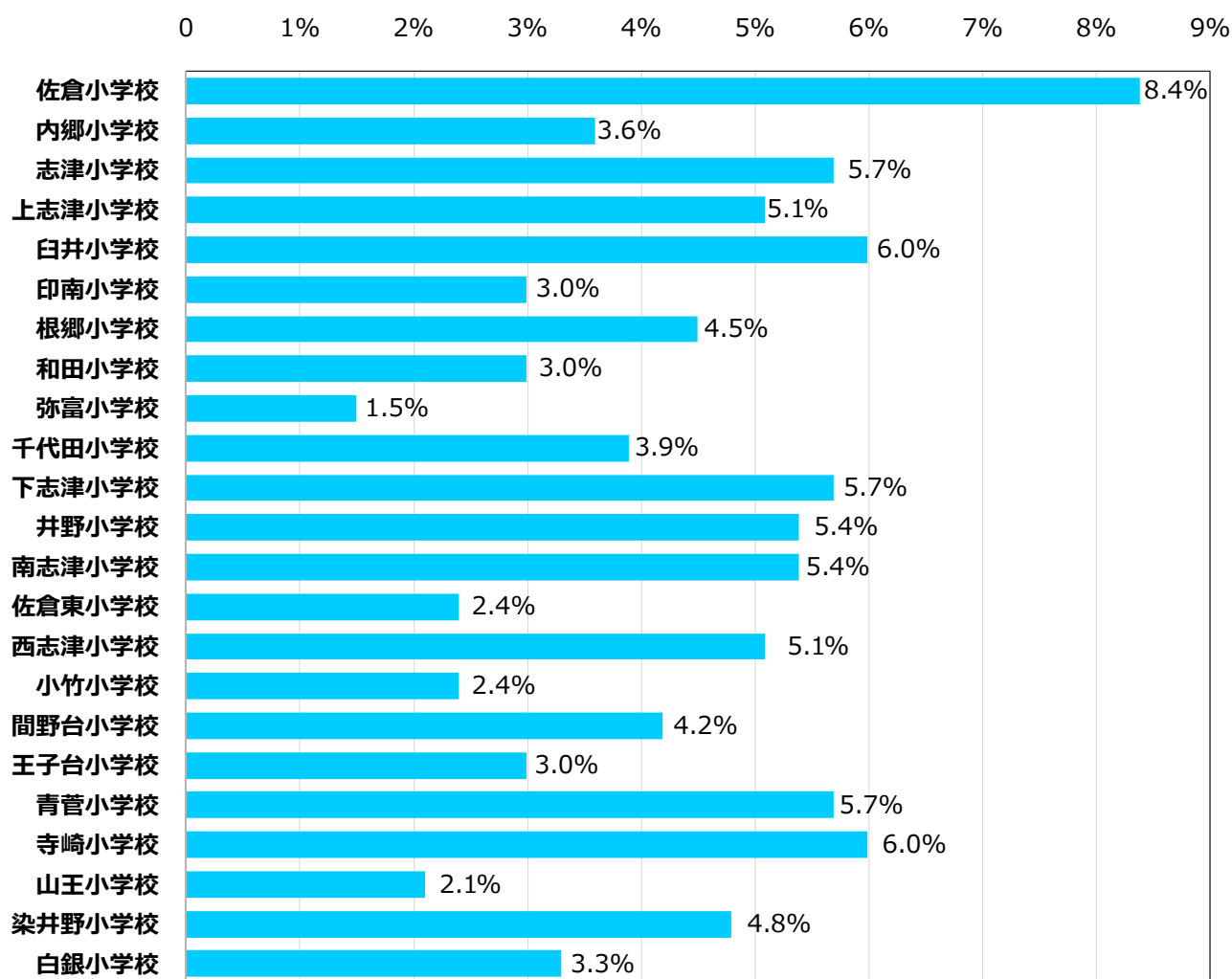


(n=1,156)

●教員

【小学生教員】

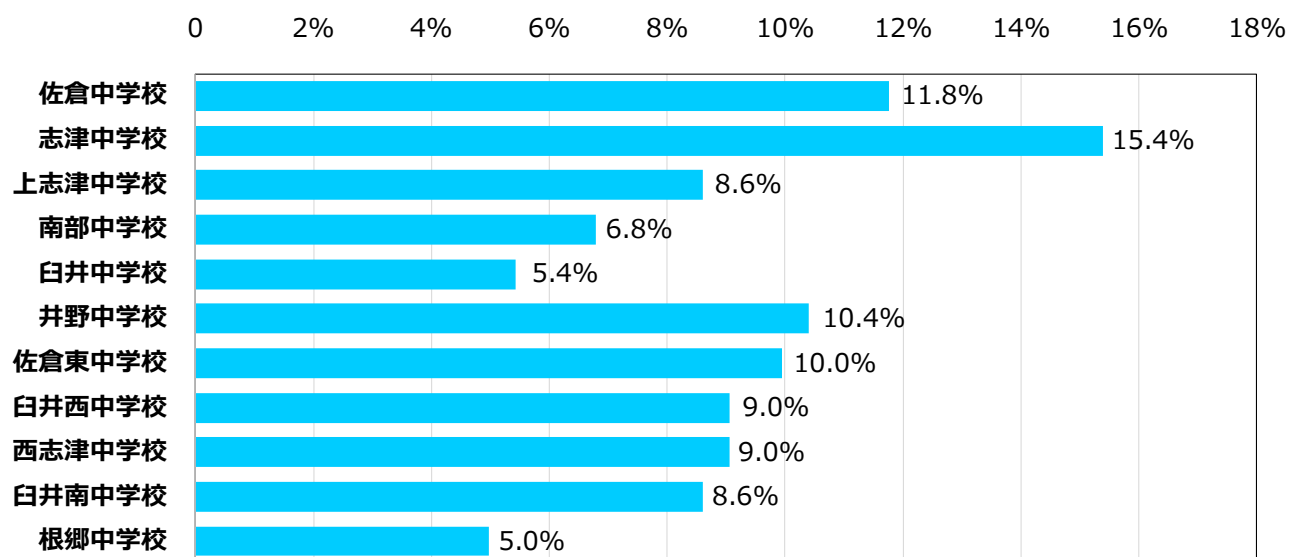
勤務校は、回答率の多い順に「佐倉小学校」(8.4%)、「臼井小学校」(6.0%)、「寺崎小学校」(6.0%)、「志津小学校」(5.7%)、「下志津小学校」(5.7%)、「青菅小学校」(5.7%)、となり「南志津小学校」、「井野小学校」が続く。



(n=334)

【中学生教員】

勤務校は、回答率の多い順に「志津中学校」(15.4%)、「佐倉中学校」(11.8%)、「井野中学校」(10.4%)、「佐倉東中学校」(10.0%)、「臼井西中学校」(9.0%)、「西志津中学校」(9.0%)となり、「臼井南中学校」、「上志津中学校」が続く。

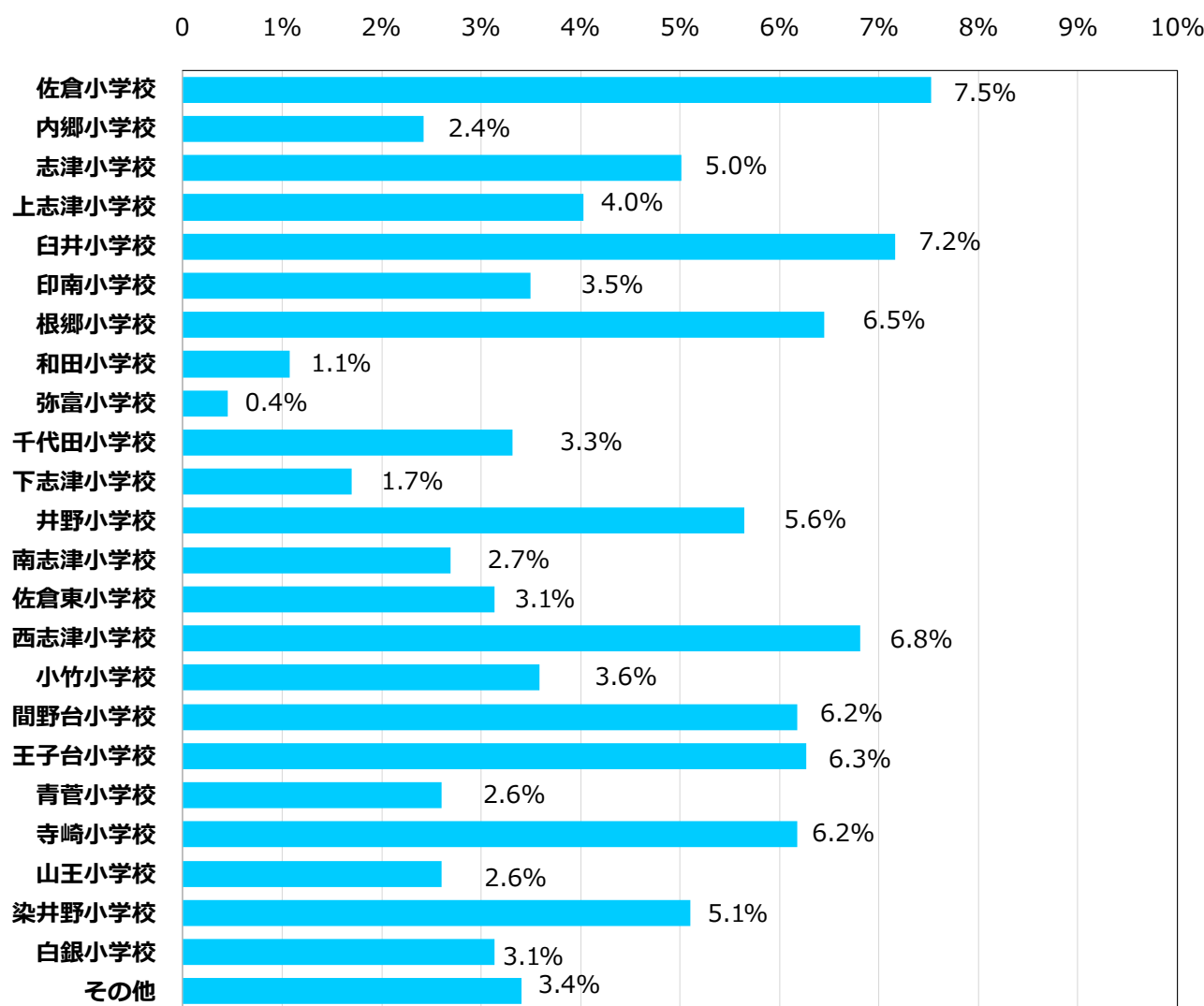


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

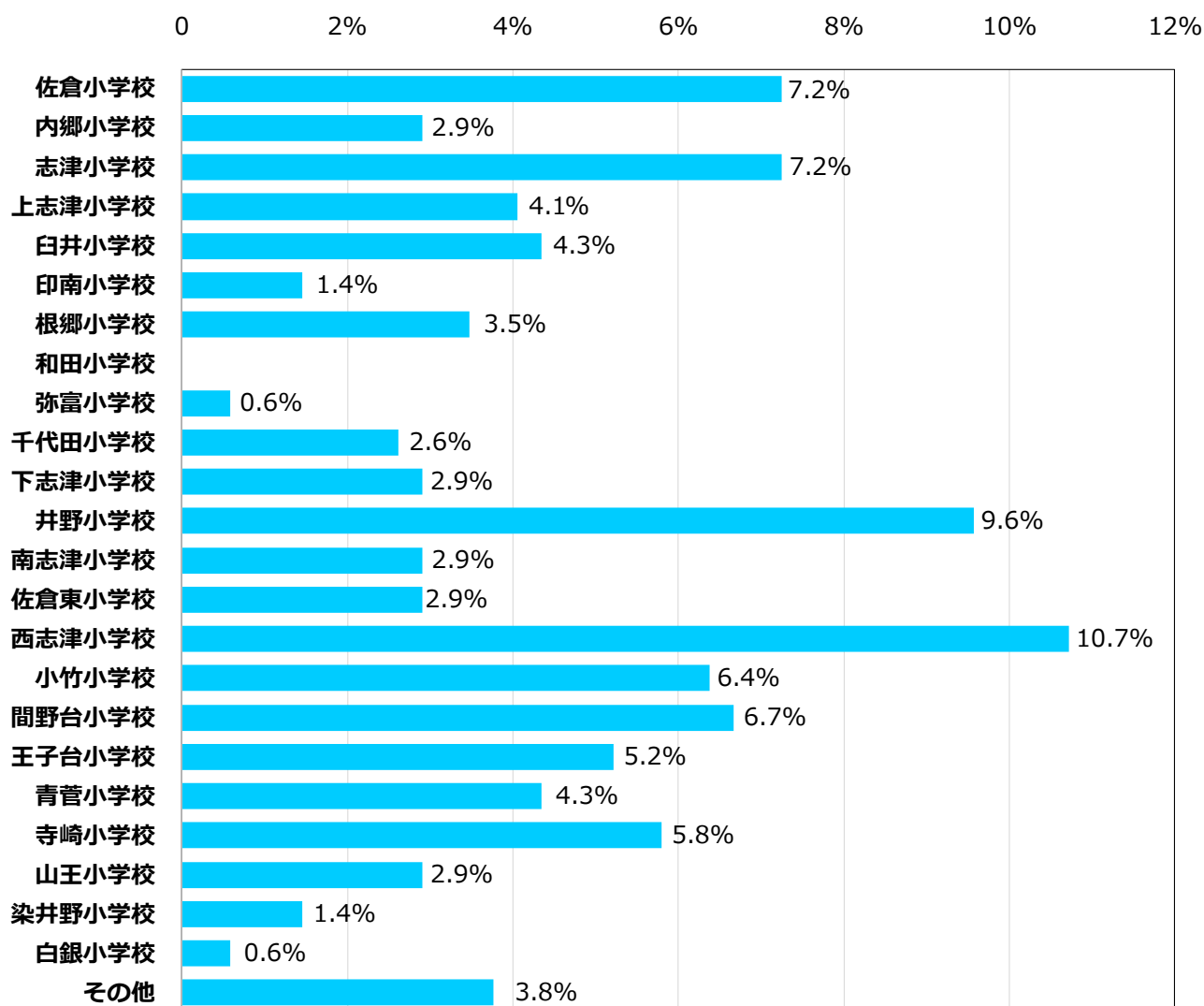
回答者の居住地の学校区は、回答率の多い順に「佐倉小学校」(7.5%)、「臼井小学校」(7.2%)、「西志津小学校」(6.8%)、「根郷小学校」(6.5%)、「王子台小学校」(6.3%) となり、「間野台小学校」、「寺崎小学校」が続く。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

回答者の居住地の学校区は、回答率の多い順に「西志津小学校」(10.7%)、「井野小学校」(9.6%)、「佐倉小学校」(7.2%)、「志津小学校」(7.2%)、「間野台小学校」(6.7%) となり、「小竹小学校」、「寺崎小学校」が続く。



(n=345)

■今後、学校教育に求めること・期待することに関して、あなたのお考えをお伺いします

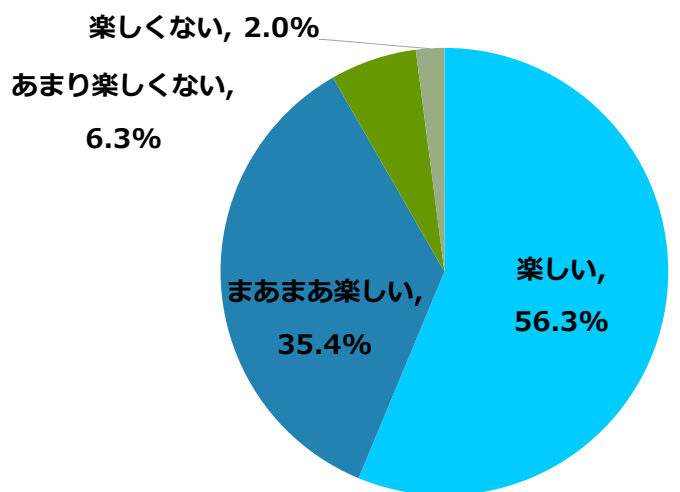
(4) 学校で過ごす時間について

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(4)学校で過ごす時間について	楽しい	56.2%	52.2%						
	まあまあ楽しい	35.4%	39.6%						
	あまり楽しくない	6.2%	6.4%						
	楽しくない	2.0%	1.7%						
	不明	0.1%	0.0%						
		100.0%	100.0%						

●児童・生徒

【児童】

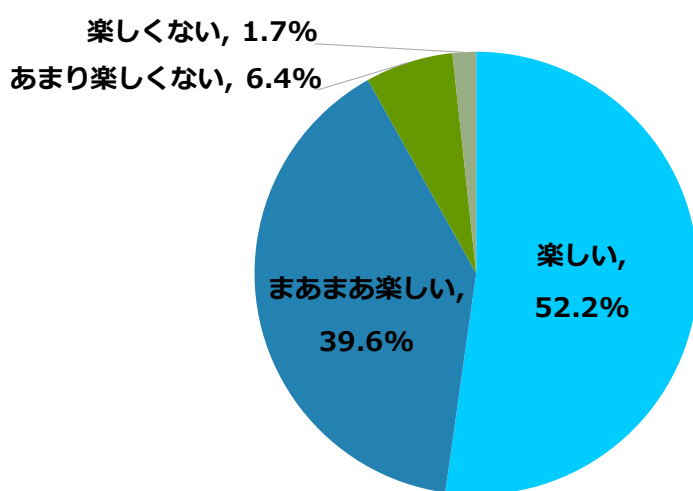
学校で過ごす時間の感じ方では、「楽しい」と「まあまあ楽しい」の合計で約92%となる。一方で「あまり楽しくない」と「楽しくない」の合計は約8%となっている。



(n=3,519)

【生徒】

学校で過ごす時間の感じ方では、「楽しい」と「まあまあ楽しい」の合計で約92%となる。一方で「あまり楽しくない」と「楽しくない」の合計は約8%となっている。



(n=3,199)

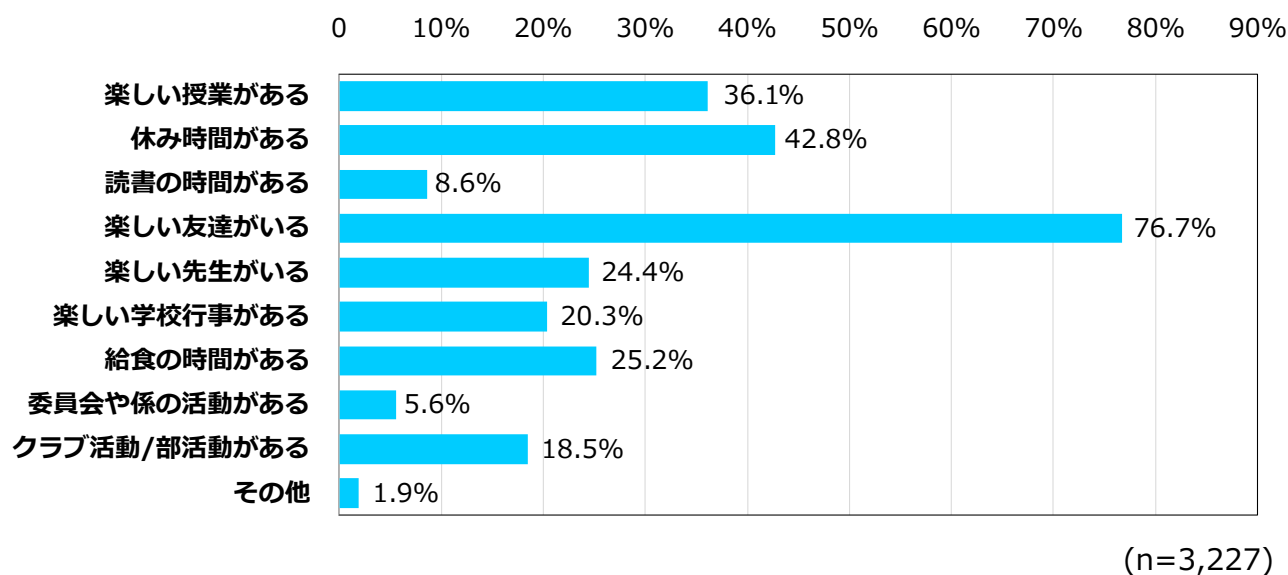
(5) 「学校で過ごす時間について」の回答理由

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(5)「学校で過ごす時間について」の回答理由【複数回答】 ※「楽しい」「まあまあ楽しい」選択	楽しい授業がある	36.1%	31.7%						
	休み時間がある	42.8%	44.5%						
	読書の時間がある	8.6%	5.1%						
	楽しい友達がいる	76.7%	84.4%						
	楽しい先生がいる	24.4%	19.6%						
	楽しい学校行事がある	20.3%	24.0%						
	給食の時間がある	25.2%	19.6%						
	委員会や係の活動がある	5.6%	2.0%						
	クラブ活動/部活動がある	18.5%	30.8%						
	その他	1.9%	0.9%						
(5)「学校で過ごす時間について」の回答理由【複数回答】 ※「あまり楽しくない」「楽しくない」選択	授業が面白くない	26.7%	29.2%						
	授業についていけない	14.4%	22.3%						
	勉強がしたくない	33.9%	33.1%						
	友達ととうまういかないことが多くある	38.7%	38.1%						
	先生に不満がある	22.3%	25.8%						
	学校生活でやりたくないことが多くある	22.3%	30.8%						
	給食の時間がある	3.4%	5.4%						
	委員会や係の活動がある	5.8%	3.1%						
	クラブ活動/部活動がある	4.8%	10.0%						
	その他	14.0%	15.4%						

●児童・生徒

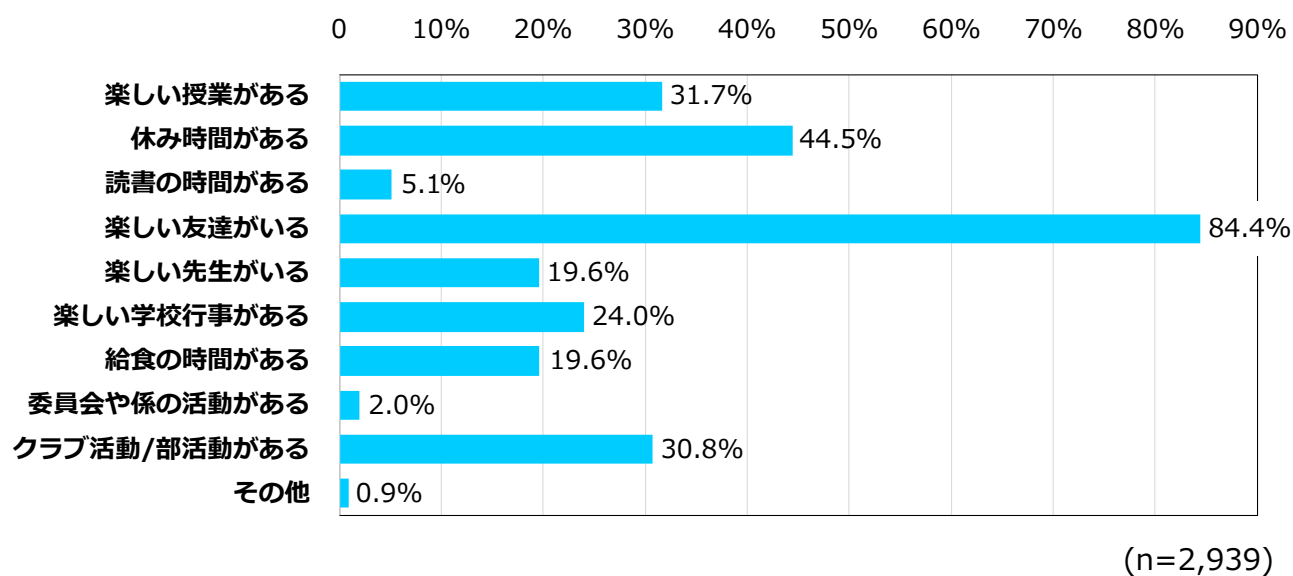
【児童（楽しい、まあまあ楽しい）】

問3で「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた回答者の理由は、回答率の多い順で、「楽しい友達がいる」（76.7%）、「休み時間がある」（42.8%）、「楽しい授業がある」（36.1%）が上位3つとなった。



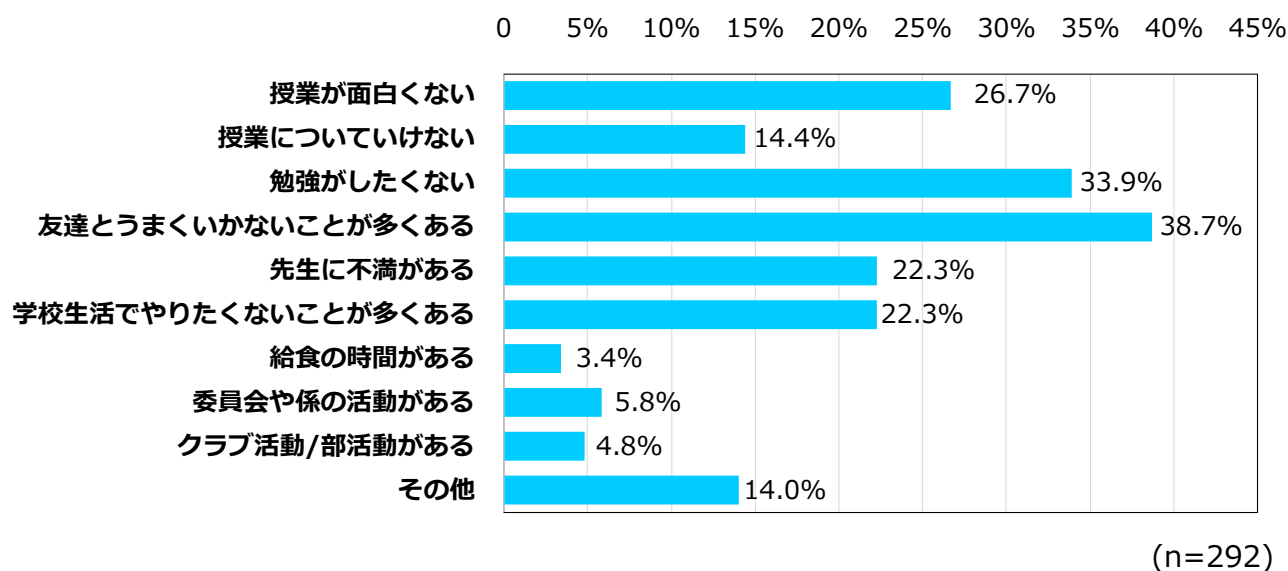
【生徒（楽しい、まあまあ楽しい）】

問3で「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた回答者の理由は、回答率の多い順で、「楽しい友達がいる」（84.4%）、「休み時間がある」（44.5%）、「楽しい授業がある」（31.7%）が上位3つとなった。



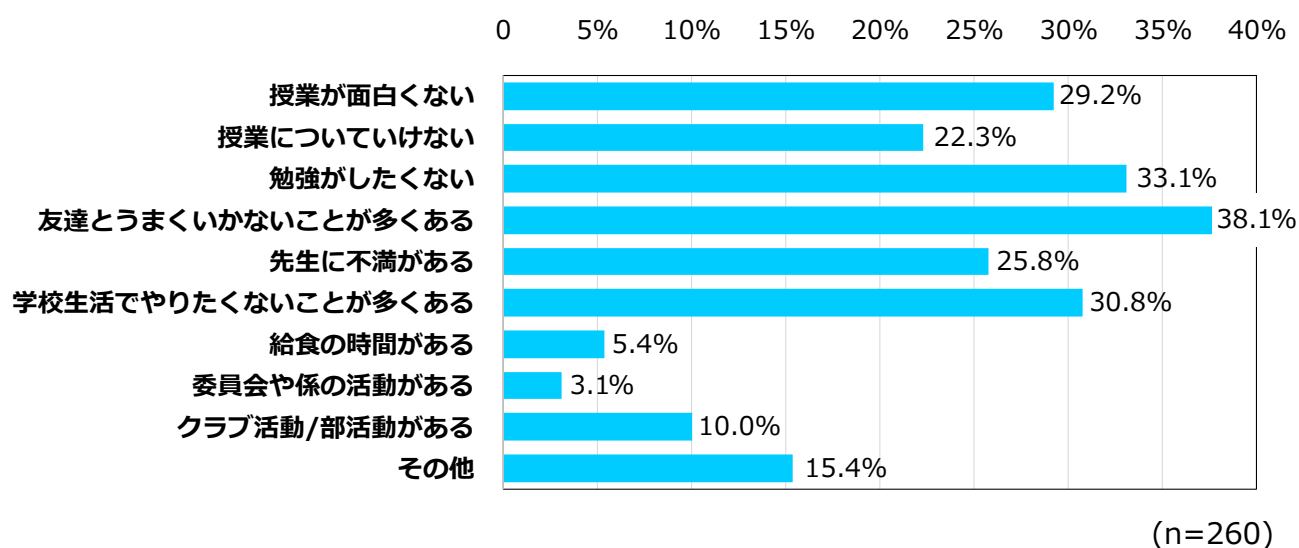
【児童（あまり楽しくない、楽しくない）】

問3で「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた回答者の理由は、回答率の多い順で、「友達とうまういかないことが多くある」（38.7%）、「勉強がしたくない」（33.9%）、「授業が面白くない」（26.7%）が上位3つとなった。



【生徒（あまり楽しくない、楽しくない）】

問3で「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた回答者の理由は、回答率の多い順で、「友達とうまういかないことが多くある」（38.1%）、「勉強がしたくない」（33.1%）、「学校生活でやりたくないことが多くある」（30.8%）が上位3つとなった。



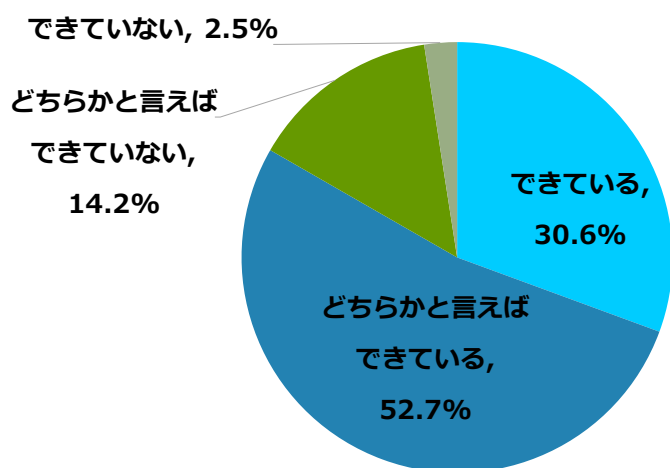
(6) 不明点などを自分なりに調べたり考えたり出来ているか

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(6)不明点などを自分なりに調べたり考えたり出来ているか	できている	 30.5%	 39.0%						
	どちらかと言えばできている	 52.5%	 48.4%						
	どちらかと言えばできていない	 14.2%	 10.9%						
	できていない	 2.4%	 1.6%						
	不明	 0.4%	 0.1%						
		100.0%	100.0%						

●児童・生徒

【児童】

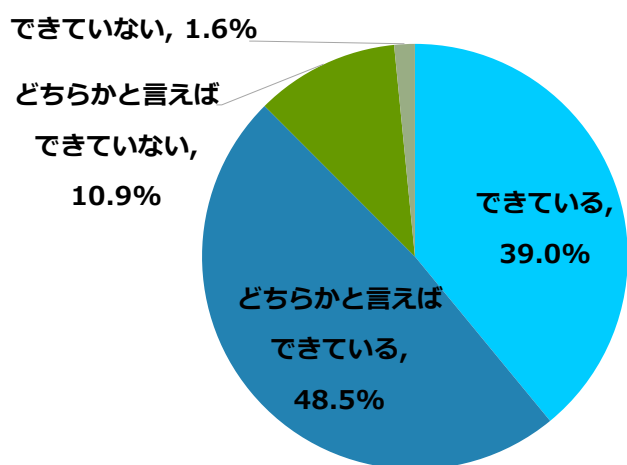
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で調べたり、自分なりに考えたりするなどの活動では、「できている」と「どちらかと言えばできている」の合計で約 83%となる。一方で「どちらかと言えばできていない」と「できていない」の合計は約 17%となっている。



(n=3,509)

【生徒】

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で調べたり、自分なりに考えたりするなどの活動では、「できている」と「どちらかと言えばできている」の合計で約 88%となる。一方で「どちらかと言えばできていない」と「できていない」の合計は約 13%となっている。



(n=3,196)

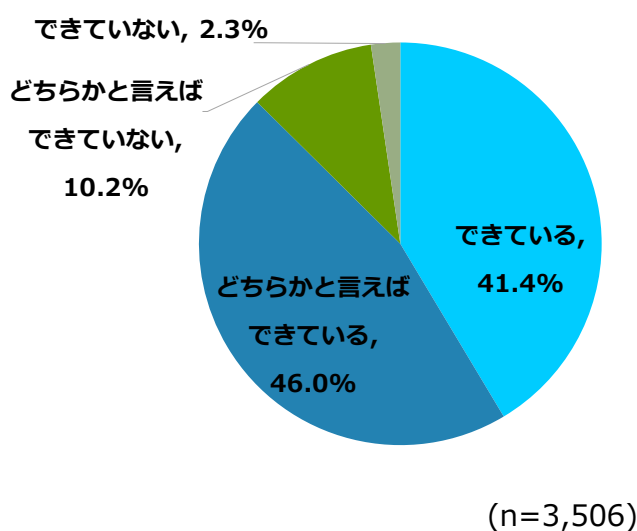
(7) 友達との話し合いを通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたり出来ているか

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(7) 友達との話し合いを通じて、 自分の考えを深めたり新たな考え 方に気付いたり出来ているか	できている	41.2%	51.2%						
	どちらかと言えばできている	45.8%	40.8%						
	どちらかと言えばできていない	10.2%	6.4%						
	できていない	2.3%	1.4%						
	不明	0.5%	0.2%						
		100.0%	100.0%						

●児童・生徒

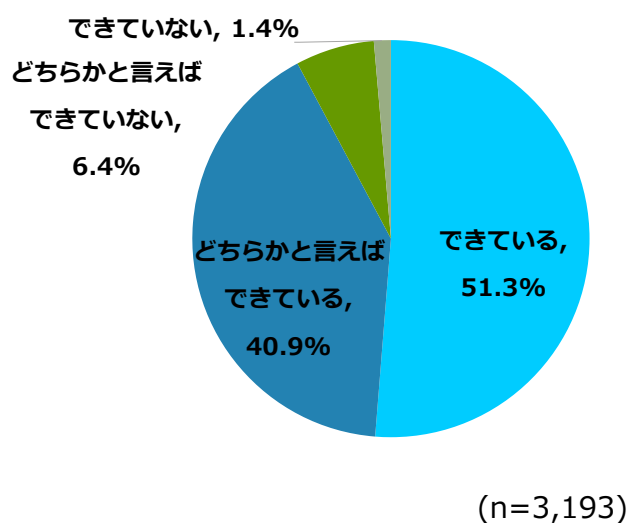
【児童】

クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることでは、「できている」と「どちらかと言えばできている」の合計で約 87%となる。一方で「どちらかと言えばできていない」と「できていない」の合計は約 13%となっている。



【生徒】

クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることでは、「できている」と「どちらかと言えばできている」の合計で約 92%となる。一方で「どちらかと言えばできていない」と「できていない」の合計は約 8%となっている。



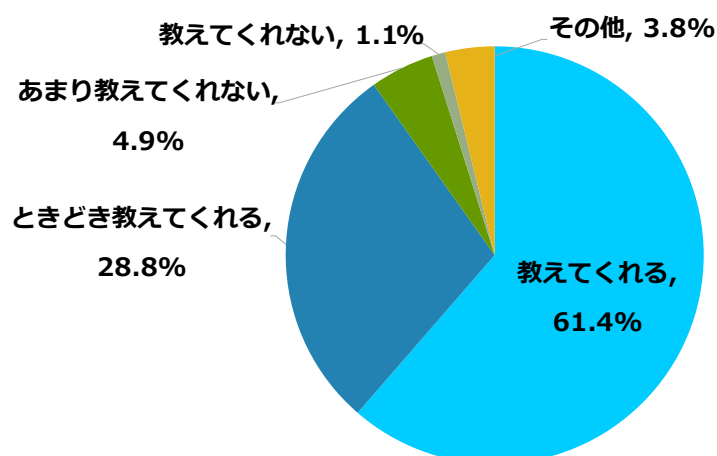
(8) 授業中の不明点を教員が分かりやすく教えてくれるか

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(8)授業中の不明点を教員が分かりやすく教えてくれるか	教えてくれる	60.9%	45.8%						
	ときどき教えてくれる	28.6%	40.5%						
	あまり教えてくれない	4.9%	8.4%						
	教えてくれない	1.0%	2.2%						
	その他	3.8%	2.5%						
	不明	0.8%	0.7%						
		100.0%	100.0%						

●児童・生徒

【児童】

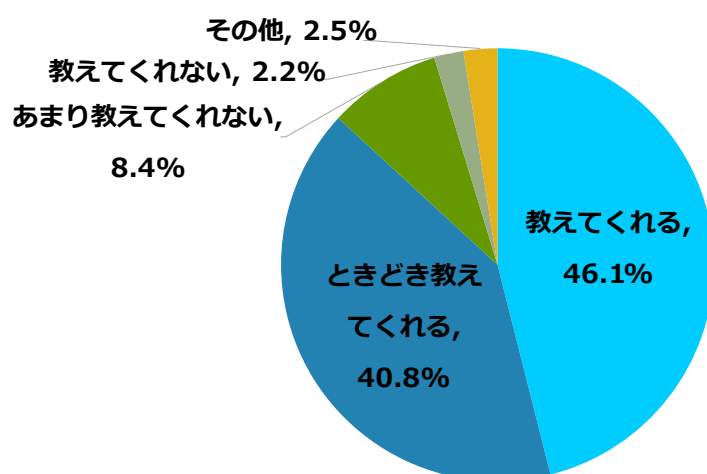
授業中、わからないことや困ったことがあったとき、先生が気付いて分かるように教えてくれるかどうかでは、「教えてくれる」と「ときどき教えてくれる」の合計で約90%となる。一方で「あまり教えてくれない」と「教えてくれない」の合計は約6%となっている。



(n=3,496)

【生徒】

授業中、わからないことや困ったことがあったとき、先生が気付いて分かるように教えてくれるかどうかでは、「教えてくれる」と「ときどき教えてくれる」の合計で約87%となる。一方で「あまり教えてくれない」と「教えてくれない」の合計は約11%となっている。



(n=3,178)

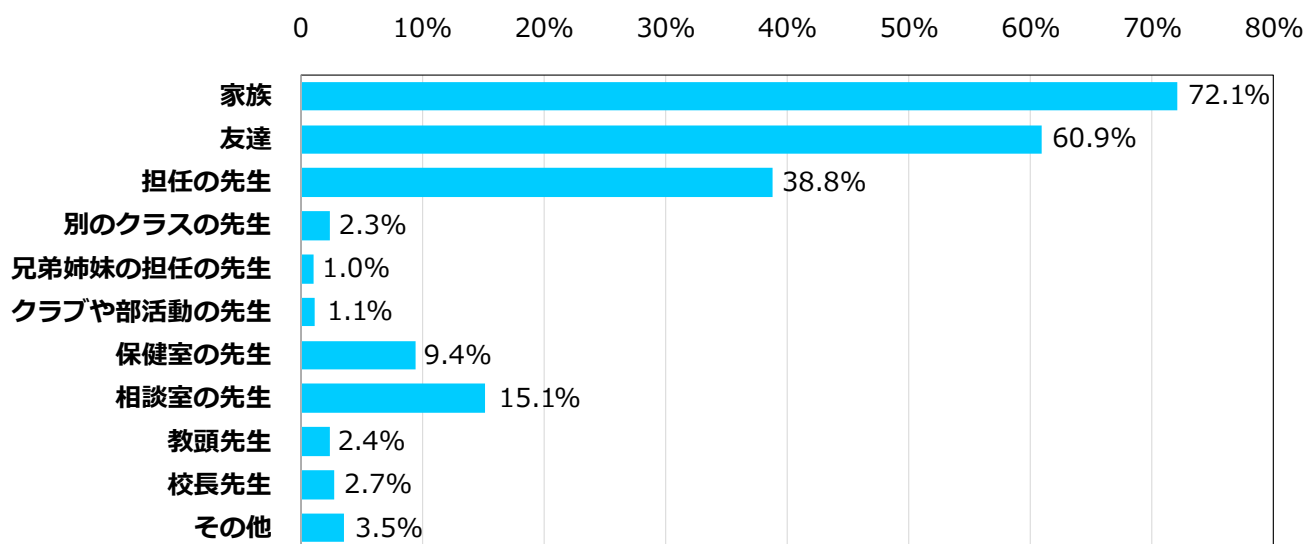
(9) 心配事や不安に思うことの相談相手

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(9) 心配事や不安に思うことの相談相手 【複数回答】	家族	72.1%	66.3%						
	友達	60.9%	72.4%						
	担任の先生	38.8%	36.5%						
	別のクラスの先生	2.3%	4.3%						
	兄弟姉妹の担任の先生	1.0%	0.4%						
	クラブや部活動の先生	1.1%	6.3%						
	保健室の先生	9.4%	5.2%						
	相談室の先生	15.1%	5.7%						
	教頭先生	2.4%	1.0%						
	校長先生	2.7%	1.3%						
	その他	3.5%	3.2%						

●児童・生徒

【児童】

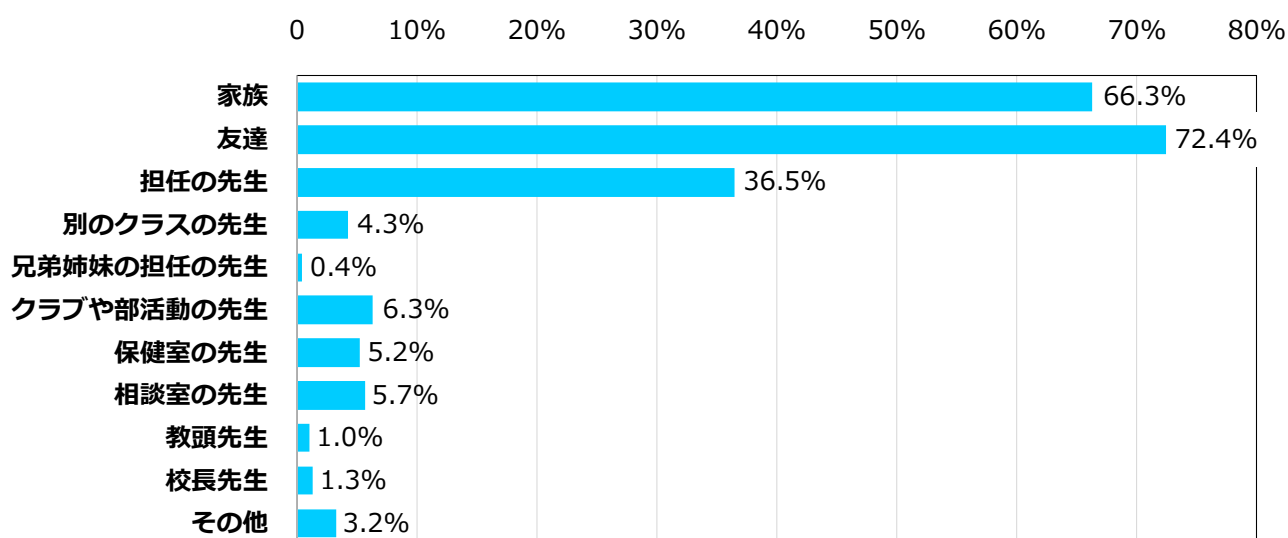
学校生活のことで心配事や不安に思うことがあったときに相談したいと思う相手は、「家族」(72.1%)、「友達」(60.9%)、「担任の先生」(38.8%)が上位3つとなった。



(n=3,524)

【生徒】

学校生活のことで心配事や不安に思うことがあったときに相談したいと思う相手は、「友達」(72.4%)、「家族」(66.3%)、「担任の先生」(36.5%)が上位3つとなった。



(n=3,200)

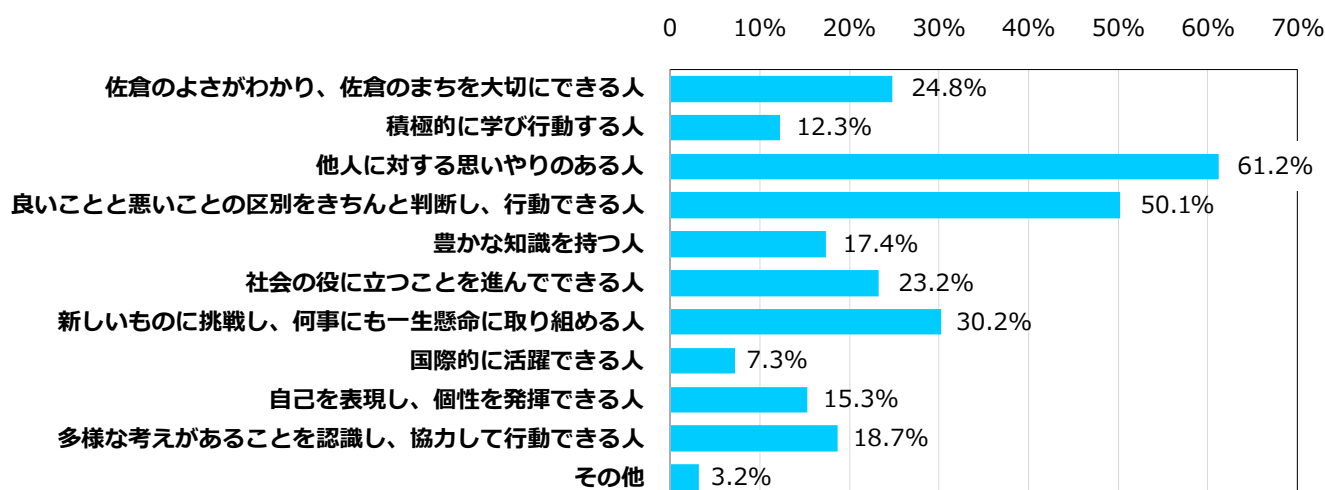
(10) 望ましい将来像

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(10)望ましい将来像 【複数回答】	佐倉のよさがわかり、佐倉のまちを大切にできる人	24.8%	6.3%	3.6%	2.8%	10.8%	9.0%	10.1%	4.3%
	積極的に学び行動する人	12.3%	19.9%	33.5%	35.1%	25.7%	21.7%	25.7%	31.0%
	他人に対する思いやりのある人	61.2%	68.1%	72.6%	70.8%	77.8%	75.6%	67.3%	72.2%
	良いことと悪いことの区別をきちんと判断し、行動できる人	50.1%	54.5%	66.6%	64.6%	67.4%	67.9%	67.3%	62.9%
	豊かな知識を持つ人	17.4%	16.2%	9.3%	12.0%	3.0%	5.9%	10.0%	7.5%
	社会の役に立つことを進んでできる人	23.2%	18.5%	8.5%	9.9%	19.2%	21.7%	13.3%	5.5%
	新しいものに挑戦し、何事にも一生懸命に取り組める人	30.2%	28.6%	34.3%	32.1%	29.0%	29.0%	29.4%	33.6%
	国際的に活躍できる人	7.3%	8.8%	7.0%	5.8%	2.4%	4.1%	8.3%	10.4%
	自己を表現し、個性を発揮できる人	15.3%	26.7%	19.8%	18.3%	12.6%	14.0%	15.0%	21.4%
	多様な考えがあることを認識し、協力して行動できる人	18.7%	27.9%	37.5%	39.0%	47.3%	46.2%	43.8%	43.5%
	その他	3.2%	2.1%	0.5%	1.2%	0.6%	0.0%	2.0%	2.3%

●児童・生徒

【児童】

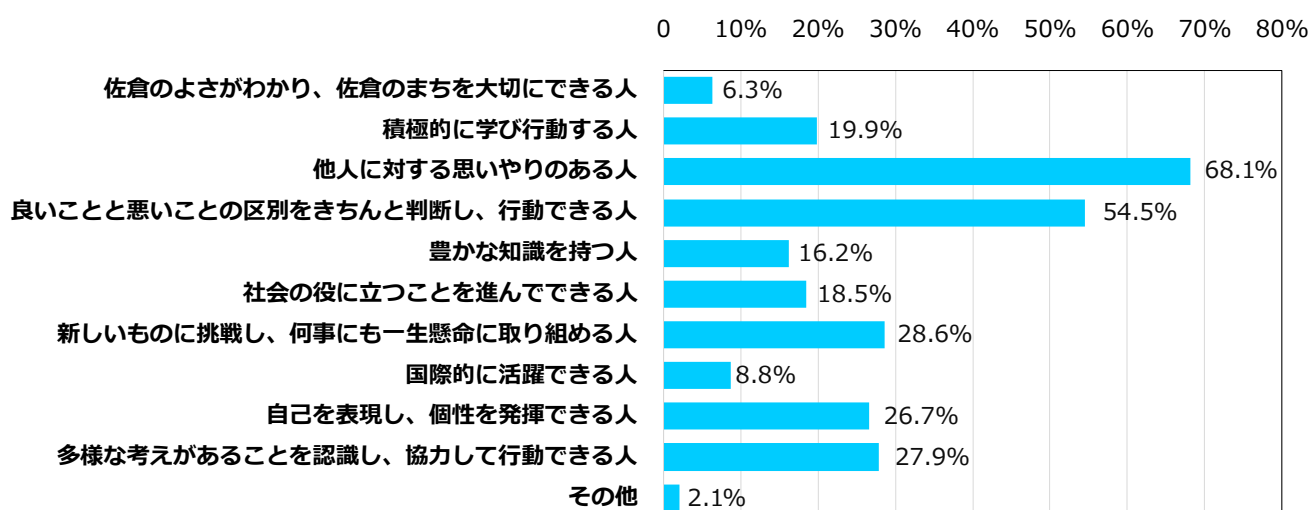
将来どんな大人になることが大切だと思うかでは、「他人に対する思いやりのある人」（61.2%）、「良いことと悪いことの区別をきちんと判断し、行動できる人」（50.1%）、「新しいものに挑戦し、何事にも一生懸命に取り組める人」（30.2%）が上位3つとなった。



(n=3,524)

【生徒】

将来どんな大人になることが大切だと思うかでは、「他人に対する思いやりのある人」（68.1%）、「良いことと悪いことの区別をきちんと判断し、行動できる人」（54.5%）、「新しいものに挑戦し、何事にも一生懸命に取り組める人」（28.6%）が上位3つとなった。

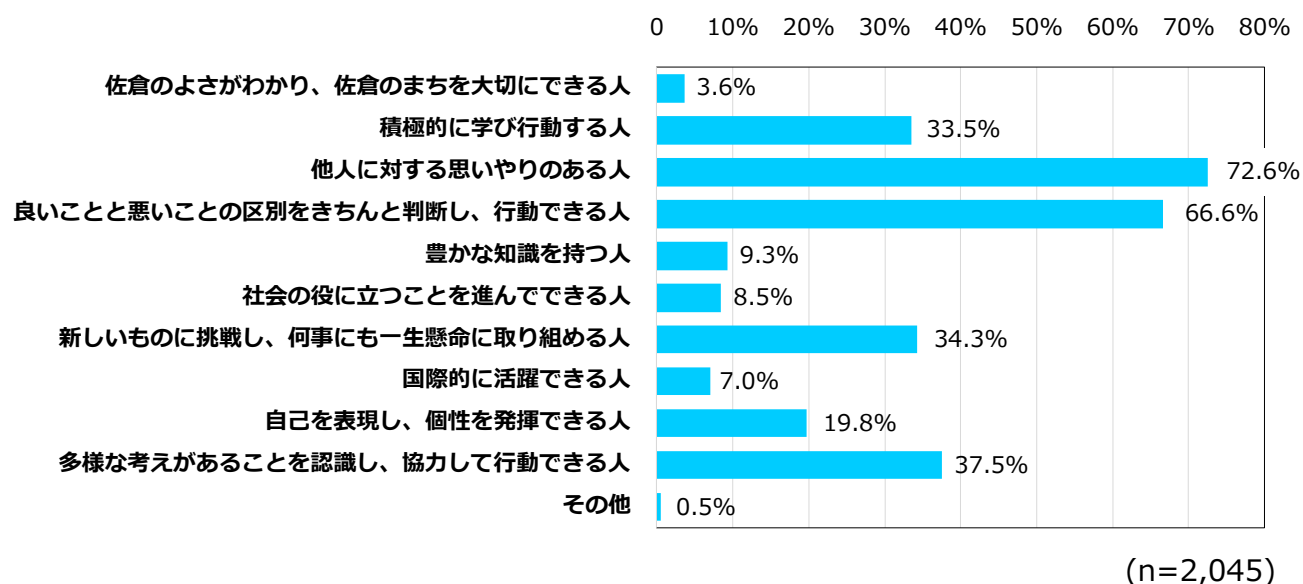


(n=3,200)

●児童・生徒の保護者

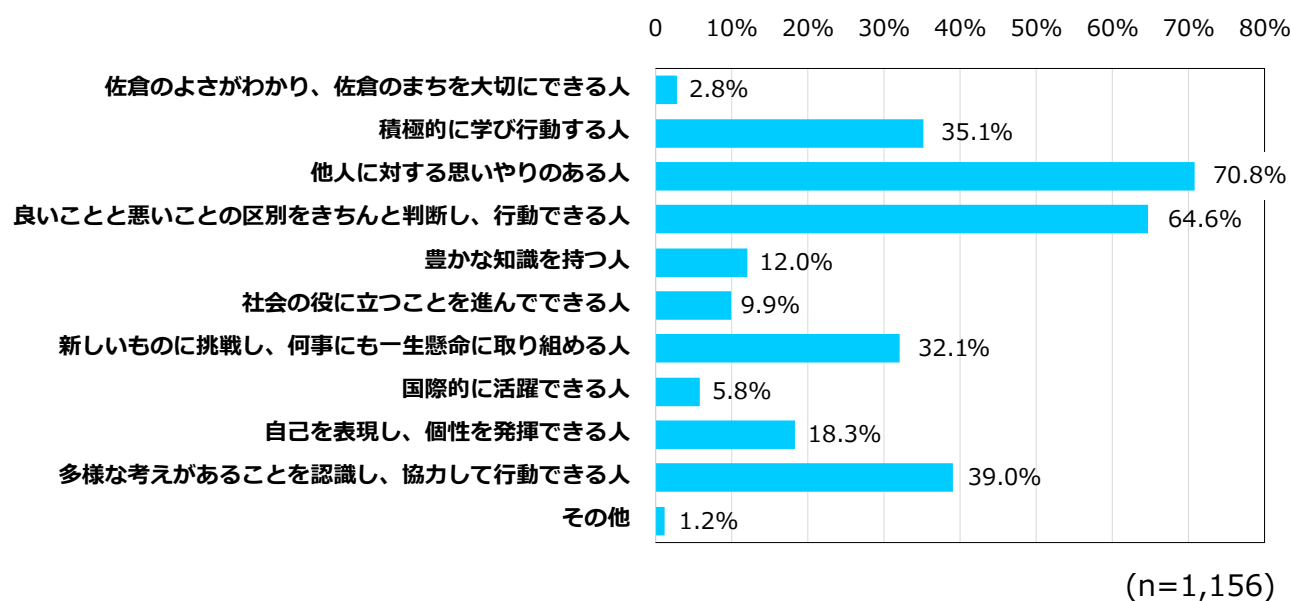
【児童の保護者】

回答者の子どもに、どのような大人に育ってほしいかはい多い順に、「他人に対する思いやりのある人」(72.6%)、「良いことと悪いことの区別をきちんと判断し、行動できる人」(66.6%)、「多様な考えがあることを認識し、協力して行動できる人」(37.5%)が上位3つとなった。



【生徒の保護者】

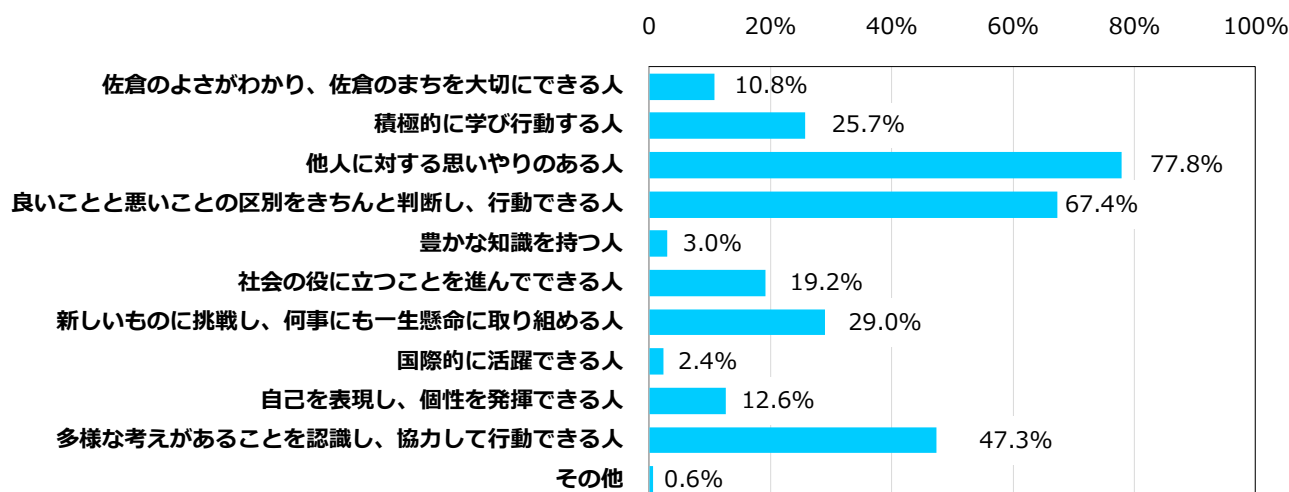
回答者の子どもに、どのような大人に育ってほしいかはい多い順に、「他人に対する思いやりのある人」(70.8%)、「良いことと悪いことの区別をきちんと判断し、行動できる人」(64.6%)、「多様な考えがあることを認識し、協力して行動できる人」(39.0%)が上位3つとなった。



●教員

【小学校教員】

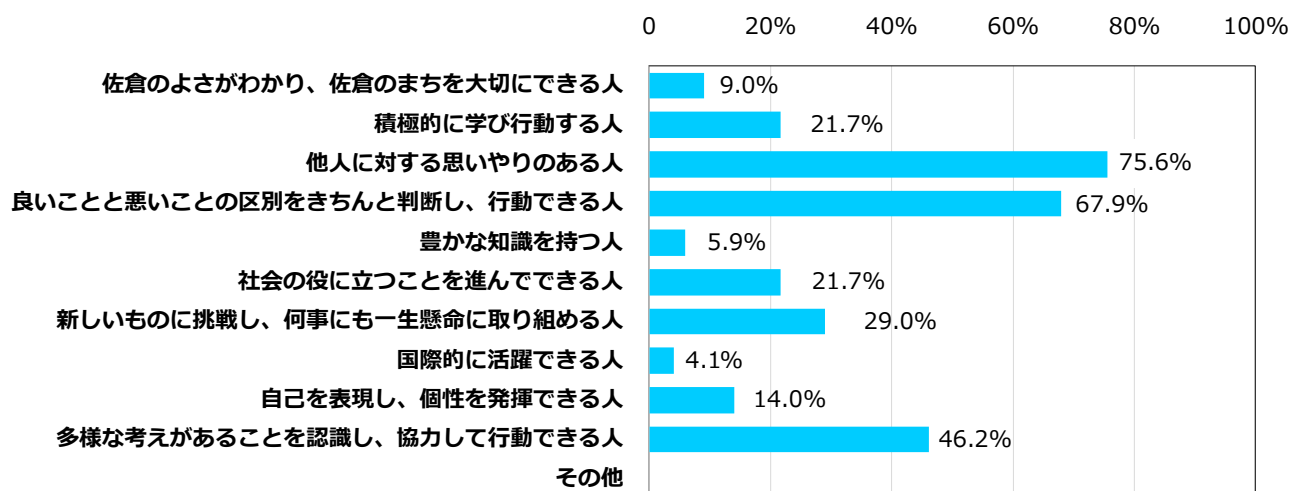
子どもたちに、どのような大人に育ってもらいたいかは多い順に、「他人に対する思いやりのある人」(77.8%)、「良いことと悪いことの区別をきちんと判断し、行動できる人」(67.4%)、「多様な考えがあることを認識し、協力して行動できる人」(47.3%)が上位3つとなった。



(n=334)

【中学校教員】

子どもたちに、どのような大人に育ってもらいたいかは多い順に、「他人に対する思いやりのある人」(75.6%)、「良いことと悪いことの区別をきちんと判断し、行動できる人」(67.9%)、「多様な考えがあることを認識し、協力して行動できる人」(46.2%)が上位3つとなった。

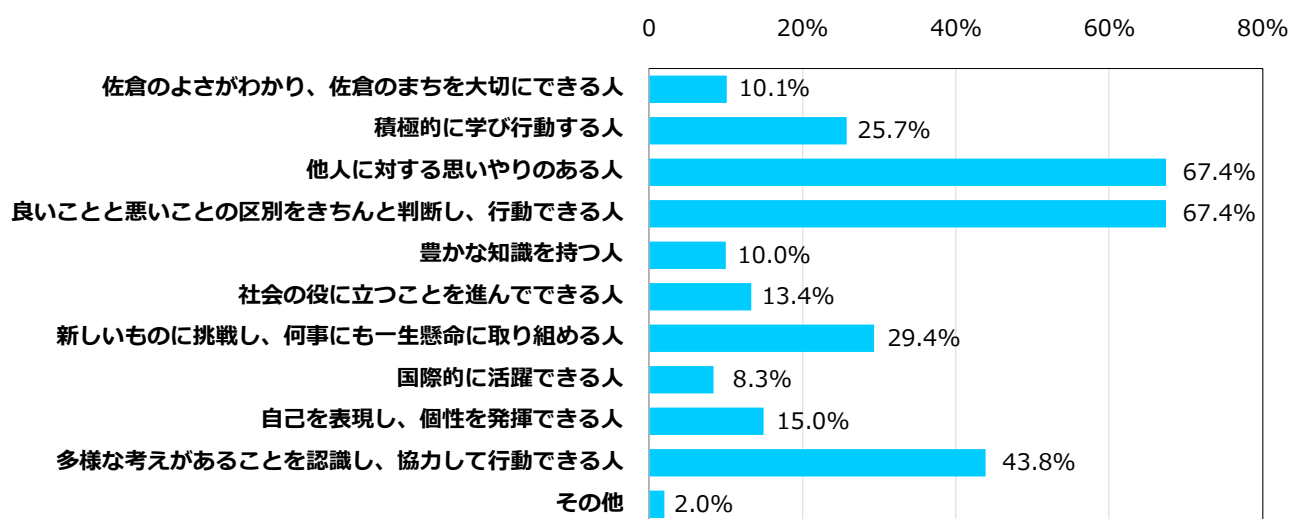


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

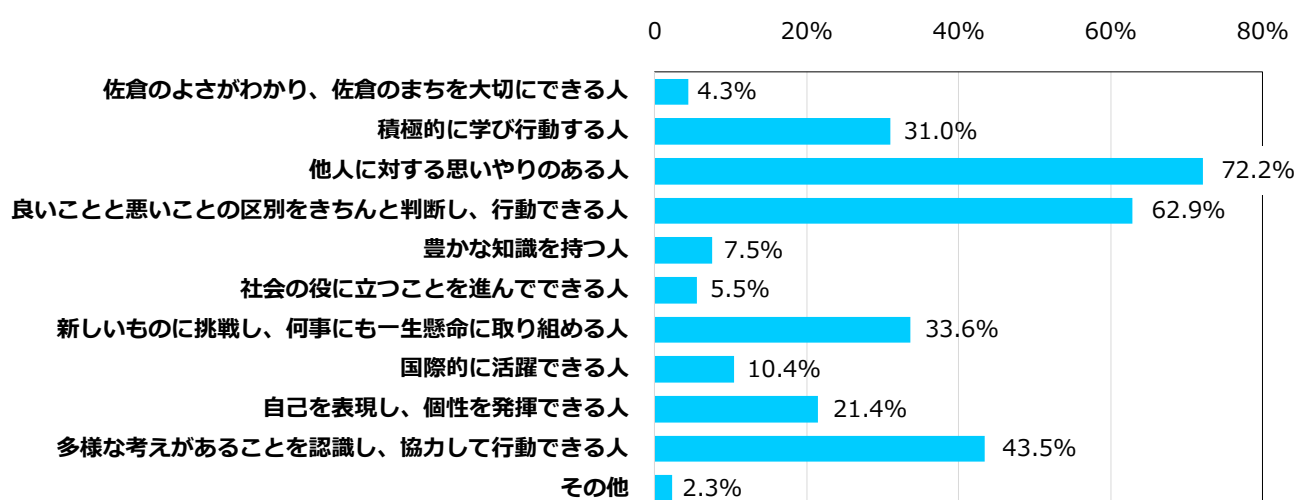
子どもたちに、どのような大人に育ってほしいかが多い順に、「他人に対する思いやりのある人」(67.4%)、「良いことと悪いことの区別をきちんと判断し、行動できる人」(67.4%)、「多様な考えがあることを認識し、協力して行動できる人」(43.8%)が上位3つとなった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

子どもたちに、どのような大人に育ってほしいかが多い順に、「他人に対する思いやりのある人」(72.2%)、「良いことと悪いことの区別をきちんと判断し、行動できる人」(62.9%)、「多様な考えがあることを認識し、協力して行動できる人」(43.5%)が上位3つとなった。



(n=345)

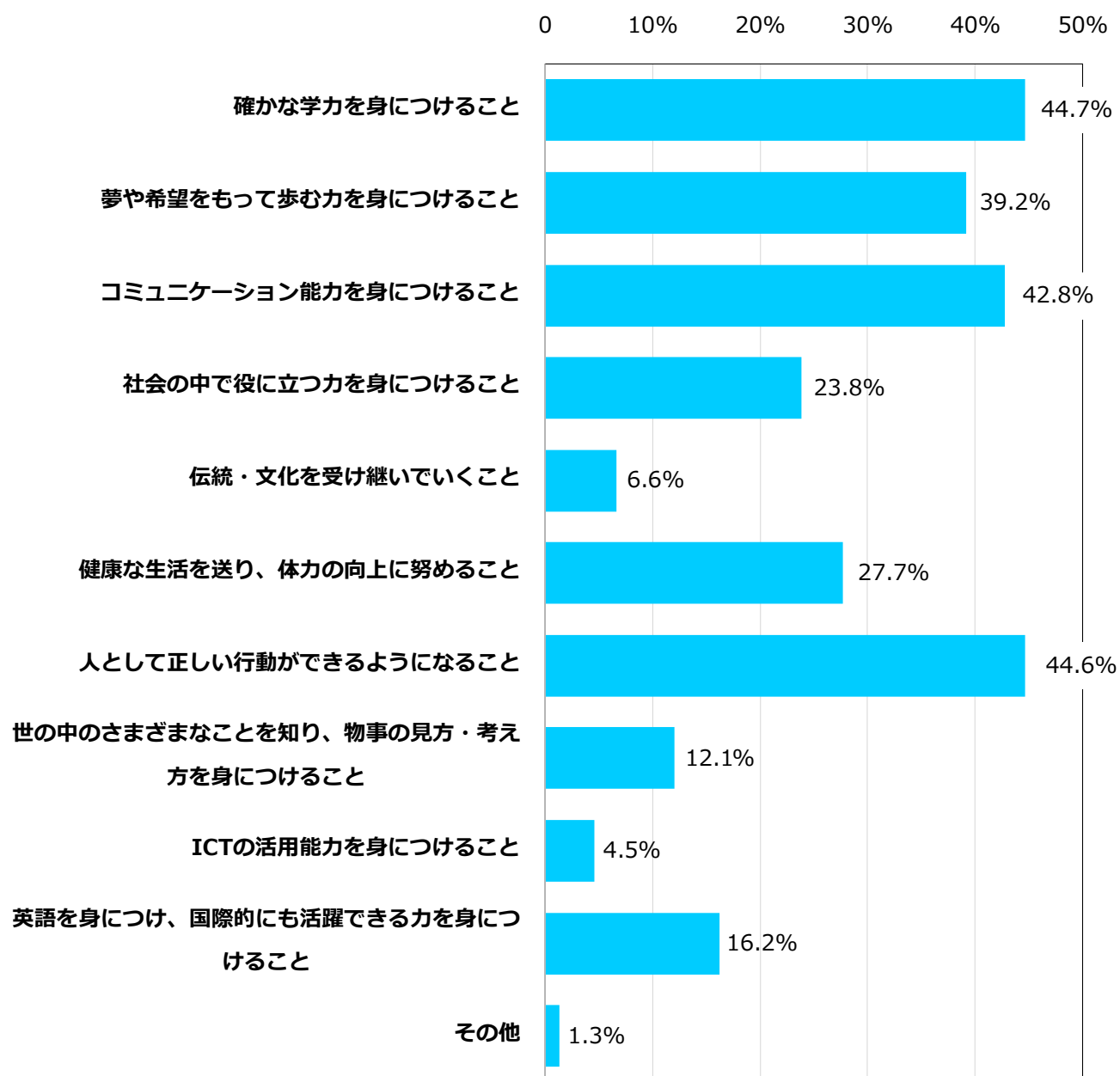
(11) 学校で学び、身につけたいこと

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(11)学校で学び、身につけたいこと【複数回答】	確かな学力を身につけること	44.7%	49.9%						
	夢や希望をもって歩む力を身につけること	39.2%	32.1%						
	コミュニケーション能力を身につけること	42.8%	53.1%						
	社会の中で役に立つ力を身につけること	23.8%	28.8%						
	伝統・文化を受け継いでいくこと	6.6%	2.8%						
	健康な生活を送り、体力の向上に努めること	27.7%	19.8%						
	人として正しい行動ができるようになること	44.6%	51.0%						
	世の中のさまざまなことを知り、物事の見方・考え方を身につけること	12.1%	18.2%						
	I C Tの活用能力を身につけること	4.5%	4.1%						
	英語を身につけ、国際的にも活躍できる力を身につけること	16.2%	13.3%						
	その他	1.3%	0.8%						

●児童・生徒

【児童】

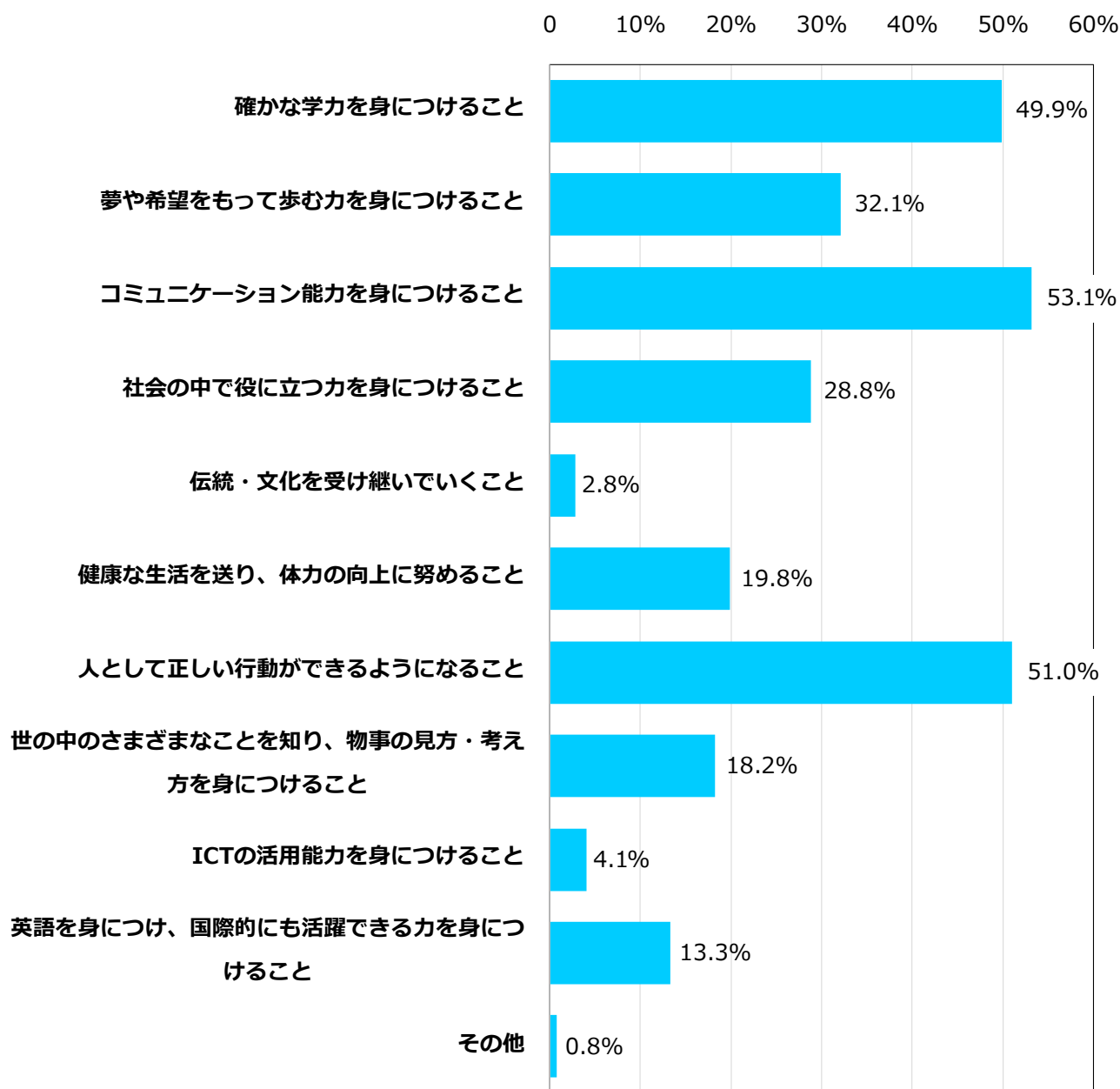
学校でどんなことを学び、身につけたいかでは、「確かな学力を身につけること」(44.7%)、「人として正しい行動ができるようになること」(44.6%)、「コミュニケーション能力を身につけること」(42.8%) が上位3つとなった。



(n=3,524)

【生徒】

学校でどんなことを学び、身につけたいかでは、「コミュニケーション能力を身につけること」(53.1%)、「人として正しい行動ができるようになること」(51.0%)、「確かな学力を身につけること」(49.9%)が上位3つとなった。



(n=3,200)

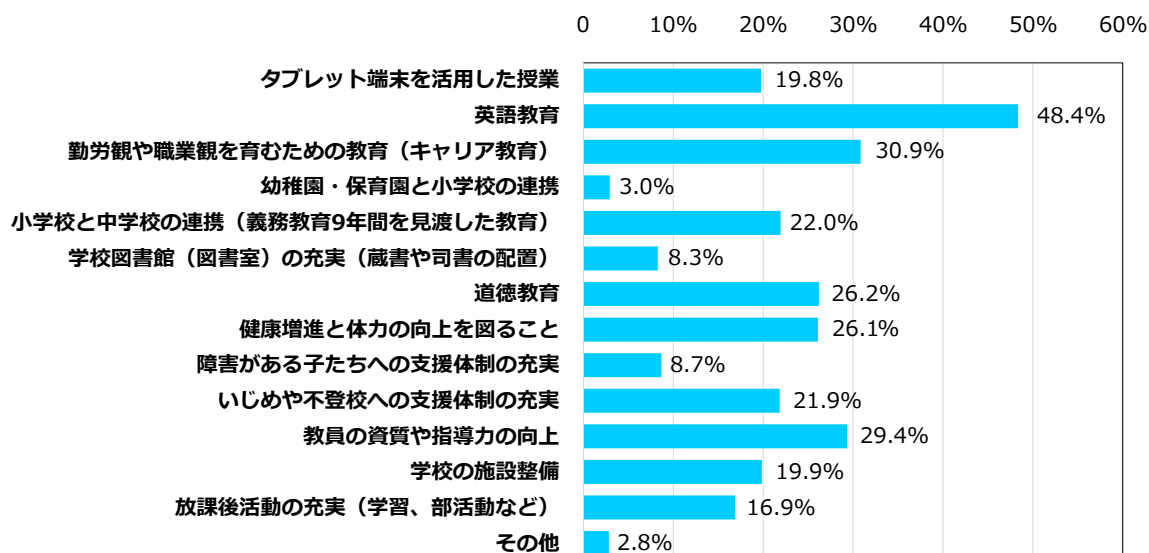
(12) 学校教育で重視することが望ましい項目

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(12)学校教育で重視することが望ましい項目【複数回答】	タブレット端末を活用した授業			19.8%	22.3%	27.2%	26.7%	13.2%	19.7%
	英語教育			48.4%	47.4%	10.5%	8.1%	37.8%	49.6%
	勤労観や職業観を育むための教育（キャリア教育）			30.9%	37.7%	19.5%	25.8%	30.3%	27.2%
	幼稚園・保育園と小学校の連携			3.0%	1.2%	8.4%	2.3%	4.2%	8.7%
	小学校と中学校の連携（義務教育9年間を見渡した教育）			22.0%	11.9%	28.4%	33.0%	21.2%	17.1%
	学校図書館（図書館）の充実（蔵書や司書の配置）			8.3%	5.3%	7.5%	5.0%	6.8%	7.0%
	道徳教育			26.2%	22.9%	15.0%	13.6%	34.6%	25.5%
	健康増進と体力の向上を図ること			26.1%	24.7%	21.9%	23.5%	26.8%	29.3%
	障害がある子どもたちへの支援体制の充実			8.7%	5.5%	20.7%	13.6%	13.1%	6.4%
	いじめや不登校への支援体制の充実			21.9%	20.2%	38.3%	43.9%	33.8%	25.5%
	教員の資質や指導力の向上			29.4%	32.8%	33.8%	25.8%	35.4%	32.5%
	学校の施設整備			19.9%	20.7%	46.1%	49.8%	12.6%	22.3%
	放課後活動の充実（学習・部活動など）			16.9%	22.1%	2.4%	9.5%	11.2%	12.5%
	その他			2.8%	3.0%	6.6%	5.4%	4.7%	4.6%

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

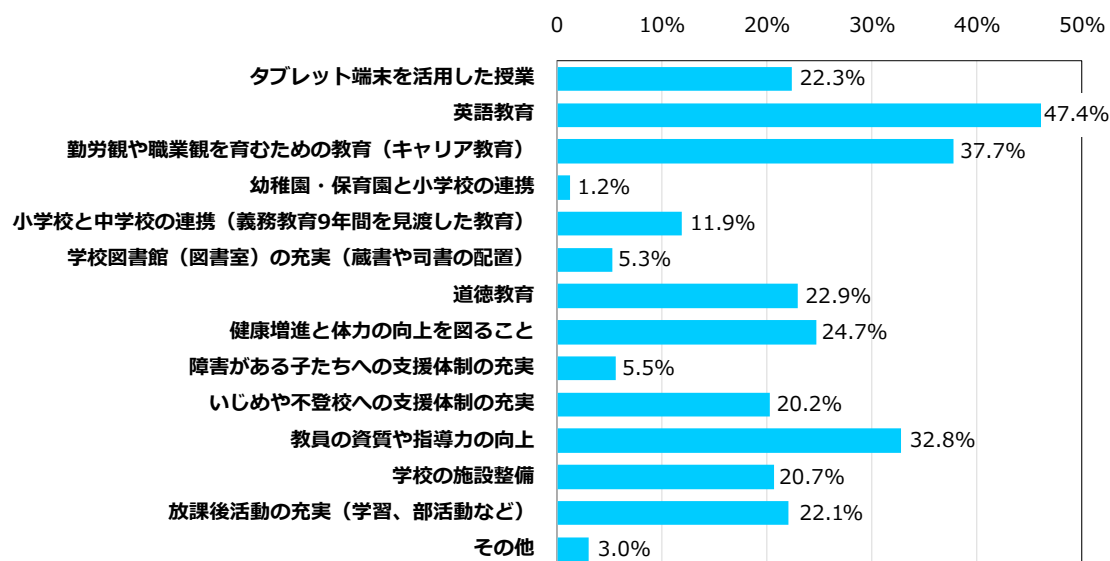
佐倉市の学校教育で力を入れていくことが望ましいものへの回答は多い順に、「英語教育」(48.4%)、「勤労観や職業観を育むための教育（キャリア教育）」(30.9%)、「教員の資質や指導力の向上」(29.4%) が上位 3 つとなった。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

佐倉市の学校教育で力を入れていくことが望ましいものへの回答は多い順に、「英語教育」(47.4%)、「勤労観や職業観を育むための教育（キャリア教育）」(37.7%)、「教員の資質や指導力の向上」(32.8%) が上位 3 つとなった。

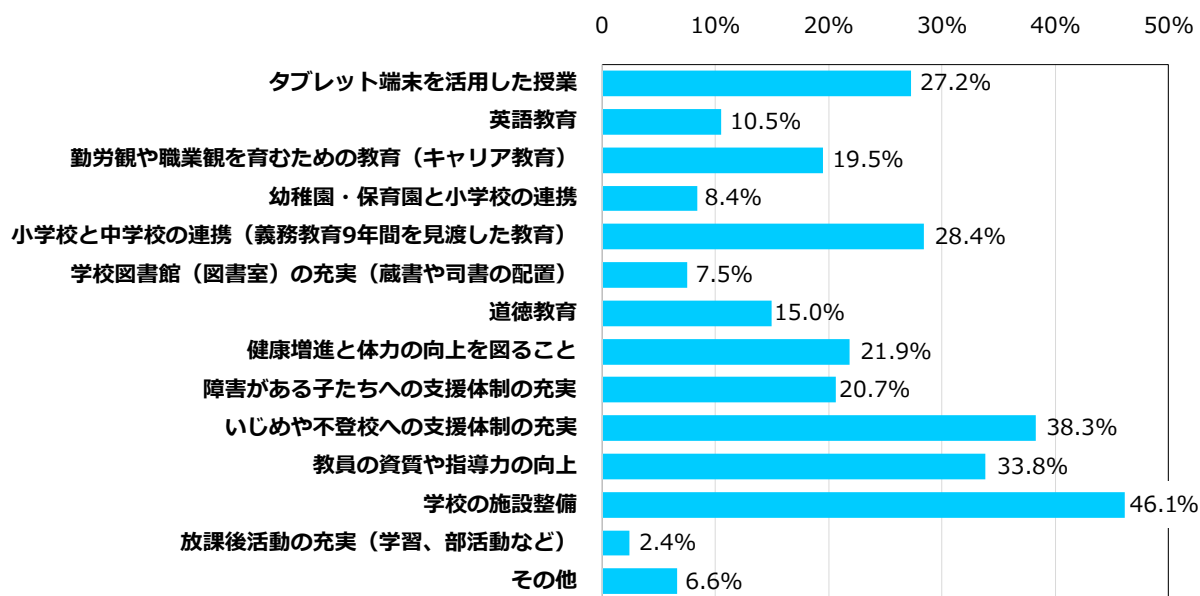


(n=1,156)

●教員

【小学校教員】

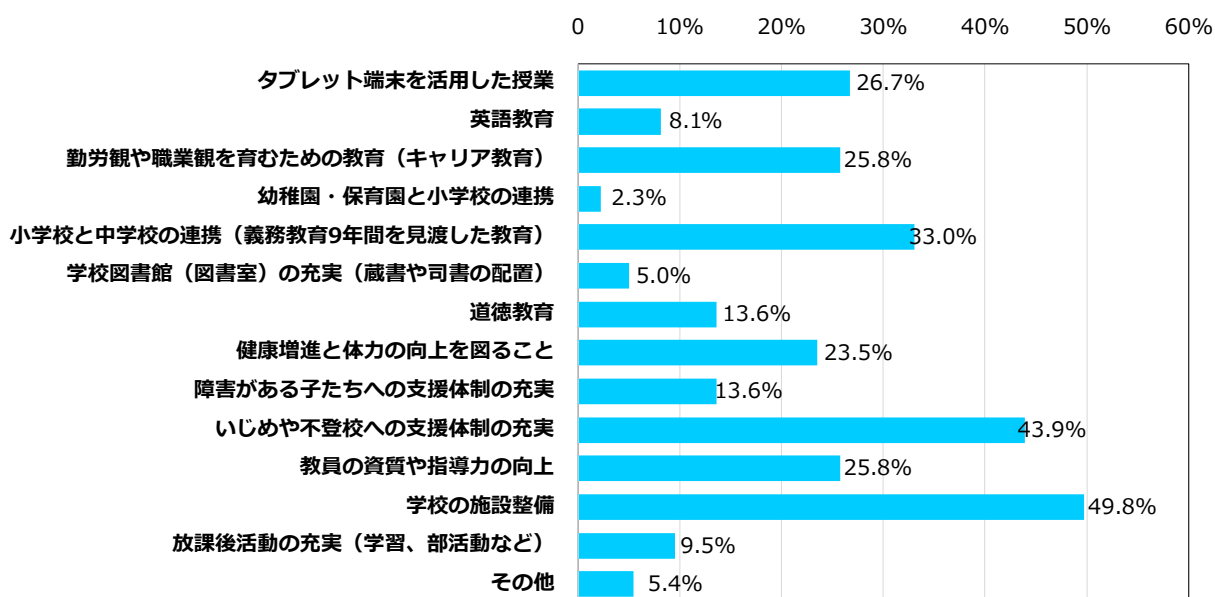
佐倉市の学校教育で力を入れていくのが望ましいとする回答は、「学校の施設整備」(46.1%)、「いじめや不登校への支援体制の充実」(38.3%)、「教員の資質や指導力の向上」(33.8%) が上位 3 つとなった。



(n=334)

【中学校教員】

佐倉市の学校教育で力を入れていくのが望ましいとする回答は、「学校の施設整備」(49.8%)、「いじめや不登校への支援体制の充実」(43.9%)、「小学校と中学校の連携（義務教育 9 年間を見渡した教育）」(33.0%) が上位 3 つとなった。

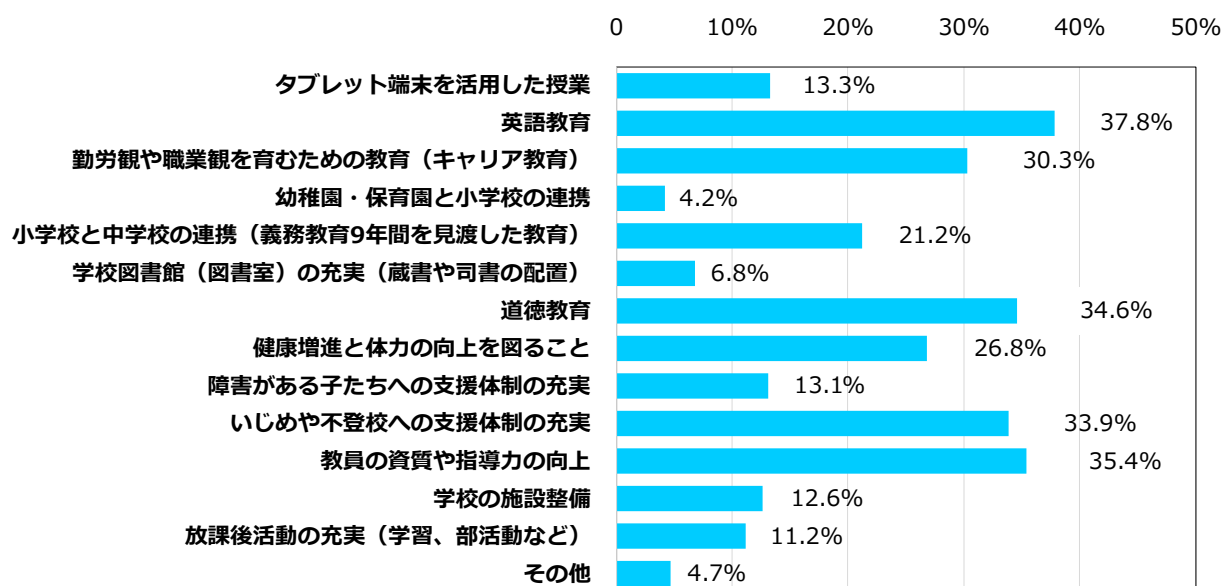


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

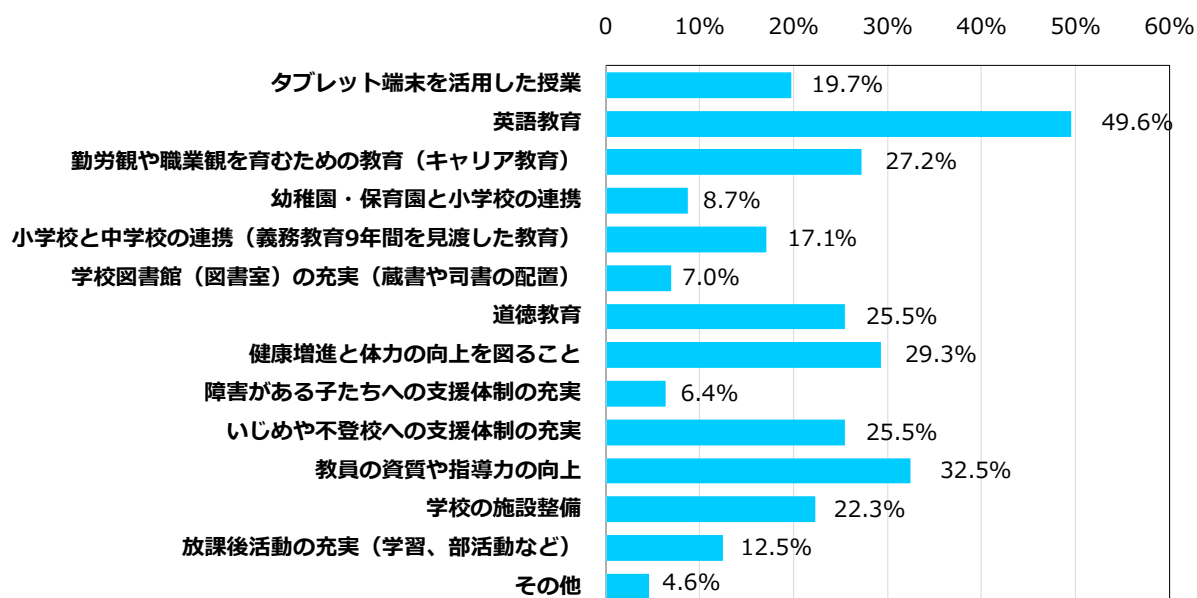
佐倉市の学校教育で力を入れていくことが望ましいものへの回答は多い順に、「英語教育」(37.8%)、「教員の資質や指導力の向上」(35.4%)、「道德教育」(34.6%) が上位 3 つとなった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

佐倉市の学校教育で力を入れていくことが望ましいものへの回答は多い順に、「英語教育」(49.6%)、「教員の資質や指導力の向上」(32.5%)、「健康増進と体力の向上を図ること」(29.3%) が上位 3 つとなった。



(n=345)

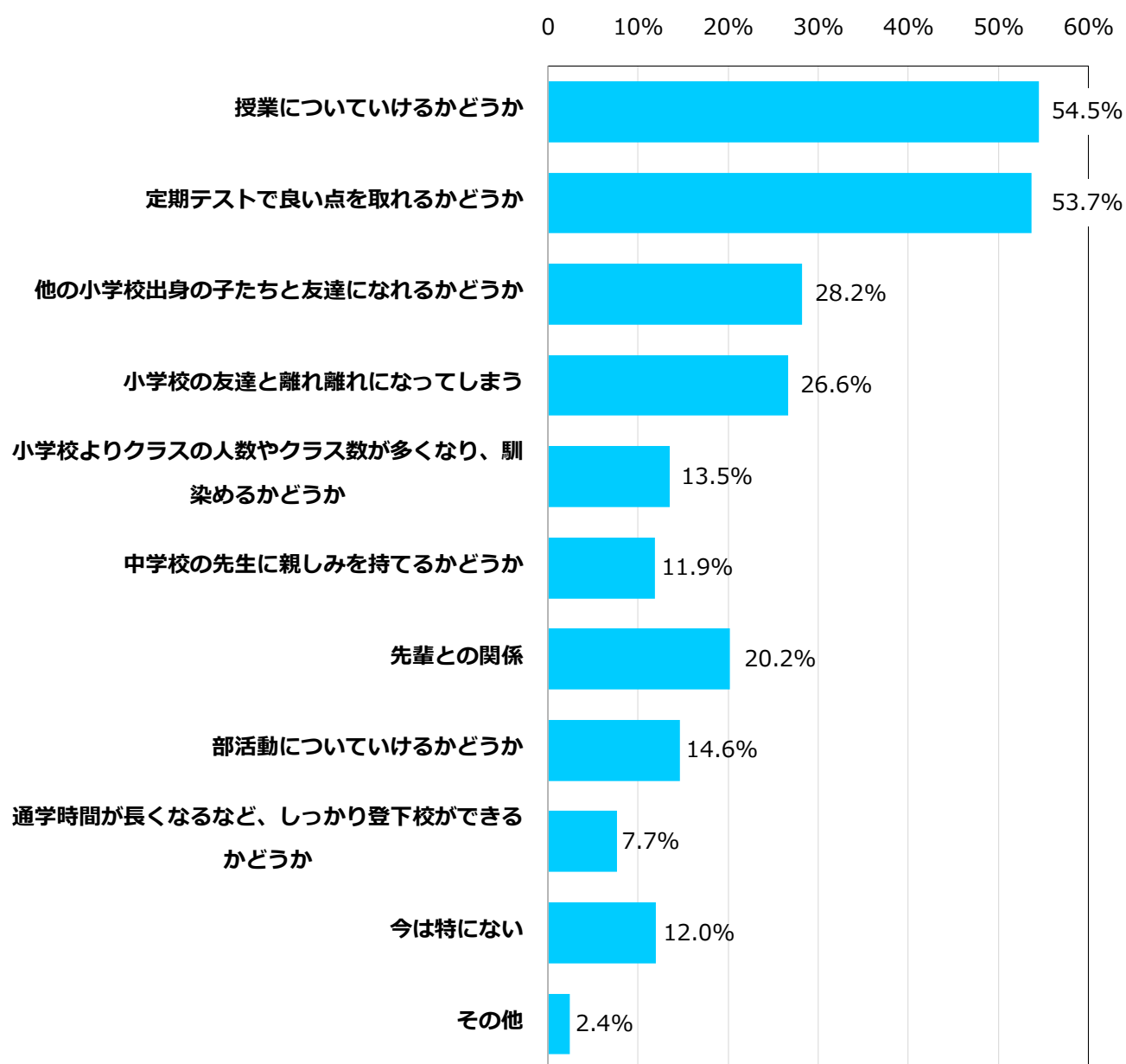
(13) 中学校進学時に戸惑うことや不安に思うこと

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(13) 中学校進学時に戸惑うことや不安に思うこと【複数回答】	授業についていけるかどうか	54.5%	44.2%						
	定期テストで良い点を取れるかどうか	53.7%	59.8%						
	他の小学校出身の子どもたちと友達になれるかどうか	28.2%	44.6%						
	小学校の友達と離れ離れになってしまう	26.6%	13.6%						
	小学校よりクラスの人数やクラス数が多くなり、馴染めるかどうか	13.5%	17.5%						
	中学校の先生に親しみを持てるかどうか	11.9%	9.5%						
	先輩との関係	20.2%	21.4%						
	部活動についていけるかどうか	14.6%	18.5%						
	通学時間が長くなるなど、しっかり登下校ができるかどうか	7.7%	4.5%						
	(児童) 今は特にな (生徒) 戸惑うことや不安に思うことはなかつた	12.0%	7.8%						
	その他	2.4%	1.4%						

●児童・生徒

【児童】

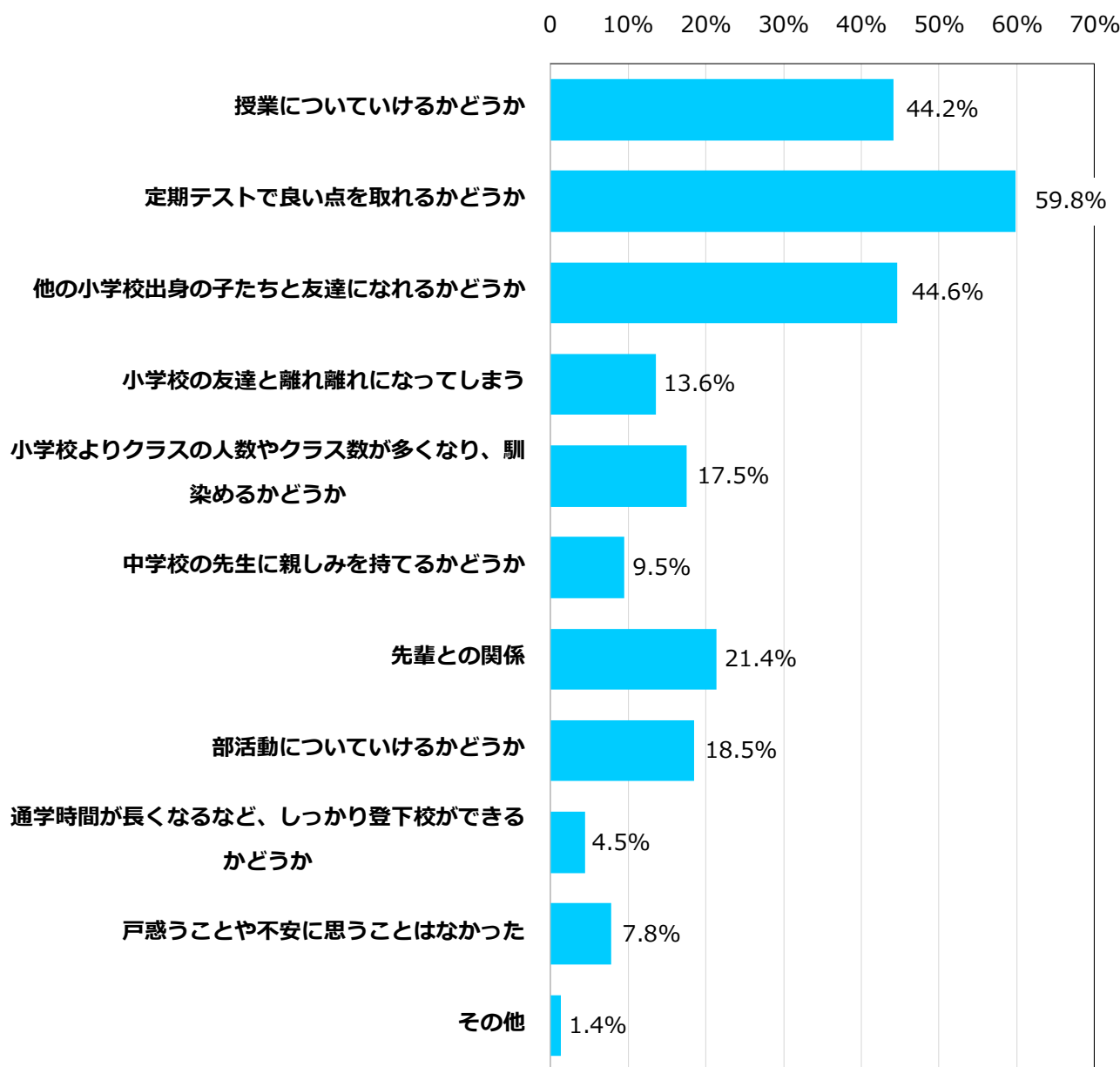
今後、中学校へ進学するにあたって、戸惑うことや不安に思うことでは、「授業についていけるかどうか」(54.5%)、「定期テストで良い点を取れるかどうか」(53.7%)、「他の小学校出身の子たちと友達になれるかどうか」(28.2%)が上位3つとなった。



(n=3,524)

【生徒】

中学校へ入学した際、戸惑うことや不安に思ったことでは、「定期テストで良い点を取れるかどうか」(59.8%)、「他の小学校出身の子たちと友達になれるかどうか」(44.6%)、「授業についていけるかどうか」(44.2%)が上位3つとなった。



(n=3,200)

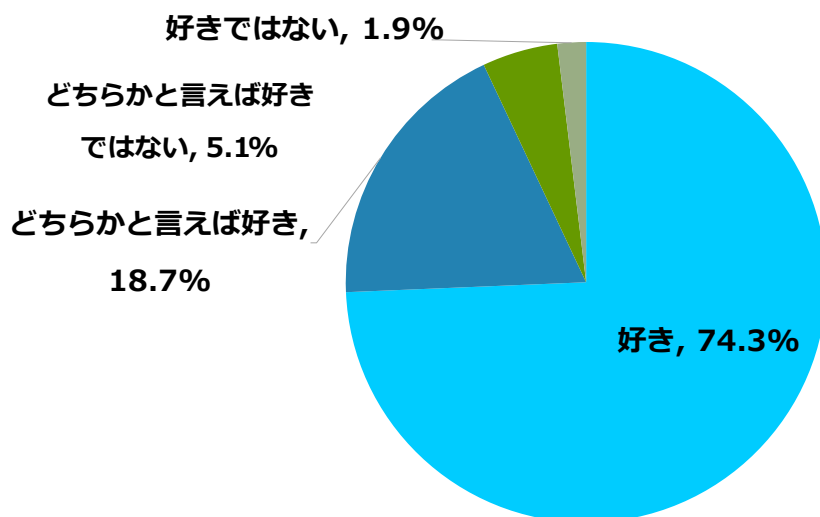
(14) 給食は好きか

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(14)給食は好きか	好き	73.5%	61.7%						
	どちらかと言えば好き	18.4%	27.1%						
	どちらかと言えば好きではない	5.0%	7.7%						
	好きではない	1.9%	2.6%						
	不明	1.1%	0.8%						

●児童・生徒

【児童】

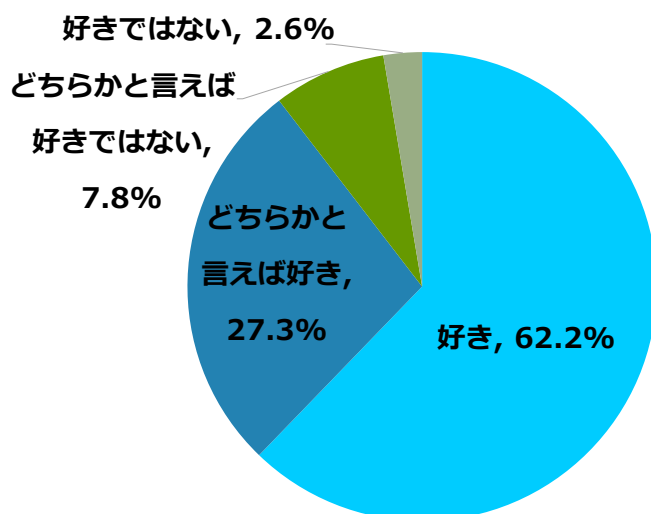
給食が好きかどうかについては、「好き」と「どちらかと言えば好き」の合計で約93%となる。好きではないの回答は「どちらかと言えば好きではない」と「好きではない」の合計で約7%となっている。



(n=3,484)

【生徒】

給食が好きかどうかについては、「好き」と「どちらかと言えば好き」の合計で約90%となる。好きではないの回答は「どちらかと言えば好きではない」と「好きではない」の合計で約10%となっている。



(n=3,174)

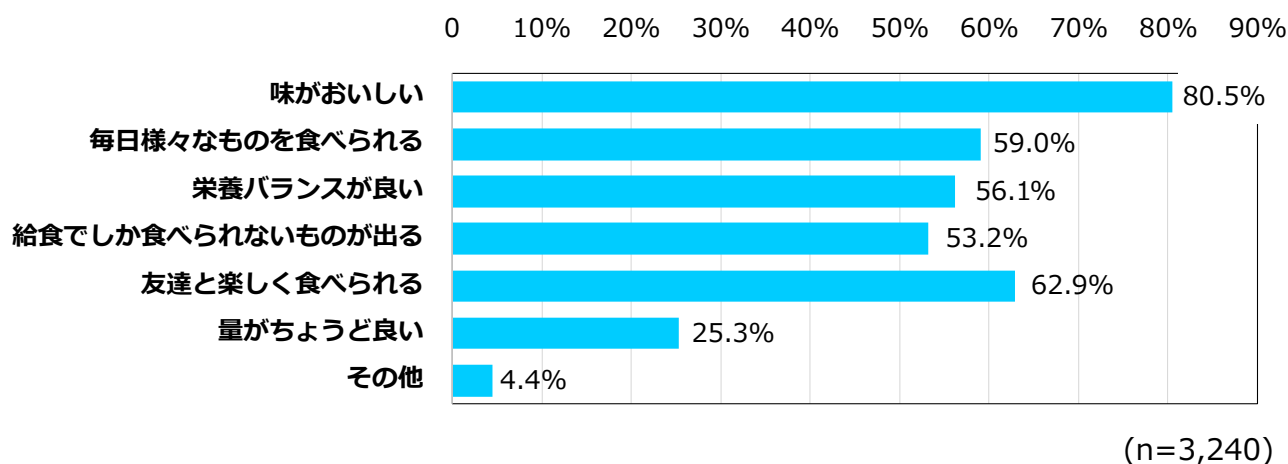
(15) 「(14)給食は好きか」の回答理由

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(15)「給食は好きか」の回答理由 【複数回答】 ※「好き」「どちらかと言えば好き」	味がおいしい	80.5%	67.4%						
	毎日様々なものを食べられる	59.0%	53.6%						
	栄養のバランスが良い	56.1%	45.3%						
	給食でしか食べられないものが出る	53.2%	45.2%						
	友達と楽しく食べられる	62.9%	54.5%						
	量がちょうど良い	25.3%	16.4%						
	その他	4.4%	2.1%						
(15)「給食は好きか」の回答理由 【複数回答】 ※「どちらかと言えば好きではない」「好きではない」	おいしくない	17.6%	40.2%						
	量が多い	32.4%	36.6%						
	量が少ない	2.9%	3.6%						
	味が濃い	4.9%	9.1%						
	味が薄い	7.0%	12.4%						
	苦手なものが出る	66.8%	54.1%						
	家で食べたことがないものが出る	38.1%	16.0%						
	お皿などを運ぶのが大変	10.7%	15.7%						
	その他	16.0%	13.0%						

●児童・生徒

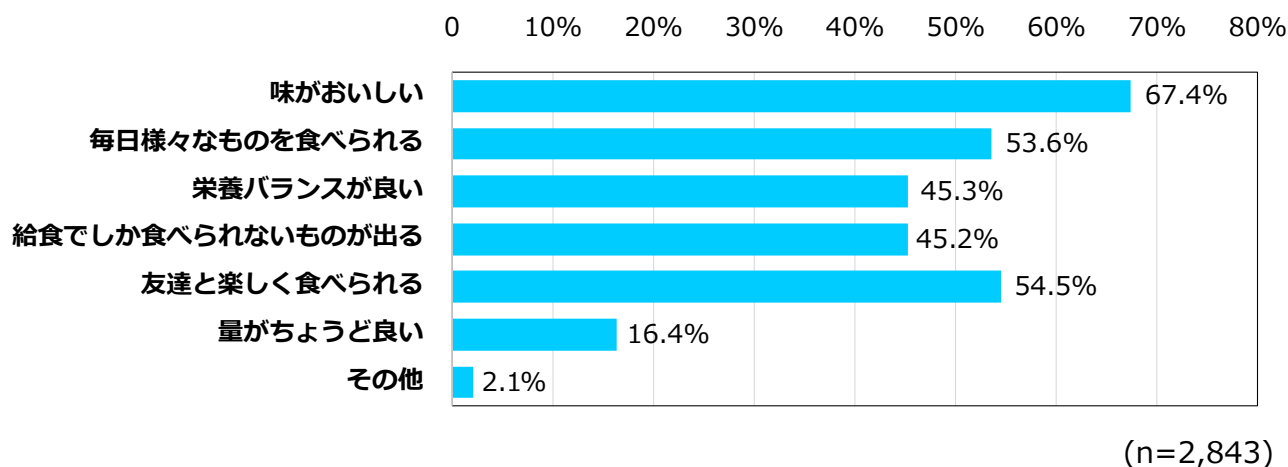
【児童（好き、どちらかと言えば好き）】

「問12」で「好き」「どちらかと言えば好き」と思った理由では、「味がおいしい」（80.5%）、「友達と楽しく食べられる」（62.9%）、「毎日様々なものを食べられる」（59.0%）が上位3つとなった。



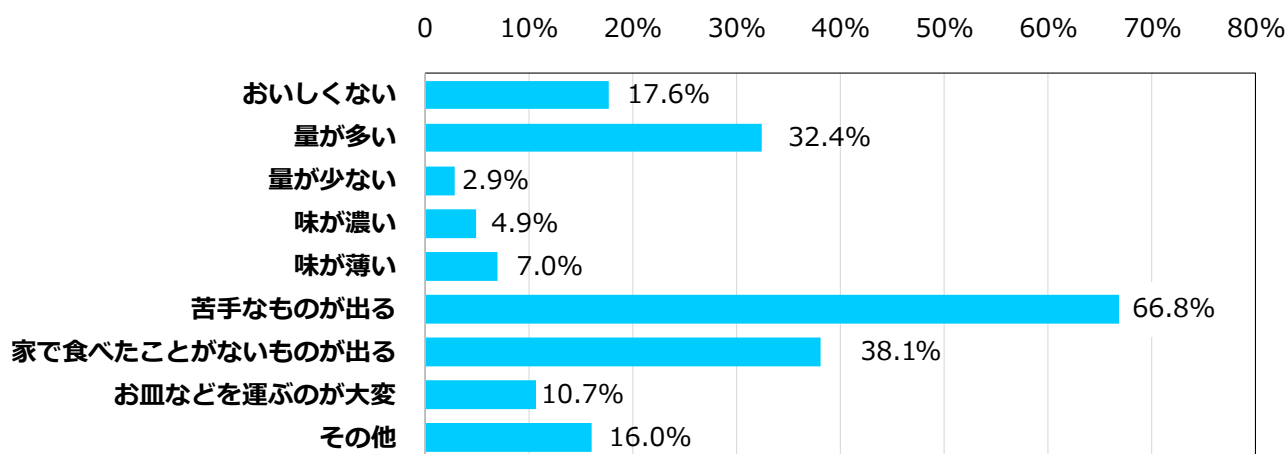
【生徒（好き、どちらかと言えば好き）】

「問12」で「好き」「どちらかと言えば好き」と思った理由では、「味がおいしい」（67.4%）、「友達と楽しく食べられる」（54.5%）、「毎日様々なものを食べられる」（53.6%）が上位3つとなった。



【児童（どちらかと言えば好きではない、好きではない）】

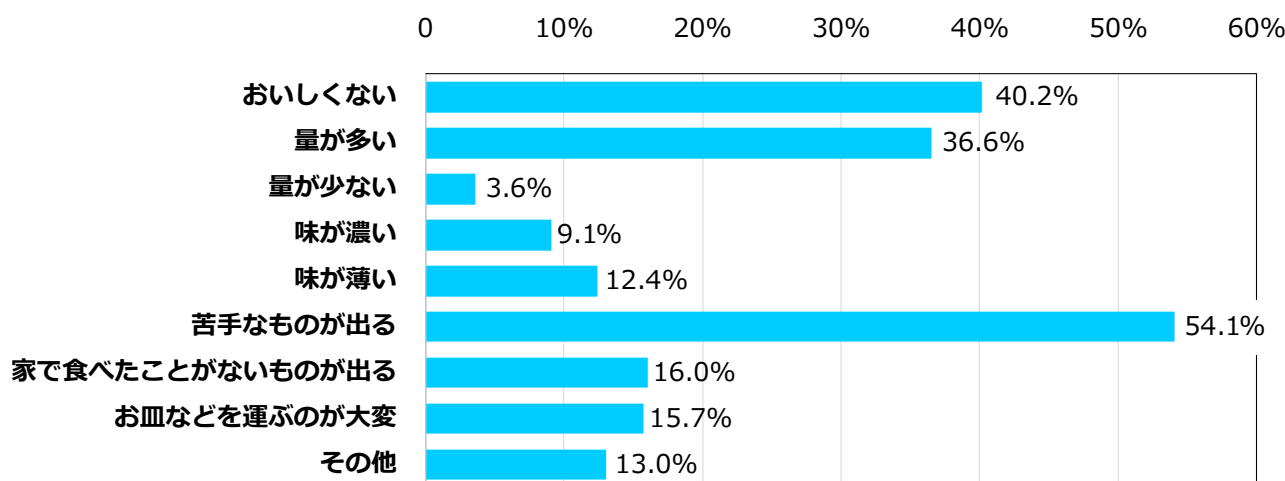
「問12」で「どちらかと言えば好きではない」「好きではない」と思った理由では、「苦手なものが出る」(66.8%)、「家で食べたことがないものが出る」(38.1%)、「量が多い」(32.4%)が上位3つとなった。



(n=244)

【生徒（どちらかと言えば好きではない、好きではない）】

「問12」で「どちらかと言えば好きではない」「好きではない」と思った理由では、「苦手なものが出る」(54.1%)、「おいしくない」(40.2%)、「量が多い」(36.6%)が上位3つとなった。



(n=331)

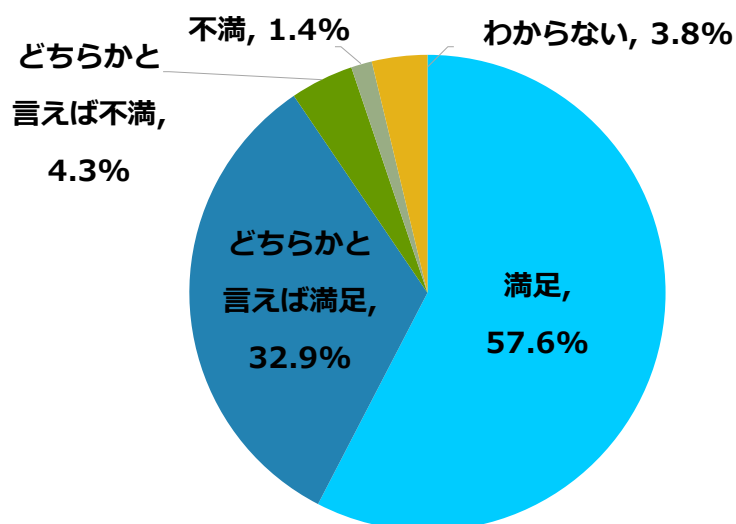
(16) 学校給食の満足度

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(16) 学校給食の満足度	満足			57.6%	42.6%				
	どちらかと言えば満足			32.9%	38.4%				
	どちらかと言えば不満			4.3%	8.0%				
	不満			1.4%	3.1%				
	わからない			3.8%	7.8%				
				100.0%	100.0%				

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

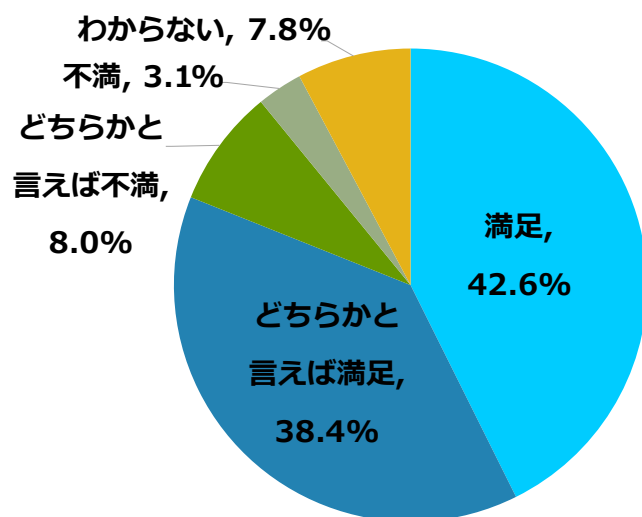
学校給食の満足度については、「満足」と「どちらかと言えば満足」の合計で約 91%となる。一方で「どちらかと言えば不満」と「不満」の合計は約 6%となっている。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

学校給食の満足度については、「満足」と「どちらかと言えば満足」の合計で約 81%となる。一方で「どちらかと言えば不満」と「不満」の合計は約 11%となっている。



(n=1,156)

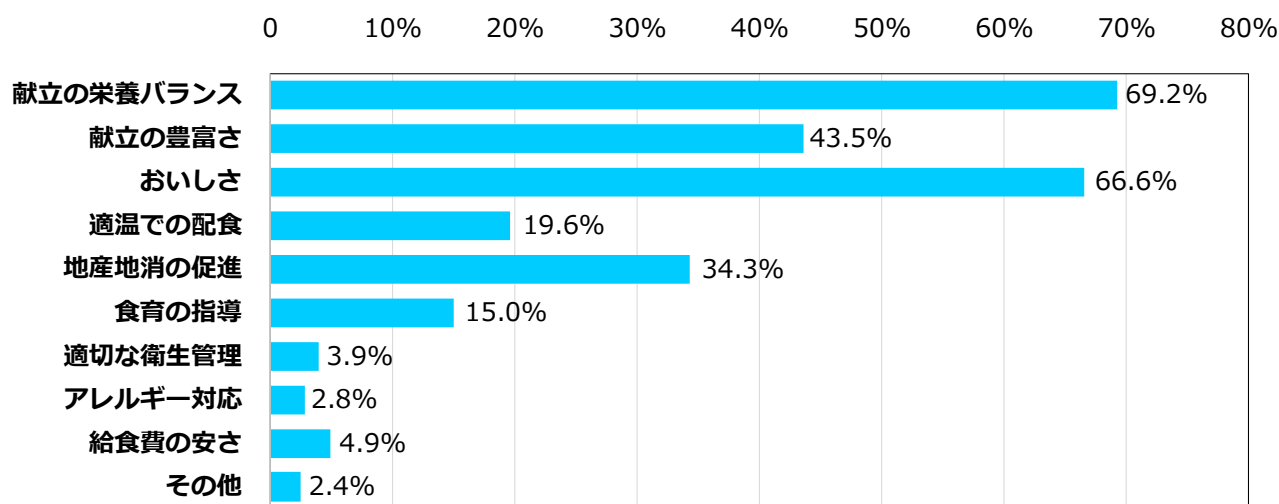
(17) 「(16)学校給食の満足度」の回答理由

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(17)「学校給食の満足度」の回答理由 【複数回答】 ※「満足」「どちらかと言えば満足」	献立の栄養バランス			69.2%	75.8%				
	献立の豊富さ			43.5%	46.1%				
	おいしさ			66.6%	49.0%				
	適温での配食			19.6%	24.9%				
	地産地消の促進			34.3%	37.1%				
	食育の指導			15.0%	8.1%				
	適切な衛生管理			3.9%	7.9%				
	アレルギー対策			2.8%	3.1%				
	給食費の安さ			4.9%	6.9%				
	その他			2.4%	2.0%				
(17)「学校給食の満足度」の回答理由 【複数回答】 ※「どちらかと言えば満足」「不満」	献立の栄養バランス			11.1%	3.1%				
	献立の豊富さ			30.8%	14.7%				
	おいしさ			30.8%	71.3%				
	適温での配食			2.6%	9.3%				
	地産地消の促進			2.6%	0.8%				
	食育の指導			8.5%	4.7%				
	適切な衛生管理			0.0%	1.6%				
	アレルギー対策			0.9%	3.1%				
	給食費が高い			14.5%	17.8%				
	その他			53.0%	22.5%				

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者（満足、どちらかと言えば満足）】

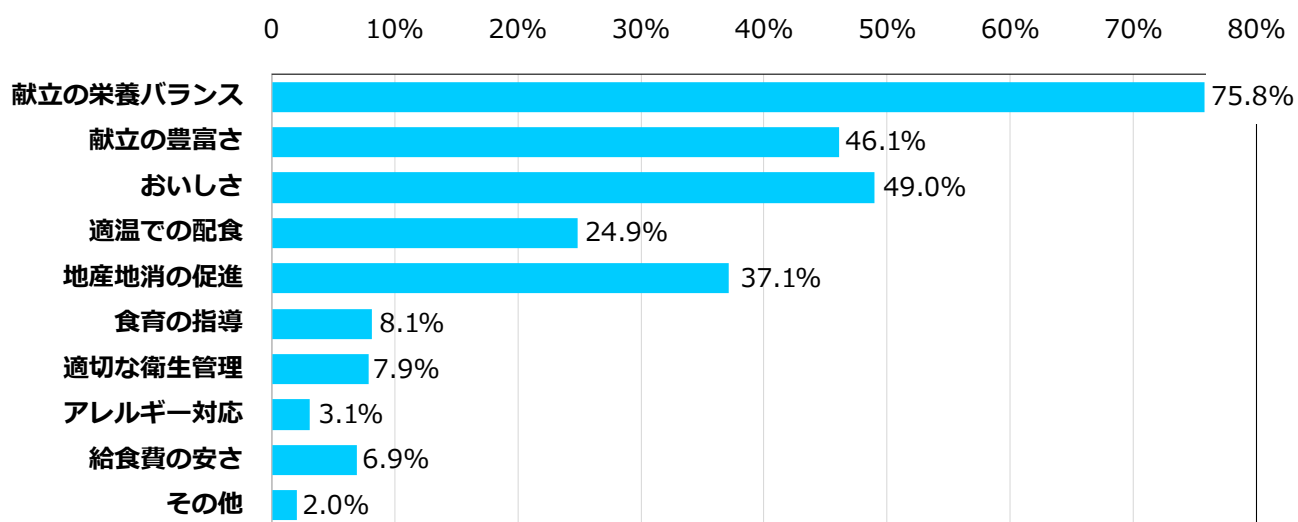
「問6」で「満足」「どちらかと言えば満足」を選択した理由では、回答の多い順に、「献立の栄養バランス」（69.2%）、「おいしさ」（66.6%）、「献立の豊富さ」（43.5%）が上位3つとなった。



(n=1,851)

【生徒の保護者（満足、どちらかと言えば満足）】

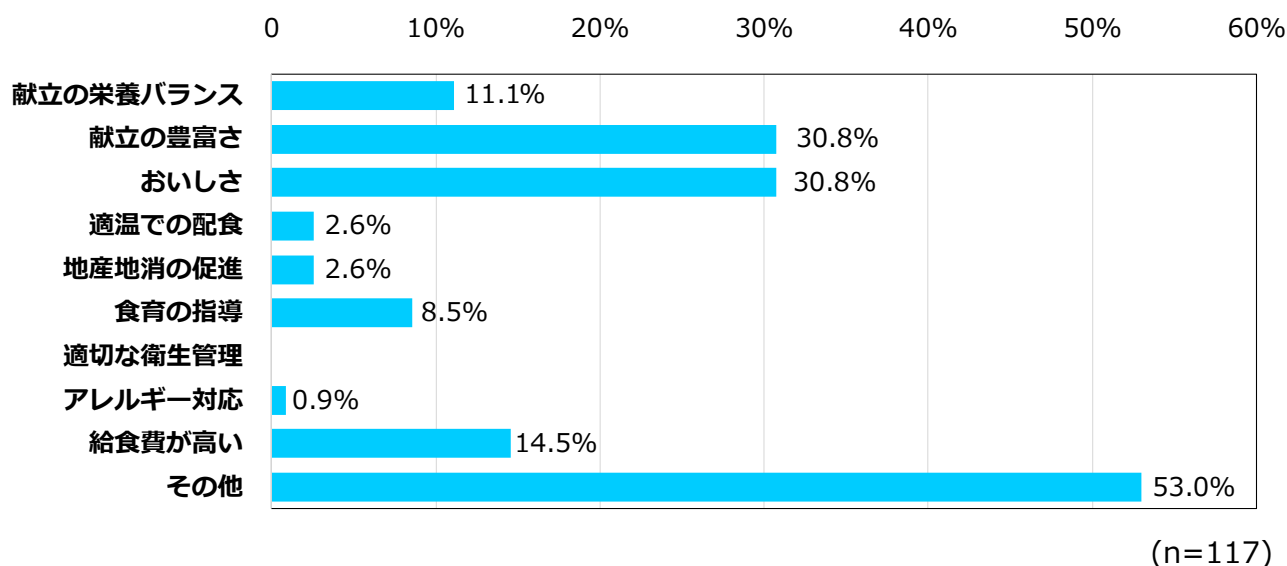
「問6」で「満足」「どちらかと言えば満足」を選択した理由では、回答の多い順に、「献立の栄養バランス」（75.8%）、「おいしさ」（49.0%）、「献立の豊富さ」（46.1%）が上位3つとなった。



(n=937)

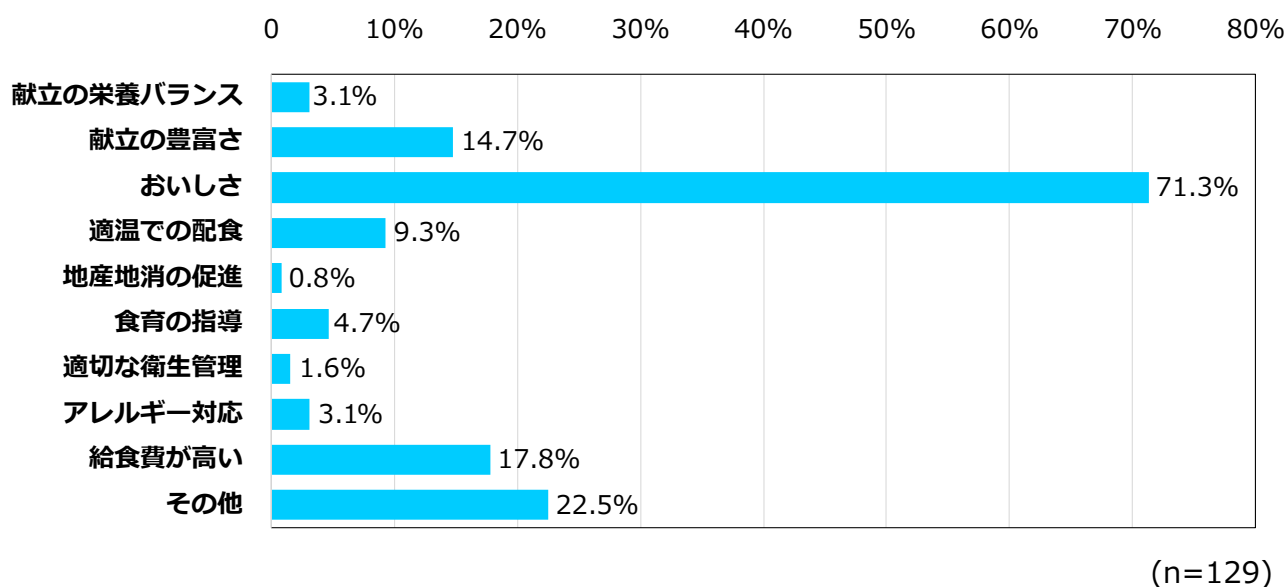
【児童の保護者（どちらかと言えば不満、不満）】

「問6」で「どちらかと言えば不満」「不満」を選択した理由では、「献立の豊富さ」(30.8%)、「おいしさ」(30.8%)、「給食費が高い」(14.5%)が上位3つとなり、「献立の栄養バランス」(11.1%)が続いた。



【生徒の保護者（どちらかと言えば不満、不満）】

「問6」で「どちらかと言えば不満」「不満」を選択した理由では、「おいしさ」(71.3%)、「給食費が高い」(17.8%)、「献立の豊富さ」(14.7%)が上位3つとなった。



■クラスの規模などに関して、あなたのお考えをお聞きます

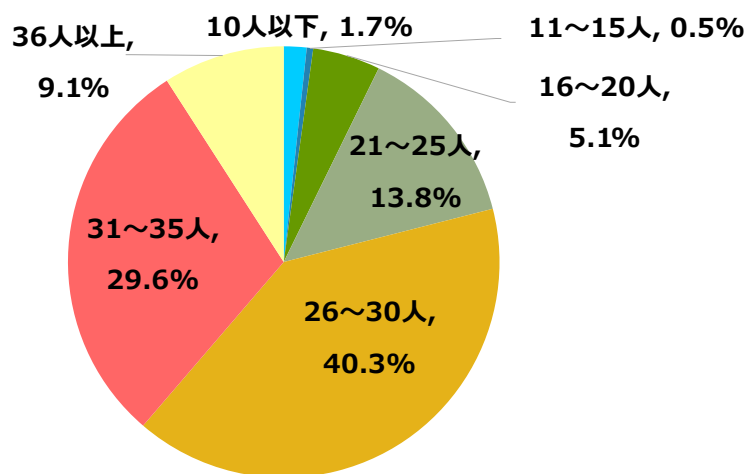
(18) クラスの人数

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(18)クラスの人数	10人以下	1.7%	0.3%	1.9%	0.4%	16.2%	5.4%		
	11～15人	0.5%	0.2%	0.3%	0.0%	0.6%	0.0%		
	16～20人	5.1%	0.2%	4.4%	0.3%	4.2%	0.0%		
	21～25人	13.7%	0.7%	15.6%	4.3%	18.6%	0.9%		
	26～30人	40.2%	27.1%	39.3%	30.1%	30.2%	28.5%		
	31～35人	29.5%	48.1%	31.9%	49.5%	25.7%	46.6%		
	36人以上	9.1%	23.4%	6.7%	15.3%	4.5%	18.6%		
	不明	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

●児童・生徒

【児童】

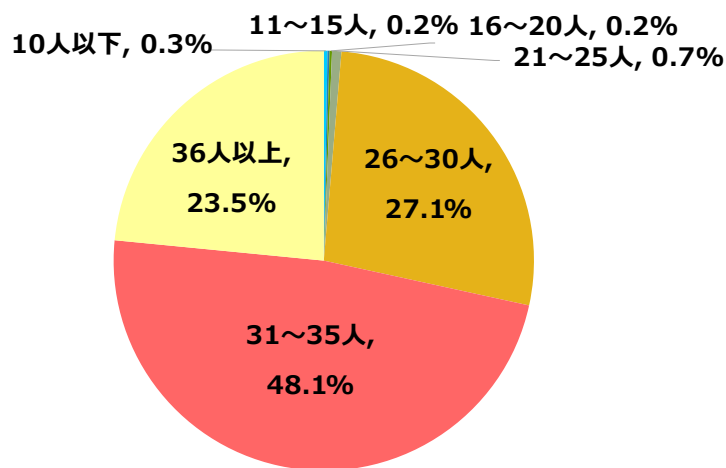
クラスの人数は「26～30人」(40.3%)、「31～35人」(29.6%)、「21～25人」(13.8%)が上位3つとなり、合計で約84%である。



(n=3,514)

【生徒】

クラスの人数は「31～35人」(48.1%)、「26～30人」(27.1%)、「36人以上」(23.5%)が上位3つとなり、合計で約99%である。

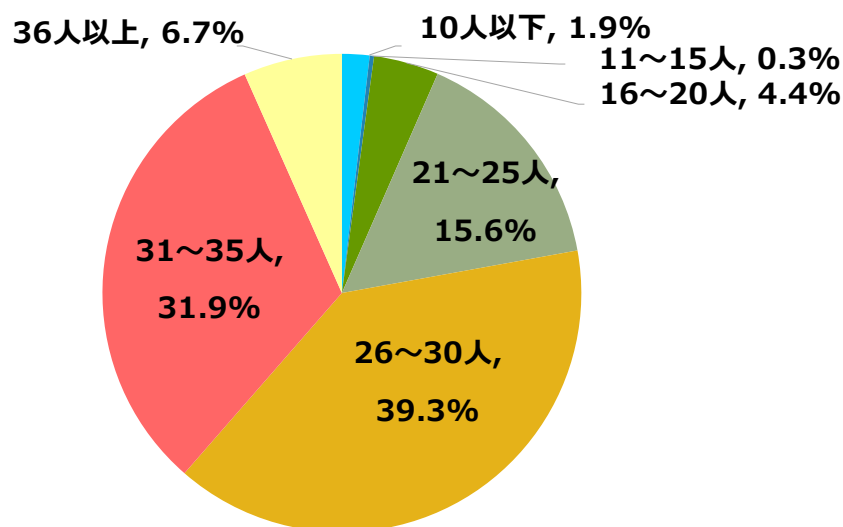


(n=3,198)

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

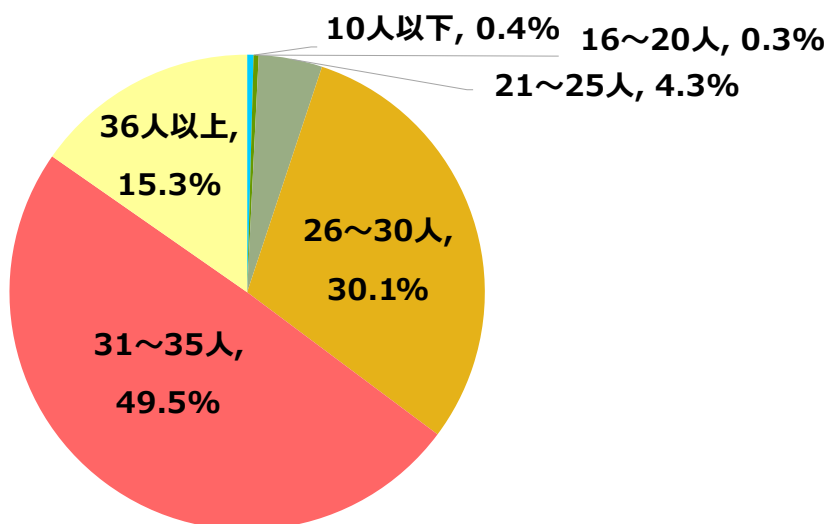
回答者の子どものクラスの人数は「26～30 人」(39.3%)、「31～35 人」(31.9%)、「21～25 人」(15.6%) が上位 3 つとなり、合計で約 87%である。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

回答者の子どものクラスの人数は「31～35 人」(49.5%)、「26～30 人」(30.1%)、「36 人以上」(15.3%) が上位 3 つとなり、合計で約 95%である。

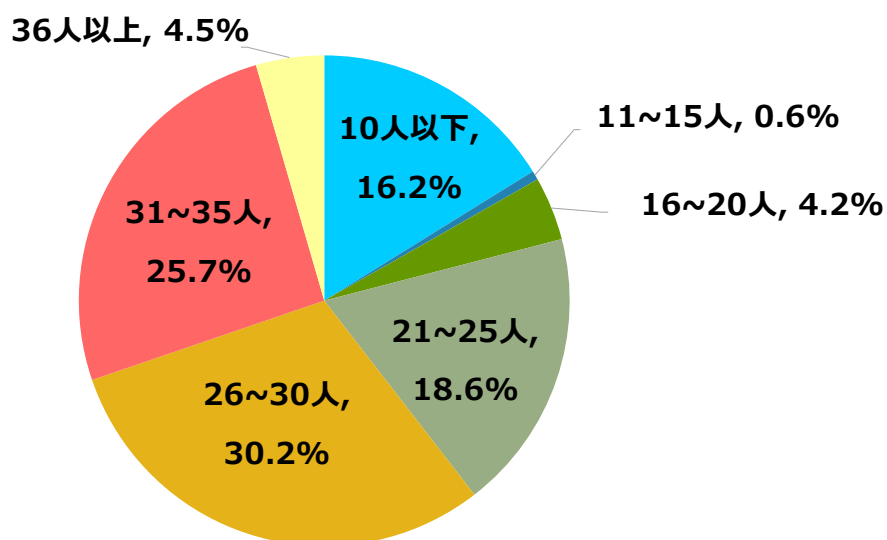


(n=1,156)

●教員

【小学校教員】

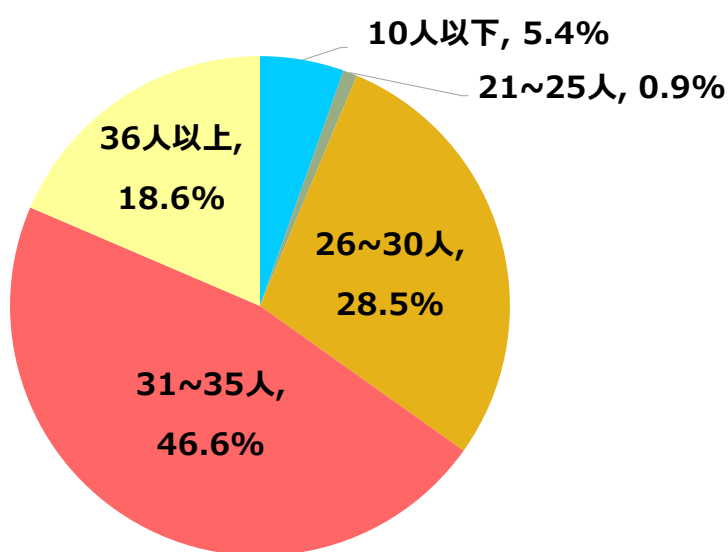
受け持っているクラスの人数は「26~30 人」(30.2%)、「31~35 人」(25.7%)、「21~25 人」(18.6%) が上位 3 つとなり、合計で約 75%である。



(n=334)

【中学校教員】

受け持っているクラスの人数は「31~35 人」(46.6%)、「26~30 人」(28.5%)、「36 人以上」(18.6%) が上位 3 つとなり、合計で約 94%である。



(n=221)

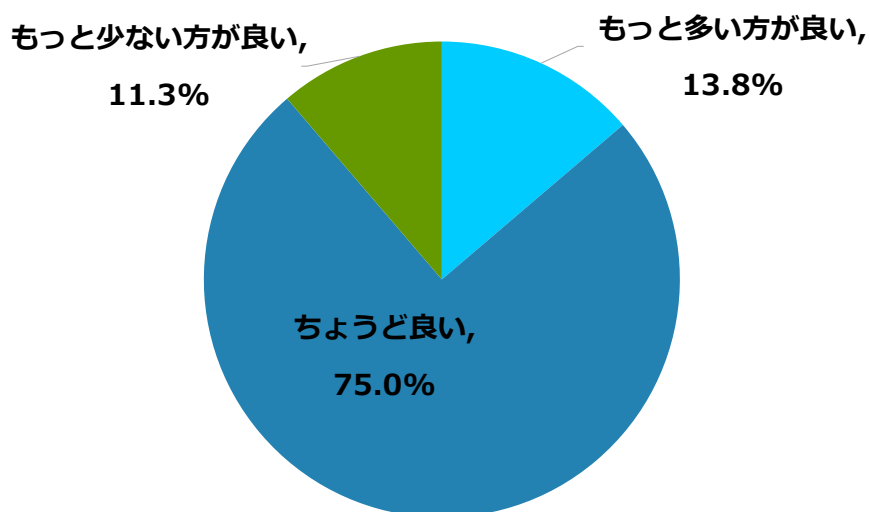
(19) 現在のクラスの人数の印象

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(19)現在のクラスの人数の印象	もっと多い方が良い	13.6%	7.9%	4.7%	2.3%	3.6%	0.9%		
	ちょうど良い	74.4%	78.5%	63.4%	65.3%	39.8%	42.1%		
	もっと少ない方が良い	11.2%	13.2%	31.8%	32.4%	56.6%	57.0%		
	不明	0.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

●児童・生徒

【児童】

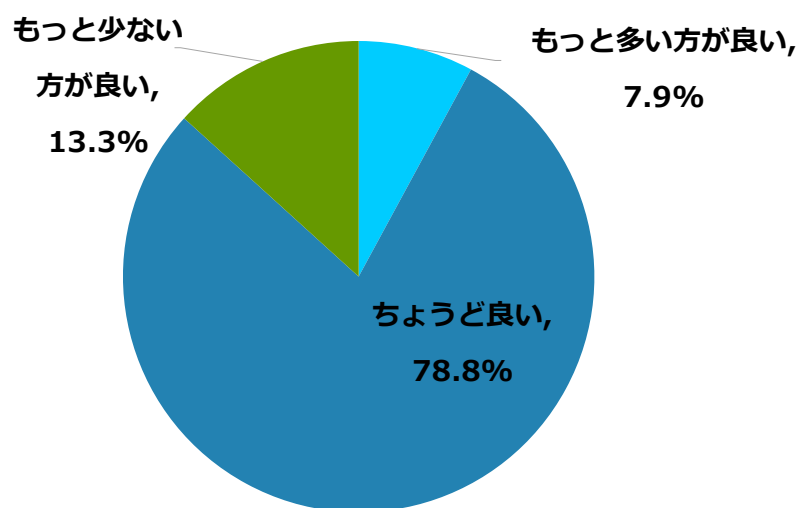
クラスの人数については、「もっと多い方が良い」（13.8%）、「ちょうど良い」（75.0%）、「もっと少ない方が良い」（11.3%）となった。



(n=3,497)

【生徒】

クラスの人数については、「もっと多い方が良い」（7.9%）、「ちょうど良い」（78.8%）、「もっと少ない方が良い」（13.3%）となった。

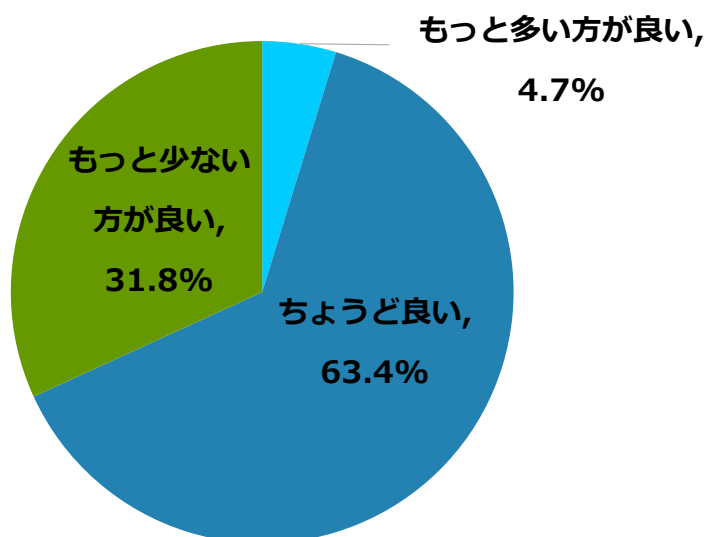


(n=3,187)

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

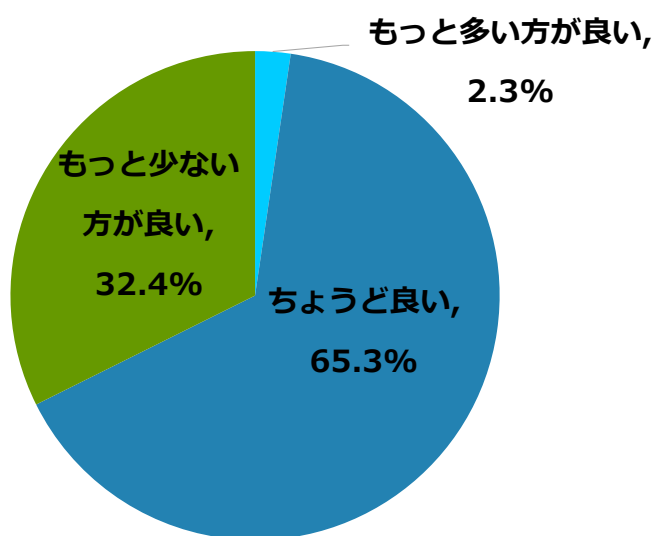
回答者の子どものクラスの人数については、「もっと多い方がよい」（4.7%）、「ちょうどよい」（63.4%）、「もっと少ない方がよい」（31.8%）となった。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

回答者の子どものクラスの人数については、「もっと多い方がよい」（2.3%）、「ちょうどよい」（65.3%）、「もっと少ない方がよい」（32.4%）となった。

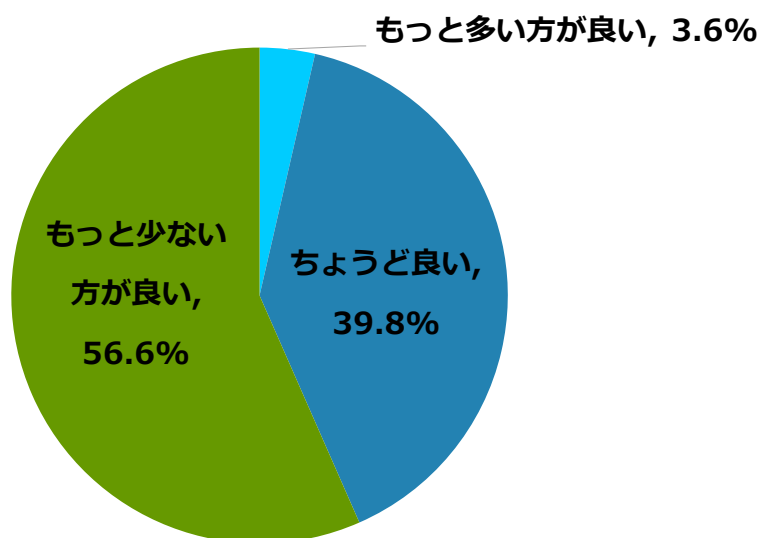


(n=1,156)

●教員

【小学校教員】

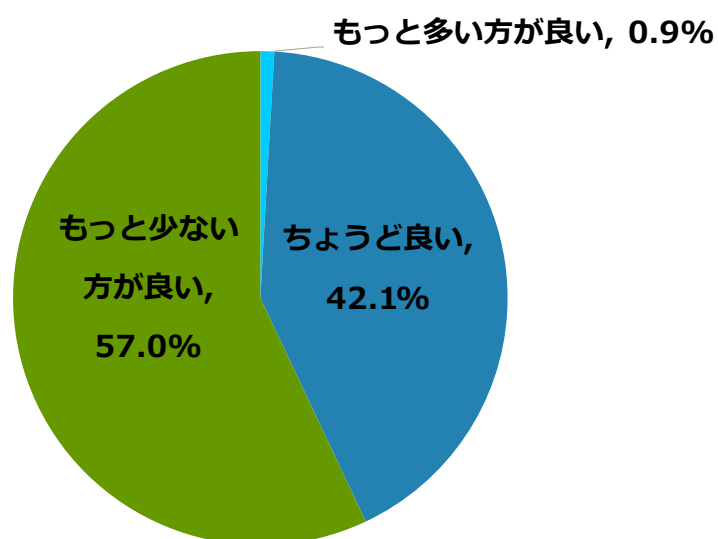
受け持っている子どものクラスの人数については、「もっと多い方がよい」（3.6%）、「ちょうどよい」（39.8%）、「もっと少ない方がよい」（56.6%）となった。



(n=334)

【中学校教員】

受け持っている子どものクラスの人数については、「もっと多い方がよい」（0.9%）、「ちょうどよい」（42.1%）、「もっと少ない方がよい」（57.0%）となった。



(n=221)

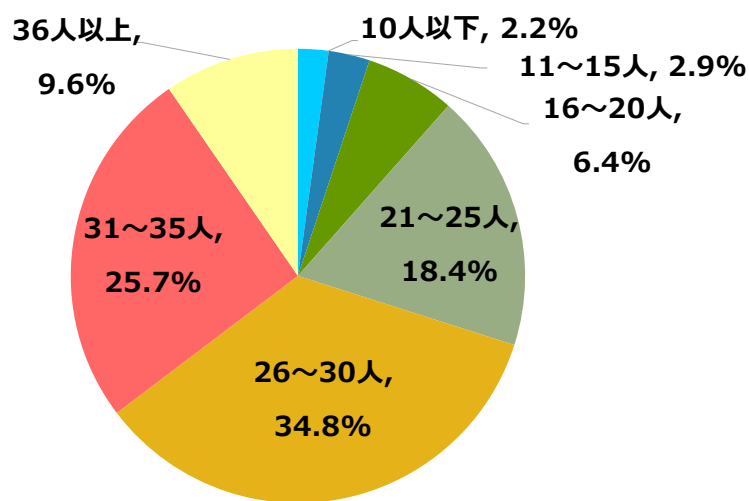
(20) (小学校) 1クラスあたりの望ましい人数

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(20) (小学校) 1クラスあたりの望ましい人数	10人以下	2.2%		0.3%		4.8%		0.9%	0.3%
	11～15人	2.9%		2.0%		3.6%		4.0%	2.9%
	16～20人	6.4%		11.1%		16.8%		20.2%	16.5%
	21～25人	18.3%		36.3%		58.1%		30.6%	41.2%
	26～30人	34.6%		41.8%		16.8%		32.5%	33.3%
	31～35人	25.6%		8.0%		0.0%		10.3%	5.8%
	36人以上	9.6%		0.5%		0.0%		1.3%	0.0%
	不明	0.5%		0.0%		0.0%		0.1%	0.0%
		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	100.0%

●児童・生徒

【児童】

クラスのちょうど良いと思う人数は、「26～30人」(34.8%)、「31～35人」(25.7%)、「21～25人」(18.4%) が上位3つとなり、合計で約79%である。

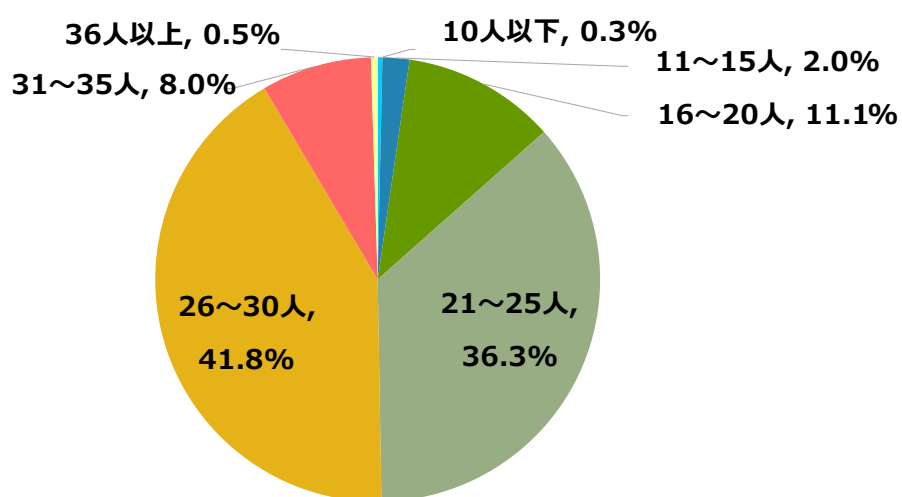


(n=3,506)

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

望ましいと思うクラスの人数は、「26～30人」(41.8%)、「21～25人」(36.3%)、「16～20人」(11.1%) が上位3つとなり、合計で約89%である。

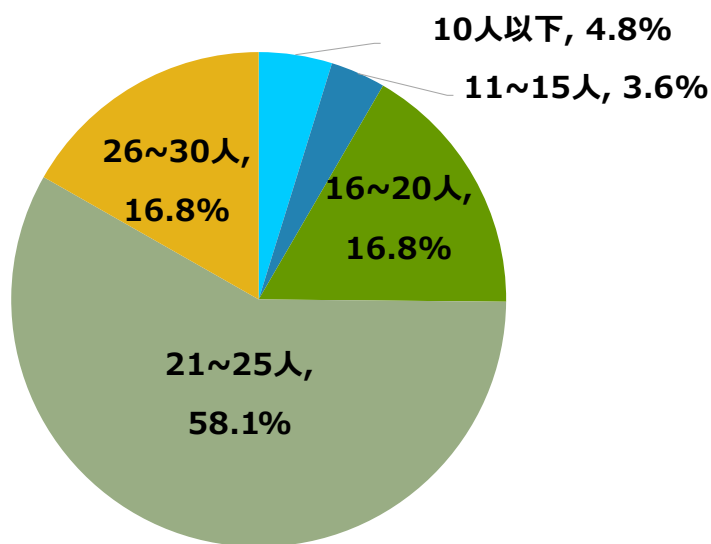


(n=2,045)

●教員

【小学校教員】

望ましいと思うクラスの人数は、「21~25 人」(58.1%)、「16~20 人」(16.8%)、「26~30 人」(16.8%) が上位 3 つとなり、合計で約 92%である。

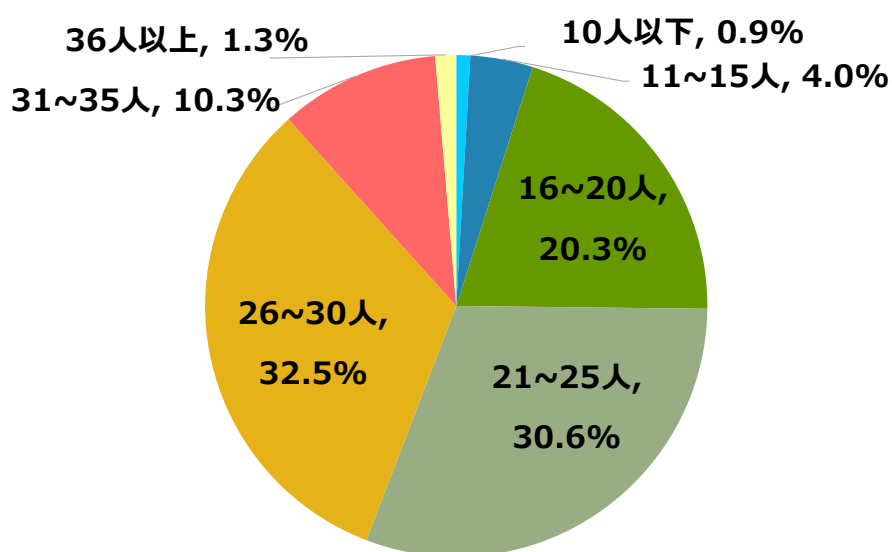


(n=334)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

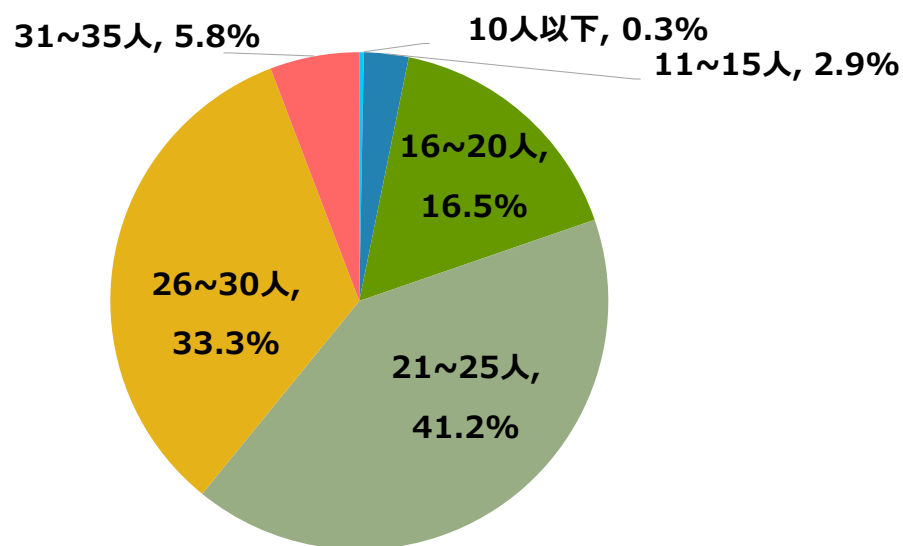
小学校の 1 クラスで望ましいと思う人数は「26~30 人」(32.5%)、「21~25 人」(30.6%)、「16~20 人」(20.3%) が上位 3 つとなり、合計で約 83%である。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

小学校の 1 クラスで望ましいと思う人数は「21~25 人」(41.2%)、「26~30 人」(33.3%)、「16~20 人」(16.5%) が上位 3 つとなり、合計で約 91%である。



(n=345)

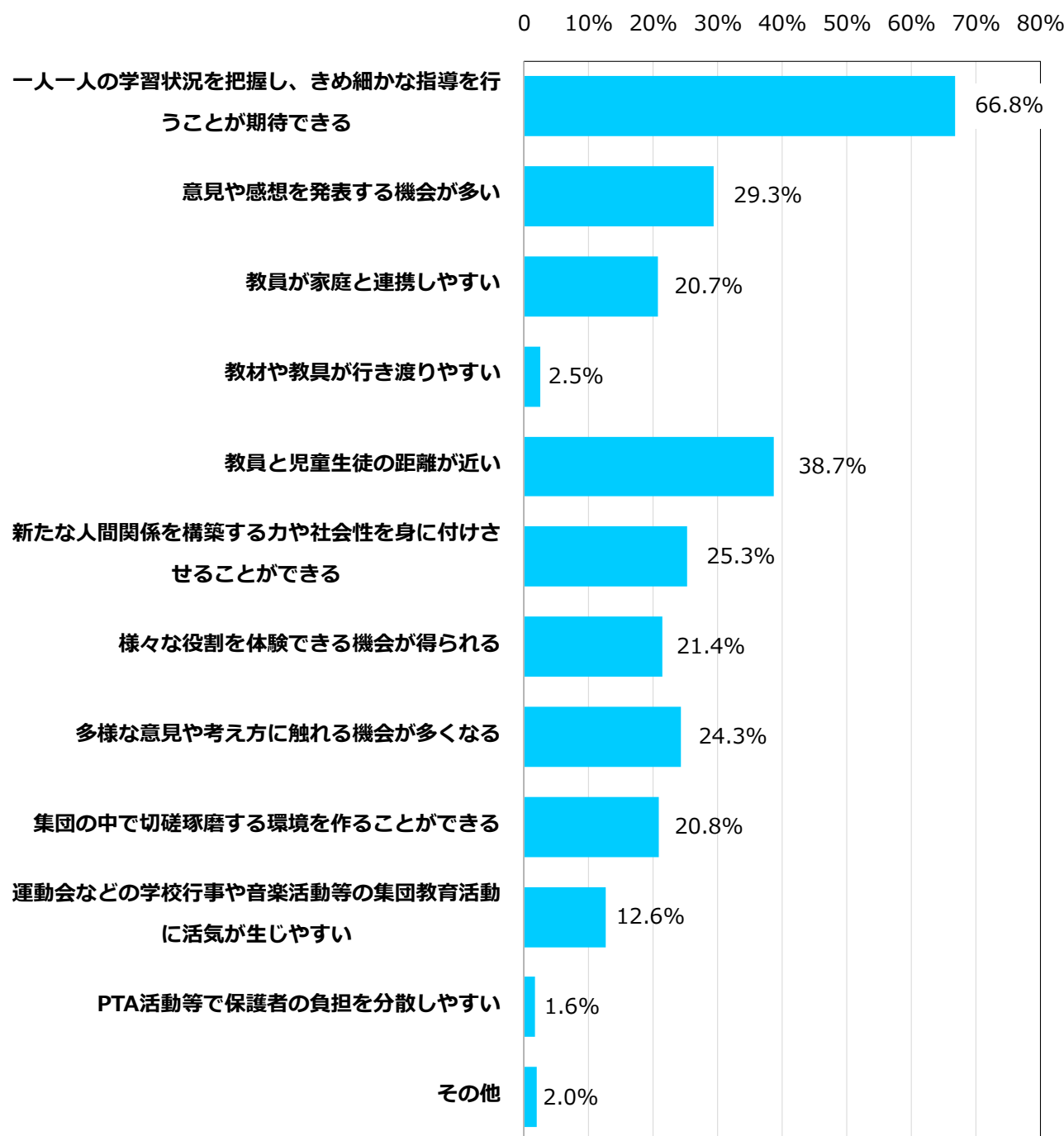
(21) 「(20) (小学校) 1クラスあたりの望ましい人数」の回答理由

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(21) 「1クラスあたりの望ましい人数」の回答理由【複数回答】	一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行うことが期待できる			66.8%		91.9%		58.6%	62.0%
	意見や感想を発表する機会が多い			29.3%		36.5%		25.9%	22.6%
	教員が家庭と連携しやすい			20.7%		23.1%		14.4%	20.9%
	教材や道具が生き渡りやすい			2.5%		22.8%		5.2%	2.9%
	教員と児童生徒の距離が近い			38.7%		13.5%		34.1%	31.3%
	新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる			25.3%		15.0%		34.8%	37.1%
	様々な役割を体験できる機会が得られる			21.4%		36.2%		24.8%	22.3%
	多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる			24.3%		12.6%		32.7%	33.9%
	集団の中で切磋琢磨する環境を作ることができる			20.8%		11.7%		27.6%	25.8%
	運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい			12.6%		5.4%		12.1%	8.4%
	P T A活動等で保護者の負担を分散しやすい			1.6%		0.3%		1.2%	1.4%
	その他			2.0%		4.5%		3.0%	5.2%

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

「問10」でその人数を選択した理由は、「一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行うことが期待できる」(66.8%)、「教員と児童生徒の距離が近い」(38.7%)、「意見や感想を発表する機会が多い」(29.3%)が上位3つとなった。

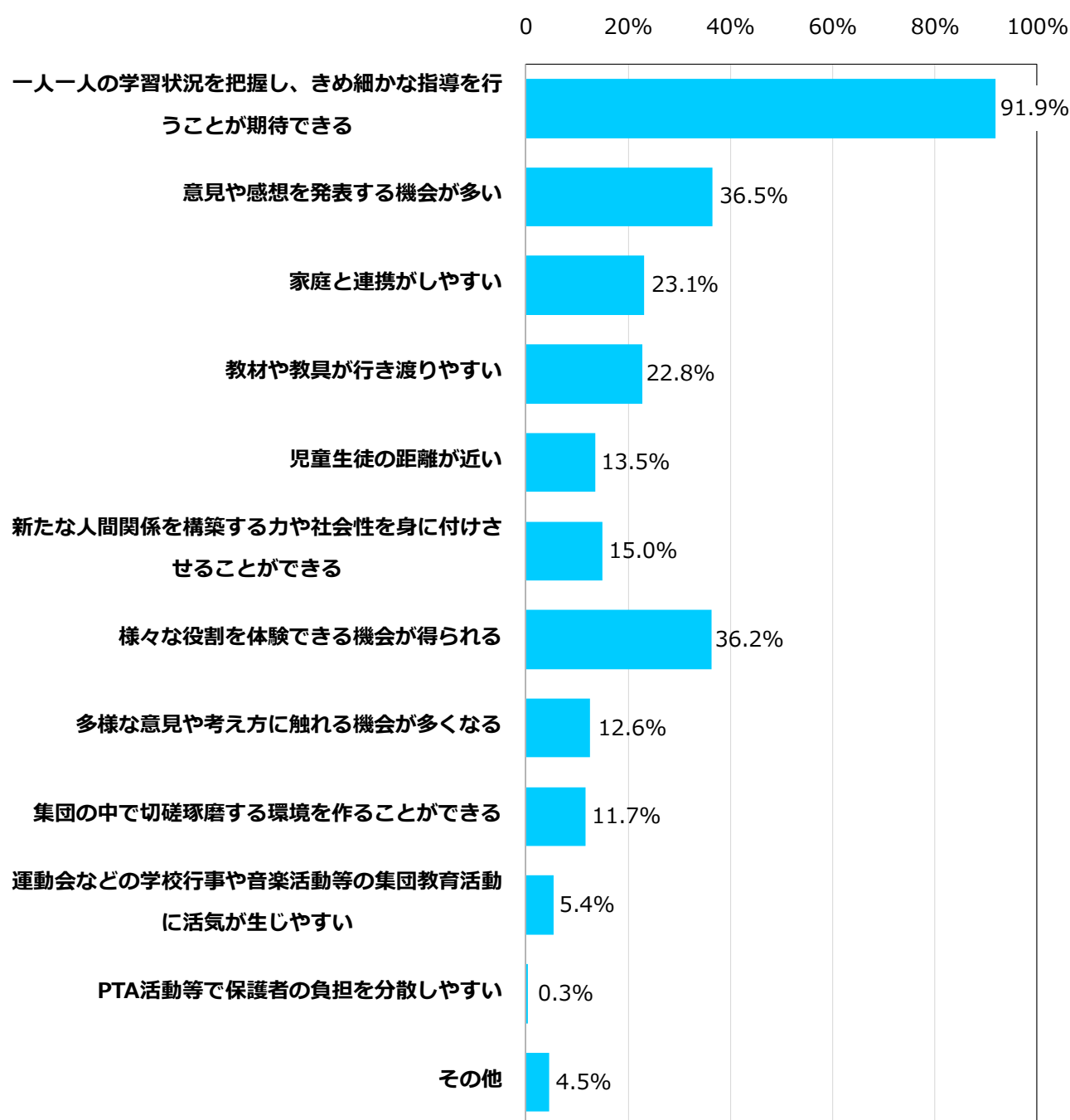


(n=2,045)

●教員

【小学校教員】

「問7」でその人数を選択した理由は、「一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行うことが期待できる」(91.9%)、「意見や感想を発表する機会が多い」(36.5%)、「様々な役割を体験できる機会が得られる」(36.2%)が上位3つとなった。

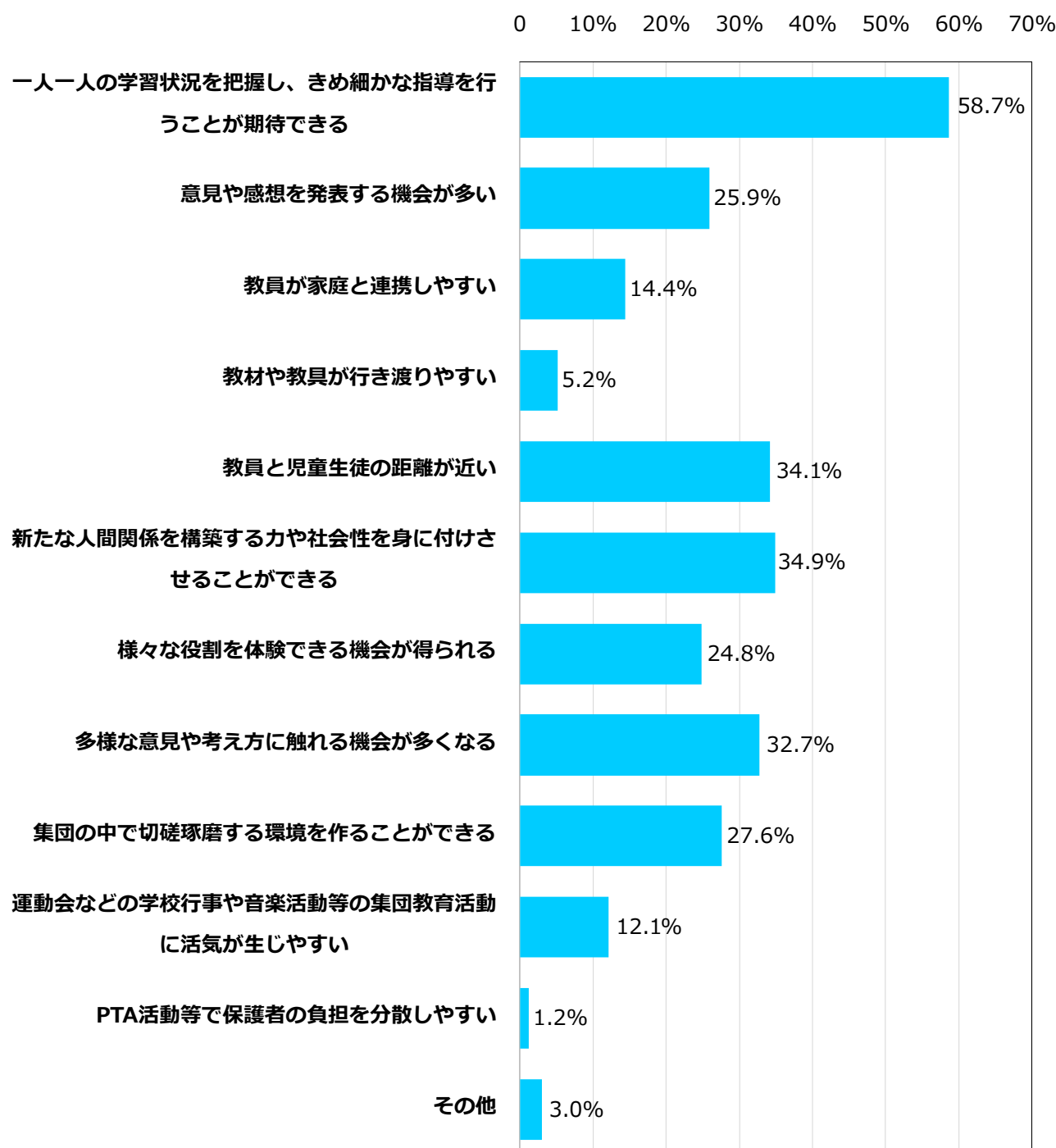


(n=334)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

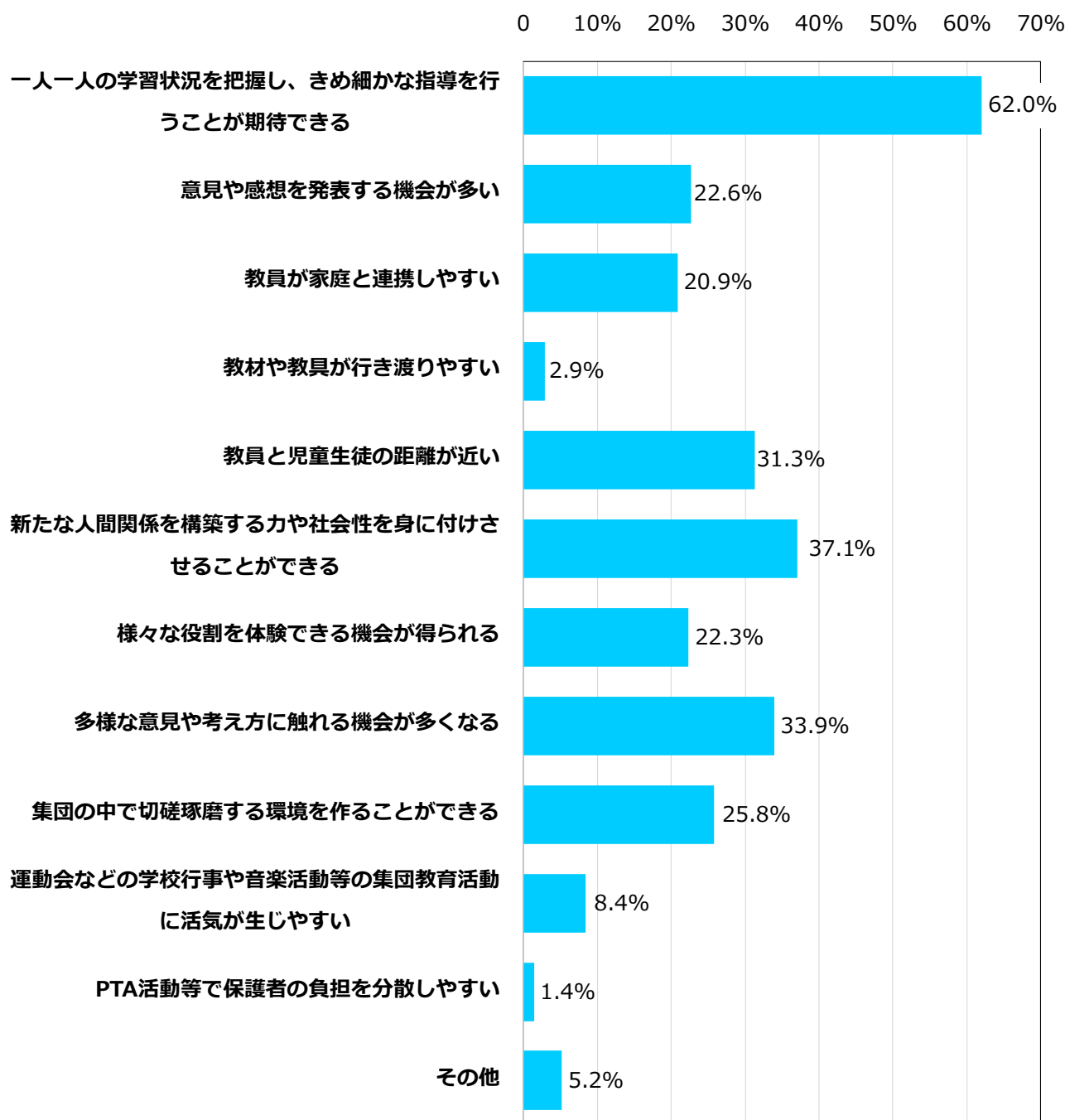
「問5」でその人数を選択した理由は、「一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行うことが期待できる」(58.7%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(34.9%)、「教員と児童生徒の距離が近い」(34.1%)が上位3つとなった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

「問5」でその人数を選択した理由は、「一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行うことが期待できる」(62.0%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(37.1%)、「多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる」(33.9%)が上位3つとなった。



(n=345)

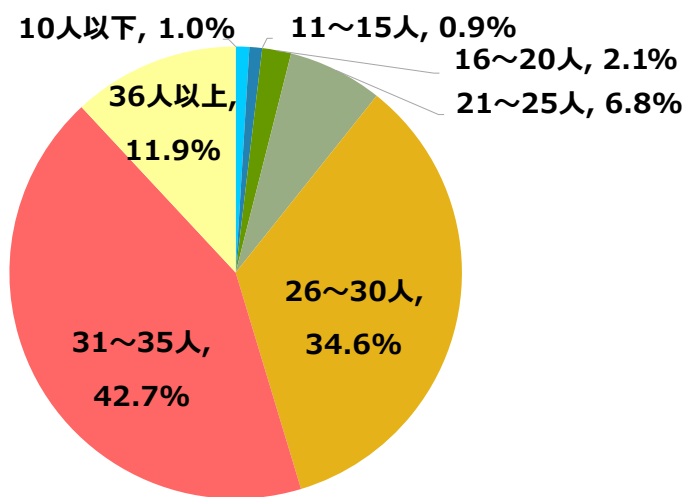
(22) (中学校) 1クラスあたりの望ましい人数

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(22) (中学校) 1クラスあたりの 望ましい人数	10人以下		1.0%		0.2%		1.4%	0.7%	0.0%
	11～15人		0.9%		0.7%		1.4%	1.9%	0.9%
	16～20人		2.1%		4.9%		6.8%	11.5%	9.9%
	21～25人		6.8%		20.2%		24.9%	23.4%	23.5%
	26～30人		34.6%		47.2%		47.5%	38.5%	47.2%
	31～35人		42.7%		24.5%		17.6%	20.3%	15.7%
	36人以上		11.9%		2.3%		0.5%	3.7%	2.9%
	不明		0.2%		0.0%		0.0%	0.1%	0.0%
			100.0%		100.0%		100.0%	100.0%	100.0%

●児童・生徒

【生徒】

クラスのちょうど良いと思う人数は、「31～35人」(42.7%)、「26～30人」(34.6%)、「36人以上」(11.9%)が上位3つとなり、合計で約89%である。

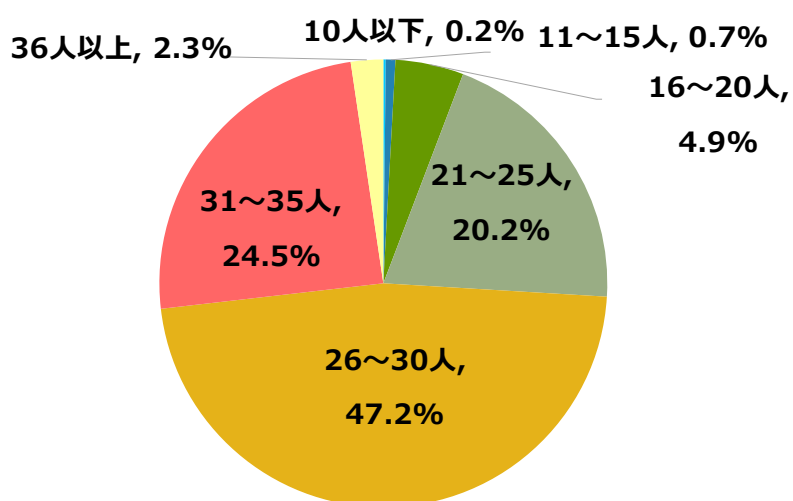


(n=3,194)

●児童・生徒の保護者

【生徒の保護者】

望ましいと思うクラスの人数は、「26～30人」(47.2%)、「31～35人」(24.5%)、「21～25人」(20.2%)が上位3つとなり、合計で約92%である。

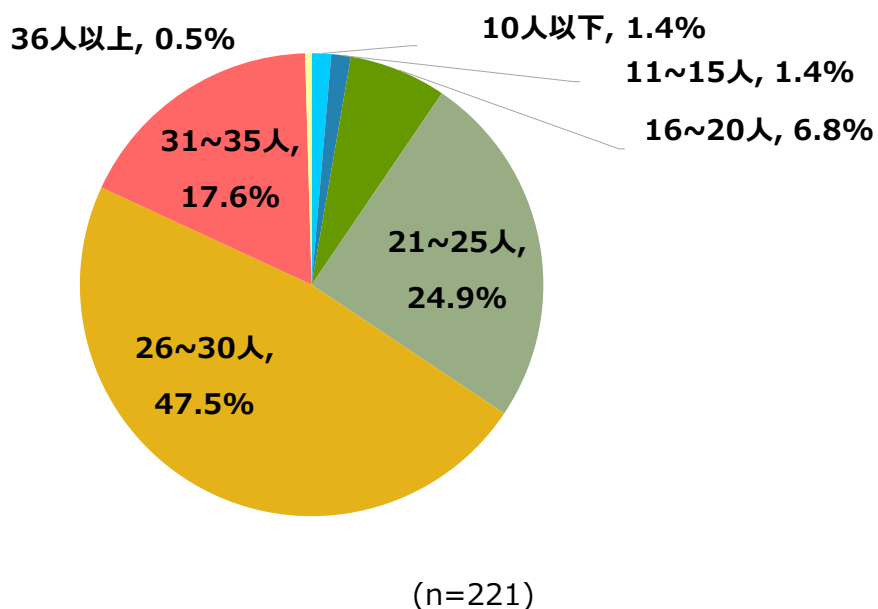


(n=1,156)

●教員

【中学校教員】

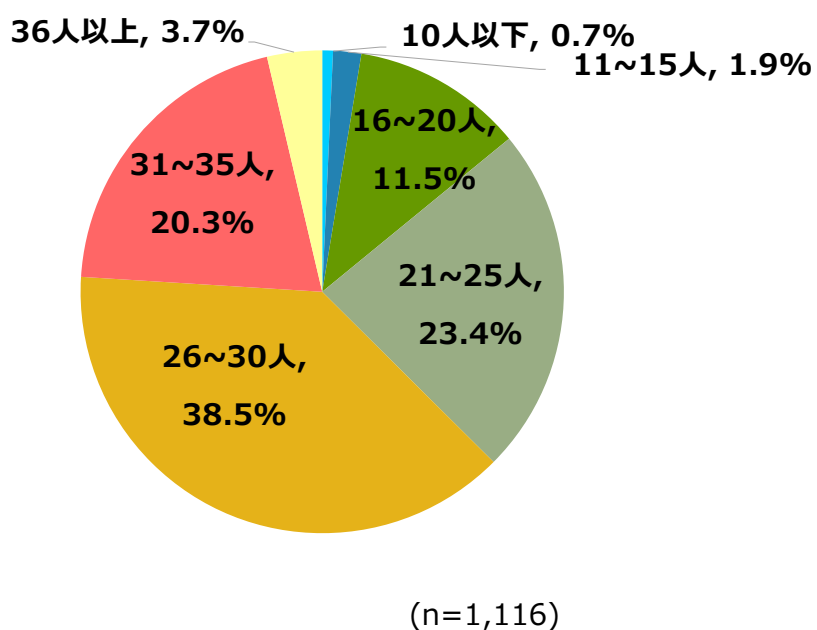
望ましいと思うクラスの人数は、「26~30 人」(47.5%)、「21~25 人」(24.9%)、「31~35 人」(17.6%) が上位 3 つとなり、合計で約 90%である。



●市民・未就学児の保護者

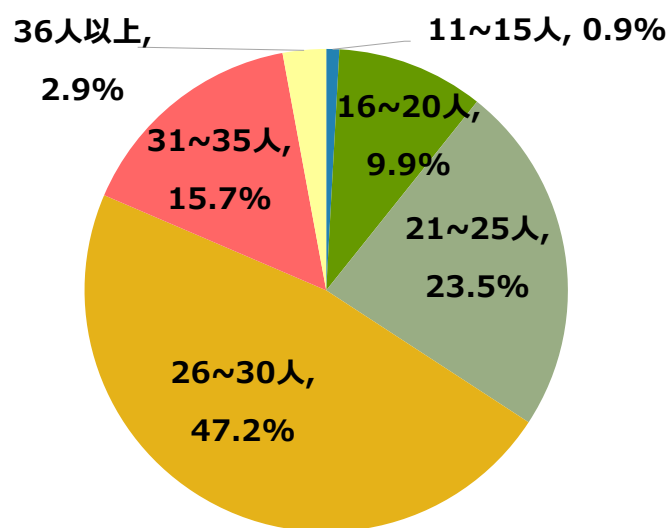
【市民】

中学校の 1 クラスで望ましいと思う人数は「26~30 人」(38.5%)、「21~25 人」(23.4%)、「31~35 人」(20.3%) が上位 3 つとなり、合計で約 82%である。



【未就学児の保護者】

中学校の 1 クラスで望ましいと思う人数は「26~30 人」(47.2%)、「21~25 人」(23.5%)、「31~35 人」(15.7%) が上位 3 つとなり、合計で約 86%である。



(n=345)

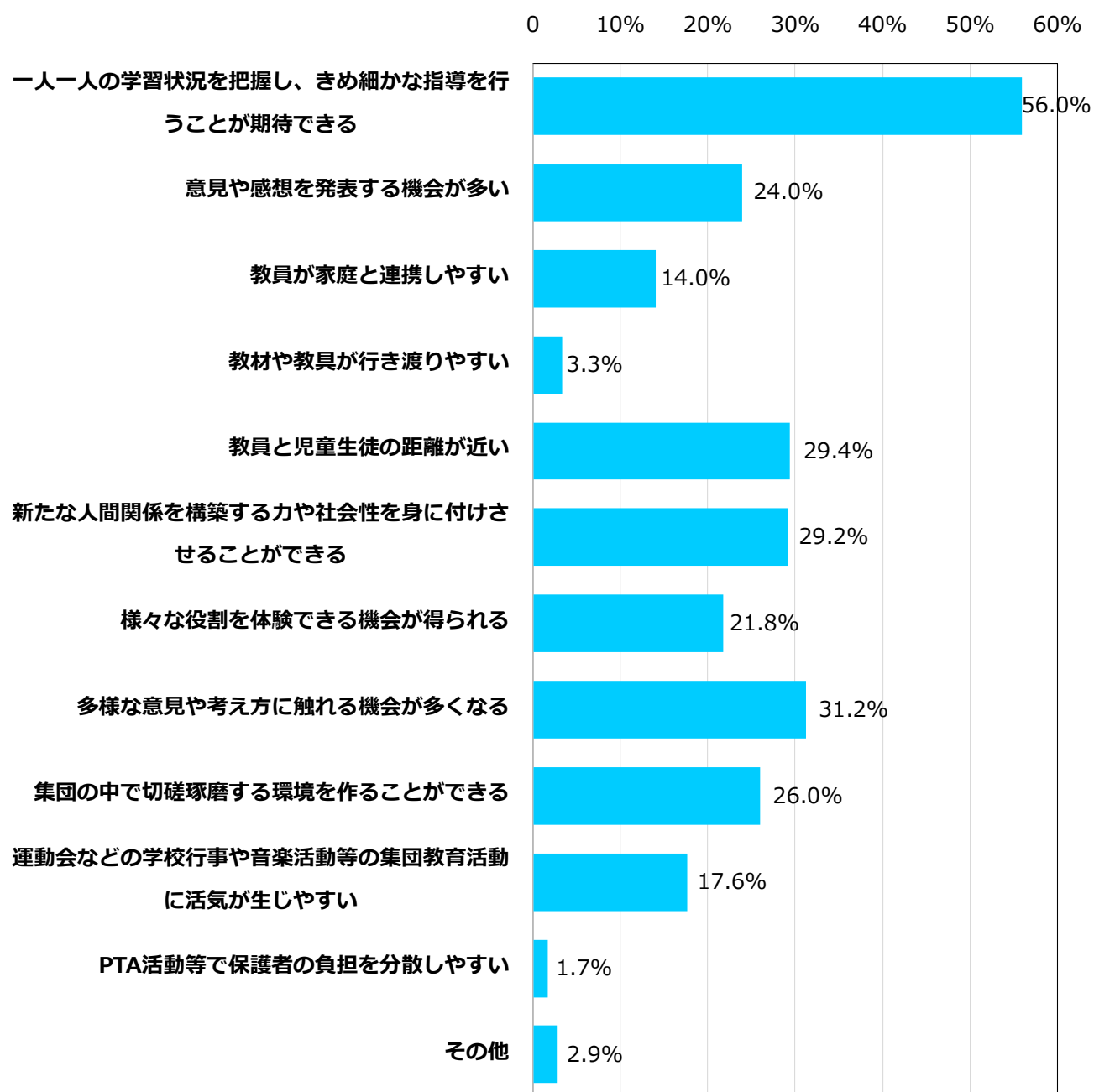
(23) 「(22) (中学校) 1クラスあたりの望ましい人数」の回答理由

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(23)「1クラスあたりの望ましい人数」の回答理由【複数回答】	一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行うことが期待できる				56.0%		75.6%	50.7%	51.3%
	意見や感想を発表する機会が多い				24.0%		26.7%	21.7%	17.7%
	教員が家庭と連携しやすい				14.0%		27.1%	13.2%	17.7%
	教材や道具が生き渡りやすい				3.3%		15.4%	2.9%	2.9%
	教員と児童生徒の距離が近い				29.4%		14.0%	23.8%	21.4%
	新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる				29.2%		23.5%	44.6%	40.9%
	様々な役割を体験できる機会が得られる				21.8%		31.7%	21.9%	23.8%
	多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる				31.2%		19.0%	42.3%	40.3%
	集団の中で切磋琢磨する環境を作ることができる				26.0%		21.7%	34.0%	40.6%
	運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい				17.6%		17.2%	14.5%	14.5%
	P T A活動等で保護者の負担を分散しやすい				1.7%		0.0%	1.3%	0.6%
	その他				2.9%		4.1%	2.9%	3.5%

●児童・生徒の保護者

【生徒の保護者】

「問10」でその人数を選択した理由は、「一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行うことが期待できる」(56.0%)、「多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる」(31.2%)、「教員と児童生徒の距離が近い」(29.4%)が上位3つとなった。

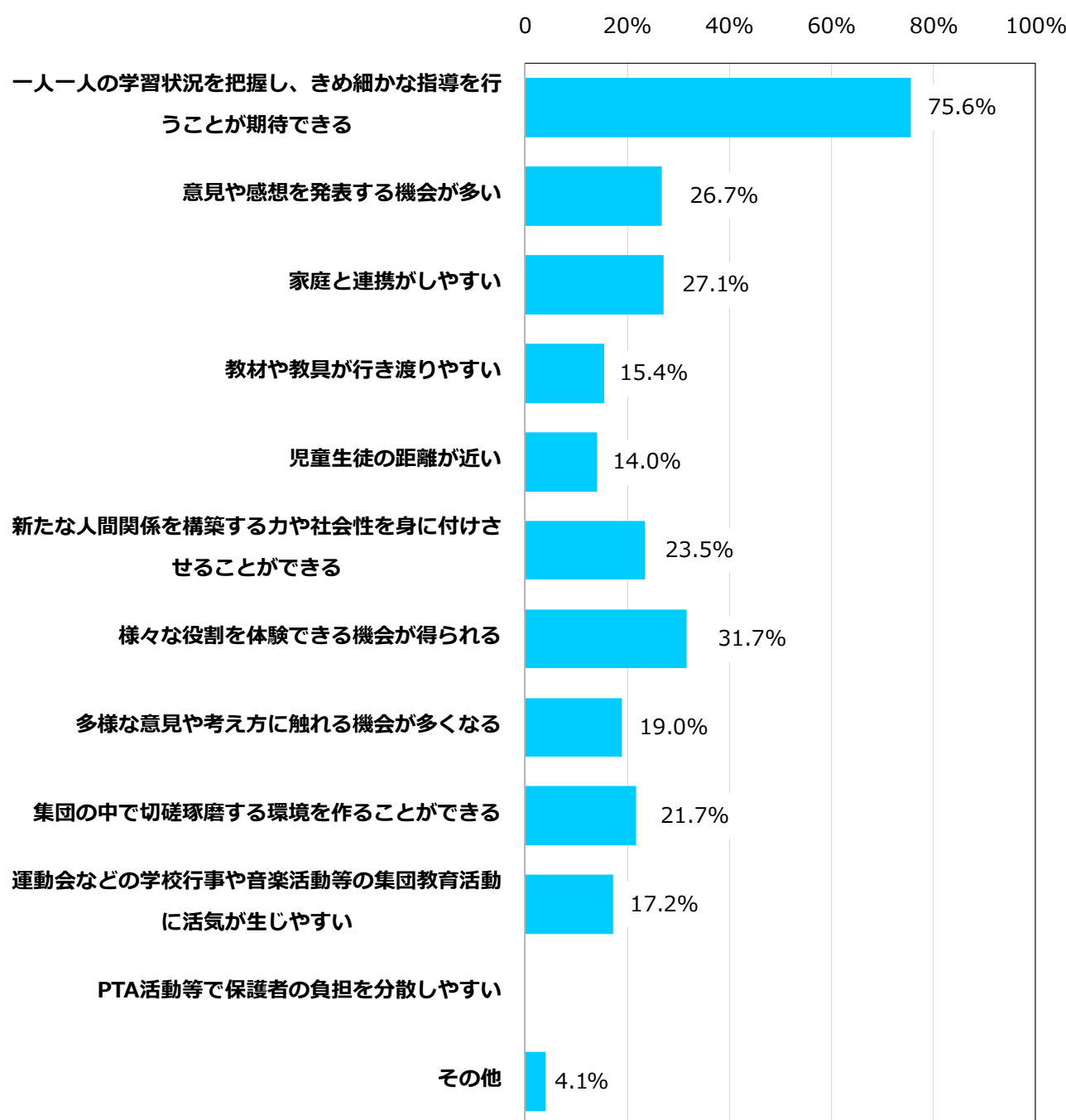


(n=1,156)

●教員

【中学校教員】

「問7」でその人数を選択した理由は、「一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行うことが期待できる」(75.6%)、「様々な役割を体験できる機会が得られる」(31.7%)、「家庭と連携がしやすい」(27.1%)が上位3つとなった。

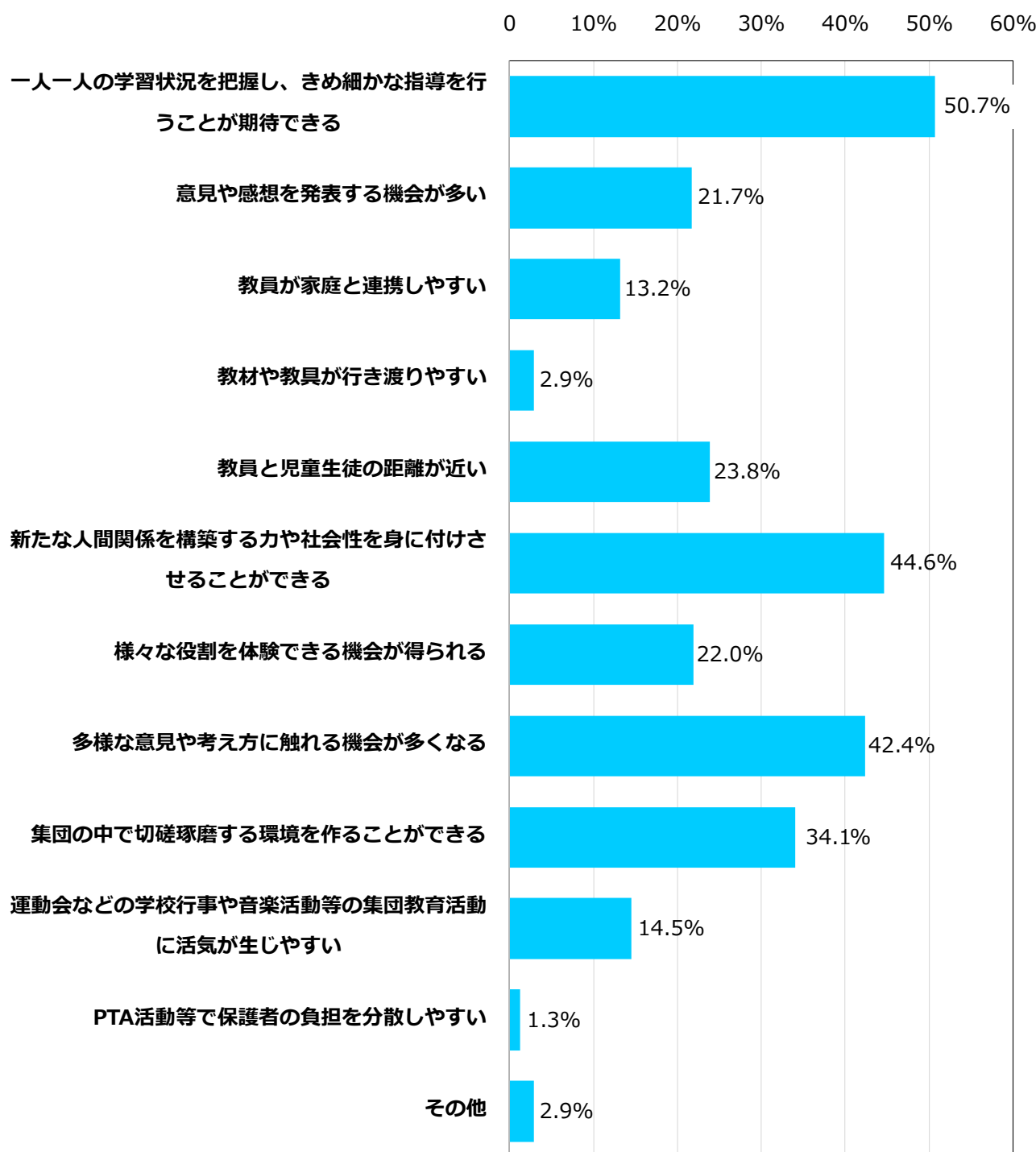


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

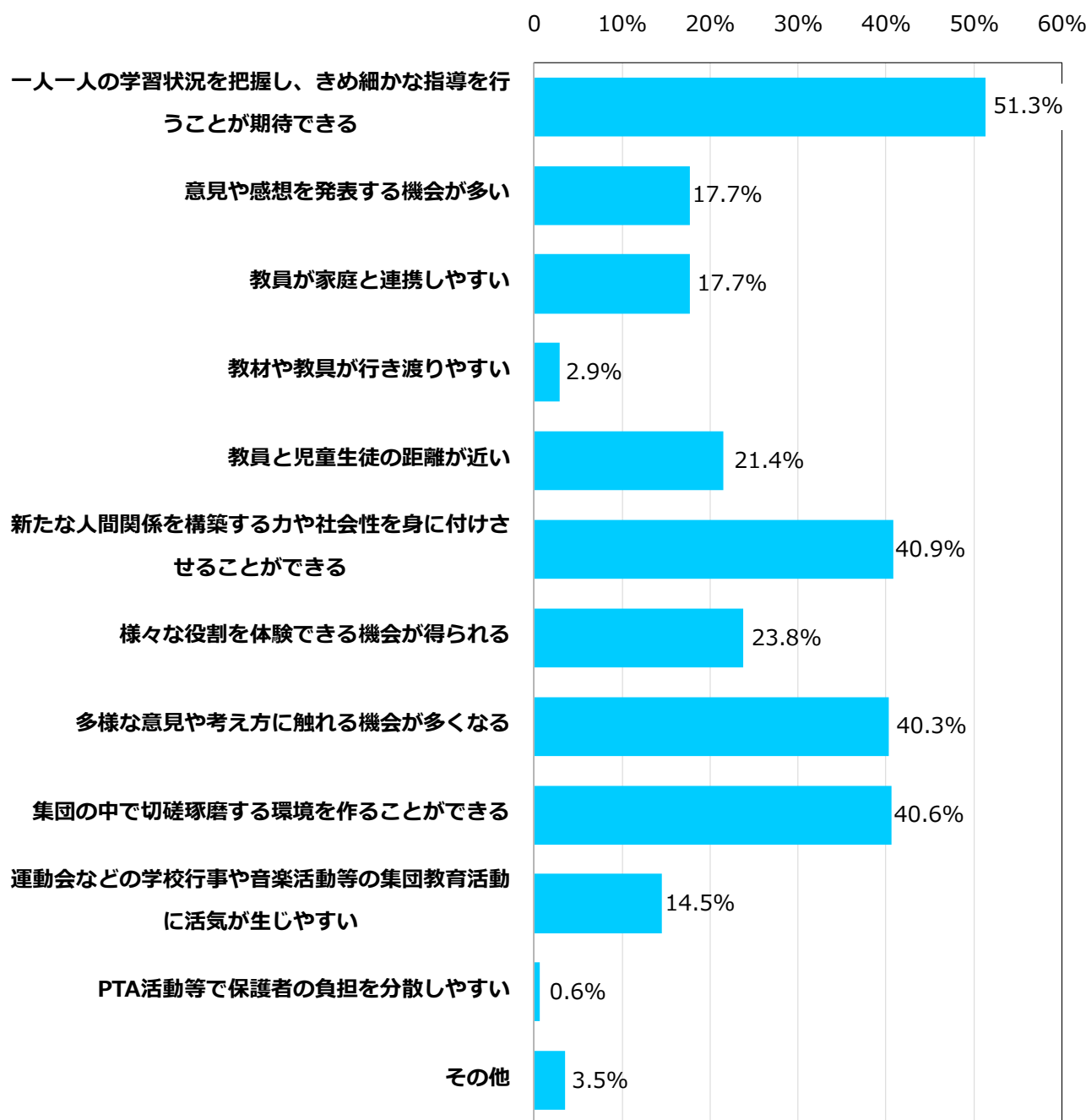
「問7」でその人数を選択した理由は、「一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行うことが期待できる」(50.7%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(44.6%)、「多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる」(42.4%)が上位3つとなった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

「問7」でその人数を選択した理由は、「一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導を行うことが期待できる」(51.3%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(40.9%)、「集団の中で切磋琢磨する環境を作ることができる」(40.6%)が上位3つとなった。



(n=345)

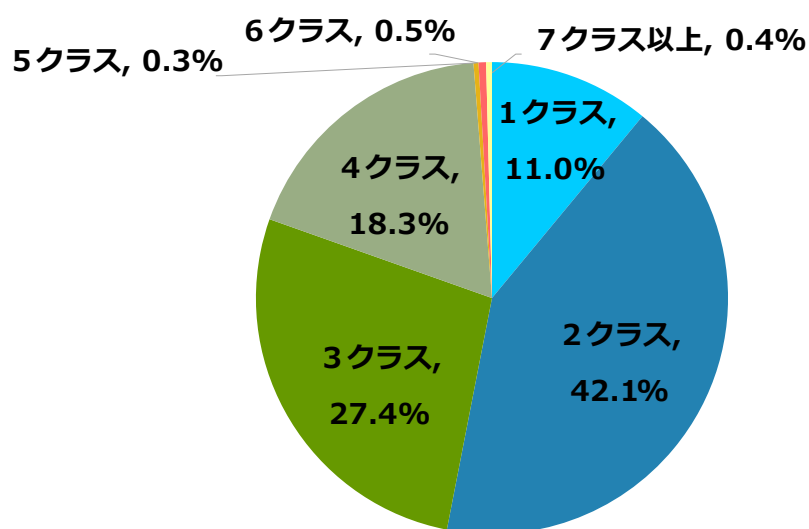
(24) 学年のクラス数

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(24)学年のクラス数	1クラス	11.0%	0.1%	14.5%	0.3%	18.6%	0.5%		
	2クラス	41.9%	9.3%	42.7%	12.1%	42.2%	12.2%		
	3クラス	27.2%	34.2%	26.8%	30.6%	26.0%	35.7%		
	4クラス	18.2%	12.5%	15.8%	16.1%	10.8%	11.8%		
	5クラス	0.3%	24.8%	0.1%	25.3%	1.8%	23.5%		
	6クラス	0.5%	12.0%	0.0%	9.5%	0.3%	10.0%		
	7クラス以上	0.4%	7.1%	0.0%	6.1%	0.3%	6.3%		
	不明	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

●児童・生徒

【児童】

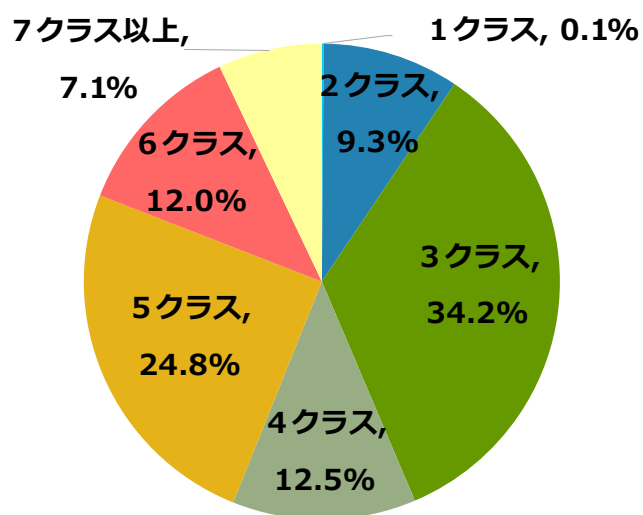
学年のクラス数は「2クラス」(42.1%)、「3クラス」(27.4%)、「4クラス」(18.3%)が上位3つとなり、合計で約88%である。



(n=3,509)

【生徒】

学年のクラス数は「3クラス」(34.2%)、「5クラス」(24.8%)、「4クラス」(12.5%)が上位3つとなり、合計で約72%である。

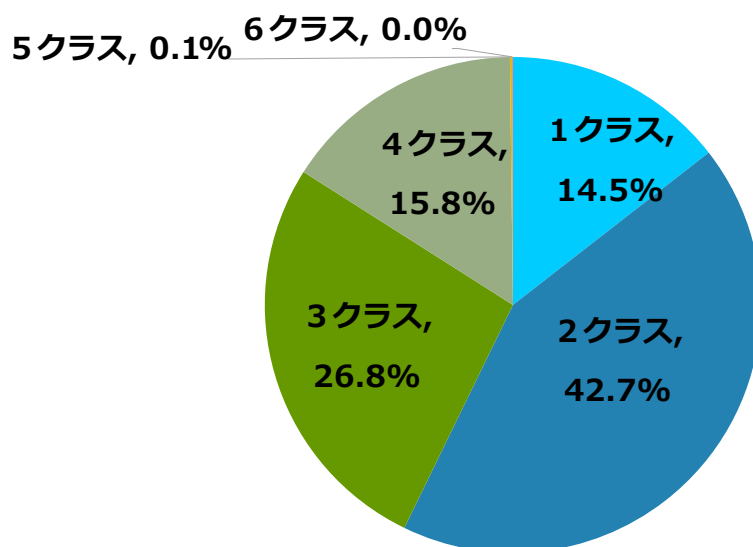


(n=3,199)

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

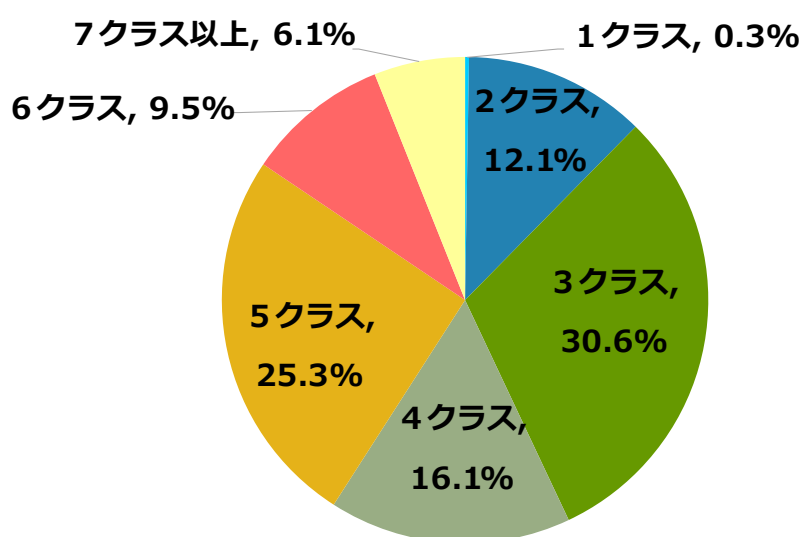
回答者の子どもの学年のクラス数は「2クラス」(42.7%)、「3クラス」(26.8%)、「4クラス」(15.8%) が上位3つとなり、合計で約85%である。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

回答者の子どもの学年のクラス数は「3クラス」(30.6%)、「5クラス」(25.3%)、「4クラス」(16.1%) が上位3つとなり、合計で約72%である。

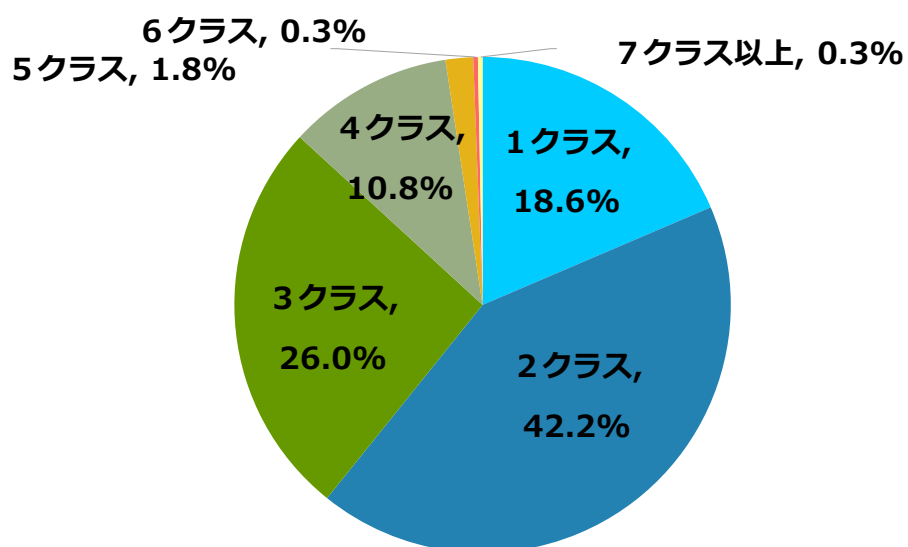


(n=1,156)

●教員

【小学校教員】

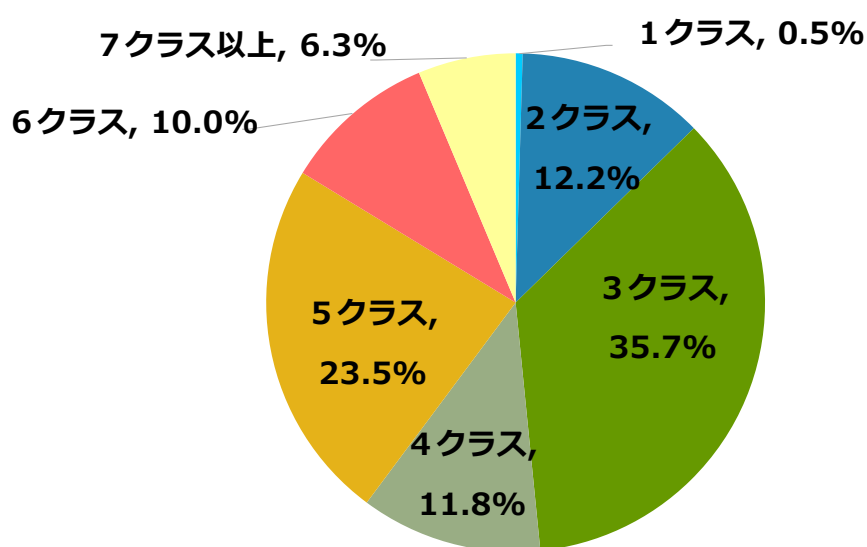
受け持っている学年のクラス数は「2クラス」(42.2%)、「3クラス」(26.0%)、「1クラス」(18.6%)が上位3つとなり、合計で約87%である。



(n=334)

【中学校教員】

受け持っている学年のクラス数は「3クラス」(35.7%)、「5クラス」(23.5%)、「2クラス」(12.2%)が上位3つとなり、合計で約71%である。



(n=221)

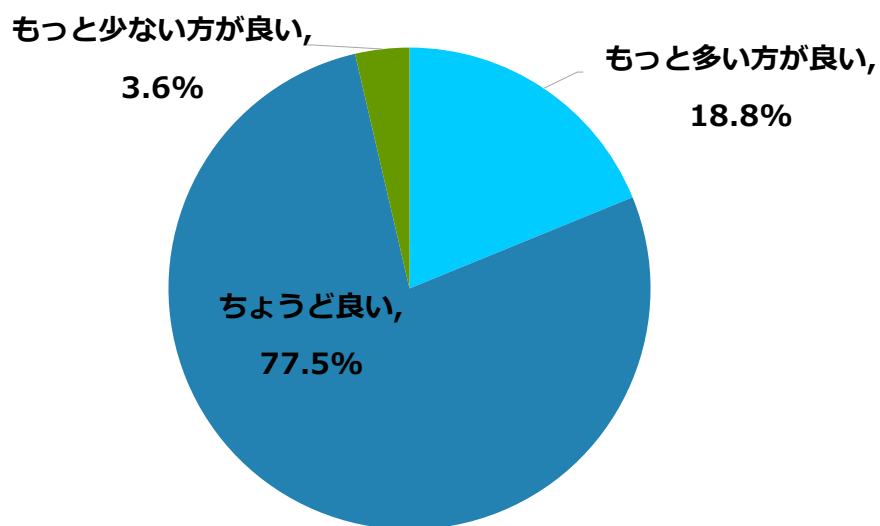
(2 5) 現在の学年のクラス数の印象

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(25)現在の学年のクラス数の印象	もっと多い方が良い	18.7%	14.8%	37.8%	24.0%	32.0%	18.6%		
	ちょうど良い	76.9%	76.1%	59.1%	69.4%	62.0%	57.5%		
	もっと少ない方が良い	3.6%	8.8%	3.0%	6.7%	6.0%	24.0%		
	不明	0.8%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

●児童・生徒

【児童】

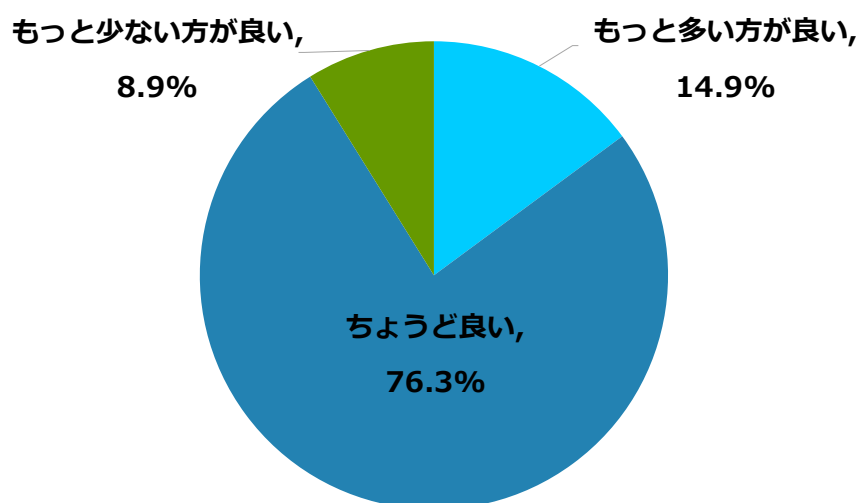
学年のクラス数については、「もっと多い方が良い」（18.8%）、「ちょうど良い」（77.5%）、「もっと少ない方が良い」（3.6%）となった。



(n=3,496)

【生徒】

学年のクラス数については、「もっと多い方が良い」（14.9%）、「ちょうど良い」（76.3%）、「もっと少ない方が良い」（8.9%）となった。

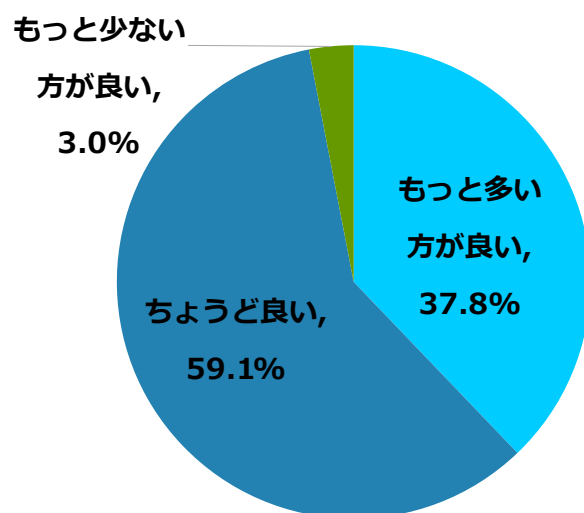


(n=3,193)

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

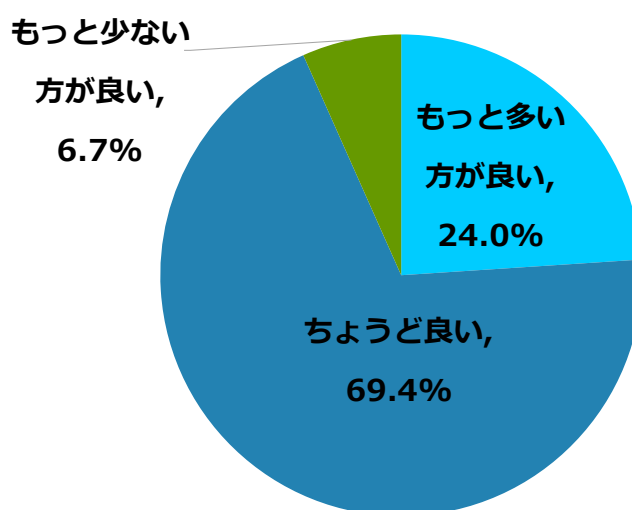
「問 1 2」で答えたクラス数については、「もっと多い方が良い」(37.8%)、「ちょうど良い」(59.1%)、「もっと少ない方が良い」(3.0%) となった。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

「問 1 2」で答えたクラス数については、「もっと多い方が良い」(24.0%)、「ちょうど良い」(69.4%)、「もっと少ない方が良い」(6.7%) となった。

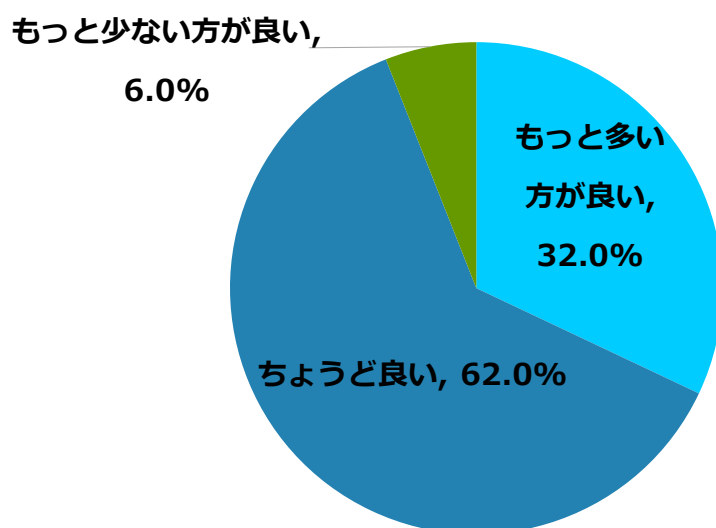


(n=1,156)

●教員

【小学校教員】

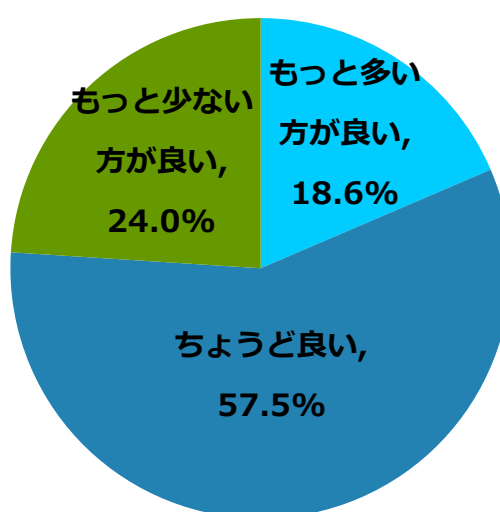
「問9」で答えたクラス数については、「もっと多い方が良い」(32.0%)、「ちょうど良い」(62.0%)、「もっと少ない方が良い」(6.0%)となった。



(n=334)

【中学校教員】

「問9」で答えたクラス数については、「もっと多い方が良い」(18.6%)、「ちょうど良い」(57.5%)、「もっと少ない方が良い」(24.0%)となった。



(n=221)

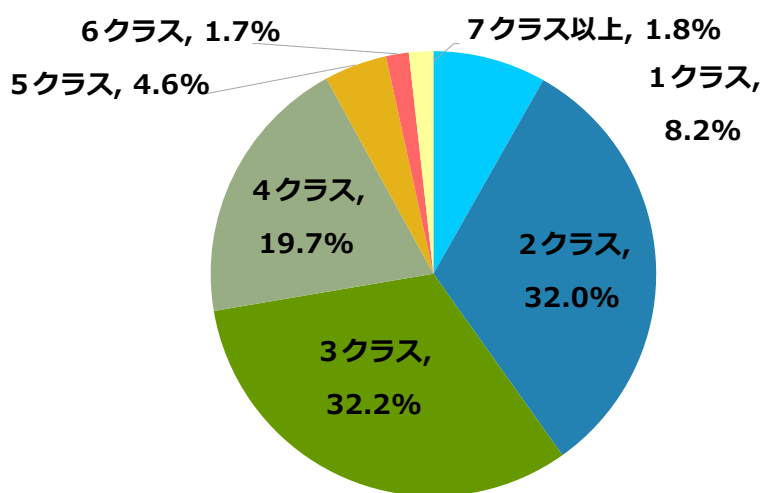
(26) (小学校) 1 学年あたりの望ましいクラス数

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(26) (小学校) 1 学年あたりの望 ましいクラス数	1 クラス	8.2%		0.8%		1.2%		0.6%	1.4%
	2 クラス	31.8%		22.0%		30.8%		16.2%	21.2%
	3 クラス	32.0%		52.6%		59.3%		57.3%	57.4%
	4 クラス	19.6%		20.2%		7.2%		15.8%	15.7%
	5 クラス	4.5%		3.5%		0.9%		8.1%	3.2%
	6 クラス	1.6%		0.4%		0.0%		0.7%	0.6%
	7 クラス以上	1.8%		0.4%		0.6%		1.1%	0.6%
	不明	0.5%		0.0%		0.0%		0.2%	0.0%
		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	100.0%

●児童・生徒

【児童】

学年のちょうど良いと思うクラス数は「3クラス」(32.2%)、「2クラス」(32.0%)、「4クラス」(19.7%) が上位3つとなり、合計で約84%である。

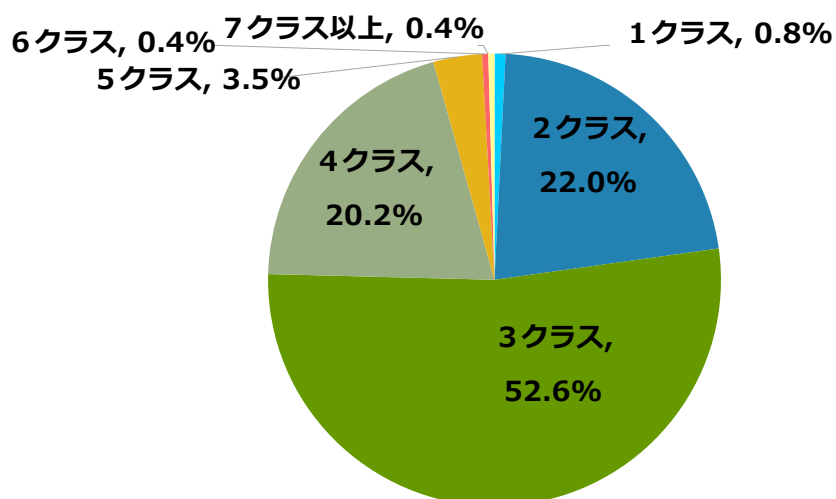


(n=3,508)

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

学年の望ましいと思うクラス数は「3クラス」(52.6%)、「2クラス」(22.0%)、「4クラス」(20.2%) が上位3つとなり、合計で約95%である。

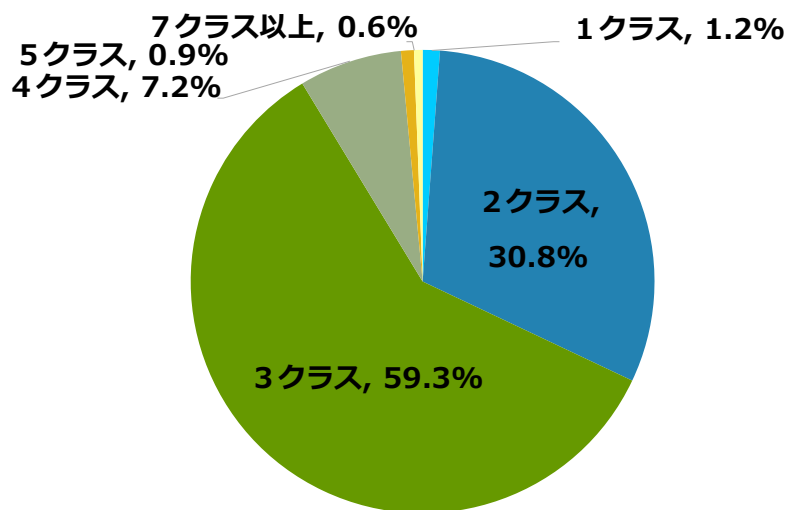


(n=2,045)

●教員

【小学校教員】

1 学年あたりの望ましいと思うクラス数は「3 クラス」(59.3%)、「2 クラス」(30.8%)、「4 クラス」(7.2%) が上位 3 つとなり、合計で約 97%である。

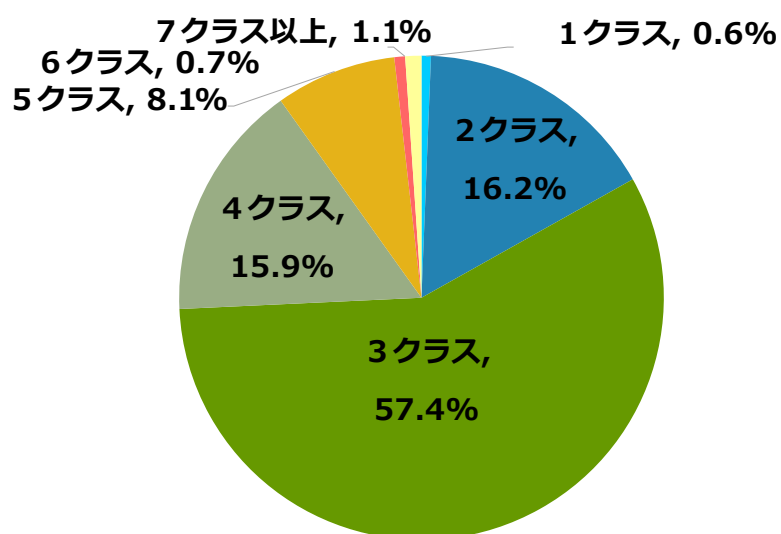


(n=334)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

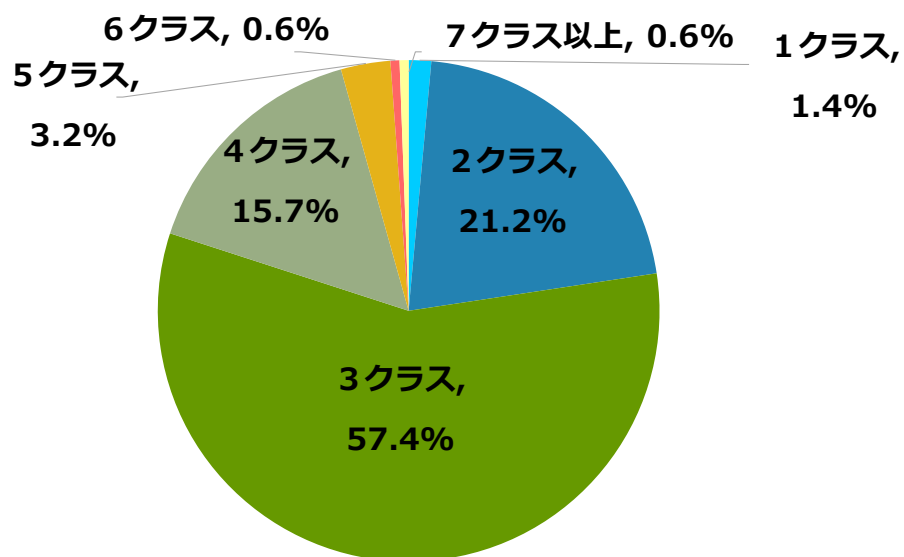
小学校 1 学年の望ましいと思うクラス数は「3 クラス」(57.4%)、「2 クラス」(16.2%)、「4 クラス」(15.9%) が上位 3 つとなり、合計で約 90%である。



(n=1,115)

【未就学児の保護者】

小学校 1 学年の望ましいと思うクラス数は「3 クラス」(57.4%)、「2 クラス」(21.2%)、「4 クラス」(15.7%) が上位 3 つとなり、合計で約 94%である。



(n=345)

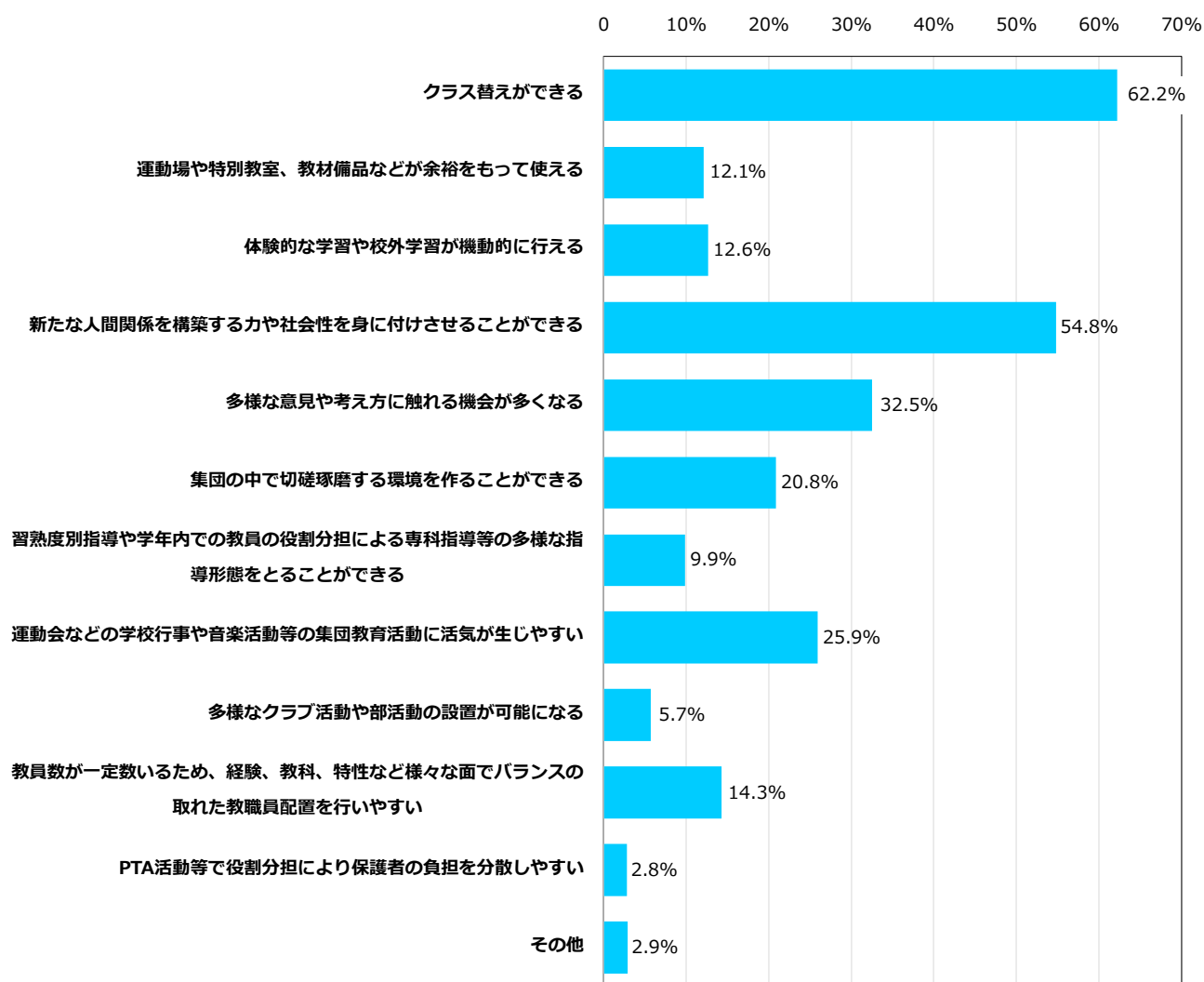
(27) 「(26) (小学校) 1 学年あたりの望ましいクラス数」の回答理由

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(27)「1学年あたりの望ましいクラス数」の回答理由【複数回答】	クラス替えができる			62.2%		70.4%		69.7%	68.4%
	運動場や特別教室、教材備品などが余裕をもって使える			12.1%		17.4%		11.0%	13.9%
	体験的な学習や校外学習が機動的に行える			12.6%		16.8%		13.5%	13.9%
	新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる			54.8%		45.8%		47.1%	51.0%
	多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる			32.5%		21.6%		27.8%	25.8%
	集団の中で切磋琢磨する環境を作ることができる			20.8%		17.7%		18.0%	19.1%
	習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導等の多様な指導形態をとることがで			9.9%		29.3%		18.2%	13.6%
	運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい			25.9%		13.2%		26.4%	25.5%
	多様なクラブ活動や部活動の設置が可能になる			5.7%		0.6%		8.1%	4.9%
	教員が一定数いるため、経験、教科、特性など様々な面でバランスの取れた教職員配置を行い			14.3%		41.6%		23.7%	20.9%
	P T A 活動等で役割分担により保護者の負担を分散しやすい			2.8%		0.0%		0.8%	1.2%
	その他			2.9%		2.1%		2.3%	3.5%

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

「問14」でそのクラス数を選択した理由は「クラス替えができる」(62.2%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(54.8%)、「多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる」(32.5%)が上位3つとなった。

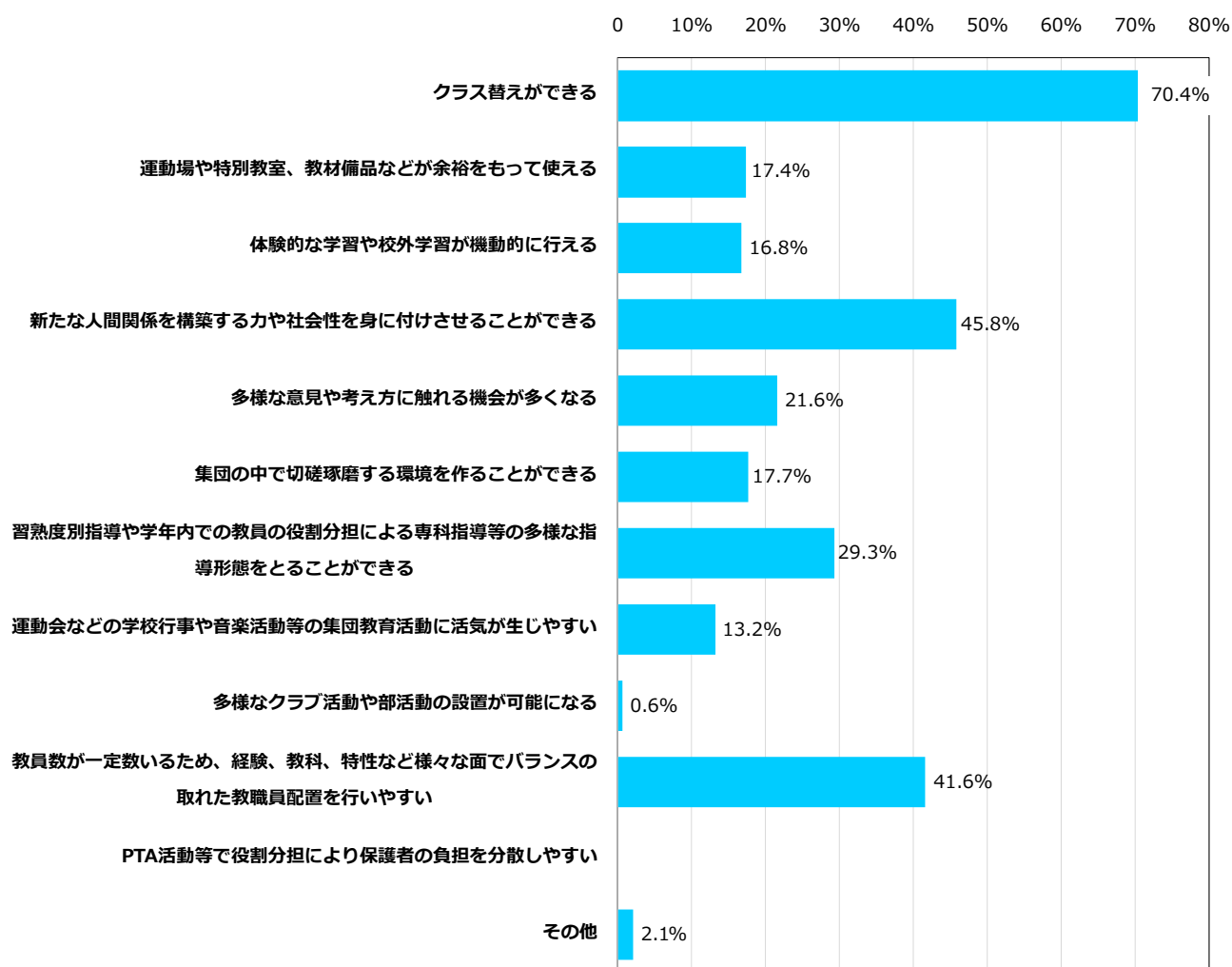


(n=2,045)

●教員

【小学校教員】

「問 1 1」でそのクラス数を選択した理由は「クラス替えができる」(70.4%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(45.8%)、「教員数が一定数いるため、経験、教科、特性など様々な面でバランスの取れた教職員配置を行いやすい」(41.6%) が上位 3 つとなった。

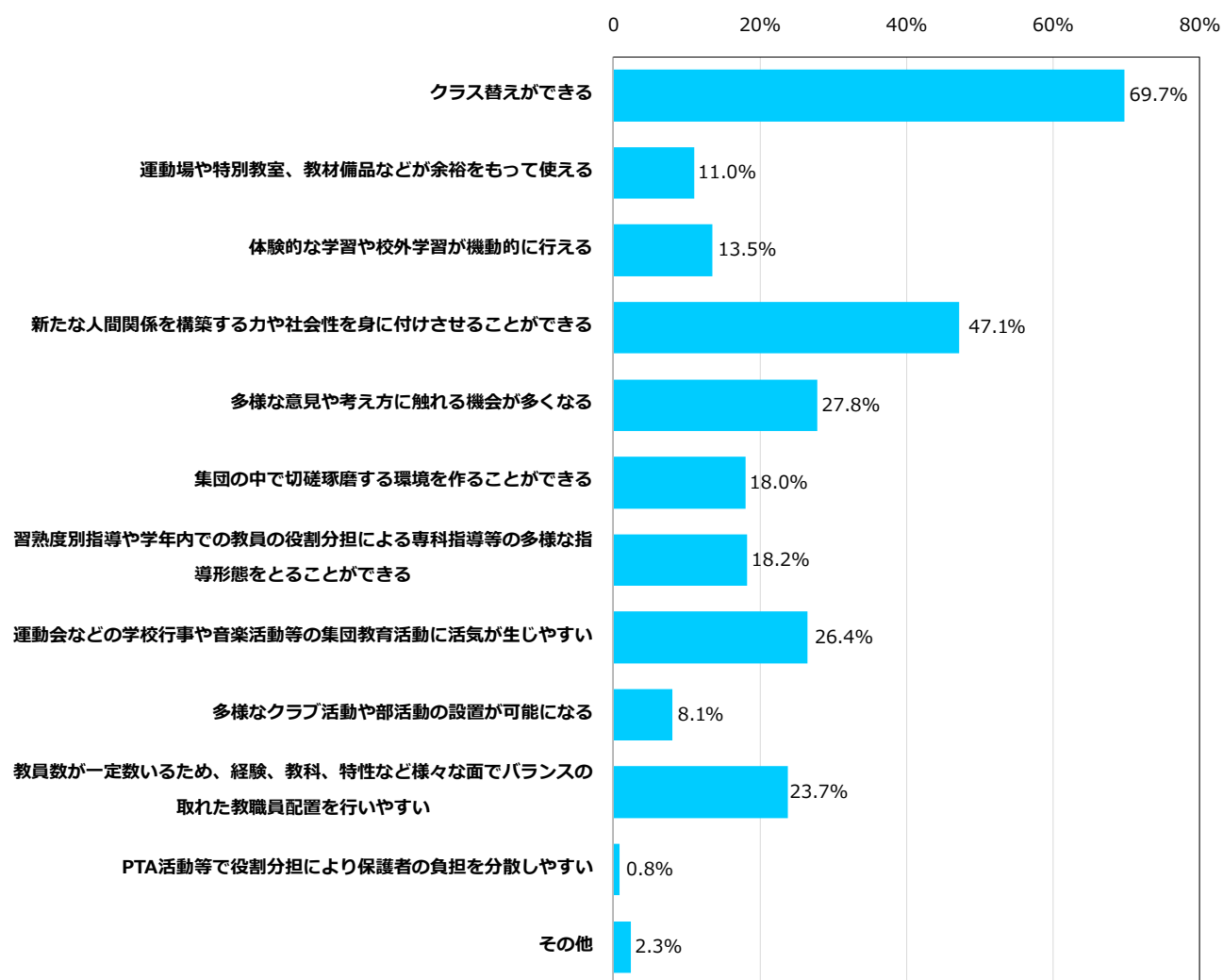


(n=334)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

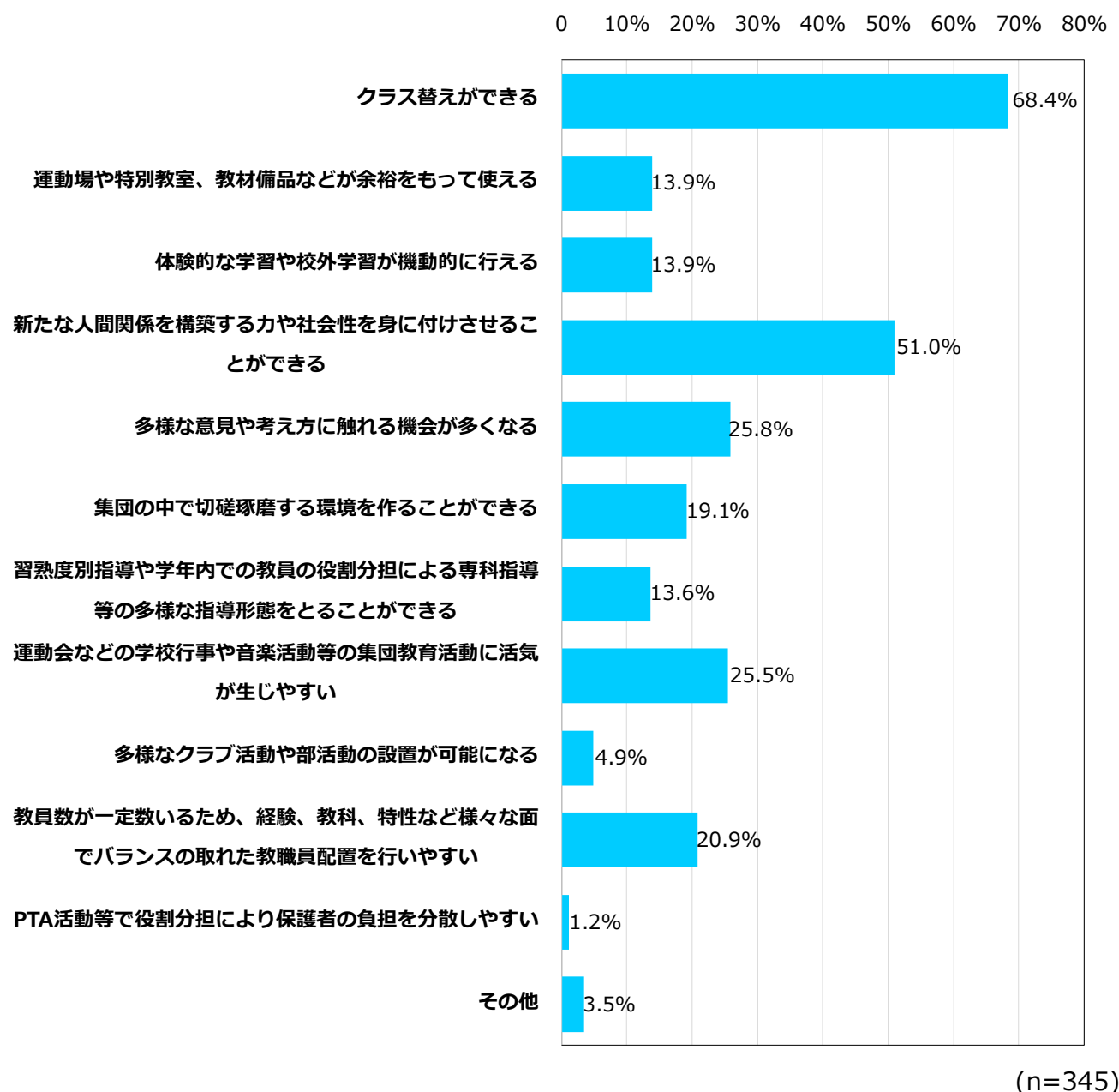
「問 9」でその人数を選択した理由は、「クラス替えができる」(69.7%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(47.1%)、「多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる」(27.8%) が上位 3 つとなった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

「問 9」でそのクラス数を選択した理由は、「クラス替えができる」(68.4%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(51.0%)、「多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる」(25.8%) が上位3つとなった。



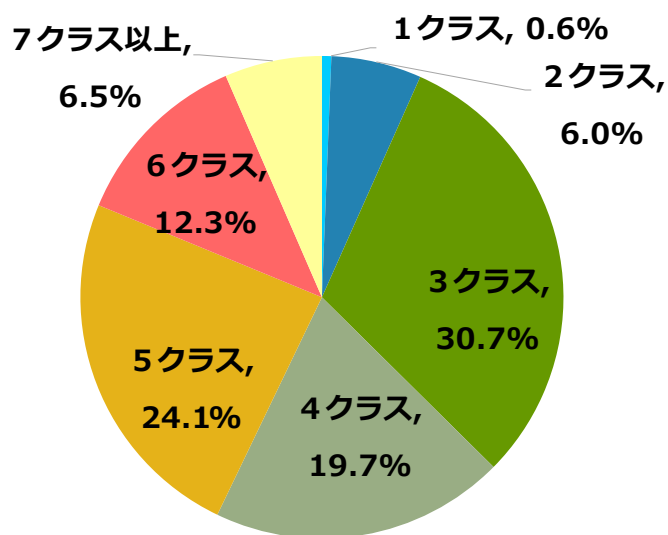
(28) (中学校) 1 学年あたりの望ましいクラス数

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(28) (中学校) 1 学年あたりの望ましいクラス数	1 クラス		0.6%		0.1%		0.5%	0.2%	0.3%
	2 クラス		6.0%		1.0%		2.7%	3.4%	4.9%
	3 クラス		30.7%		22.9%		33.5%	28.1%	30.1%
	4 クラス		19.7%		29.4%		46.2%	30.1%	35.7%
	5 クラス		24.0%		30.8%		12.2%	25.8%	20.6%
	6 クラス		12.2%		12.5%		5.0%	9.0%	7.5%
	7 クラス以上		6.5%		3.2%		0.0%	3.3%	0.9%
	不明		0.3%		0.0%		0.0%	0.2%	0.0%
			100.0%		100.0%		100.0%	100.0%	100.0%

●児童・生徒

【生徒】

学年のちょうど良いと思うクラス数は「3クラス」(30.7%)、「5クラス」(24.1%)、「4クラス」(19.7%) が上位3つとなった。

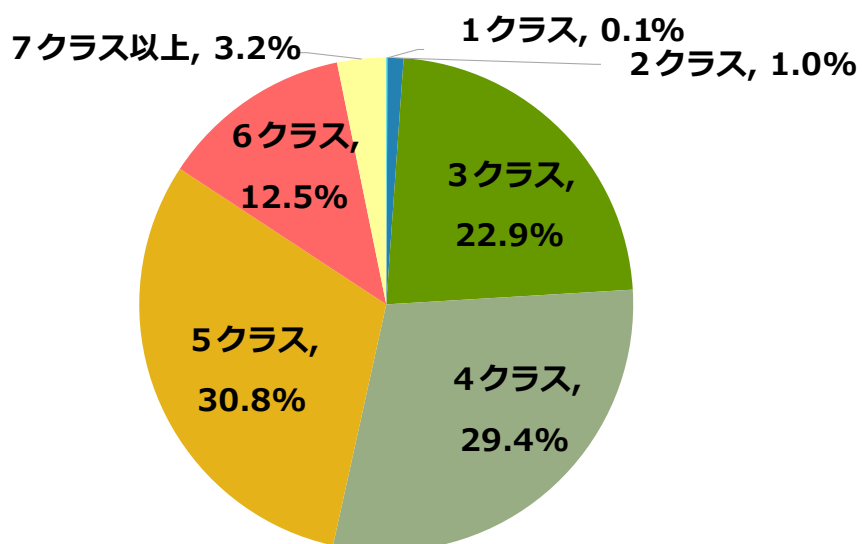


(n=3,191)

●児童・生徒の保護者

【生徒の保護者】

学年の望ましいと思うクラス数は「5クラス」(30.8%)、「4クラス」(29.4%)、「3クラス」(22.9%) が上位3つとなり、合計で約83%である。

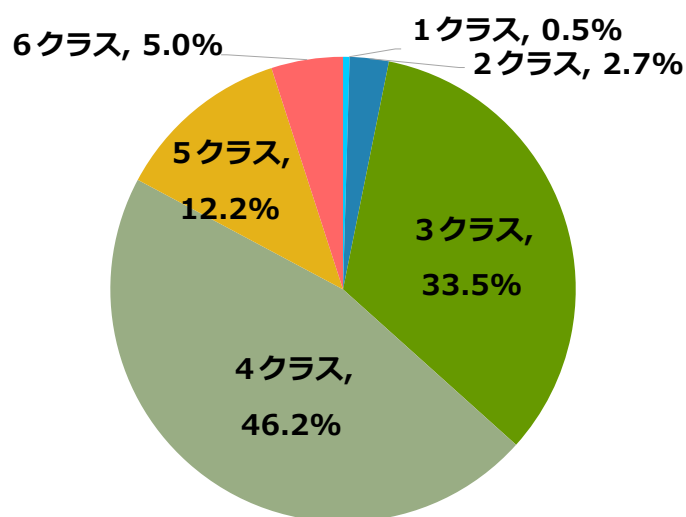


(n=1,156)

●教員

【中学校教員】

1 学年あたりの望ましいと思うクラス数は「4 クラス」(46.2%)、「3 クラス」(33.5%)、「5 クラス」(12.2%) が上位 3 つとなり、合計で約 92%である。

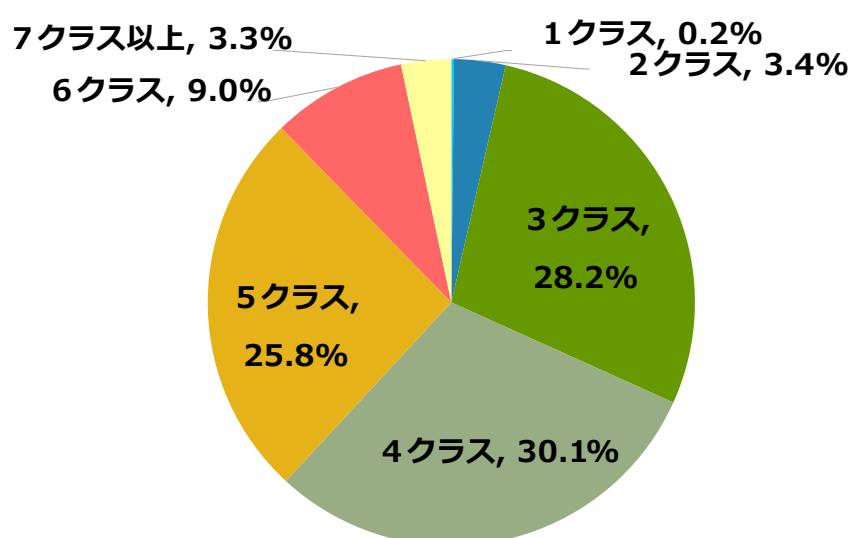


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

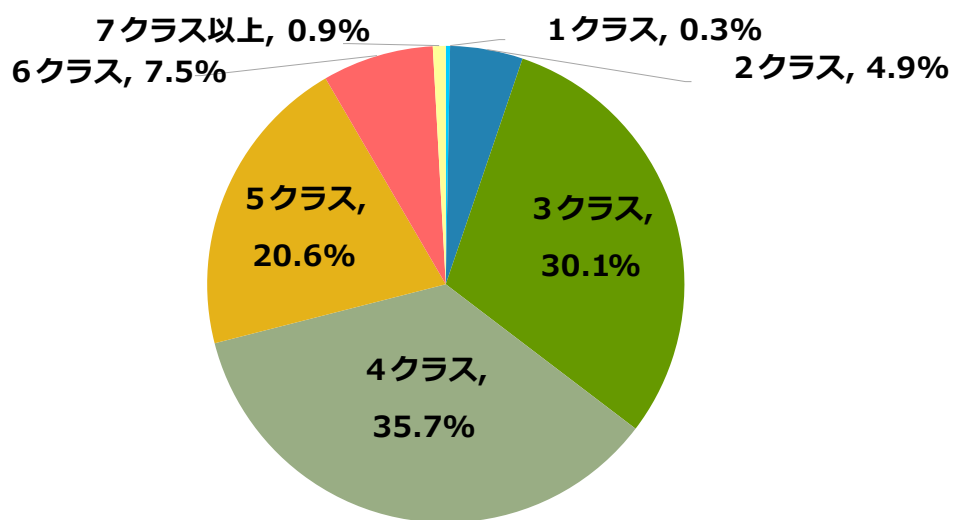
中学校 1 学年の望ましいと思うクラス数は「4 クラス」(30.1%)、「3 クラス」(28.2%)、「5 クラス」(25.8%) が上位 3 つとなり、合計で約 84%である。



(n=1,115)

【未就学児の保護者】

中学校 1 学年の望ましいと思うクラス数は「4 クラス」(35.7%)、「3 クラス」(30.1%)、「5 クラス」(20.6%) が上位 3 つとなり、合計で約 86%である。



(n=345)

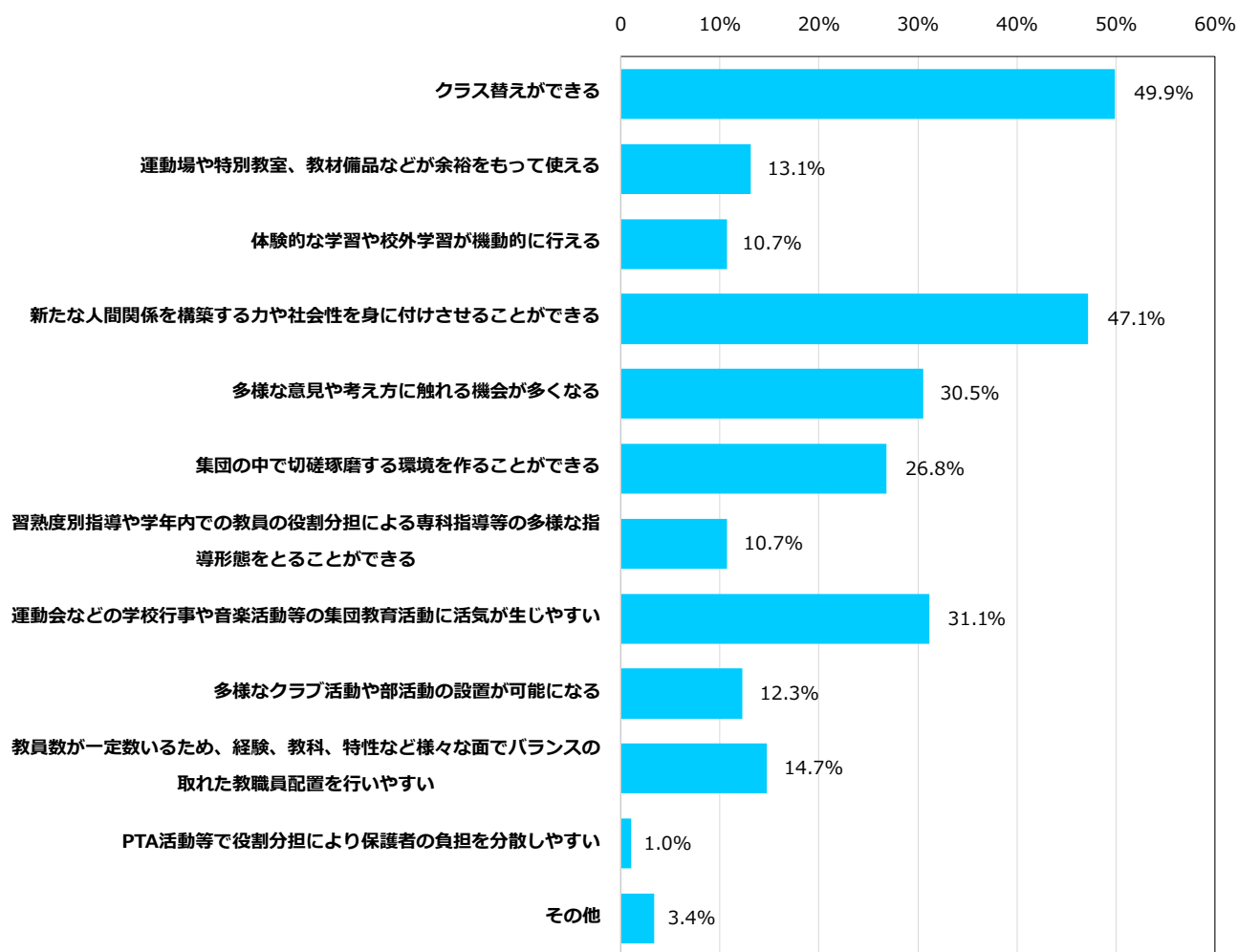
(29) 「(28) (中学校) 1 学年あたりの望ましいクラス数」の回答理由

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(29)「1 学年あたりの望ましいクラス数」の回答理由【複数回答】	クラス替えができる				49.9%		33.9%	61.2%	64.9%
	運動場や特別教室、教材備品などが余裕をもって使える				13.1%		25.3%	8.4%	10.1%
	体験的な学習や校外学習が機動的に行える				10.7%		24.0%	11.8%	11.0%
	新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる				47.1%		38.0%	52.4%	51.6%
	多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる				30.5%		18.6%	34.3%	29.6%
	集団の中で切磋琢磨する環境を作ることができる				26.8%		27.6%	25.8%	26.1%
	習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導等の多様な指導形態をとることがで				10.7%		15.8%	20.9%	17.7%
	運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい				31.1%		30.3%	22.1%	21.7%
	多様なクラブ活動や部活動の設置が可能になる				12.3%		3.6%	13.7%	12.8%
	教員が一定数いるため、経験、教科、特性など様々な面でバランスの取れた教職員配置を行い				14.7%		49.8%	22.4%	18.8%
	P T A 活動等で役割分担により保護者の負担を分散しやすい				1.0%		0.5%	0.9%	0.9%
	その他				3.4%		2.7%	1.8%	2.9%

●児童・生徒の保護者

【生徒の保護者】

「問14」でそのクラス数を選択した理由は「クラス替えができる」(49.9%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(47.1%)、「運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい」(31.1%)が上位3つとなった。

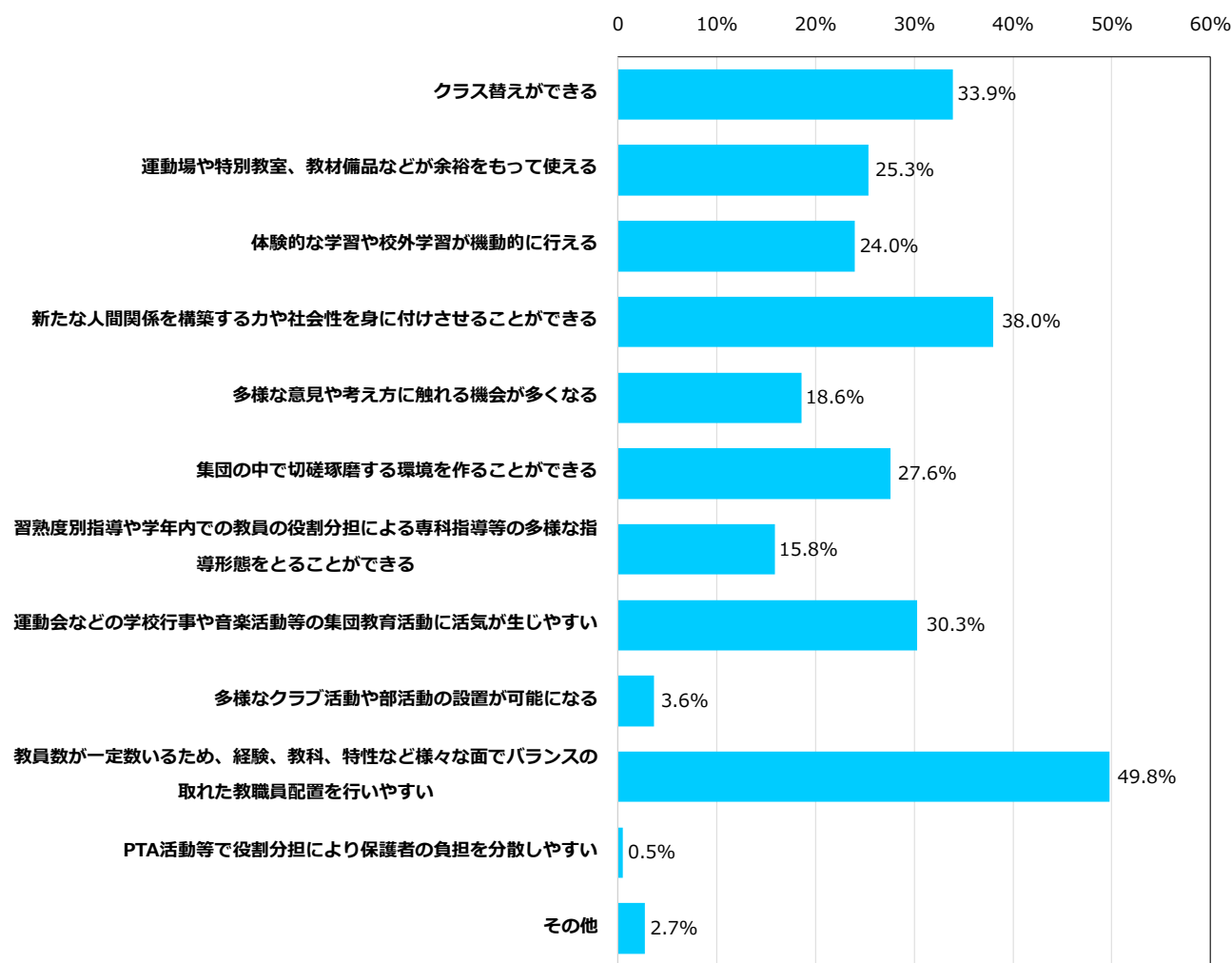


(n=1,156)

●教員

【中学校教員】

「問 1 1」でそのクラス数を選択した理由は「教員数が一定数いるため、経験、教科、特性など様々な面でバランスの取れた教職員配置を行いやすい」(49.8%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(38.0%)、「クラス替えができる」(33.9%) が上位 3 つとなった。

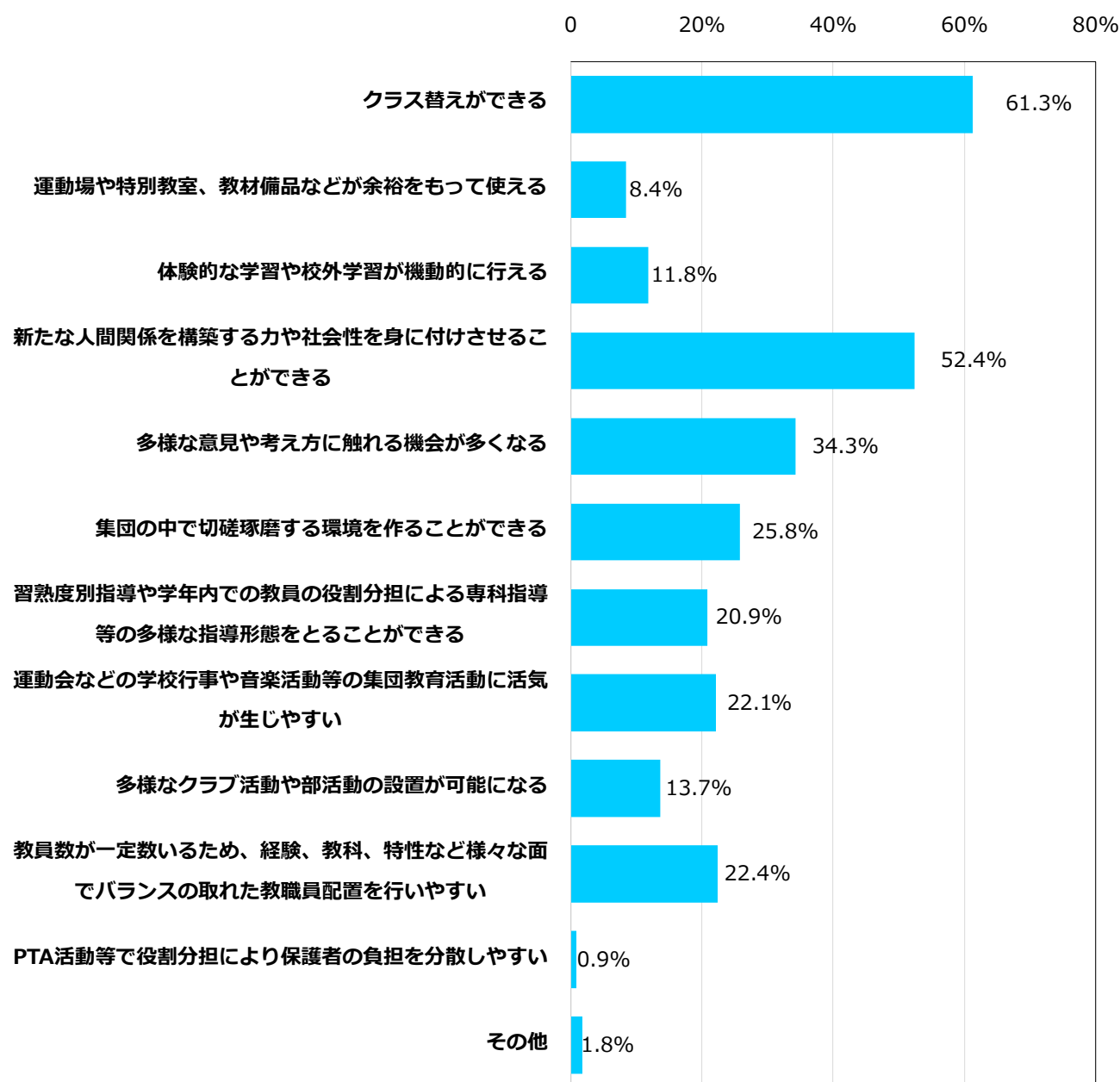


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

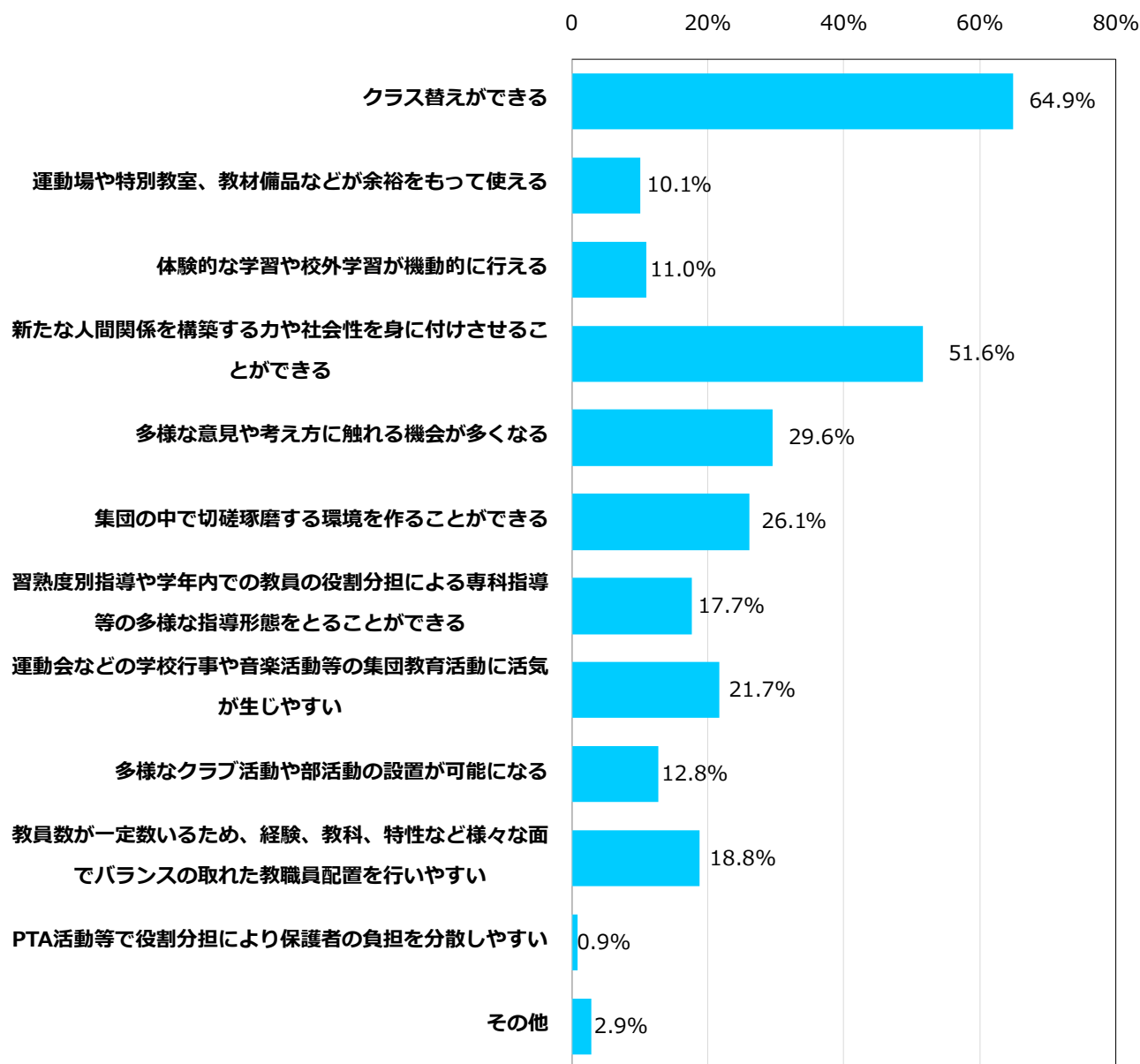
「問 1 1」でそのクラス数を選択した理由は「クラス替えができる」(61.3%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(52.4%)、「多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる」(34.3%) が上位 3 つとなった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

「問 1 1」でそのクラス数を選択した理由は「クラス替えができる」(64.9%)、「新たな人間関係を構築する力や社会性を身に付けさせることができる」(51.6%)、「多様な意見や考え方に触れる機会が多くなる」(29.6%) が上位 3 つとなった。



(n=345)

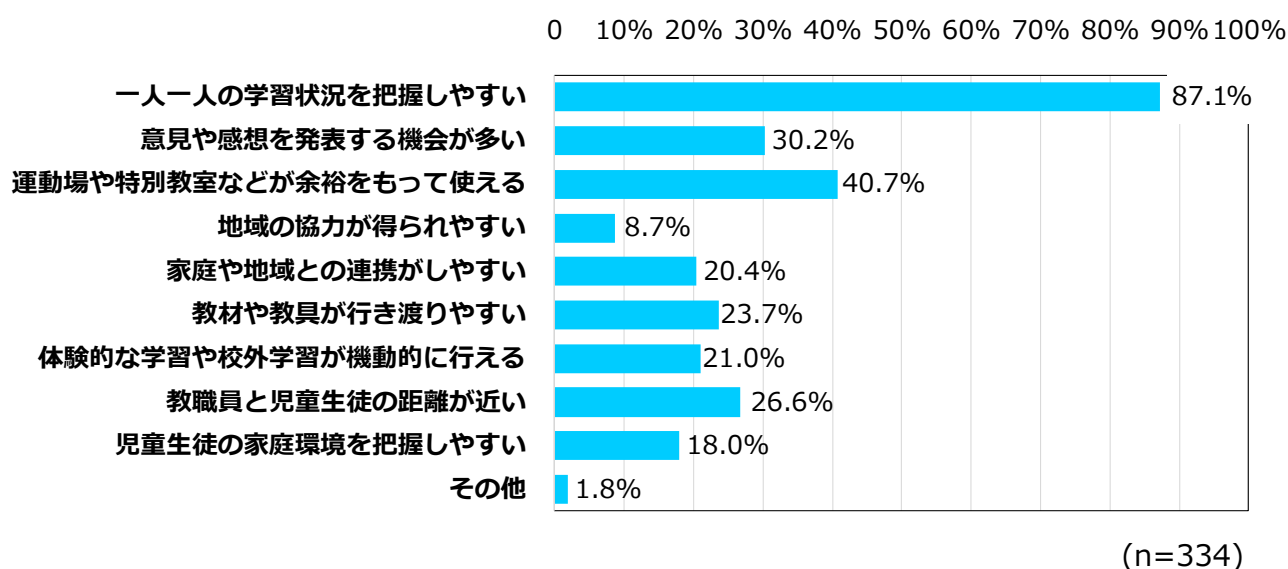
(30) 小規模校化によって生じ得る効果

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(30)小規模校化によって生じ得る効果【複数回答】	一人一人の学習状況を把握しやすい					87.1%	81.0%		
	意見や感想を発表する機会が多い					30.2%	27.6%		
	運動場や特別教室などが余裕をもって使える					40.7%	36.7%		
	地域の協力が得られやすい					8.7%	2.7%		
	家庭や地域との連携がしやすい					20.4%	19.9%		
	教材や教具が生き渡りやすい					23.7%	21.3%		
	体験的な学習や校外学習が機動的に行える					21.0%	19.9%		
	教職員と児童生徒の距離が近い					26.6%	44.3%		
	児童生徒の家庭環境を把握しやすい					18.0%	19.9%		
	その他					1.8%	0.5%		

●教員

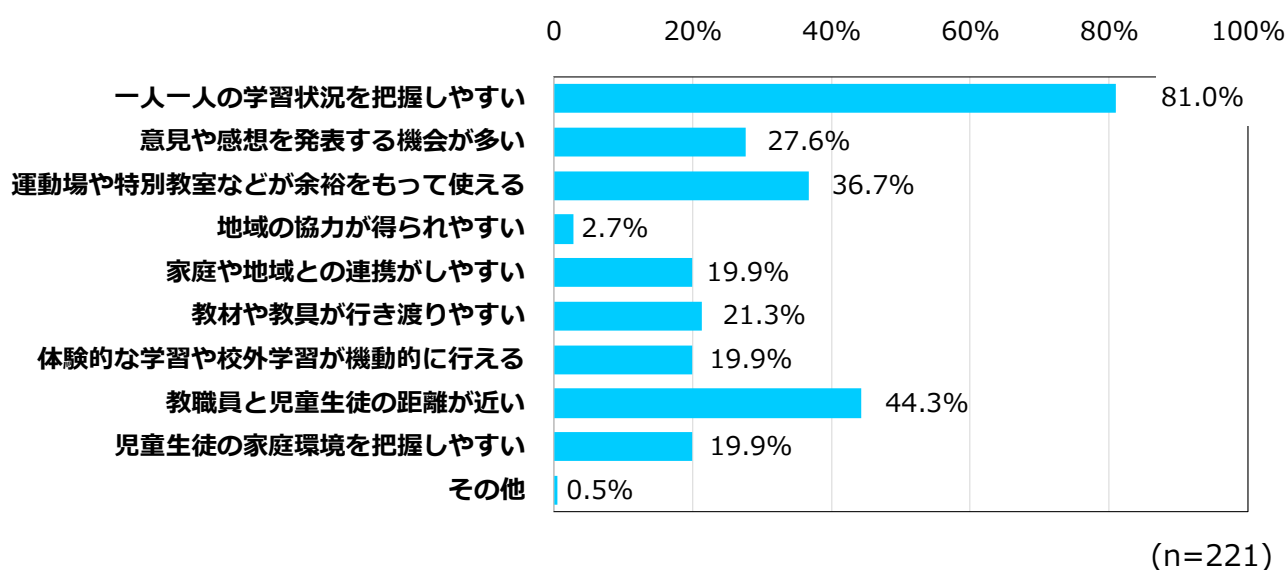
【小学校教員】

小規模校化（通常学級が 11 以下）で生じる効果と思われるものは、「一人一人の学習状況を把握しやすい」（87.1%）、「運動場や特別教室などが余裕をもって使える」（40.7%）、「意見や感想を発表する機会が多い」（30.2%）が上位 3 つとなった。



【中学校教員】

小規模校化（通常学級が 11 以下）で生じる効果と思われるものは、「一人一人の学習状況を把握しやすい」（81.0%）、「教職員と児童生徒の距離が近い」（44.3%）、「運動場や特別教室などが余裕をもって使える」（36.7%）が上位 3 つとなった。



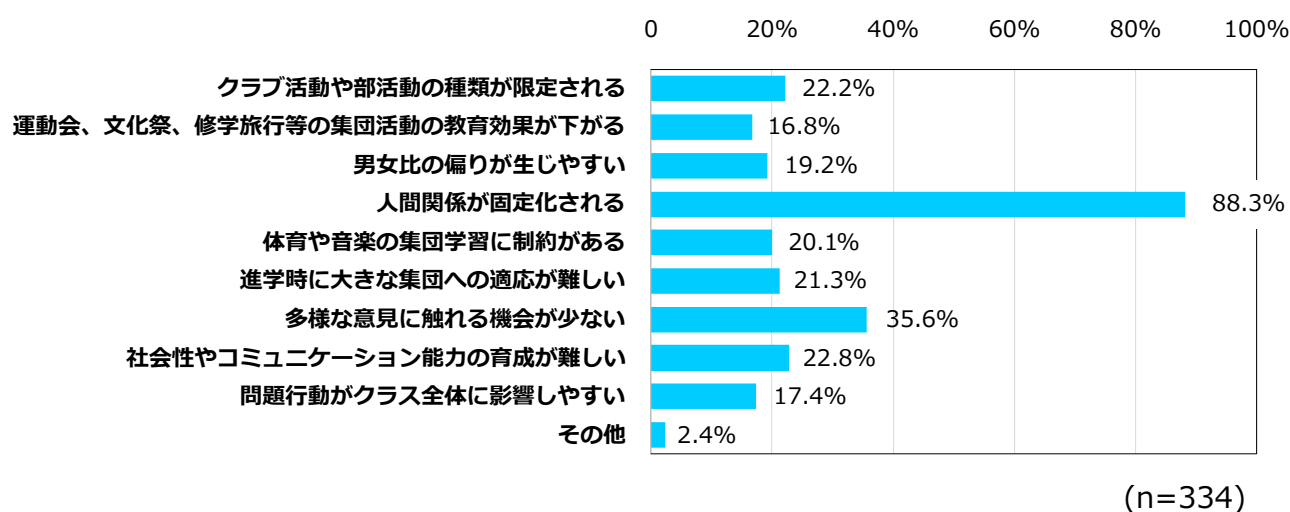
(31) 小規模校化によって生じ得る課題

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(31)小規模校化によって生じ得る課題【複数回答】	クラブ活動や部活動の種類が限定される					22.2%	48.4%		
	運動家、文化祭、修学旅行等の集団活動の教育効果が下がる					16.8%	28.1%		
	男女比の偏りが生じやすい					19.2%	22.2%		
	人間関係が固定化される					88.3%	78.7%		
	体育や音楽の集団学習に制約がある					20.1%	14.9%		
	進学時に大きな集団への適応が難しい					21.3%	19.0%		
	多様な意見に触れる機会が少ない					35.6%	20.8%		
	社会性やコミュニケーション能力の育成が難しい					22.8%	22.6%		
	問題行動がクラス全体に影響しやすい					17.4%	12.7%		
	その他					2.4%	1.8%		

●教員

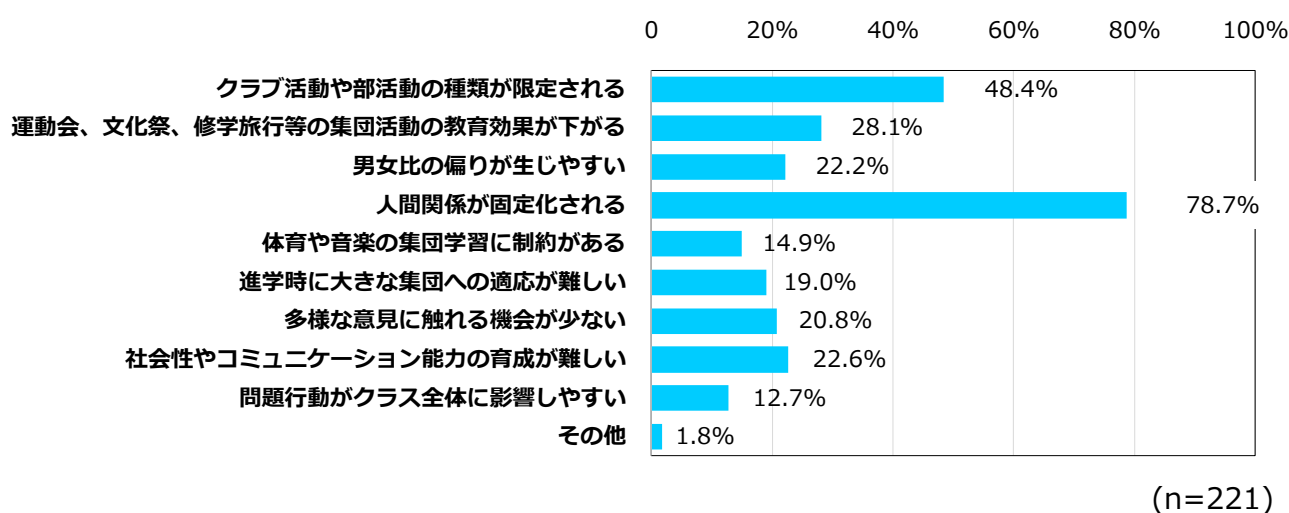
【小学校教員】

小規模校化（通常学級が 11 以下）の課題としては、「人間関係が固定化される」（88.3%）、「多様な意見に触れる機会が少ない」（35.6%）、「社会性やコミュニケーション能力の育成が難しい」（22.8%）が上位 3 つとなった。



【中学校教員】

小規模校化（通常学級が 11 以下）の課題としては、「人間関係が固定化される」（78.7%）、「クラブ活動や部活動の種類が限定される」（48.4%）、「運動会、文化祭、修学旅行等の集団活動の教育効果が下がる」（28.1%）が上位 3 つとなった。



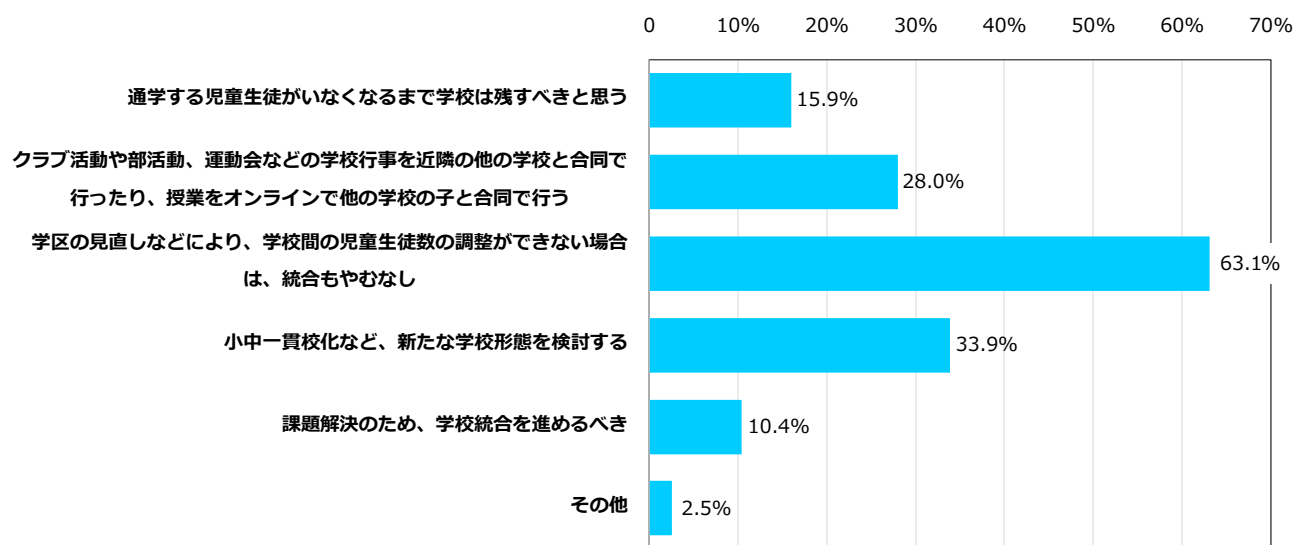
(32) 小中学校の統合に対する考え

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(32)小中学校の統合に対する考え 【複数回答】	進学する児童生徒がいなくなるまで学校は残すべきと思う			15.9%	15.1%	13.2%	13.1%	10.9%	10.7%
	クラブ活動や部活動、運動会などの学校行事を近隣の他の学校と合同で行ったり、授業をオンラインで他の学校の子と合同で行う			28.0%	29.4%	20.7%	24.9%	33.2%	29.0%
	学区の見直しなどにより、学校間の児童生徒数の調整ができない場合は、統合もやむなし			63.1%	63.8%	67.7%	70.6%	61.2%	62.0%
	小中一貫校化など、新たな学校形態を検討する			33.9%	32.4%	42.2%	40.3%	46.1%	36.5%
	課題解決のため、学校統合を進めるべき			10.4%	10.3%	11.7%	12.7%	13.7%	15.9%
	その他			2.5%	1.4%	1.2%	0.5%	3.3%	4.1%

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

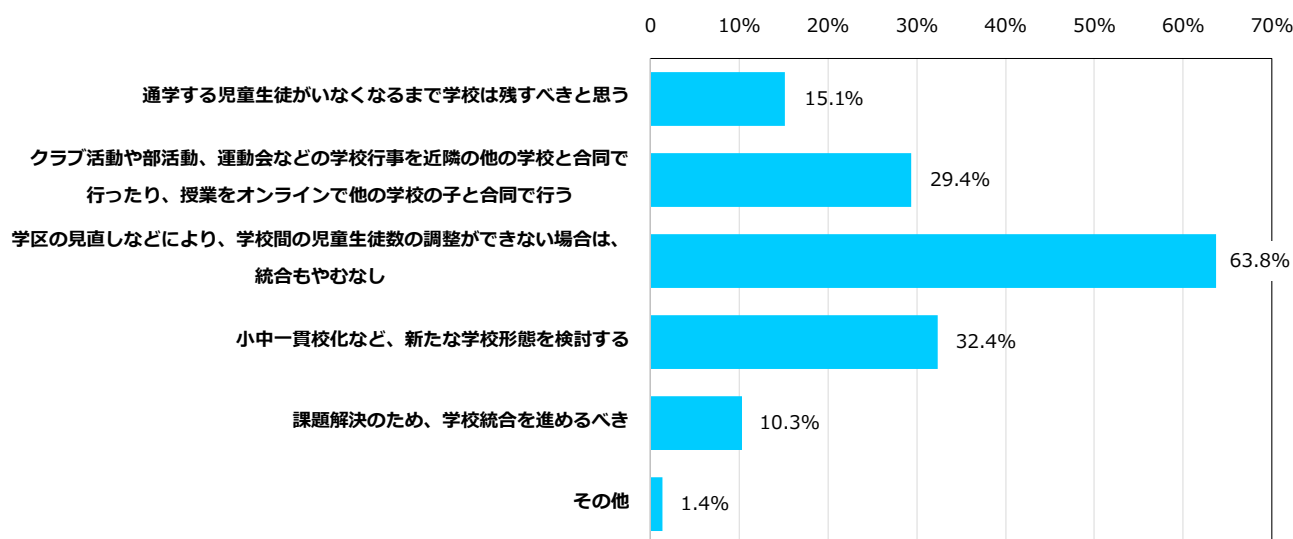
小中学校の統合を進めている自治体については、「学区の見直しなどにより、学校間の児童生徒数の調整ができない場合は、統合もやむなし」(63.1%)、「小中一貫校化など、新たな学校形態を検討する」(33.9%)、「クラブ活動や部活動、運動会などの学校行事を近隣の他の学校と合同で行ったり、授業をオンラインで他の学校の子と合同で行う」(28.0%)が上位3つの回答となった。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

小中学校の統合を進めている自治体については、「学区の見直しなどにより、学校間の児童生徒数の調整ができない場合は、統合もやむなし」(63.8%)、「小中一貫校化など、新たな学校形態を検討する」(32.4%)、「クラブ活動や部活動、運動会などの学校行事を近隣の他の学校と合同で行ったり、授業をオンラインで他の学校の子と合同で行う」(29.4%)が上位3つとなった。

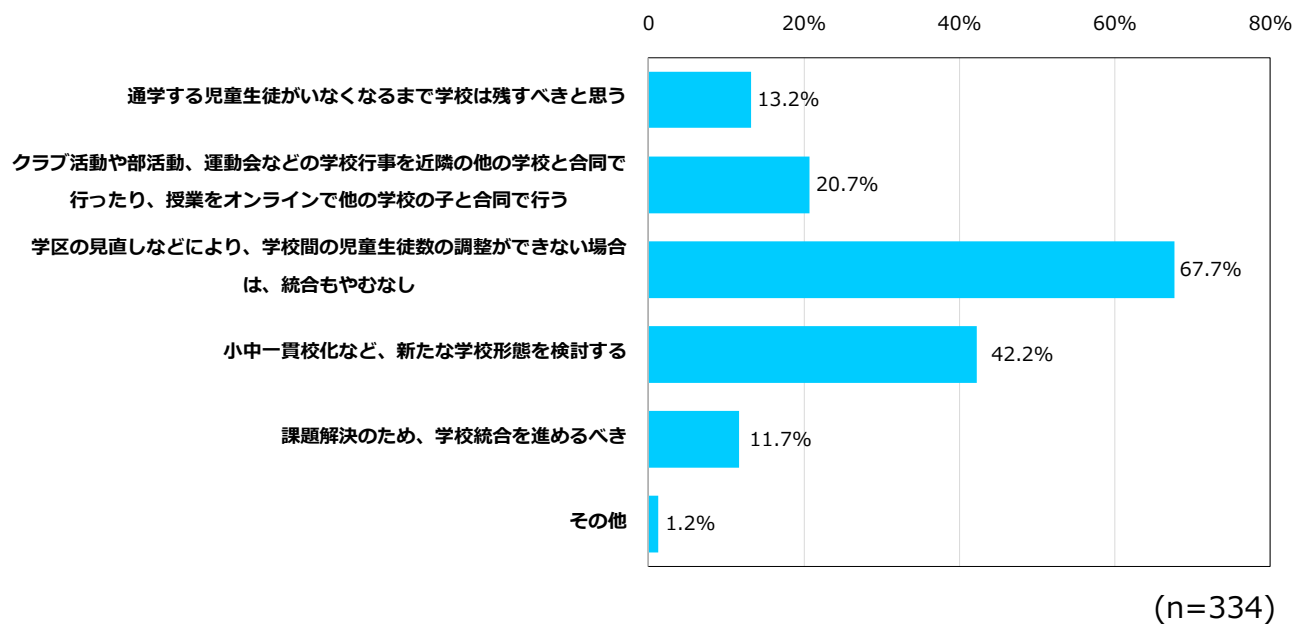


(n=1,156)

●教員

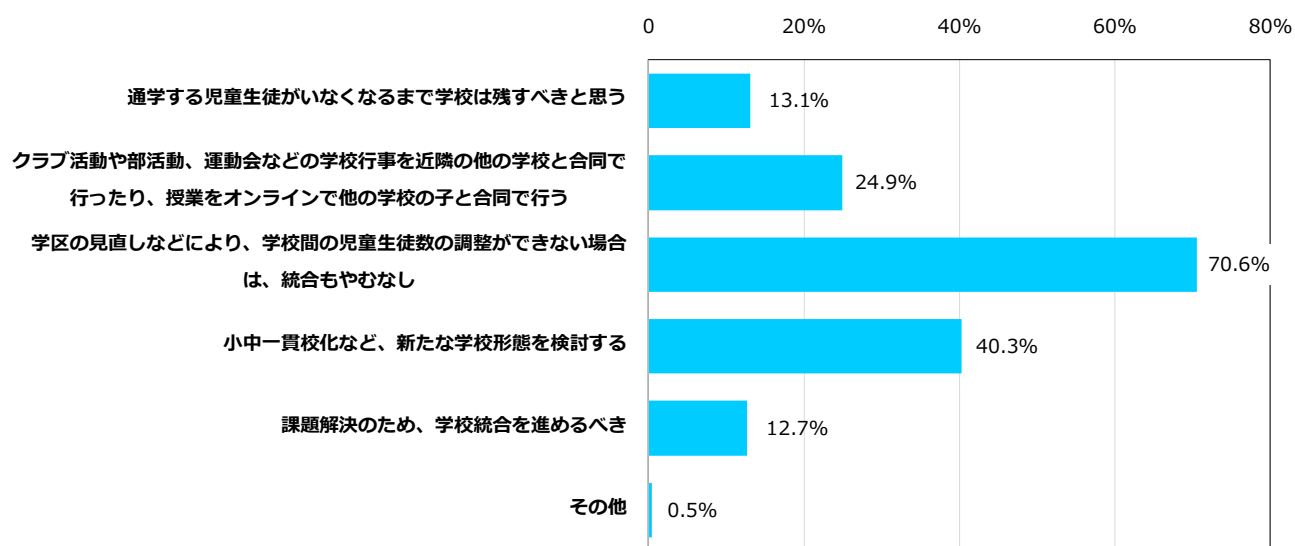
【小学校教員】

小中学校の統合を進めている自治体については、「学区の見直しなどにより、学校間の児童生徒数の調整ができない場合は、統合もやむなし」(67.7%)、「小中一貫校化など、新たな学校形態を検討する」(42.2%)、「クラブ活動や部活動、運動会などの学校行事を近隣の他の学校と合同で行ったり、授業をオンラインで他の学校の子と合同で行う」(20.7%)が上位3つの回答となった。



【中学校教員】

小中学校の統合を進めている自治体については、「学区の見直しなどにより、学校間の児童生徒数の調整ができない場合は、統合もやむなし」(70.6%)、「小中一貫校化など、新たな学校形態を検討する」(40.3%)、「クラブ活動や部活動、運動会などの学校行事を近隣の他の学校と合同で行ったり、授業をオンラインで他の学校の子と合同で行う」(24.9%)が上位3つの回答となった。

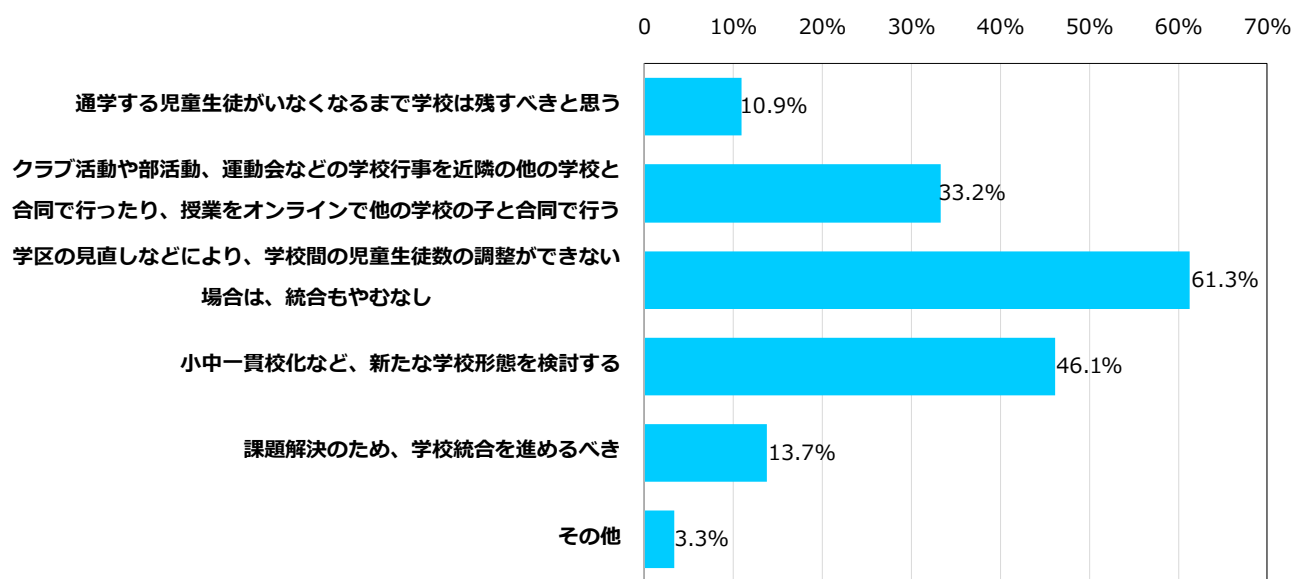


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

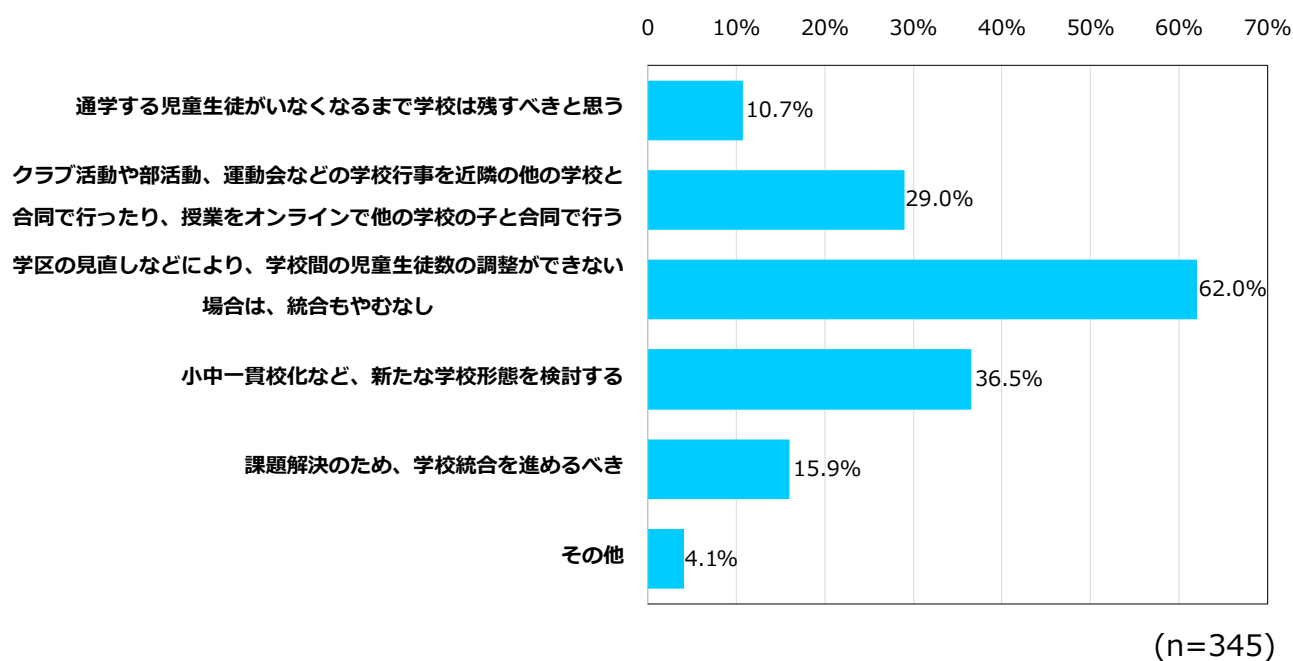
小中学校の統合を進めている自治体については、「学区の見直しなどにより、学校間の児童生徒数の調整ができない場合は、統合もやむなし」(61.3%)、「小中一貫校化など、新たな学校形態を検討する」(46.1%)、「クラブ活動や部活動、運動会などの学校行事を近隣の他の学校と合同で行ったり、授業をオンラインで他の学校の子と合同で行う」(33.2%) が上位 3 つの回答となった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

小中学校の統合を進めている自治体については、「学区の見直しなどにより、学校間の児童生徒数の調整ができない場合は、統合もやむなし」(62.0%)、「小中一貫校化など、新たな学校形態を検討する」(36.5%)、「クラブ活動や部活動、運動会などの学校行事を近隣の他の学校と合同で行ったり、授業をオンラインで他の学校の子と合同で行う」(29.0%)が上位3つの回答となった。



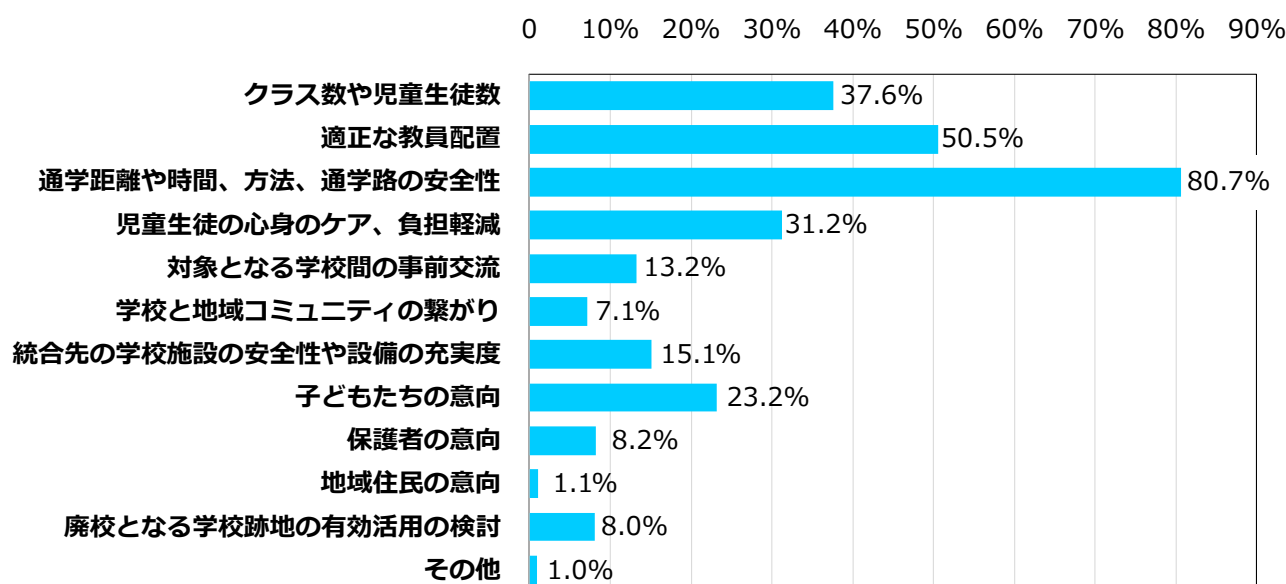
(33) 学区の見直しや学校統合の検討を行う場合に考慮すべき事項

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(33)学区の見直しや学校統合の検討を行う場合に考慮すべき事項【複数回答】	クラス数や児童生徒数			37.6%	36.2%	50.0%	49.3%	32.9%	35.9%
	適正な教員配置			50.5%	46.8%	63.8%	72.9%	45.8%	57.1%
	通学距離や時間、方法、通学路の安全性			80.7%	77.2%	65.9%	66.5%	78.2%	76.8%
	児童生徒の心身のケア、負担軽減			31.2%	30.7%	23.7%	19.9%	30.1%	33.0%
	対象となる学校間の事前交流			13.2%	11.9%	15.3%	14.0%	12.9%	11.3%
	学校と地域コミュニティの繋がり			7.1%	8.1%	8.4%	8.1%	14.7%	8.1%
	統合先の学校施設の安全性や設備の充実度			15.1%	16.2%	12.0%	15.4%	18.1%	19.4%
	子どもたちの意向			23.2%	24.0%	12.0%	13.1%	20.7%	20.9%
	保護者の意向			8.2%	8.5%	13.5%	9.5%	8.9%	8.4%
	地域住民の意向			1.1%	1.5%	5.4%	4.5%	3.9%	1.4%
	廃校となる学校跡地の有効活用の検討			8.0%	9.1%	3.0%	4.5%	13.1%	7.0%
	その他			1.0%	1.0%	0.6%	0.9%	0.5%	1.7%

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

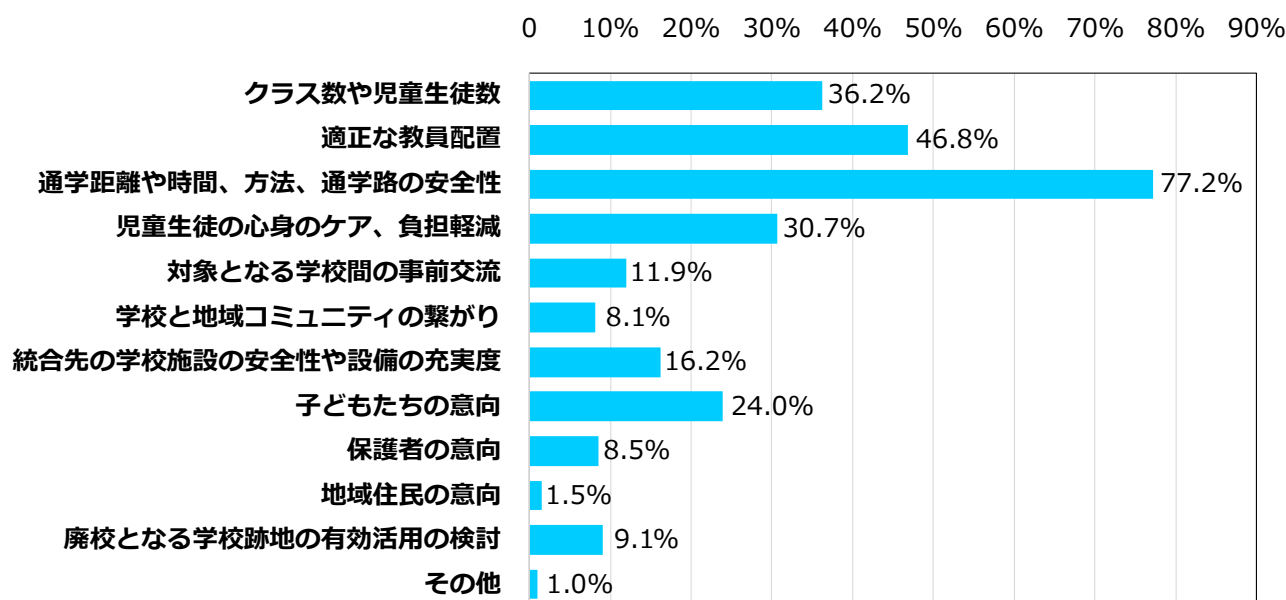
今後、学区の見直しや学校統合の検討を行うとなった場合の重視事項は、「通学距離や時間、方法、通学路の安全性」（80.7%）、「適正な教員配置」（50.5%）、「クラス数や児童生徒数」（37.6%）が上位3つとなった。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

今後、学区の見直しや学校統合の検討を行うとなった場合の重視事項は、「通学距離や時間、方法、通学路の安全性」（77.2%）、「適正な教員配置」（46.8%）、「クラス数や児童生徒数」（36.2%）が上位3つとなった。

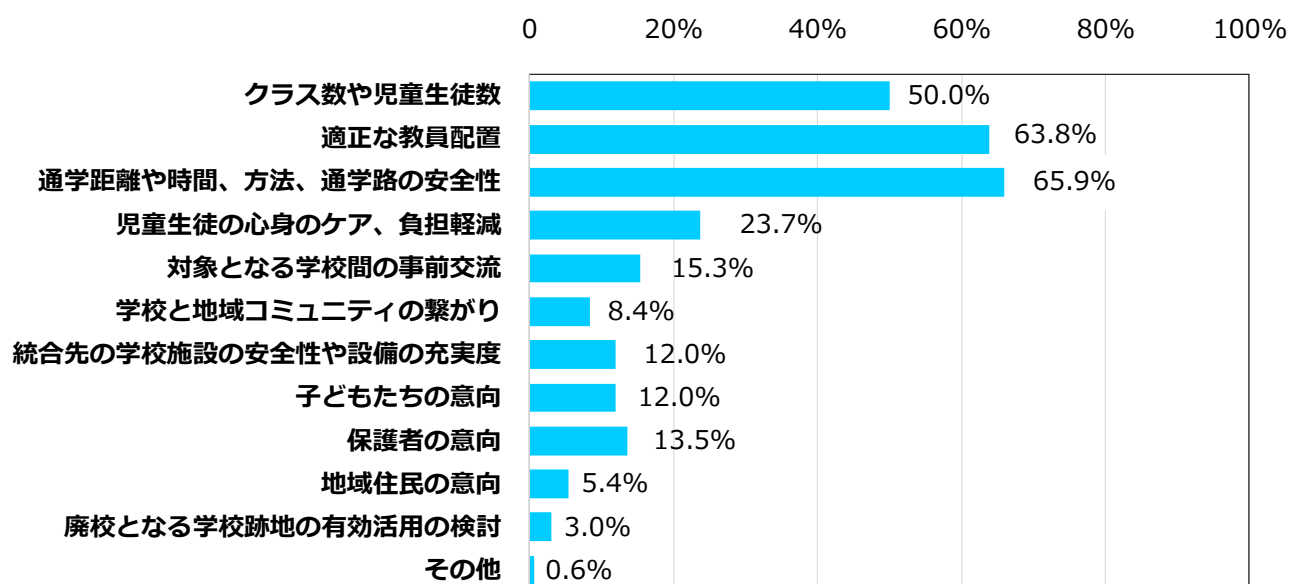


(n=1,156)

●教員

【小学校教員】

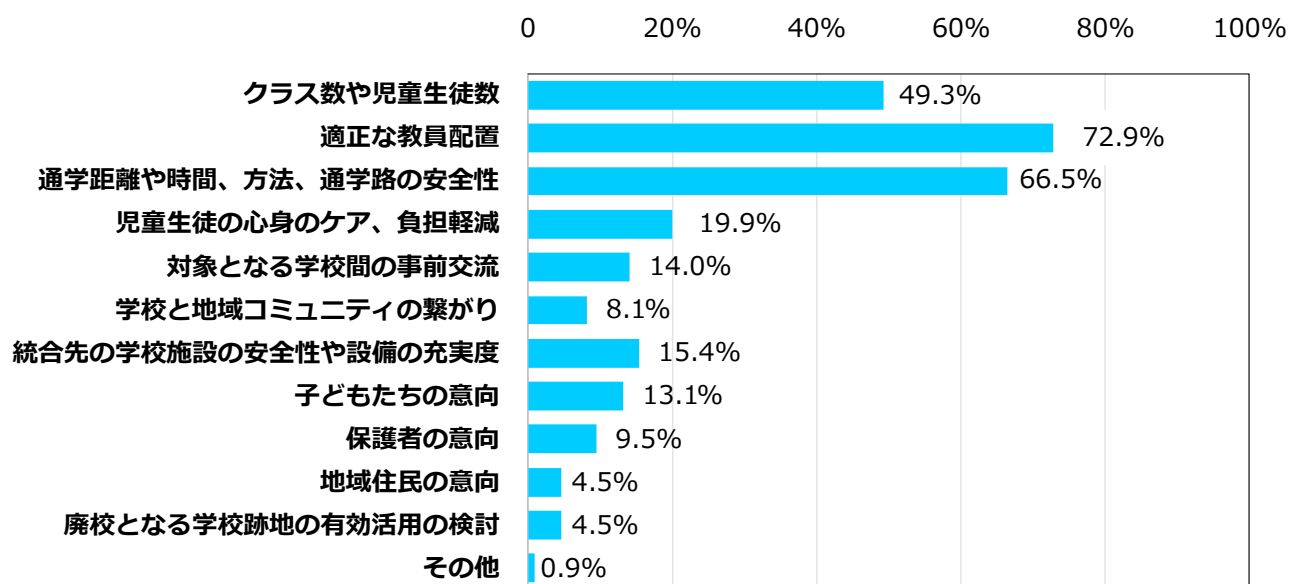
今後、学区の見直しや学校統合の検討を行うとなった場合の重視事項は、「通学距離や時間、方法、通学路の安全性」（65.9%）、「適正な教員配置」（63.8%）、「クラス数や児童生徒数」（50.0%）が上位3つとなった。



(n=334)

【中学校教員】

今後、学区の見直しや学校統合の検討を行うとなった場合の重視事項は、「適正な教員配置」(72.9%)、「通学距離や時間、方法、通学路の安全性」(66.5%)、「クラス数や児童生徒数」(49.3%)が上位3つとなった。

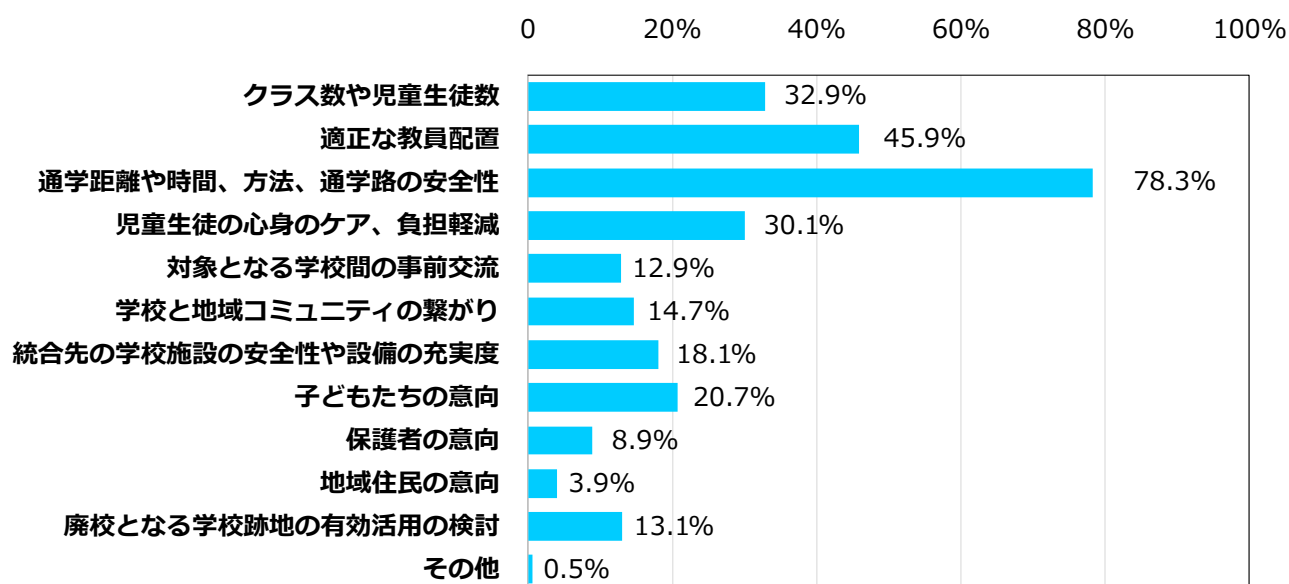


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

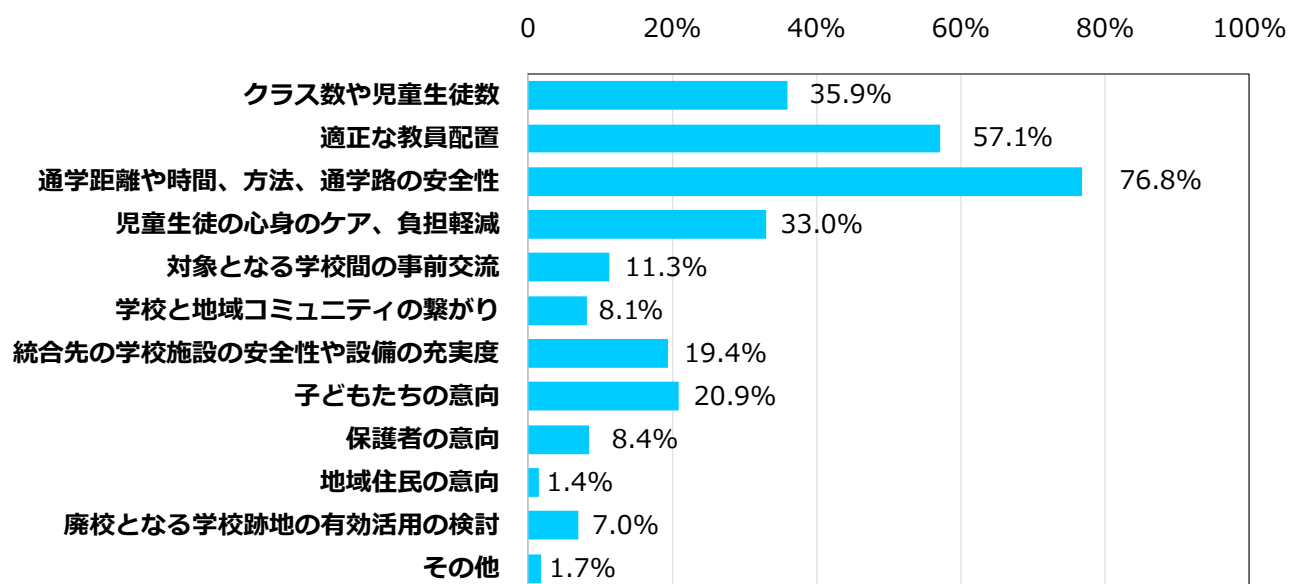
今後、学区の見直しや学校統合の検討を行うとなった場合の重視事項は、「通学距離や時間、方法、通学路の安全性」（78.3%）、「適正な教員配置」（45.9%）、「クラス数や児童生徒数」（32.9%）が上位3つとなった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

今後、学区の見直しや学校統合の検討を行うとなった場合の重視事項は、「通学距離や時間、方法、通学路の安全性」（76.8%）、「適正な教員配置」（57.1%）、「クラス数や児童生徒数」（35.9%）が上位3つとなった。



(n=345)

■通学状況についてお聞きします

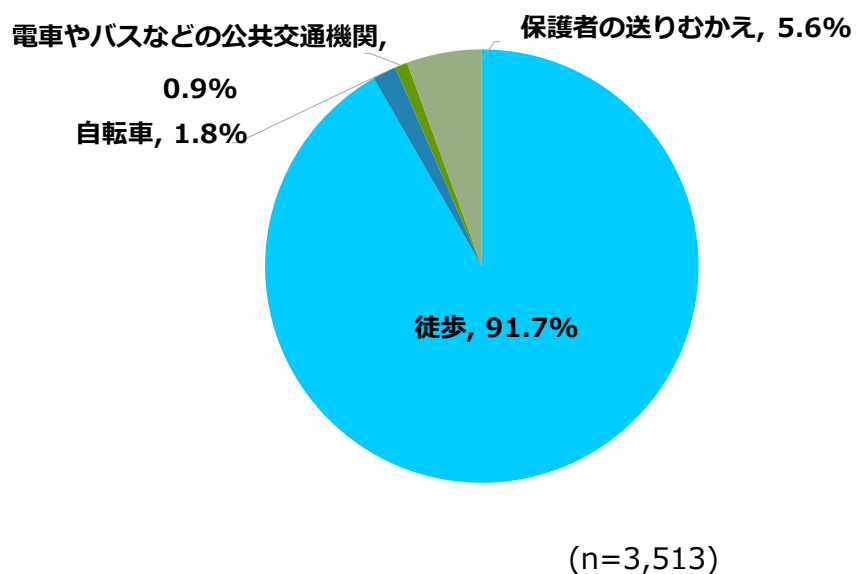
(34) 学校までの通学手段

設問	選択肢	回答者の属性（割合）			
		児童	生徒	児童	生徒
				保護者	保護者
(34)学校までの通学手段	徒歩	91.4%	82.4%	96.0%	82.8%
	自転車	1.8%	14.0%	0.2%	13.8%
	電車やバスなどの公共交通機関	0.9%	1.3%	0.3%	1.0%
	保護者の送り迎え	5.6%	2.2%	3.5%	2.4%
	不明	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

●児童・生徒

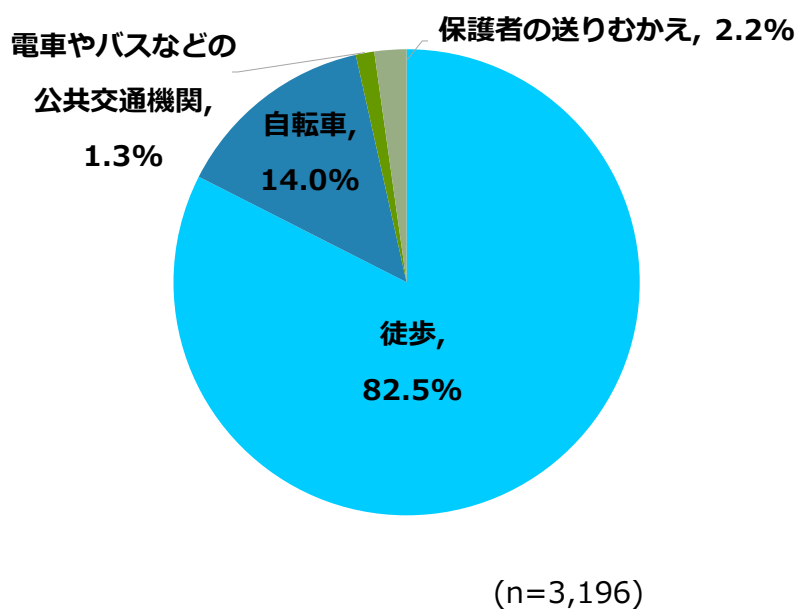
【児童】

学校までの通学方法では「徒歩」(91.7%)、「保護者の送りむかえ」(5.6%)、「自転車」(1.8%)が上位3つとなり、合計で約99%である。



【生徒】

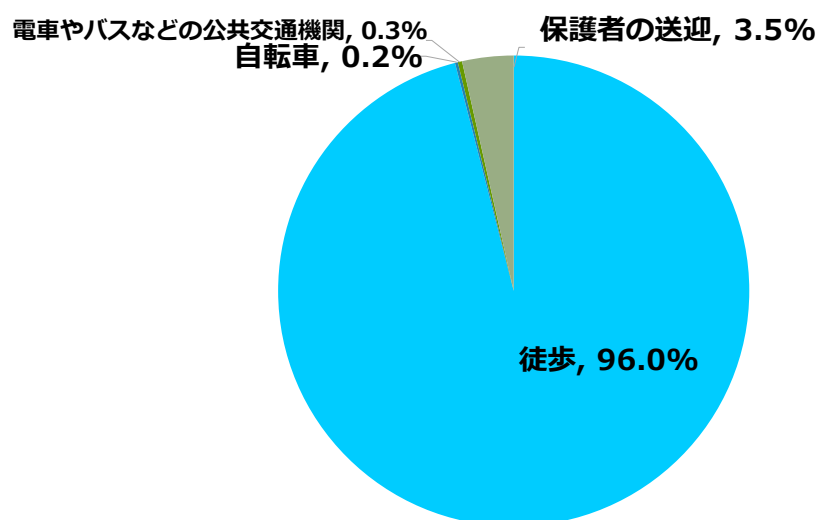
学校までの通学方法では「徒歩」(82.5%)、「自転車」(14.0%)、「保護者の送りむかえ」(2.2%)が上位3つとなり、合計で約99%である。



●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

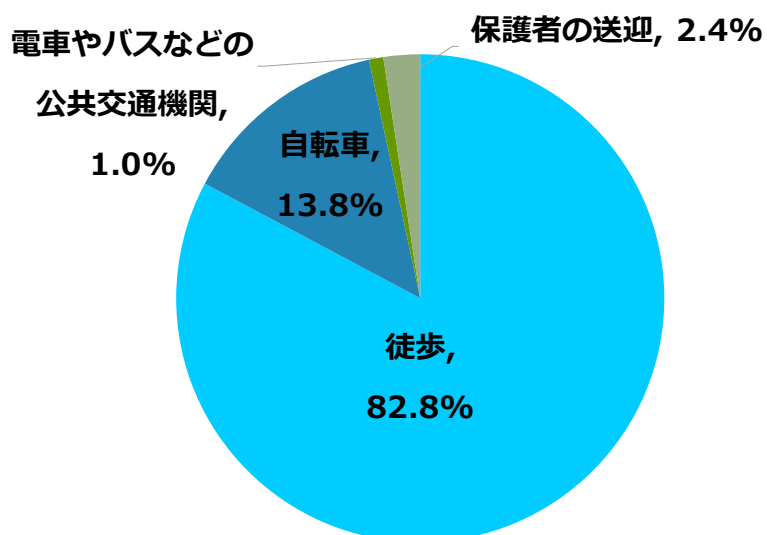
回答者の子どもの学校までの通学方法は、「徒歩」(96.0%)、「保護者の送迎」(3.5%)、「電車やバスなどの公共交通機関」(0.3%)が上位3つとなった。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

回答者の子どもの学校までの通学方法は、「徒歩」(82.8%)、「自転車」(13.8%)、「保護者の送迎」(2.4%)が上位3つとなった。



(n=1,156)

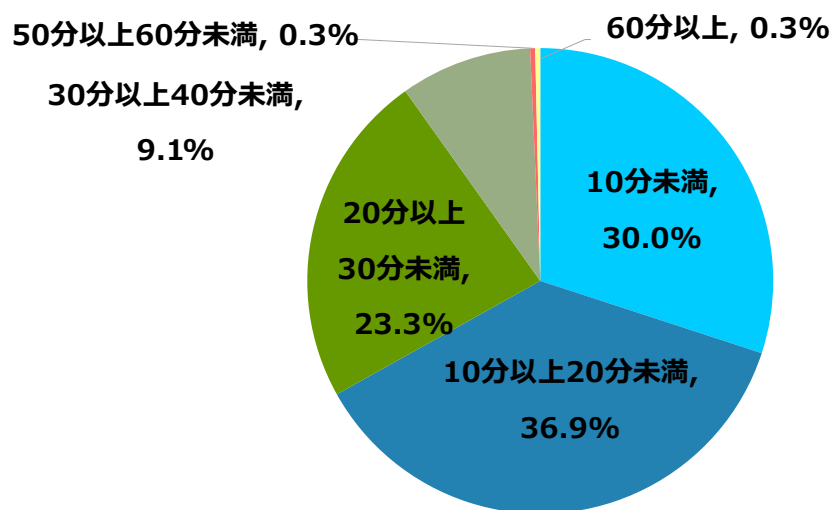
(35) 自宅から学校までの通学時間

設問	選択肢	回答者の属性（割合）			
		児童	生徒	児童	生徒
				保護者	保護者
(35) 自宅から学校までの通学時間	10分未満	 29.4%	 23.3%	 26.1%	 25.2%
	10分以上20分未満	 36.1%	 47.3%	 41.7%	 52.5%
	20分以上30分未満	 22.8%	 23.1%	 22.0%	 18.7%
	30分以上40分未満	 8.9%	 5.1%	 8.6%	 3.3%
	40分以上50分未満	 0.0%	 0.3%	 1.5%	 0.2%
	50分以上60分未満	 0.3%	 0.2%	 0.0%	 0.1%
	60分以上	 0.3%	 0.3%	 0.0%	 0.1%
	不明	 2.2%	 0.5%	 0.0%	 0.0%
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

●児童・生徒

【児童】

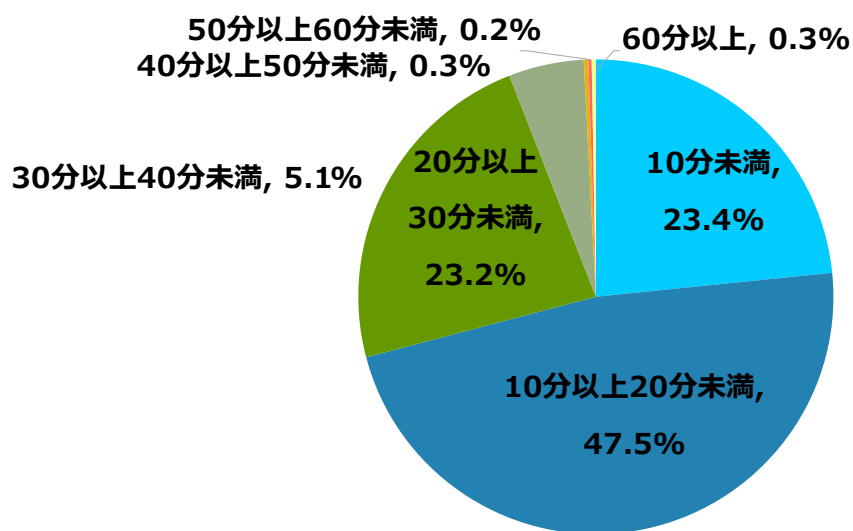
自宅から学校までの通学時間は「10分以上20分未満」(36.9%)、「10分未満」(30.0%)、「20分以上30分未満」(23.3%)が上位3つとなり、合計で約90%である。



(n=3,447)

【生徒】

自宅から学校までの通学時間は「10分以上20分未満」(47.5%)、「10分未満」(23.4%)、「20分以上30分未満」(23.2%)が上位3つとなり、合計で約94%である。

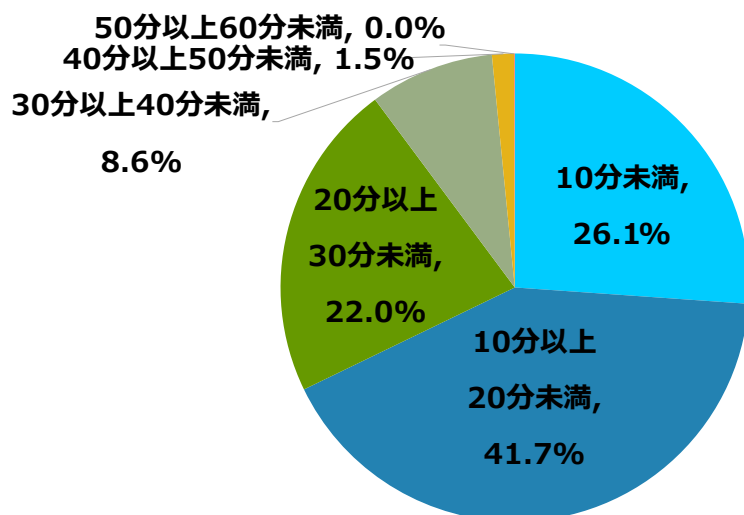


(n=3,185)

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

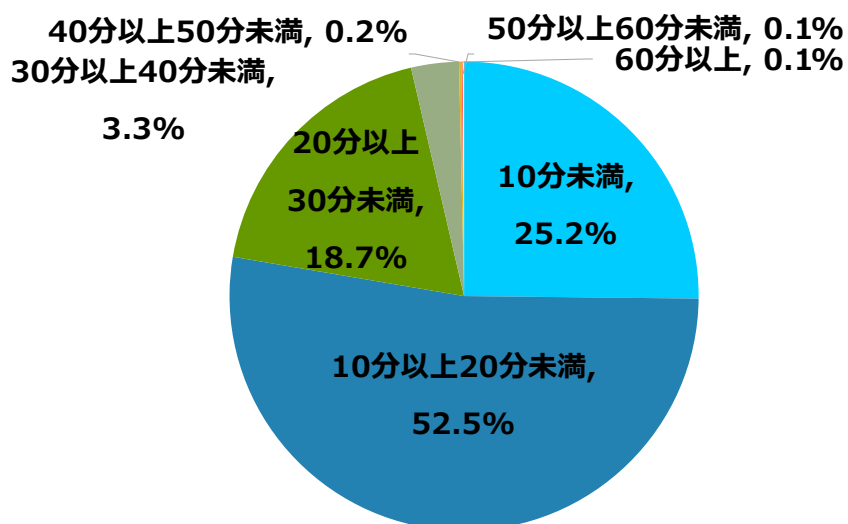
「問 1 8」の方法で通学する場合、自宅から学校までの通学時間は「10分以上 20分未満」(41.7%)、「10分未満」(26.1%)、「20分以上 30分未満」(22.0%) が上位 3 つとなり、合計で約 90%である。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

「問 1 8」の方法で通学する場合、自宅から学校までの通学時間は「10分以上 20分未満」(52.5%)、「10分未満」(25.2%)、「20分以上 30分未満」(18.7%) が上位 3 つとなり、合計で約 96%である。



(n=1,156)

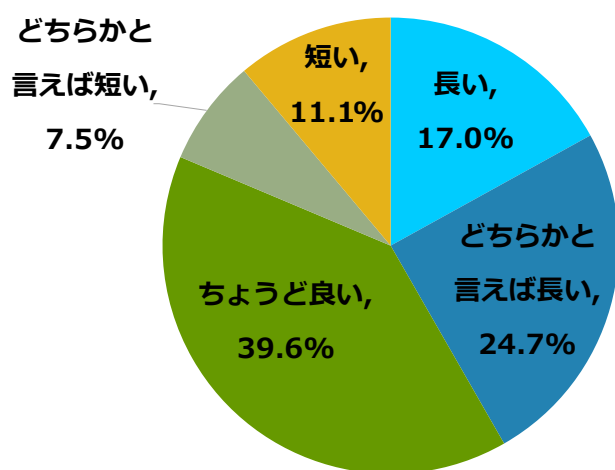
(36) 通学時間に対する印象

設問	選択肢	回答者の属性（割合）			
		児童	生徒	児童	生徒
				保護者	保護者
(36)通学時間に対する印象	長い	16.9%	15.6%	13.2%	7.4%
	どちらかと言えば長い	24.7%	24.7%	21.5%	18.5%
	ちょうど良い	39.5%	40.4%	52.6%	60.6%
	どちらかと言えば短い	7.5%	7.7%	6.1%	6.8%
	短い	11.1%	11.4%	6.7%	6.7%
	不明	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

●児童・生徒

【児童】

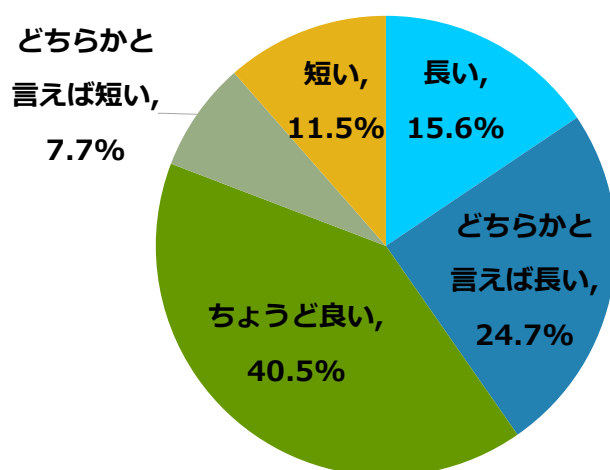
自宅から学校までの通学時間については「ちょうど良い」は約 40%である。「長い」と「どちらかと言えば長い」の合計で約 42%となり、「どちらかと言えば短い」と「短い」の合計は約 19%となっている。



(n=3,512)

【生徒】

自宅から学校までの通学時間については「ちょうど良い」は約 41%である。「長い」と「どちらかと言えば長い」の合計で約 40%となり、「どちらかと言えば短い」と「短い」の合計は約 19%となっている。

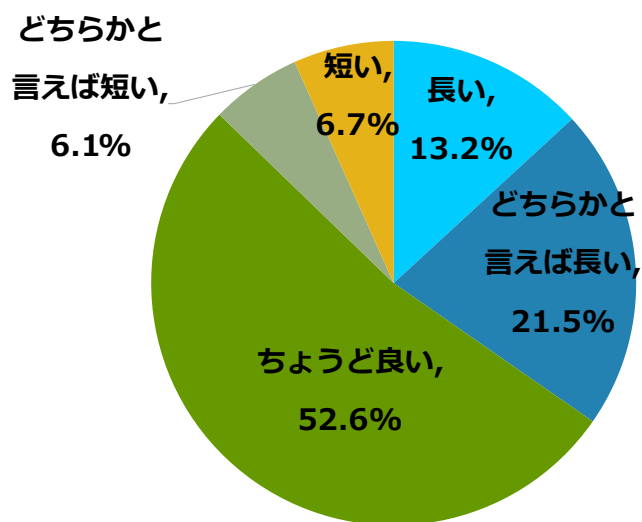


(n=3,195)

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

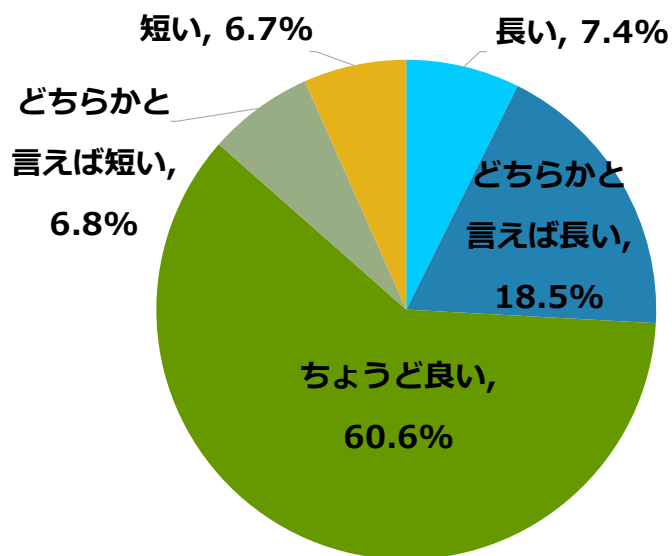
「問19」で答えた通学時間については、「ちょうど良い」は約53%である。「長い」と「どちらかと言えば長い」の合計で約35%となり、「どちらかと言えば短い」と「短い」の合計は約13%となっている。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

「問19」で答えた通学時間については、「ちょうど良い」は約61%である。「長い」と「どちらかと言えば長い」の合計で約26%となり、「どちらかと言えば短い」と「短い」の合計は約14%となっている。



(n=1,156)

■学校と地域との関わり方について、あなたのお考えをお聞きます

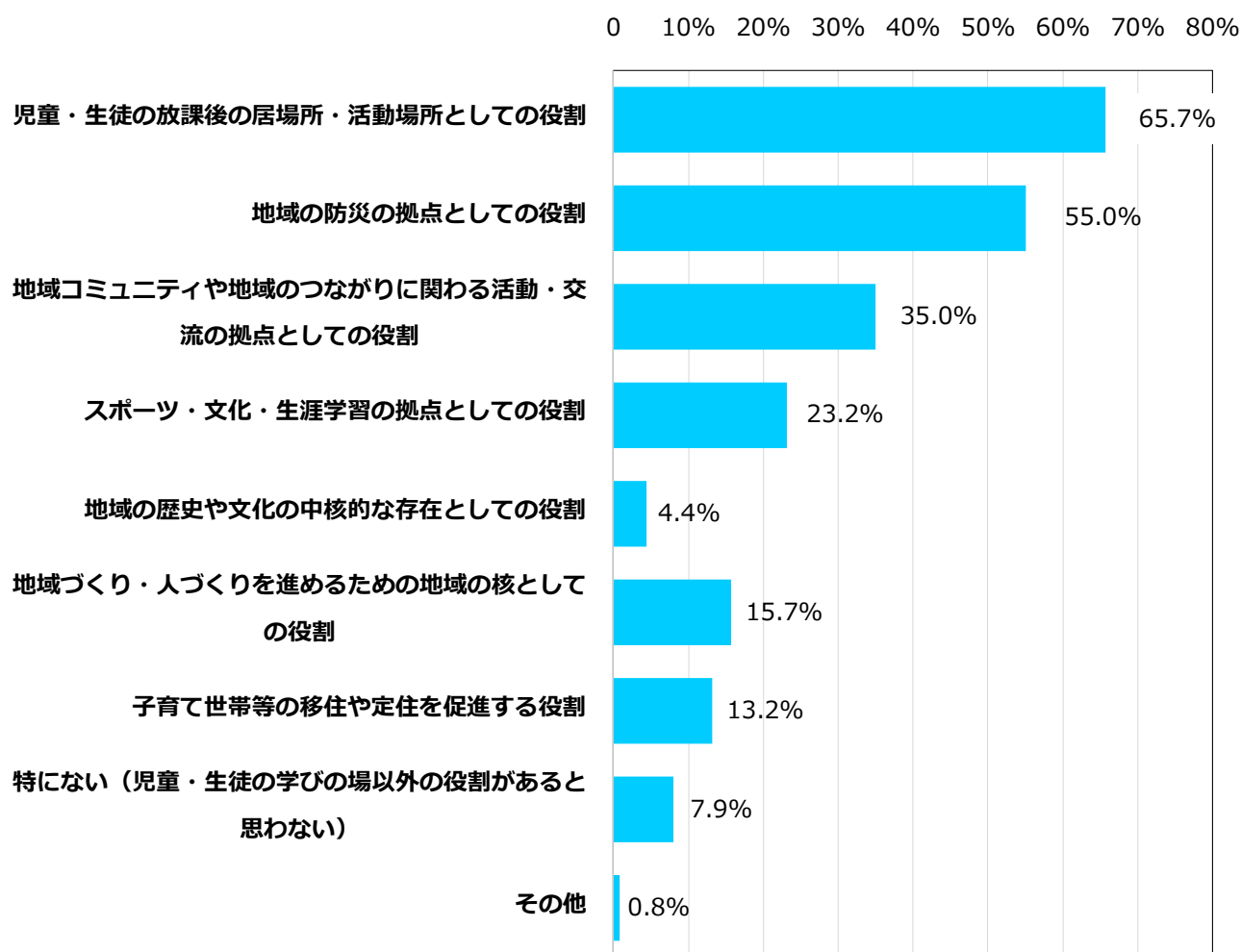
(37) 学校について、児童・生徒の学びの場以外に担っている、または担うべき役割

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(37)学校について、児童・生徒の学びの場以外に担っている、または担うべき役割【複数回答】	児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割			65.7%	60.0%	44.6%	45.7%	62.0%	65.2%
	地域の防災の拠点としての役割			55.0%	55.0%	51.2%	61.1%	54.4%	49.9%
	地域コミュニティや地域のつながりに関わる活動・交流の拠点としての役割			35.0%	29.3%	42.8%	28.5%	41.0%	33.6%
	スポーツ・文化・生涯学習の拠点としての役割			23.2%	29.8%	21.6%	31.2%	29.5%	30.7%
	地域の歴史や文化の中核的な存在としての役割			4.4%	4.3%	6.3%	5.9%	8.1%	6.4%
	地域づくり・人づくりを進めるための地域の核としての役割			15.7%	16.4%	31.4%	29.9%	26.7%	20.9%
	子育て世帯等の移住や定住を促進する役割			13.2%	10.1%	10.2%	6.3%	17.7%	23.5%
	特にない（児童・生徒の学びの場以外の役割があると思わない）			7.9%	7.5%	6.3%	7.2%	5.0%	5.5%
	その他			0.8%	1.0%	2.1%	1.4%	1.7%	1.7%

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

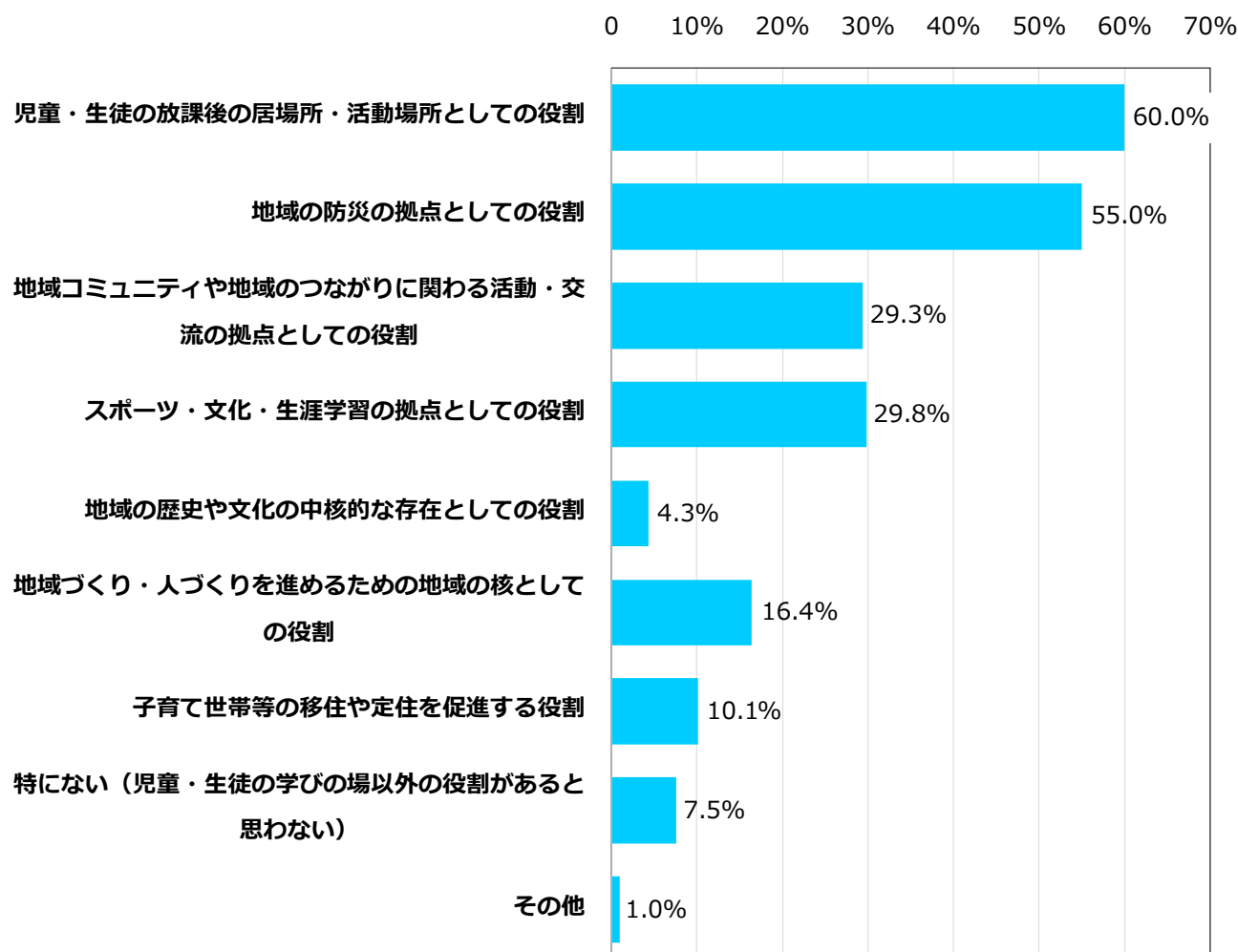
学びの場以外の学校としての役割については、「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割」（65.7%）、「地域の防災の拠点としての役割」（55.0%）、「地域コミュニティや地域のつながりに関わる活動・交流の拠点としての役割」（35.0%）が上位3つとなった。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

学びの場以外の学校としての役割については、「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割」（60.0%）、「地域の防災の拠点としての役割」（55.0%）、「スポーツ・文化・生涯学習の拠点としての役割」（29.8%）が上位3つとなった。

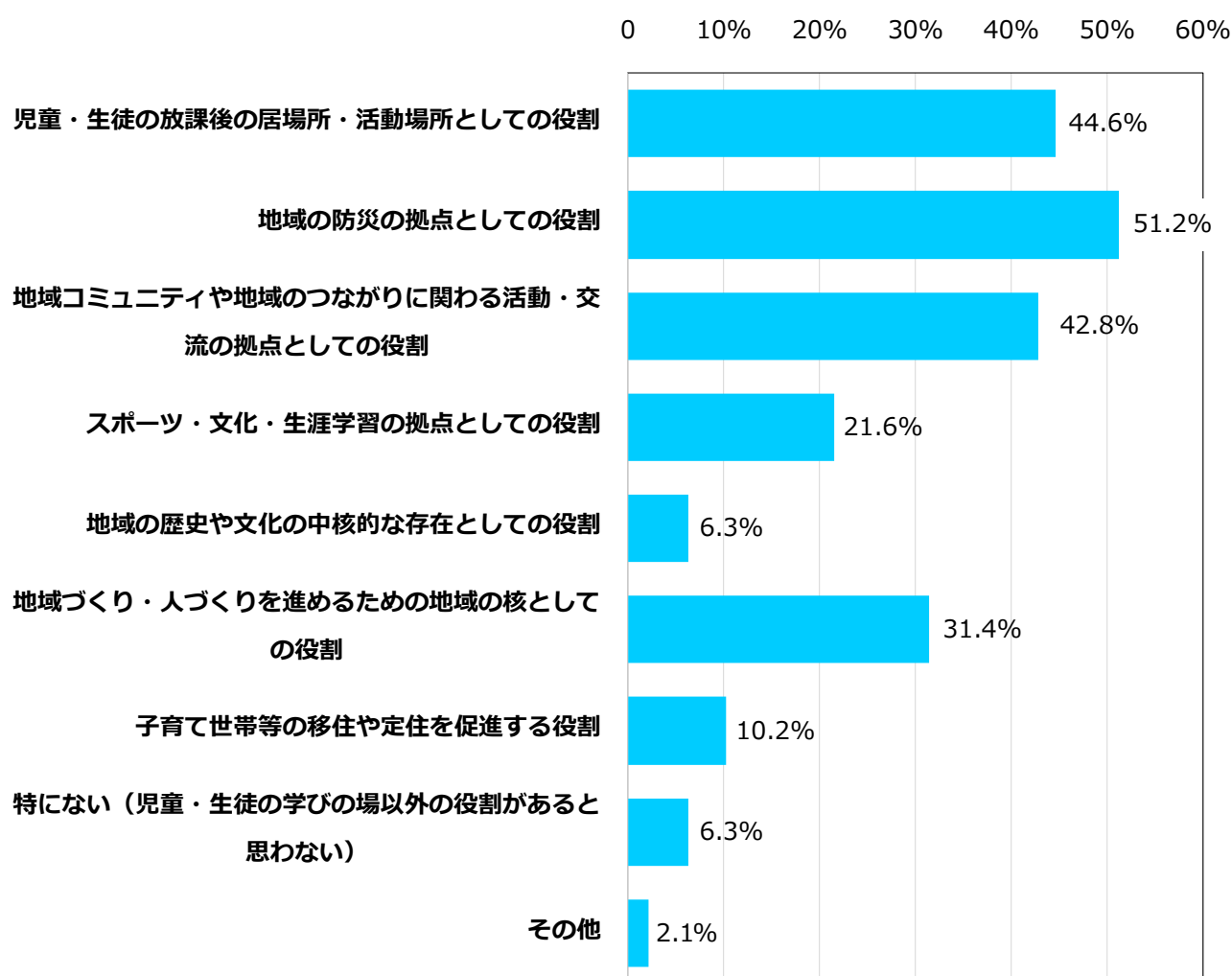


(n=1,156)

●教員

【小学校教員】

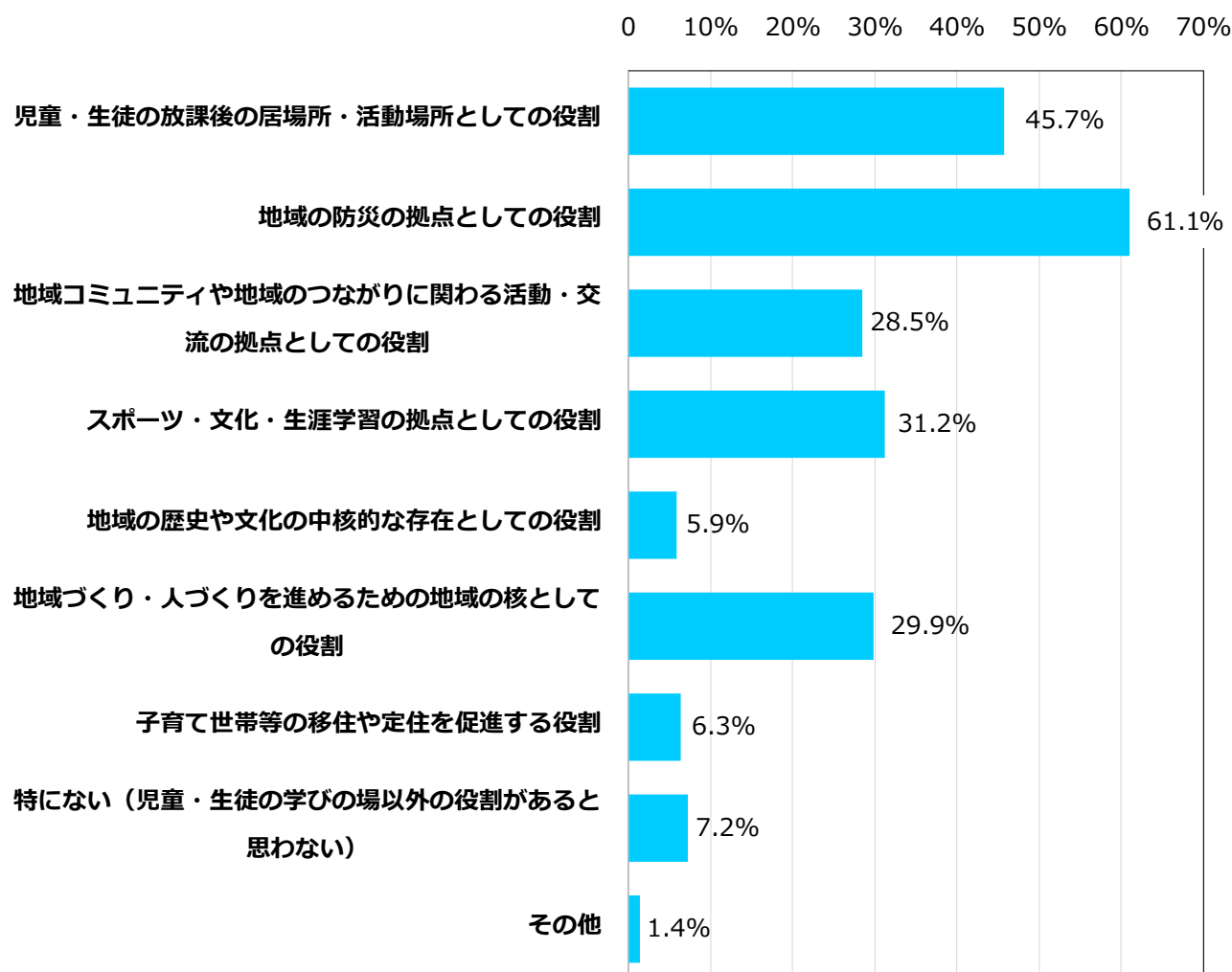
学びの場以外の学校としての役割については、「地域の防災の拠点としての役割」（51.2%）、「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割」（44.6%）、「地域コミュニティや地域のつながりに関わる活動・交流の拠点としての役割」（42.8%）が上位3つとなった。



(n=334)

【中学校教員】

学びの場以外の学校としての役割については、「地域の防災の拠点としての役割」（61.1%）、「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割」（45.7%）、「スポーツ・文化・生涯学習の拠点としての役割」（31.2%）が上位3つとなった。

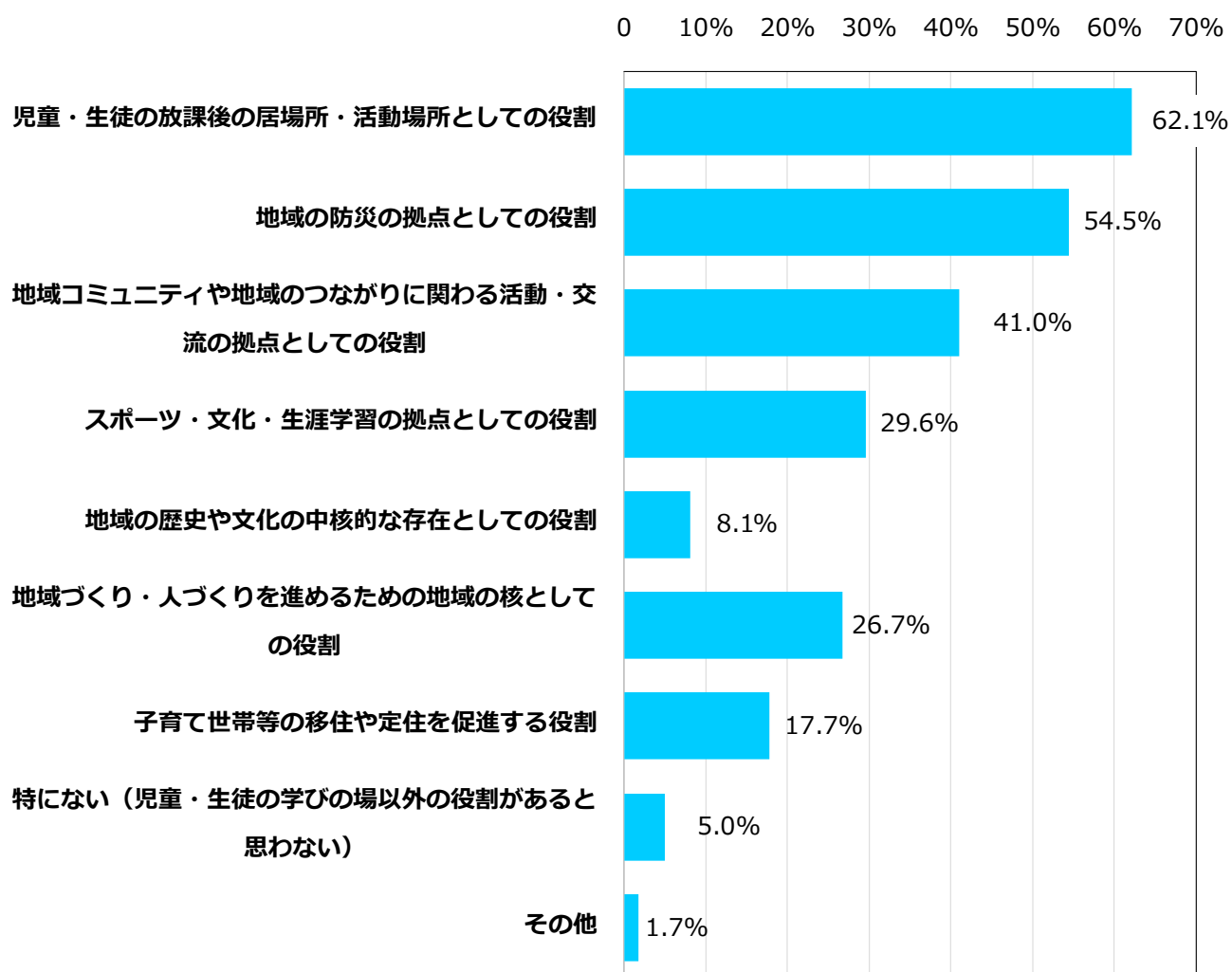


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

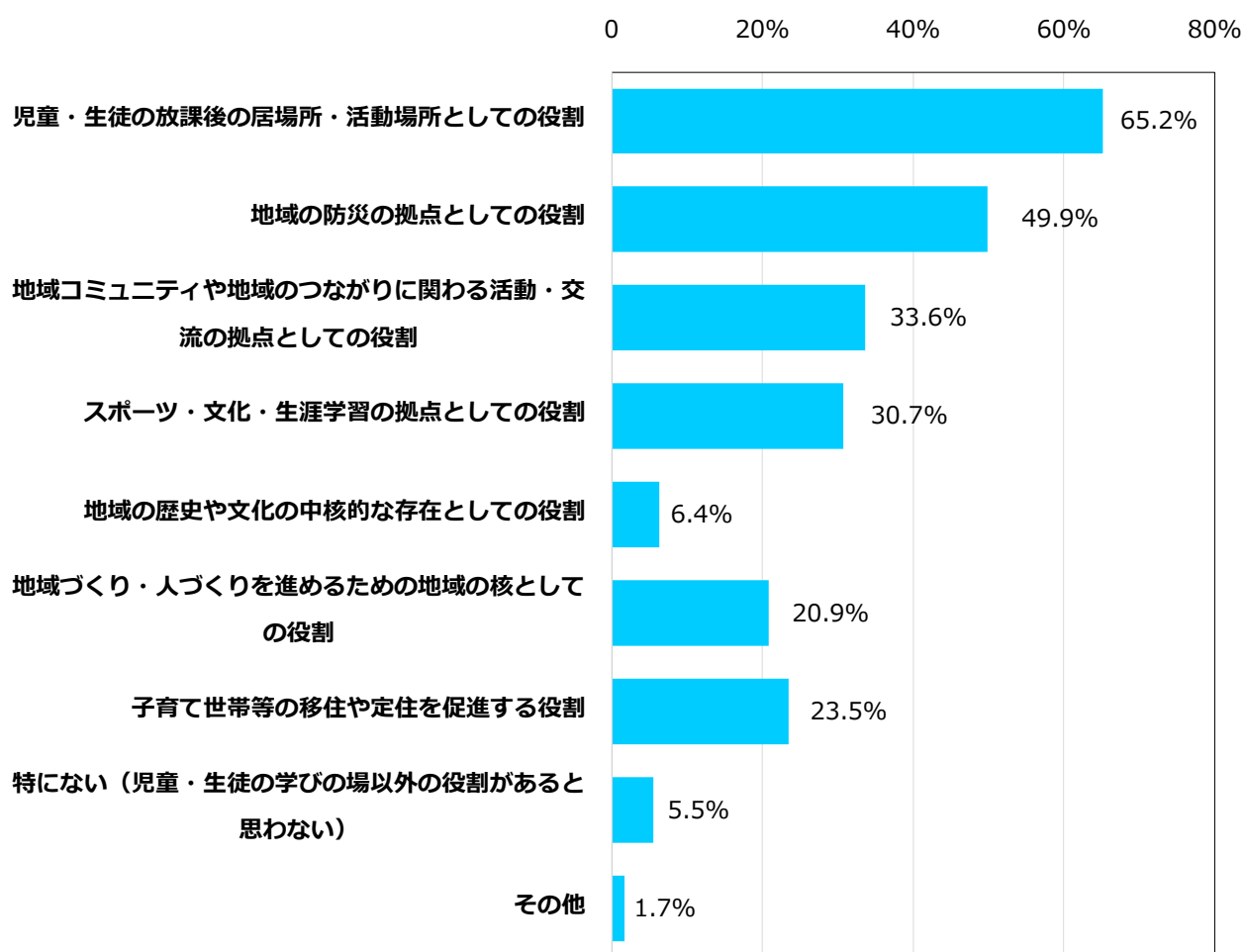
学びの場以外の学校としての役割については、「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割」（62.1%）、「地域の防災の拠点としての役割」（54.5%）、「地域コミュニティや地域のつながりに関わる活動・交流の拠点としての役割」（41.0%）が上位3つとなった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

学びの場以外の学校としての役割については、「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割」（65.2%）、「地域の防災の拠点としての役割」（49.9%）、「地域コミュニティや地域のつながりに関わる活動・交流の拠点としての役割」（33.6%）が上位3つとなった。



(n=345)

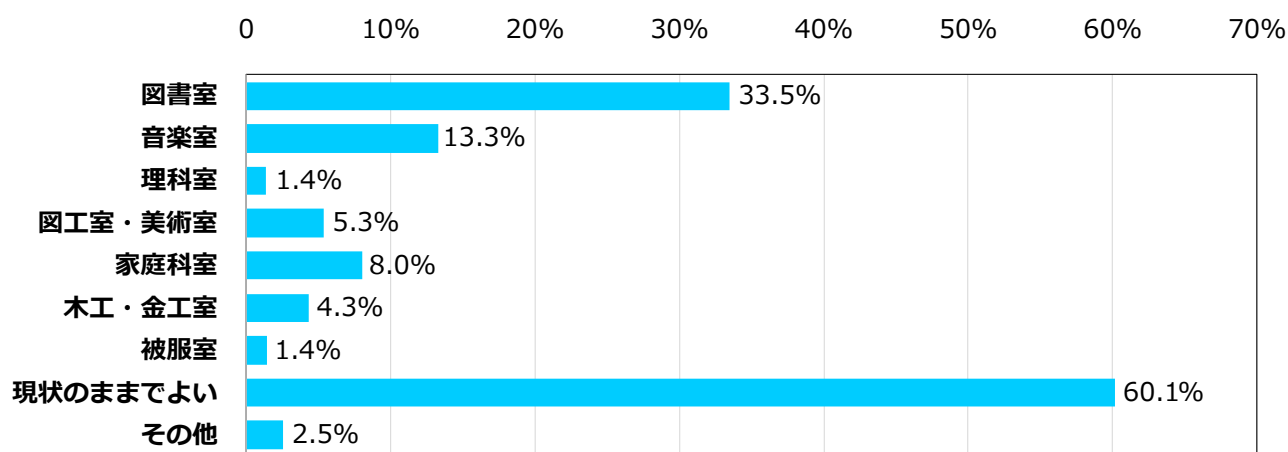
(38) 一定条件下での開放が望ましい施設

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(38)一定条件下での開放が望ましい施設【複数回答】	図書室			33.5%	34.0%	13.2%	8.1%	39.3%	41.7%
	音楽室			13.3%	12.5%	6.9%	3.6%	19.7%	16.5%
	理科室			1.4%	0.6%	1.2%	0.0%	1.3%	1.4%
	図工室・美術室			5.3%	6.1%	3.9%	1.4%	9.2%	9.6%
	家庭科室			8.0%	8.2%	5.7%	2.3%	11.8%	10.7%
	木工・金工室			4.3%	5.9%	0.9%	0.9%	11.5%	7.8%
	被服室			1.4%	2.0%	0.0%	0.5%	2.5%	4.6%
	現状のままでよい			60.1%	58.9%	81.4%	86.4%	47.3%	43.5%
	その他			2.5%	2.8%	2.4%	3.6%	6.3%	7.8%

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

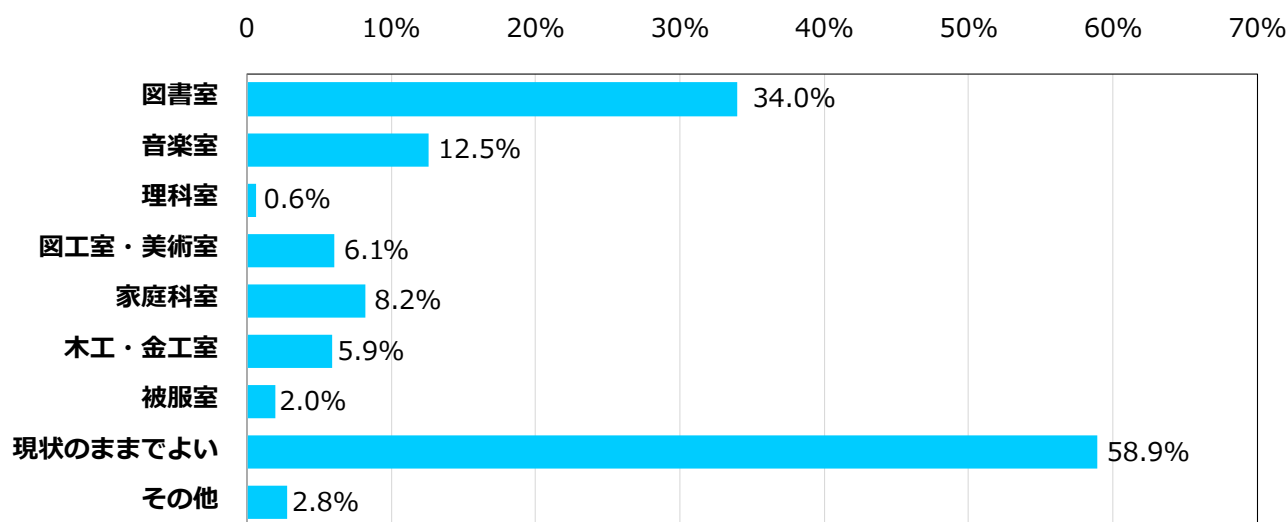
学校教育に支障のない範囲で体育館や校庭を開放しているなかで、その他の学校施設で、一定の条件の下で地域の人や一般の人が利用できるよう開放してほしい施設については、「現状のままでよい」が60.1%となった。続いて、「図書室」(33.5%)、「音楽室」(13.3%)となった。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

学校教育に支障のない範囲で体育館や校庭を開放しているなかで、その他の学校施設で、一定の条件の下で地域の人や一般の人が利用できるよう開放してほしい施設については、「現状のままでよい」が58.9%となった。続いて、「図書室」(34.0%)、「音楽室」(12.5%)となった。

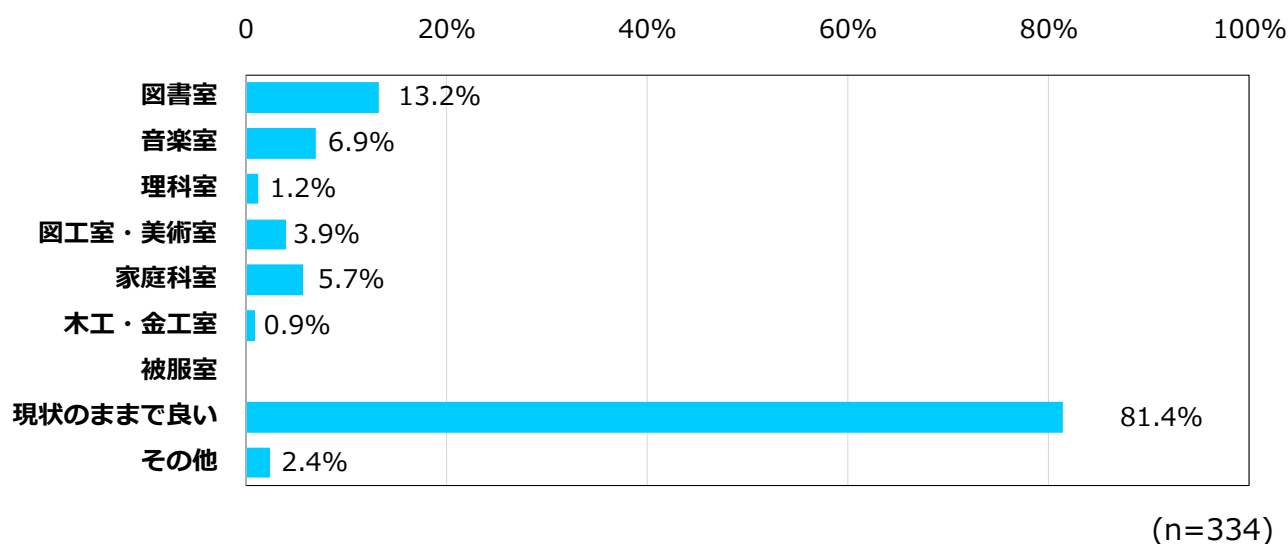


(n=1,156)

●教員

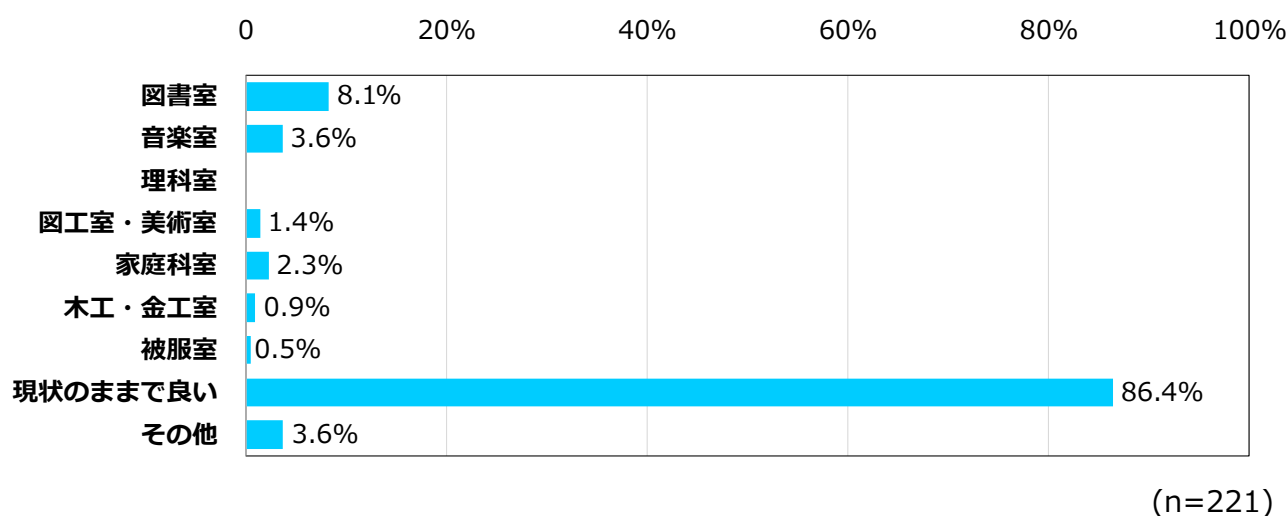
【小学校教員】

学校教育に支障のない範囲で体育館や校庭を開放しているなかで、その他の学校施設で、一定の条件の下で地域の人や一般の人が利用できるよう開放してほしい施設については、「現状のままで良い」が81.4%となった。続いて、「図書室」（13.2%）、「音楽室」（6.9%）となった。



【中学校教員】

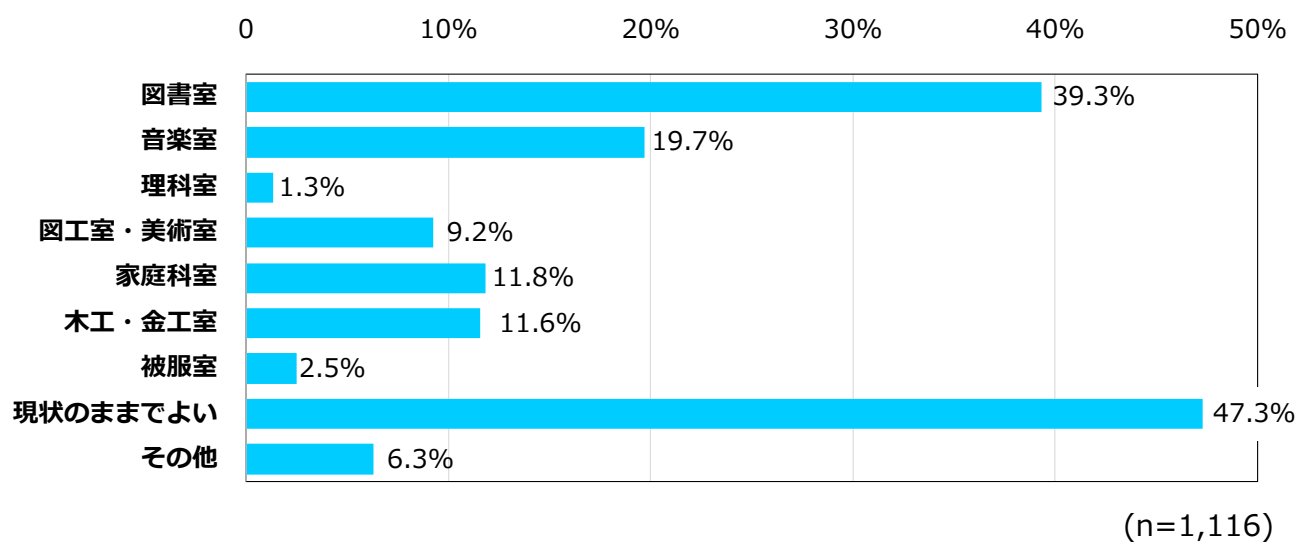
学校教育に支障のない範囲で体育館や校庭を開放しているなかで、その他の学校施設で、一定の条件の下で地域の人や一般の人が利用できるよう開放してほしい施設については、「現状のままで良い」が86.4%となった。続いて、「図書室」（8.1%）、「音楽室」（3.6%）となった。



●市民・未就学児の保護者

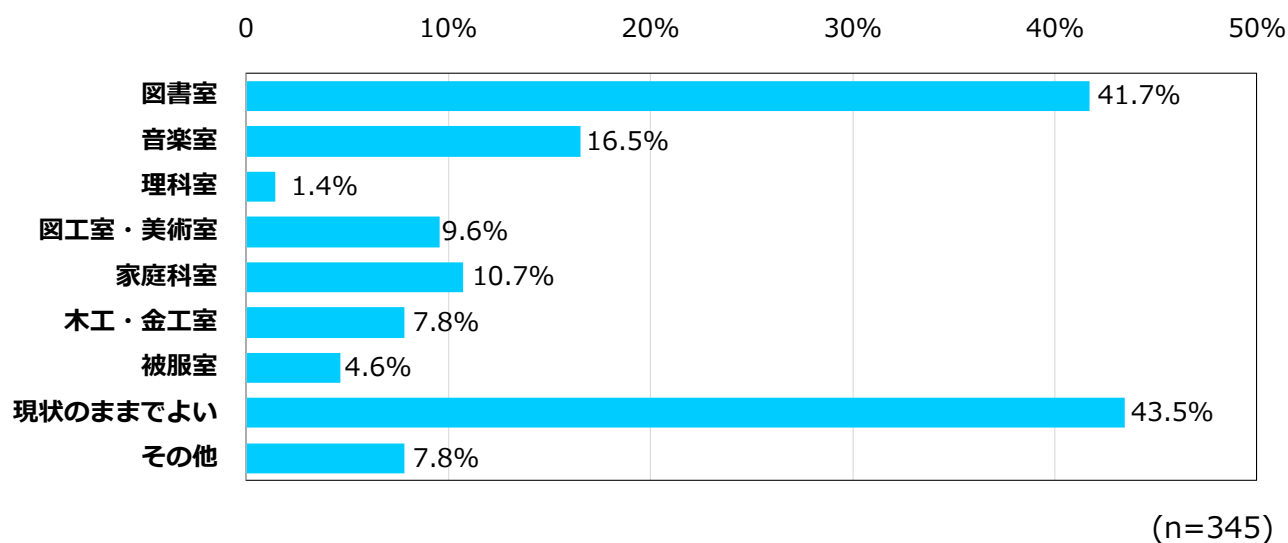
【市民】

学校教育に支障のない範囲で体育館や校庭を開放しているなかで、その他の学校施設で、一定の条件の下で地域の人や一般の人が利用できるよう開放してほしい施設については、「現状のままでよい」が47.3%となった。続いて、「図書室」（39.3%）、「音楽室」（19.7%）となった。



【未就学児の保護者】

学校教育に支障のない範囲で体育館や校庭を開放しているなかで、その他の学校施設で、一定の条件の下で地域の人や一般の人が利用できるよう開放してほしい施設については、「現状のままでよい」が43.5%となった。続いて、「図書室」（41.7%）、「音楽室」（16.5%）となった。



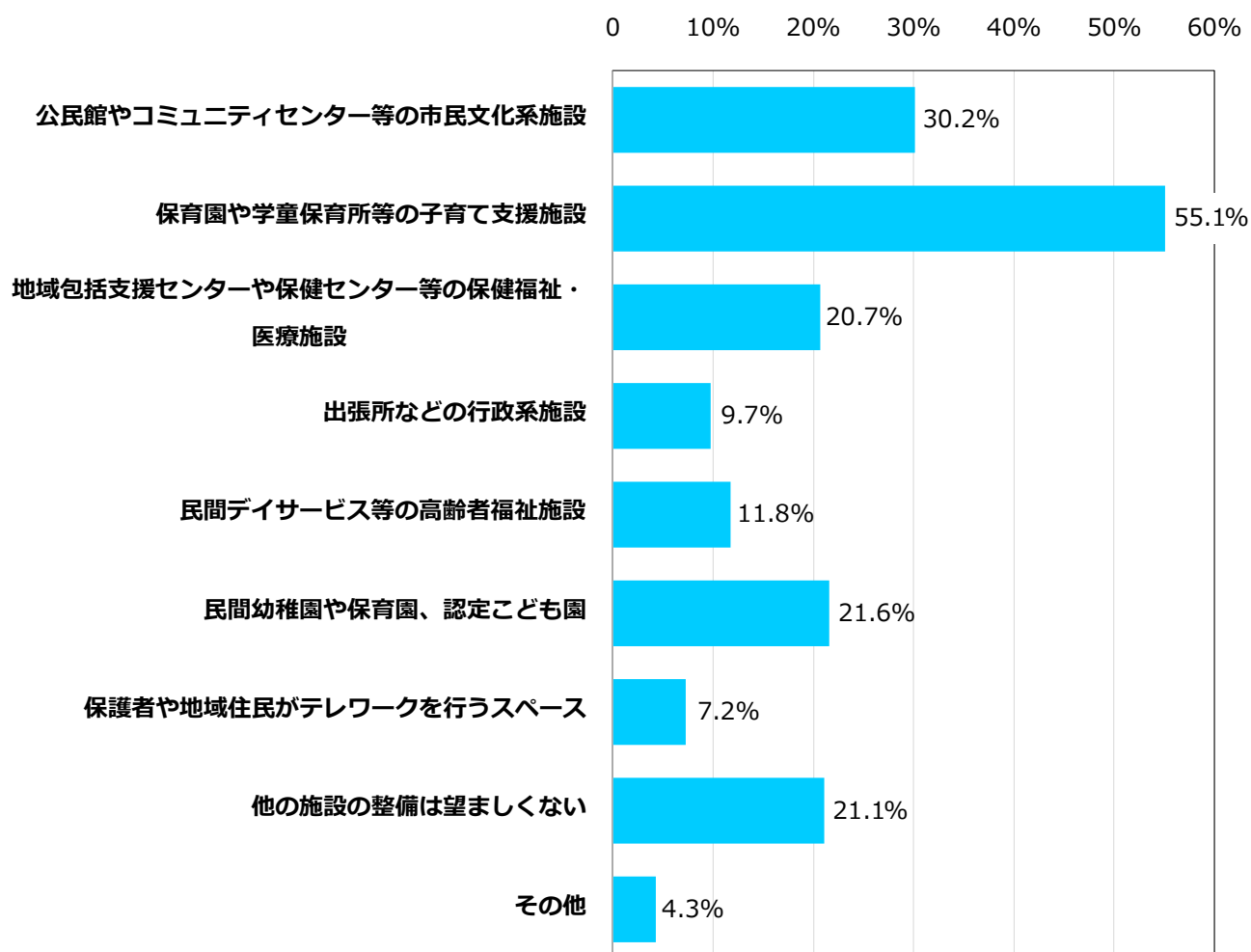
(39) 学校敷地内や校舎内に併設されることが望ましい公共施設

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児 保護者
(39) 学校敷地内や校舎内に併設されることが望ましい公共施設【複数回答】	公民館やコミュニティセンター等の市民文化系施設			30.2%	32.4%	35.3%	31.2%	36.8%	29.9%
	保育園や学童保育所等の子育て支援施設			55.1%	43.2%	56.0%	40.7%	61.5%	72.2%
	地域包括支援センターや保健センター等の保健福祉・医療施設			20.7%	20.8%	15.3%	14.5%	25.8%	20.6%
	出張所などの行政系施設			9.7%	11.0%	7.8%	8.6%	12.4%	9.6%
	民間デイサービス等の高齢者福祉施設			11.8%	13.4%	12.6%	12.7%	19.1%	9.6%
	民間幼稚園や保育園、認定こども園			21.6%	16.3%	18.3%	20.8%	29.1%	37.4%
	保護者や地域住民がテレワークを行うスペース			7.2%	6.1%	3.6%	3.2%	8.4%	8.1%
	他の施設の整備は望ましくない			21.1%	25.8%	24.0%	33.5%	12.2%	14.2%
	その他			4.3%	3.0%	3.0%	2.7%	3.4%	5.8%

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

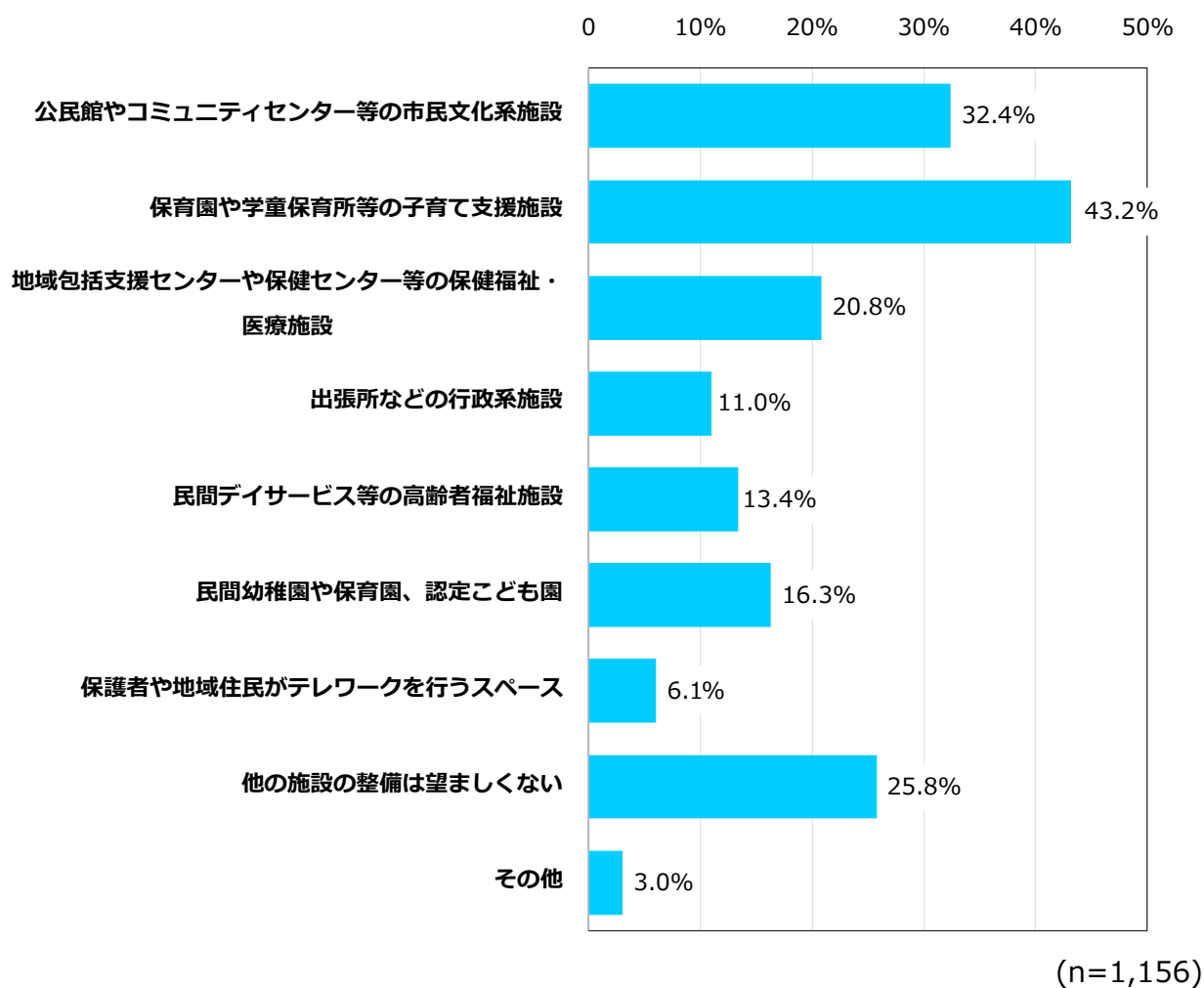
学校敷地内や校舎内に学校以外の公共施設等として整備される場合、その望ましい施設は「保育園や学童保育所等の子育て支援施設」(55.1%)、「公民館やコミュニティセンター等の市民文化系施設」(30.2%)、「民間幼稚園や保育園、認定こども園」(21.6%)が上位3つとなった。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

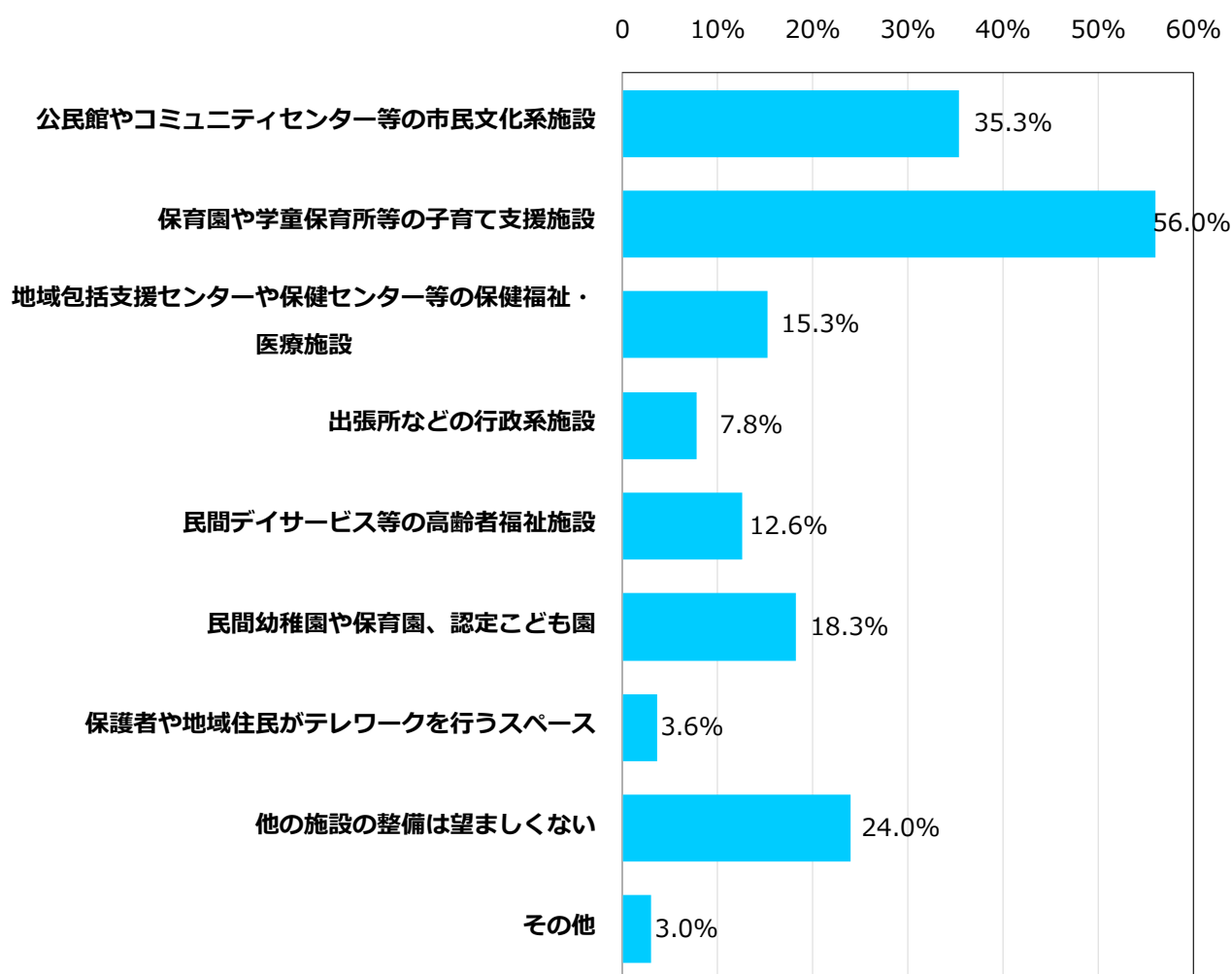
学校敷地内や校舎内に学校以外の公共施設等として整備される場合、その望ましい施設は「保育園や学童保育所等の子育て支援施設」(43.2%)、「公民館やコミュニティセンター等の市民文化系施設」(32.4%)、「他の施設の整備は望ましくない」(25.8%) が上位 3 つとなった。



●教員

【小学校教員】

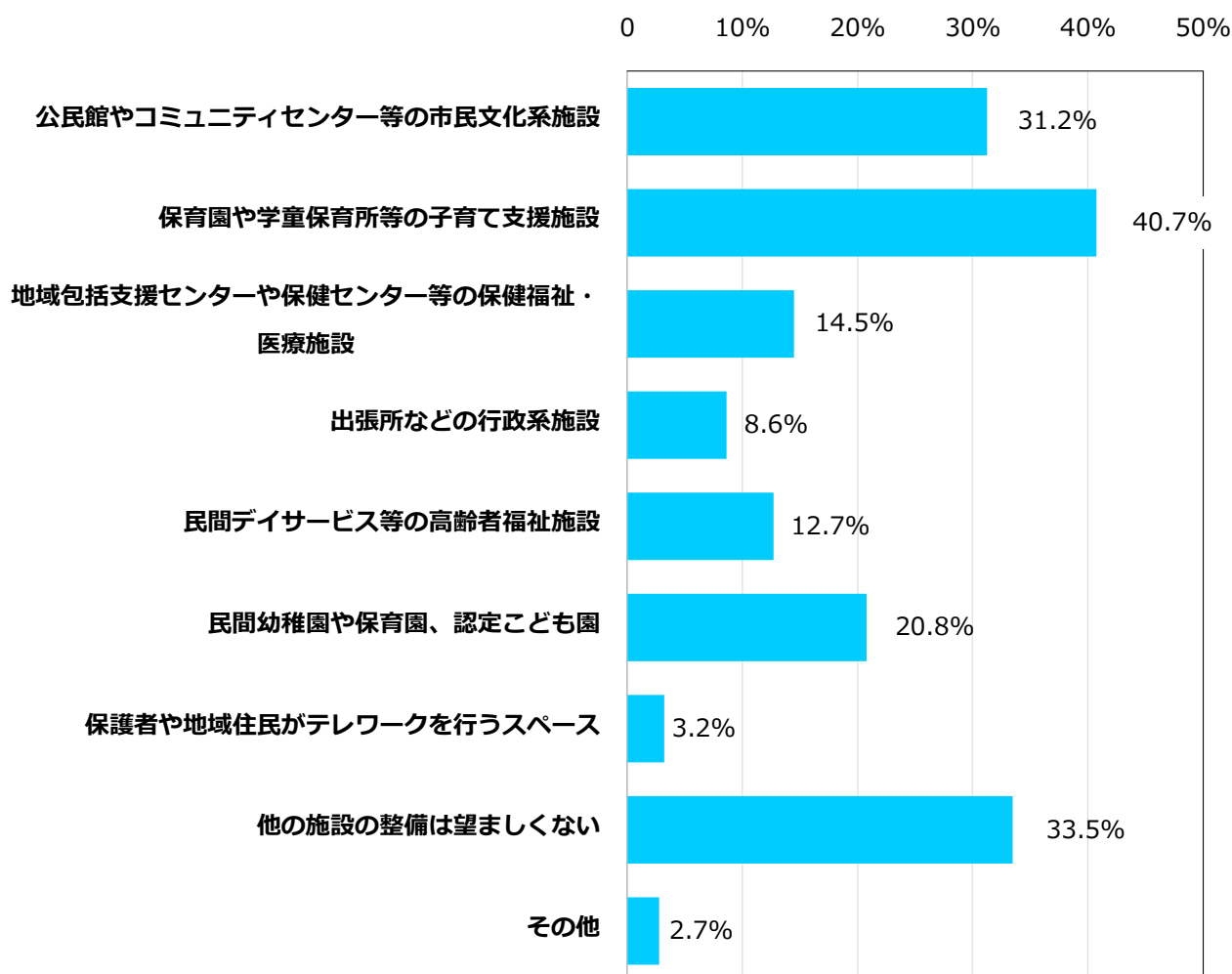
学校敷地内や校舎内に学校以外の公共施設等として整備される場合、その望ましい施設は「保育園や学童保育所等の子育て支援施設」(56.0%)、「公民館やコミュニティセンター等の市民文化系施設」(35.3%)、「他の施設の整備は望ましくない」(24.0%)が上位3つとなった。



(n=334)

【中学校教員】

学校敷地内や校舎内に学校以外の公共施設等として整備される場合、その望ましい施設は「保育園や学童保育所等の子育て支援施設」(40.7%)、「他の施設の整備は望ましくない」(33.5%)、「公民館やコミュニティセンター等の市民文化系施設」(31.2%)が上位3つとなった。

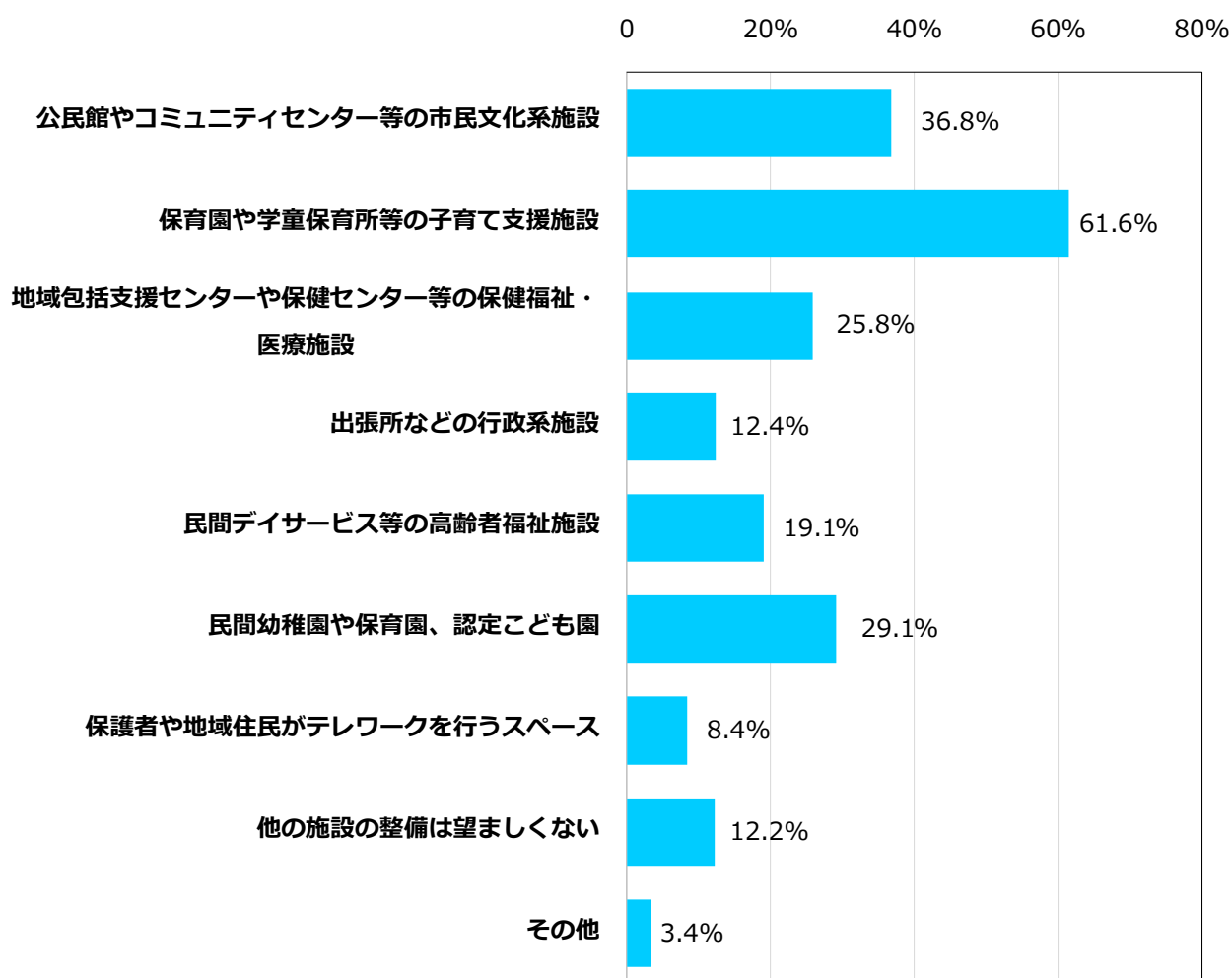


(n=221)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

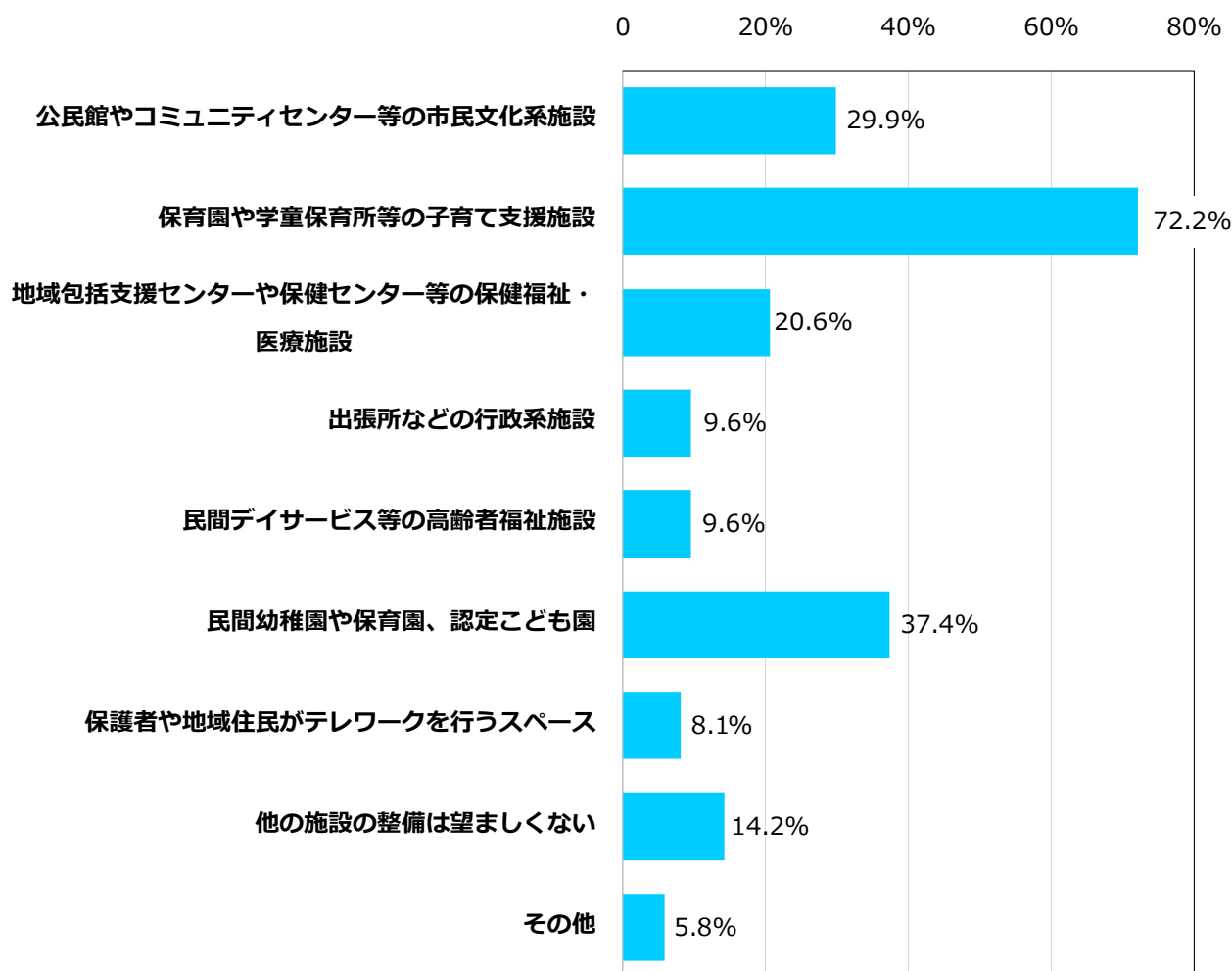
学校敷地内や校舎内に学校以外の公共施設等として整備される場合、その望ましい施設は「保育園や学童保育所等の子育て支援施設」(61.6%)、「公民館やコミュニティセンター等の市民文化系施設」(36.8%)、「民間幼稚園や保育園、認定こども園」(29.1%)が上位3つとなった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

学校敷地内や校舎内に学校以外の公共施設等として整備される場合、その望ましい施設は「保育園や学童保育所等の子育て支援施設」（72.2%）、「民間幼稚園や保育園、認定こども園」（37.4%）、「公民館やコミュニティセンター等の市民文化系施設」（29.9%）が上位3つとなった。



(n=345)

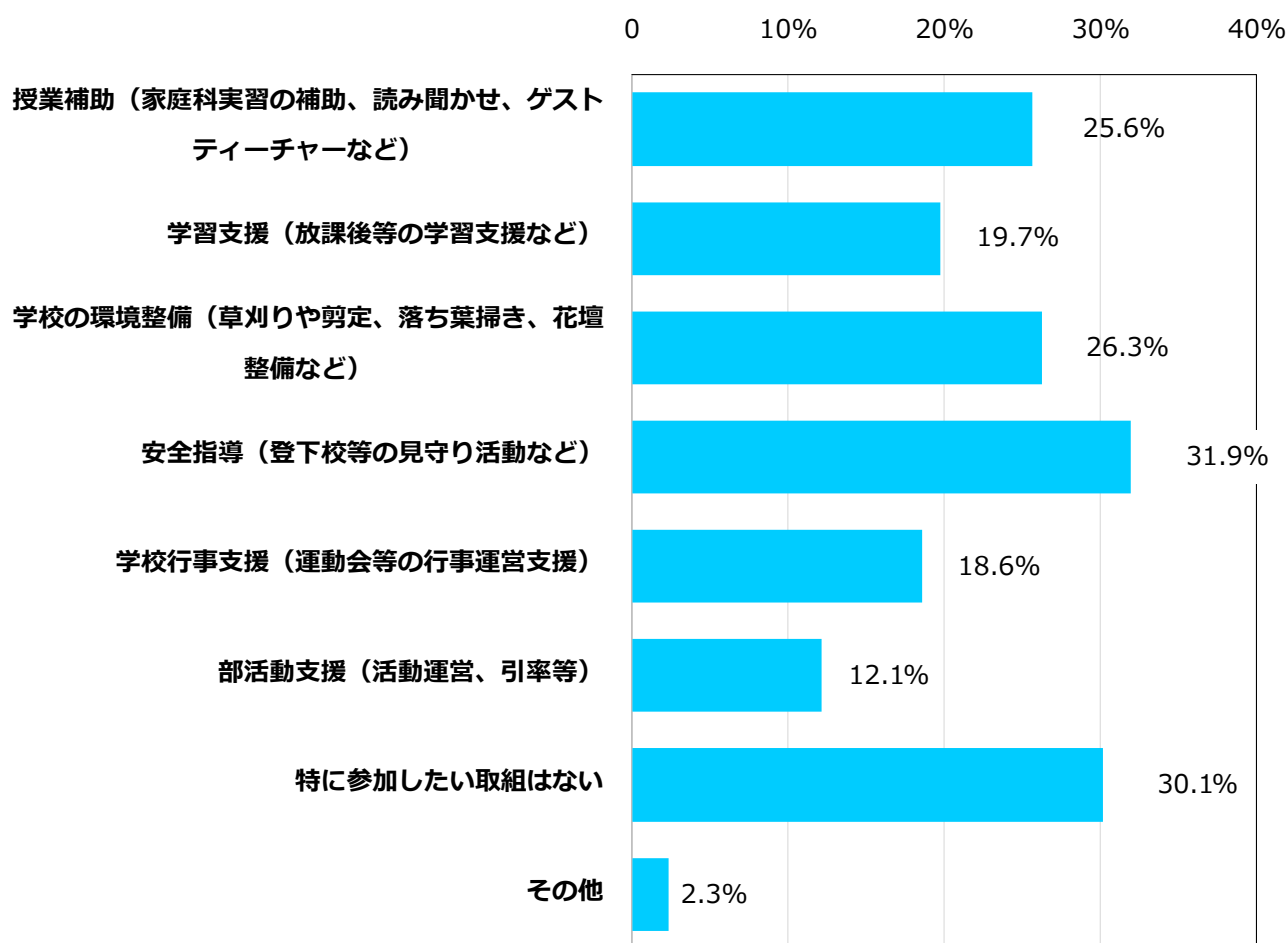
(40) 地域社会総がかりでの教育を実現する上で参加したい・協力したい取組

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	未就学児 保護者
				保護者	保護者	小学校	中学校		
(40) 地域社会総がかりでの教育を実現する上で参加したい・協力したい取組【複数回答】	授業補助（家庭科実習の補助、読み聞かせ、ゲストティーチャーなど）			25.6%	20.8%			24.0%	31.9%
	学習支援（放課後等の学習支援など）			19.7%	18.3%			24.0%	23.2%
	学校の環境整備（草刈りや剪定、落ち葉掃き、花壇整備など）			26.3%	24.9%			26.6%	21.2%
	安全指導（登下校等の見守り活動など）			31.9%	20.3%			30.6%	33.3%
	学校行事支援（運動会等の行事運営支援）			18.6%	15.1%			16.3%	19.7%
	部活動支援（活動運営、引率等）			12.1%	18.2%			16.5%	16.8%
	特に参加したい取組はない			30.1%	36.5%			32.1%	27.8%
	その他			2.3%	1.3%			2.4%	4.3%

●児童・生徒の保護者

【児童の保護者】

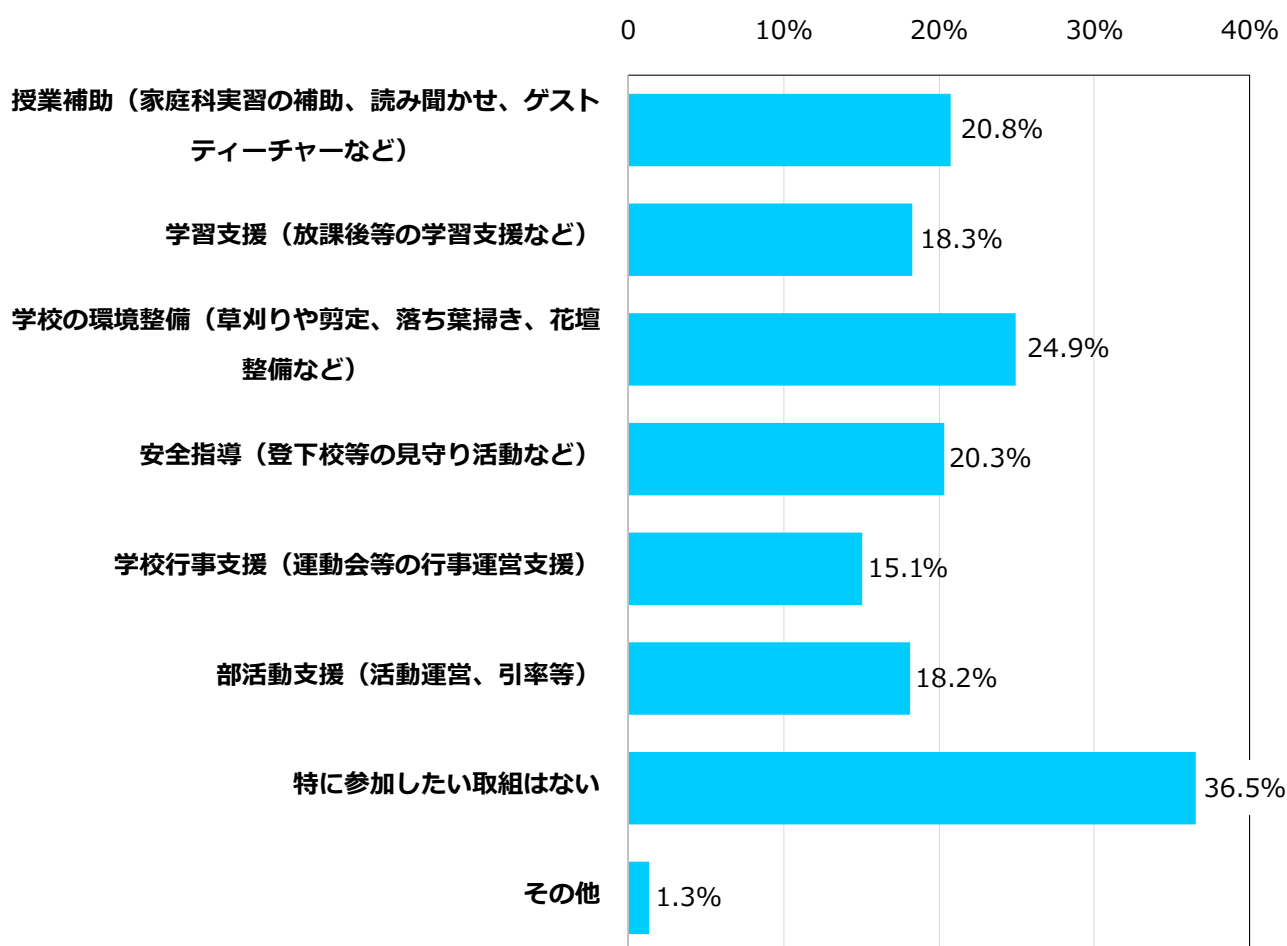
子どもたちの資質・能力の育成のため、幅広い地域住民の参画を得ながら社会総がかりでの教育を実現していこうとする取組について、参加したい・協力したい取組は、「安全指導（登下校等の見守り活動など）」（31.9%）、「特に参加したい取組はない」（30.1%）、「学校の環境整備（草刈りや剪定、落ち葉掃き、花壇整備など）」（26.3%）が上位3つとなった。



(n=2,045)

【生徒の保護者】

子どもたちの資質・能力の育成のため、幅広い地域住民の参画を得ながら社会総がかりでの教育を実現していこうとする取組について、参加したい・協力したい取組は、「特に参加したい取組はない」(36.5%)、「学校の環境整備（草刈りや剪定、落ち葉掃き、花壇整備など）」(24.9%)、「授業補助（家庭科実習の補助、読み聞かせ、ゲストティーチャーなど）」(20.8%) が上位 3 つとなった。

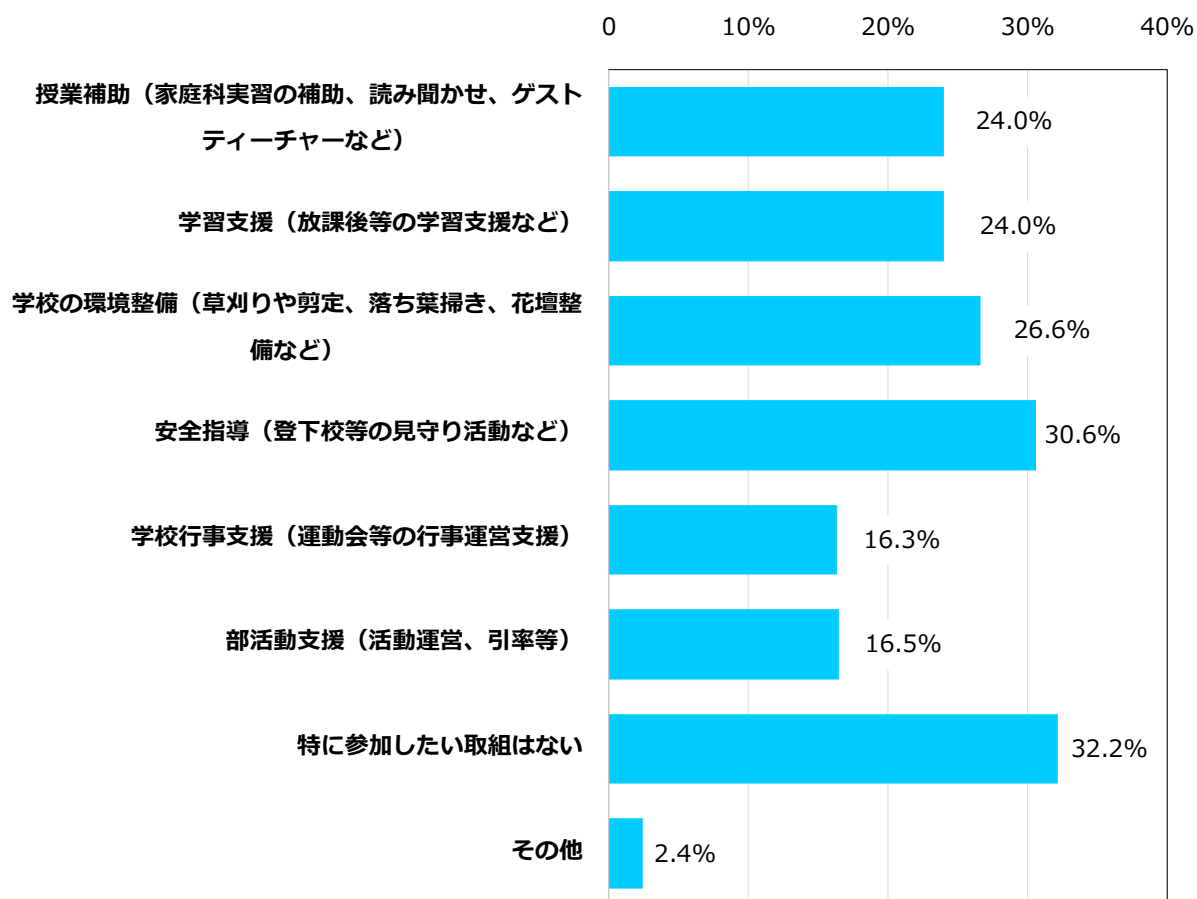


(n=1,156)

●市民・未就学児の保護者

【市民】

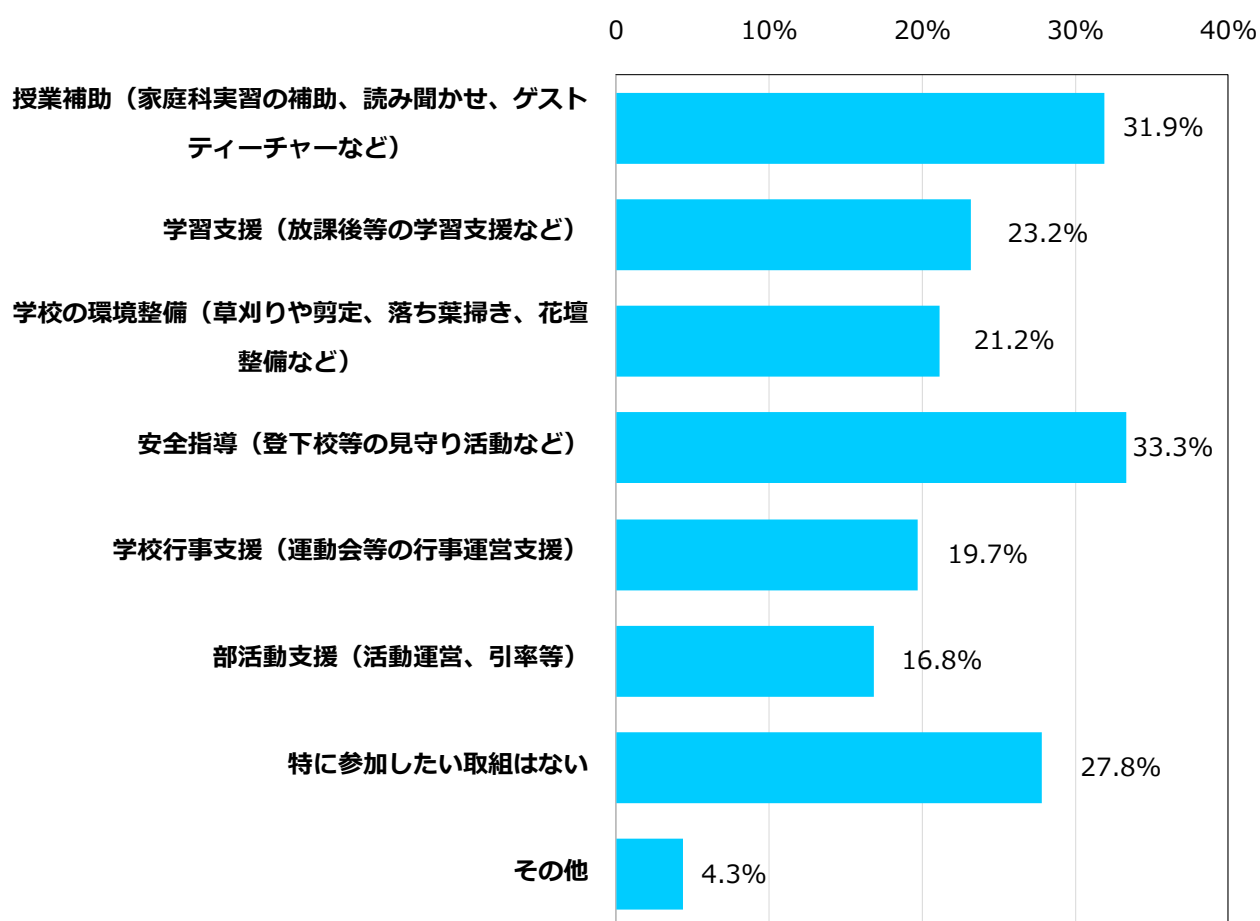
子どもたちの資質・能力の育成のため、幅広い地域住民の参画を得ながら社会総がかりでの教育を実現していこうとする取組について、参加したい・協力したい取組は、「特に参加したい取組はない」(32.2%)、「安全指導（登下校等の見守り活動など）」(30.6%)、「学校の環境整備（草刈りや剪定、落ち葉掃き、花壇整備など）」(26.6%)が上位3つとなった。



(n=1,116)

【未就学児の保護者】

子どもたちの資質・能力の育成のため、幅広い地域住民の参画を得ながら社会総がかりでの教育を実現していこうとする取組について、参加したい・協力したい取組は、「安全指導（登下校等の見守り活動など）」（33.3%）、「授業補助（家庭科実習の補助、読み聞かせ、ゲストティーチャーなど）」（31.9%）、「特に参加したい取組はない」（27.8%）が上位3つとなった。



(n=345)

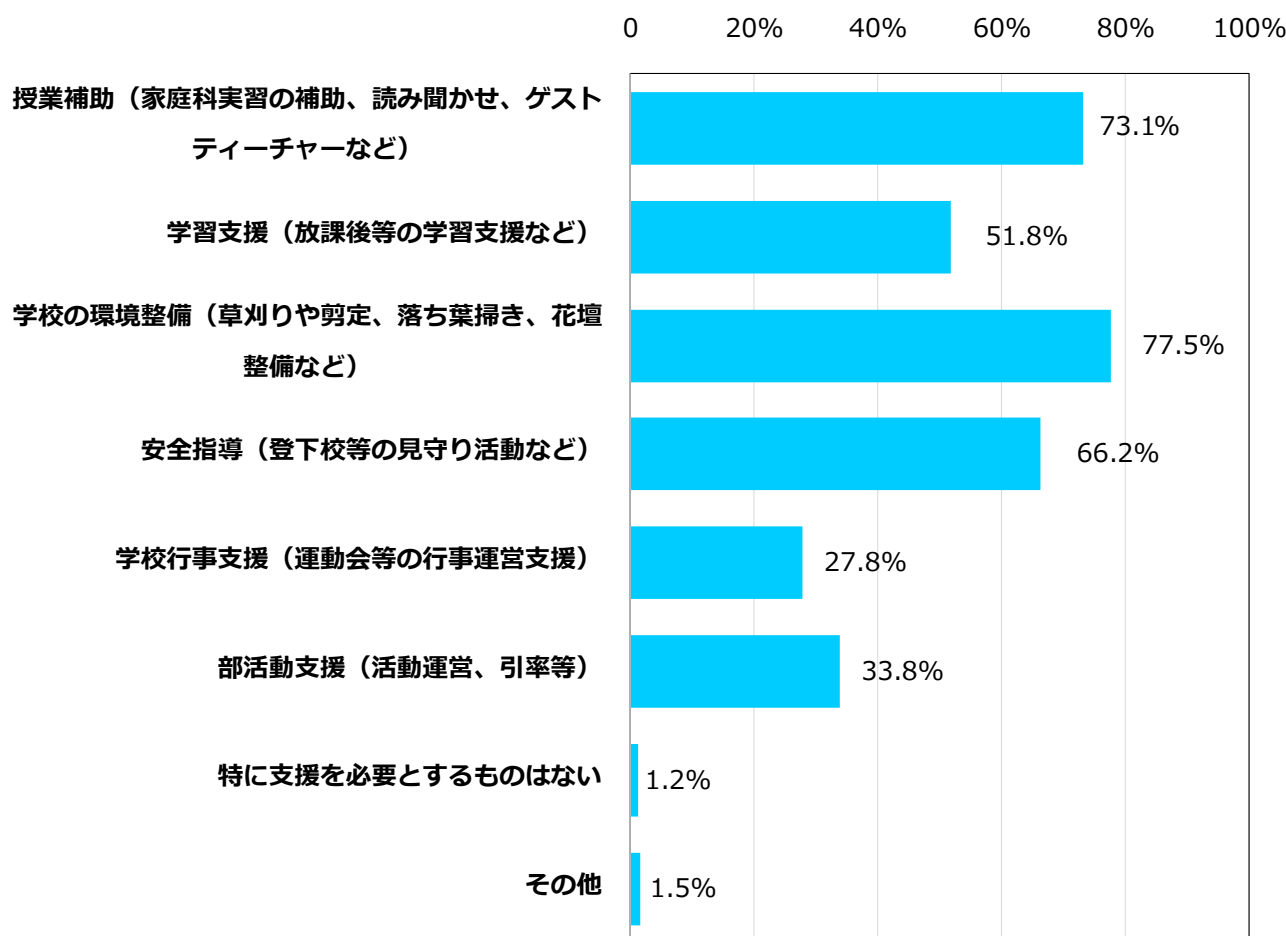
(4 1) 地域社会総がかりでの教育を実現する上で支援を受けたい・支援が必要な取組

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	未就学児 保護者
				保護者	保護者	小学校	中学校		
(41) 地域社会総がかりでの教育を実現する上で支援を受けたい・支援が必要な取組【複数回答】	授業補助（家庭科実習の補助、読み聞かせ、ゲストティーチャーなど）					73.1%	43.0%		
	学習支援（放課後等の学習支援など）					51.8%	47.5%		
	学校の環境整備（草刈りや剪定、落ち葉掃き、花壇整備など）					77.5%	67.4%		
	安全指導（登下校等の見守り活動など）					66.2%	65.2%		
	学校行事支援（運動会等の行事運営支援）					27.8%	15.4%		
	部活動支援（活動運営、引率等）					33.8%	61.1%		
	特に支援を必要とするものはない					1.2%	2.3%		
	その他					1.5%	2.7%		

●教員

【小学校教員】

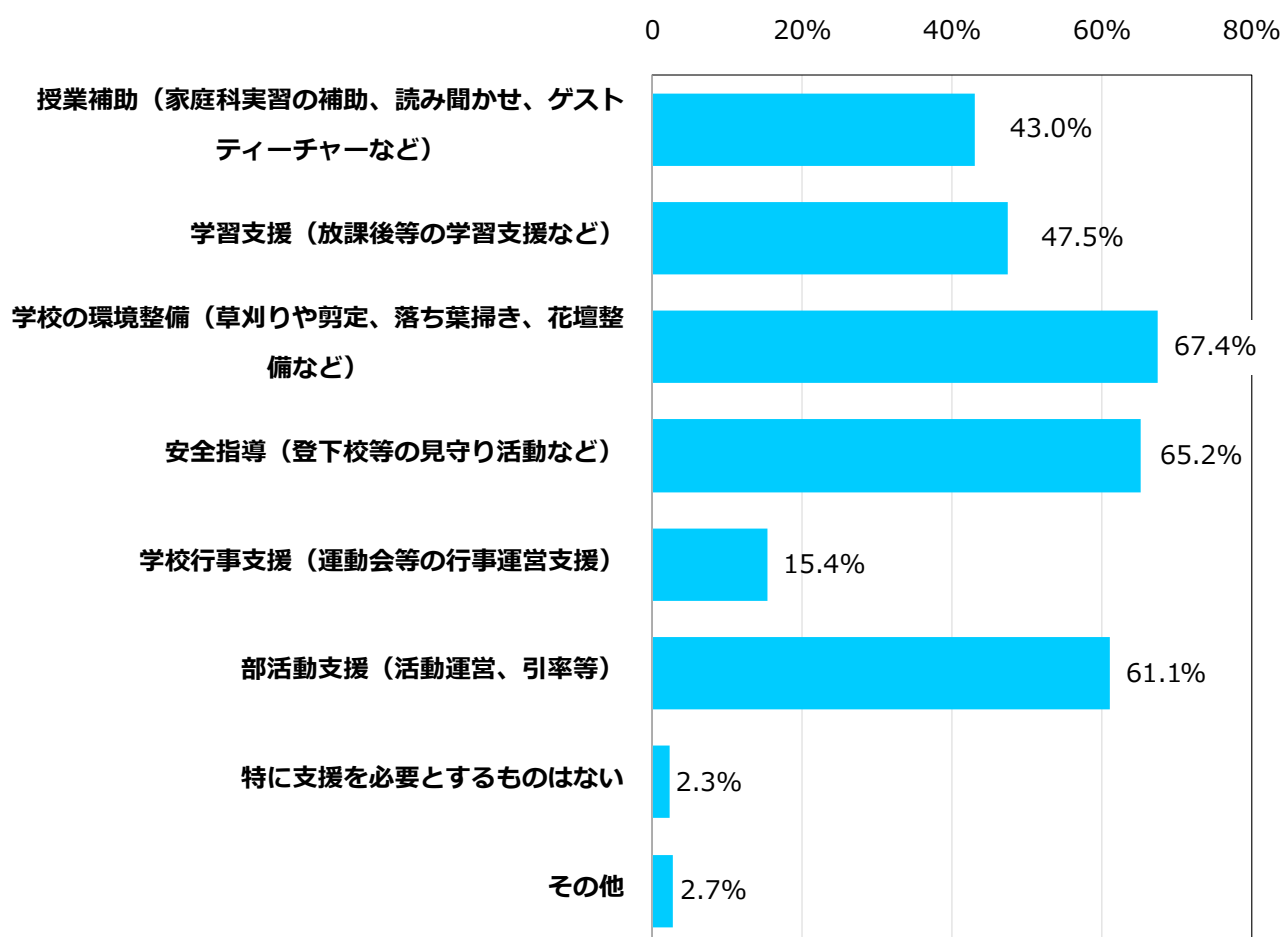
子どもたちの資質・能力の育成のため、幅広い地域住民の参画を得ながら社会総がかりでの教育を実現していこうとする取組について、支援が必要なものは、「学校の環境整備（草刈りや剪定、落ち葉掃き、花壇整備など）」（77.5%）、「授業補助（家庭科実習の補助、読み聞かせ、ゲストティーチャーなど）」（73.1%）、「安全指導（登下校等の見守り活動など）」（66.2%）が上位3つとなった。



(n=334)

【中学校教員】

子どもたちの資質・能力の育成のため、幅広い地域住民の参画を得ながら社会総がかりでの教育を実現していこうとする取組について、支援が必要なものは、「学校の環境整備（草刈りや剪定、落ち葉掃き、花壇整備など）」（67.4%）、「安全指導（登下校等の見守り活動など）」（65.2%）、「部活動支援（活動運営、引率等）」（61.1%）が上位3つとなった。



(n=221)

■ 学校運営の現状や働き方改革について、あなたのお考えをお聞きます

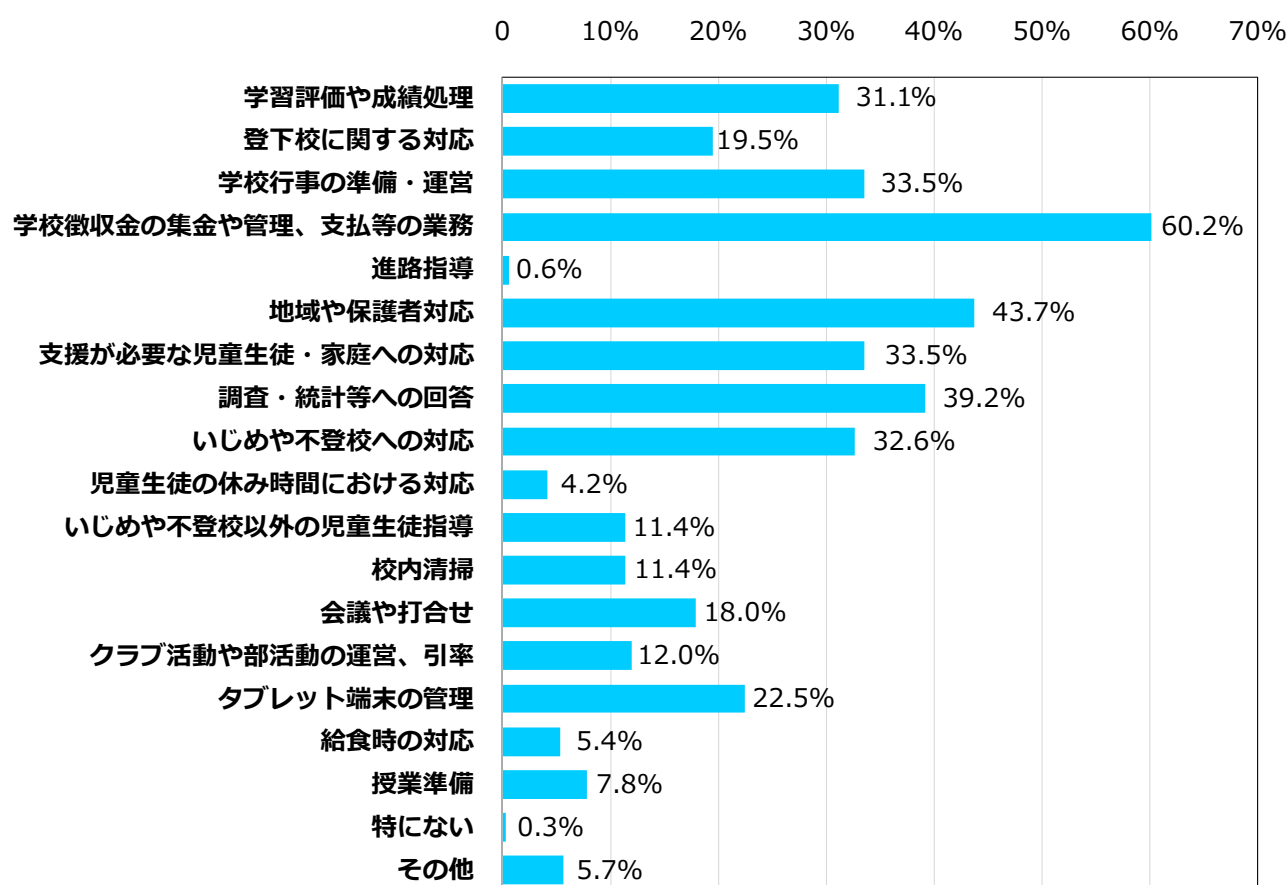
(42) 現在負担に感じる業務

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(42)現在負担に感じる業務【複数回答】	学習評価や成績処理					31.1%	23.5%		
	登下校に対する対応					19.5%	14.5%		
	学校行事の準備・運営					33.5%	19.0%		
	学校徴収金の集金や管理、支払い等の業務					60.2%	60.6%		
	進路相談					0.6%	7.7%		
	地域や保護者対応					43.7%	40.7%		
	支援が必要な児童生徒・家庭への対応					33.5%	32.1%		
	調査・統計等への対応					39.2%	47.1%		
	いじめや不登校への対応					32.6%	35.3%		
	児童生徒の休み時間における対応					4.2%	1.8%		
	いじめや不登校以外児童生徒指導					11.4%	6.3%		
	校内清掃					11.4%	9.5%		
	会議や打合せ					18.0%	14.9%		
	クラブ活動や部活動の運営、引率					12.0%	32.1%		
	タブレット端末の管理					22.5%	27.6%		
	給食時の対応					5.4%	5.9%		
	授業準備					7.8%	5.4%		
	特にない					0.3%	1.4%		
	その他					5.7%	4.5%		

●教員

【小学校教員】

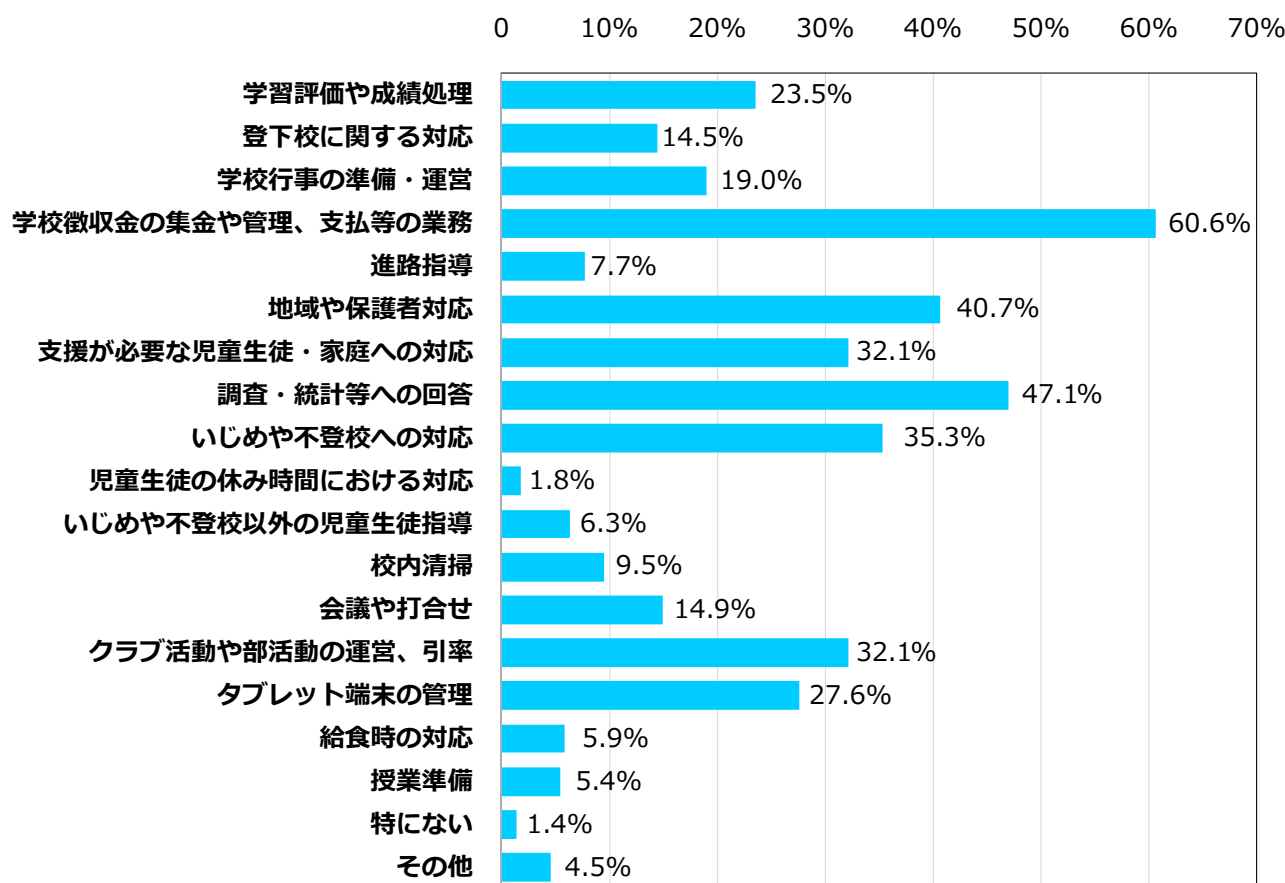
現在担っている業務の中で、負担に感じる業務は「学校徴収金の集金や管理、支払等の業務」(60.2%)、「地域や保護者対応」(43.7%)、「調査・統計等への回答」(39.2%)が上位3つとなった。



(n=334)

【中学校教員】

現在担っている業務の中で、負担に感じる業務は「学校徴収金の集金や管理、支払等の業務」(60.6%)、「調査・統計等への回答」(47.1%)、「地域や保護者対応」(40.7%)が上位3つとなった。



(n=221)

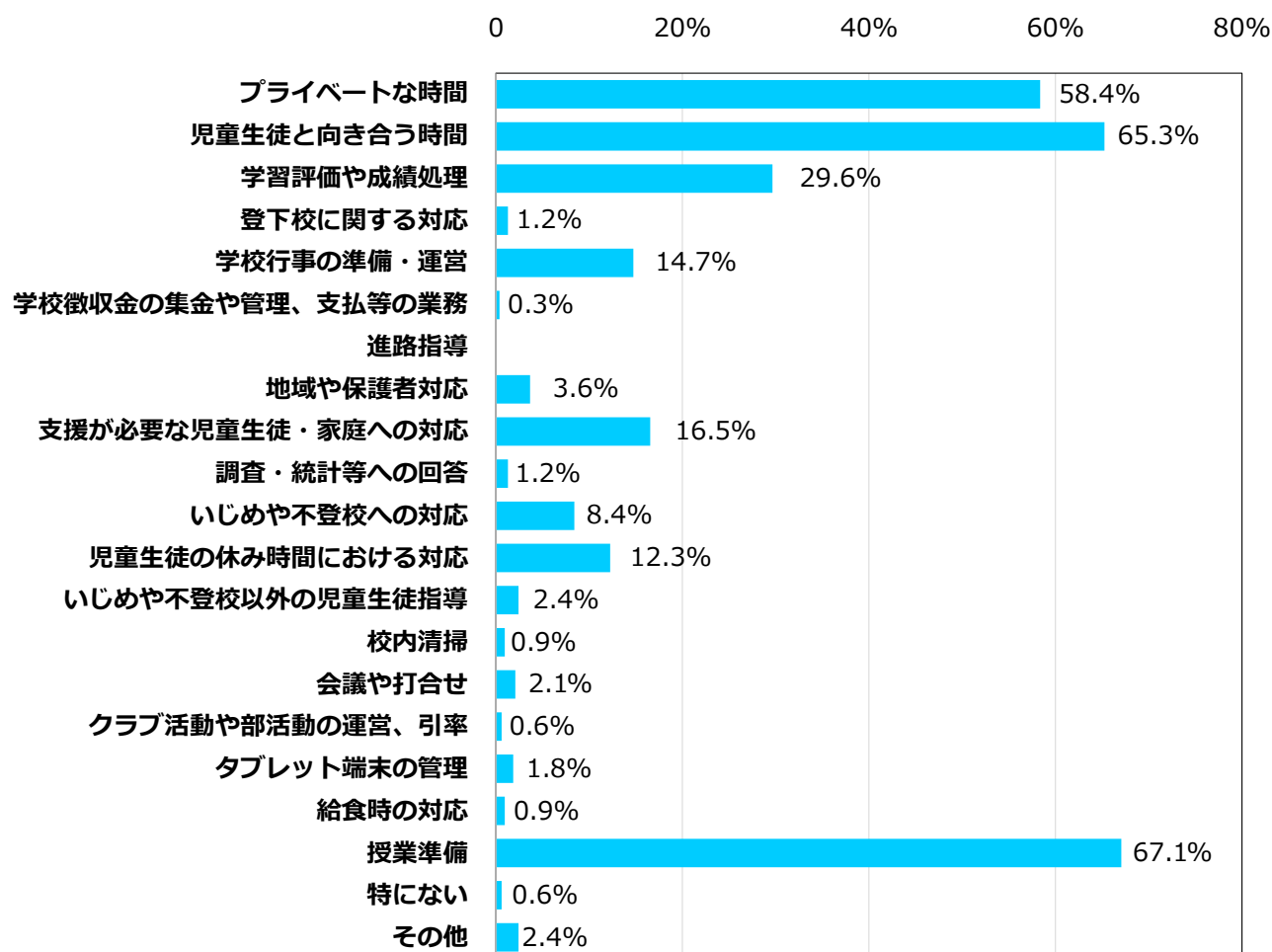
(43) 上記業務の負担が軽減された場合の時間の使い道

設問	選択肢	回答者の属性（割合）							
		児童	生徒	児童	生徒	教員	教員	市民	市民
				保護者	保護者	小学校	中学校	一般	未就学児保護者
(43) 上記業務の負担が軽減された場合の時間の使い道【複数回答】	プライベートな時間					58.4%	64.3%		
	児童生徒と向き合う時間					65.3%	61.1%		
	学習評価や成績処理					29.6%	21.3%		
	登下校に対する対応					1.2%	0.9%		
	学校行事の準備・運営					14.7%	13.6%		
	学校徴収金の集金や管理、支払い等の業務					0.3%	0.5%		
	進路相談					0.0%	5.9%		
	地域や保護者対応					3.6%	1.8%		
	支援が必要な児童生徒・家庭への対応					16.5%	15.4%		
	調査・統計等への対応					1.2%	0.5%		
	いじめや不登校への対応					8.4%	7.2%		
	児童生徒の休み時間における対応					12.3%	6.3%		
	いじめや不登校以外の児童生徒指導					2.4%	6.8%		
	校内清掃					0.9%	1.4%		
	会議や打合せ					2.1%	2.3%		
	クラブ活動や部活動の運営、引率					0.6%	10.4%		
	タブレット端末の管理					1.8%	0.5%		
	給食時の対応					0.9%	0.5%		
	授業準備					67.1%	62.0%		
	特にない					0.6%	1.8%		
	その他					2.4%	1.8%		

●教員

【小学校教員】

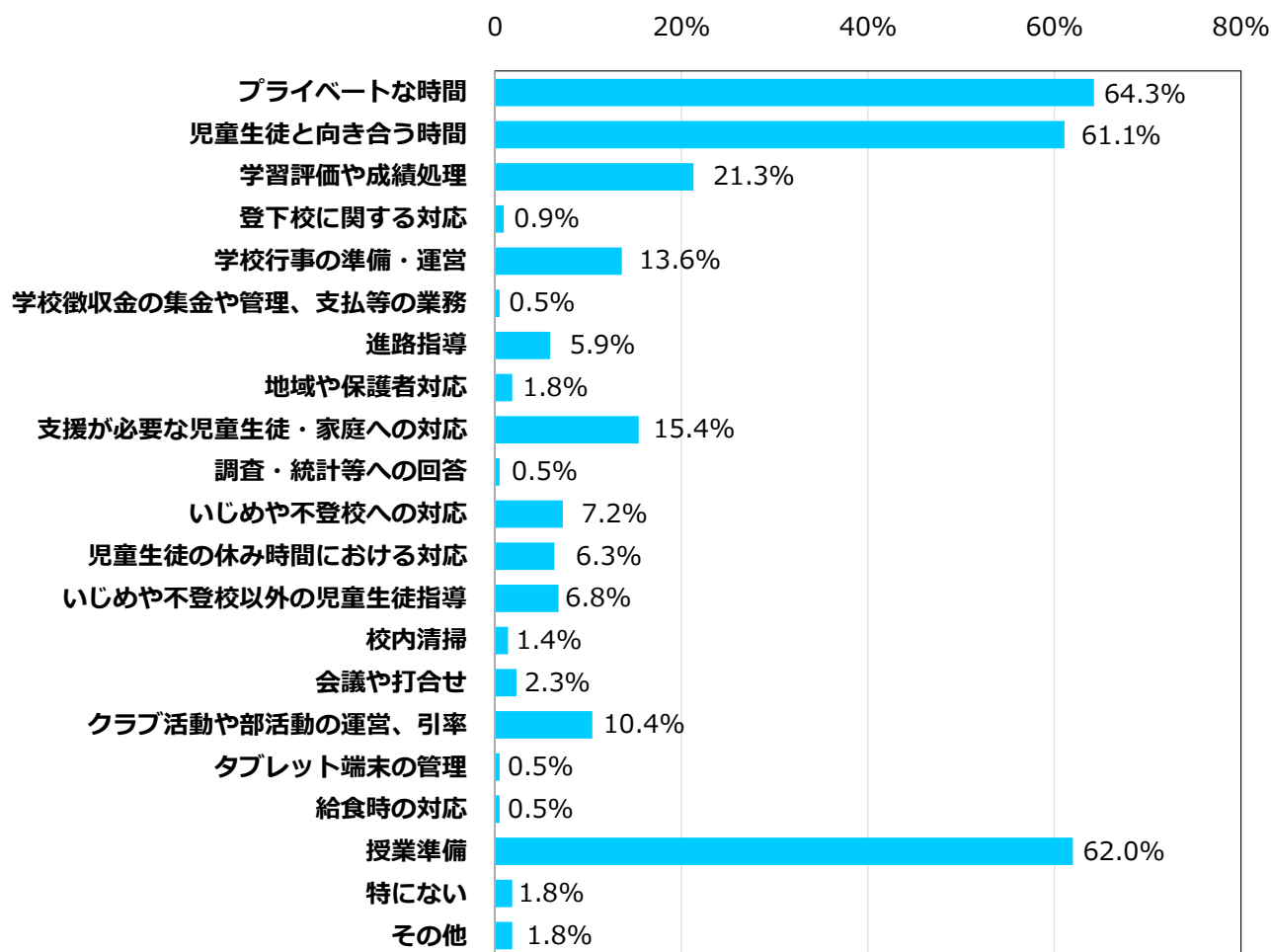
業務の負担が軽減された場合、その時間の使い方としては、「授業準備」(67.1%)、「児童生徒と向き合う時間」(65.3%)、「プライベートな時間」(58.4%)が上位3つとなった。



(n=334)

【中学校教員】

業務の負担が軽減された場合、その時間の使い方としては、「プライベートな時間」(64.3%)、「授業準備」(62.0%)、「児童生徒と向き合う時間」(61.1%)が上位3つとなった。



(n=221)